



ES300h

取扱説明書

イラスト目次

イラストから検索

安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

(主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)

1

走行に関する情報表示

走行に関する情報を表示する計器類の見方

(主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)

2

運転する前に

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整

(主な項目：キー、ドア、シート、ムーンルーフ)

3

運転

運転に必要な操作やアドバイス

(主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、
給油のしかた)

4

室内装備・機能

室内装備の使い方など

(主な項目：エアコン・収納装備の使い方)

5

お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

(主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)

6

万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

(主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)

7

車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報

(主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)

8

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
ポップアップフード	38
排気ガスに対する注意	40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	57
ハイブリッドシステムの注意	60

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	65
オートアラーム	66

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	72
計器類 (F SPORT 以外)	76
計器類 (F SPORT)	80
マルチインフォメーションディスプレイ	85
ヘッドアップディスプレイ	91
エネルギーモニター／Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面 ...	95

3 運転する前に

3-1. キー

キー	102
----------	-----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	106
トランク	111
スマートエントリー&スタートシステム	118

3-3. シートの調整

フロントシート	123
リヤシート (リクライニング調整可能タイプ)	124
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	125
ヘッドレスト	128

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	130
インナーミラー	131
デジタルインナーミラー	132
ドアミラー	140
デジタルアウターミラー	142

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ	157
ムーンルーフ	160

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	164
荷物を積むときの注意	170

4-2. 運転のしかた

パワー (イグニッション) スイッチ	172
EV ドライブモード	177
ハイブリッドトランスミッション	178
方向指示レバー	183
パーキングブレーキ	183

ブレーキホールド	186
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	188
AHS (アダプティブハイビームシステム)	191
AHB (オートマチックハイビーム)	195
マルチウェザーライト	198
リヤフォグランプ	199
ワイパー & ウォッシャー	200
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	204
4-5. 運転支援装置について	
Lexus Safety System +	206
PCS (プリクラッシュセーフティ)	211
LTA (レーントレーシングアシスト)	221
RSA (ロードサインアシスト) ...	230
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	233
先行車発進告知機能	244
ドライバー異常時対応システム ..	247
ITS Connect	252
BSM (ブラインドスポットモニター)	259
ドライブモードセレクトスイッチ	264
PKSA (パーキングサポートアラート)	267
クリアランスソナー	268
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	275
RCD (リヤカメラディテクション)	282
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	285
パーキングサポートブレーキ (静止物)	291
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	294
パーキングサポートブレーキ (後方歩行者)	296

運転を補助する装置	298
4-6. 運転のアドバイス	
ハイブリッド車運転のアドバイス	303
寒冷時の運転	305

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ/ディスプレイ	
リモートタッチ	310
センターディスプレイ	312
5-2. レクサスクライメイト コンシェルジュ	
レクサスクライメイトコンシェルジュ	314
5-3. エアコンの使い方	
オートエアコン	316
ステアリングヒーター/シートヒーター/シートベンチレーター ...	326
5-4. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	330
5-5. 収納装備	
収納装備一覧	333
トランク内装備	336
5-6. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	338
アクセサリコンセント (AC100V・1500W)	348
非常時給電システム	355

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ	364
内装の手入れ	368
6-2. 簡単な点検・部品交換	
ボンネット	371
ガレージジャッキ	372
ウォッシャー液の補充	373
タイヤについて	374
タイヤ空気圧について	382

エアコンフィルターの交換	383
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃	385
電子キーの電池交換	388
ヒューズの点検・交換	390
電球（バルブ）の交換	392

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	398
非常点滅灯（ハザードランプ）... ..	399
発炎筒	399
車両を緊急停止するには	400
水没・冠水したときは	401

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	403
警告灯がついたときは	407
警告メッセージが表示されたときは	415
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	421
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	432
ハイブリッドシステムが始動できないときは	438
キーをなくしたときは	440
給油扉が開かないときは	440
電子キーが正常に働かないときは	441
補機バッテリーがあがったときは	443
オーバーヒートしたときは	448
スタックしたときは	451

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	454
------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	458
----------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	471
------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	474
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	476
アルファベット順さくいん	478
五十音順さくいん	480

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エ

アバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

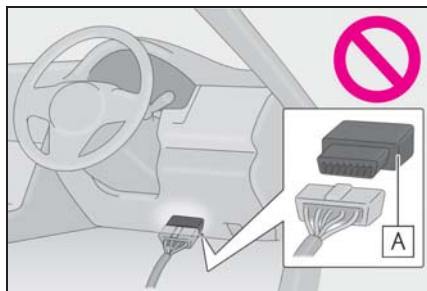
RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター **A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況

・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせで使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスに比べ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System +
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、

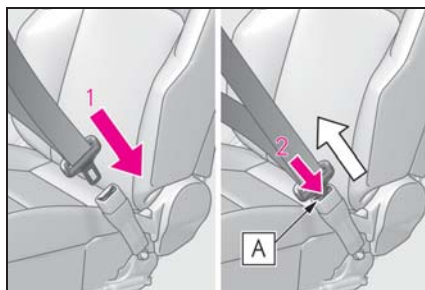
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

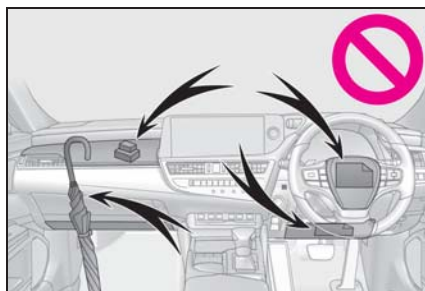
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

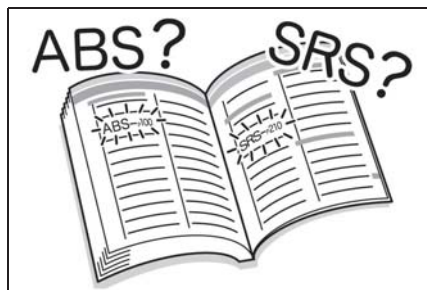


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

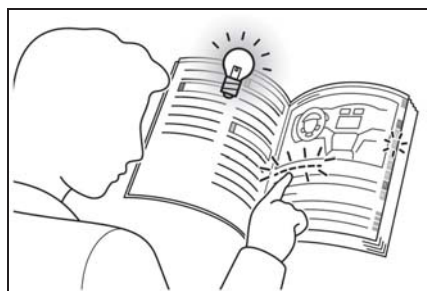
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.480
- アルファベット順さくいん：→P.478



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.12



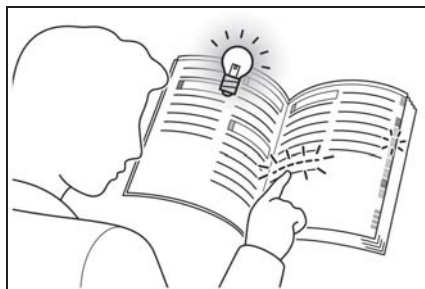
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.474
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.476



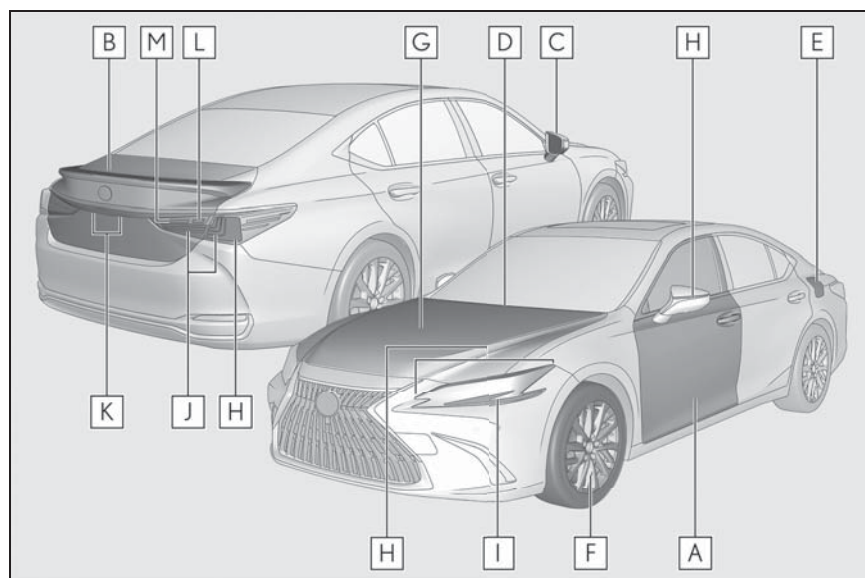
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.106
	施錠／解錠	P.106
	ドアガラスの開閉	P.157
	メカニカルキーでの施錠／解錠	P.441
	警告ブザー	P.109
B	トランク	P.111
	車内から開ける	P.113
	車外から開ける	P.113
	メカニカルキーで開ける	P.442
	警告ブザー	P.109
C	ドアミラー★	P.140
	鏡面の角度調整	P.140
	ミラーの格納	P.141
	調整位置の登録	P.125
	曇りを取る（ミラーヒーター）	P.317

デジタルアウターミラー★	P.142
表示範囲の調整	P.143
カメラの格納	P.142
調整位置の登録	P.125
曇りを取る（カメラヒーター）	P.317
D ワイパー	P.200
冬季の注意	P.305
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）	P.322
洗車時の注意	P.367
E 給油口	P.204
給油方法	P.204
燃料の種類・燃料タンク容量	P.454
F タイヤ	P.374
サイズ・空気圧	P.457
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.305
点検・ローテーション・空気圧警報システム	P.374
パンク時の対処	P.421, 432
G ボンネット	P.371
開け方	P.371
エンジンオイル	P.454
オーバーヒート時の対処	P.448
警告メッセージ	P.415

走行に関わる外装の電球（バルブ）

（交換要領：P.392, ワット数：P.457）

H ヘッドランプ・コーナリングランプ	P.188
方向指示灯	P.183
I 車幅灯・デイトタイムランニングランプ	P.188
J 尾灯	P.188
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	P.299

K 番号灯..... P.188

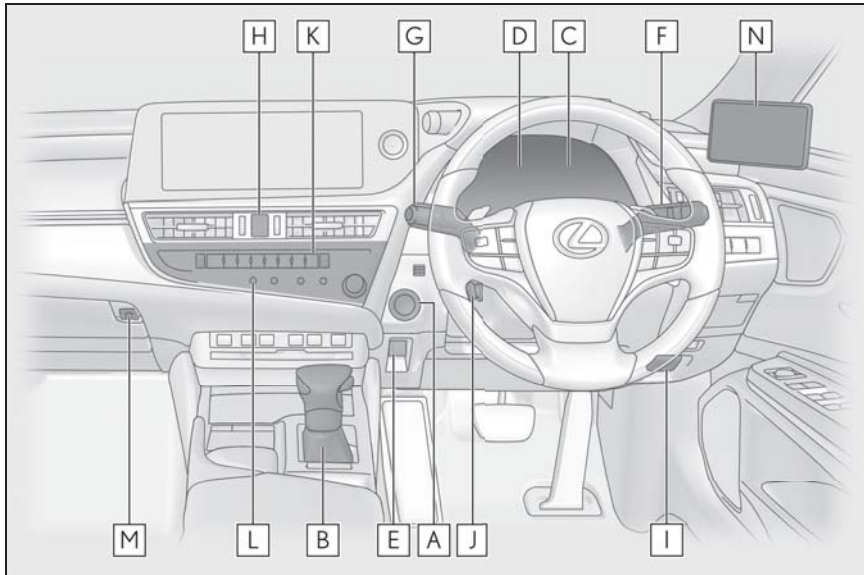
L 後退灯

シフトポジションを R にする P.178

M リヤフォグランプ★ P.199

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



- A** パワースイッチ P.172
 ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.172, 175
 ハイブリッドシステムの緊急停止 P.400
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.438
 警告メッセージ P.173, 415
- B** シフトレバー P.178
 シフトポジションの切りかえ P.179
 けん引時の注意 P.403
 シフトレバーが動かないときの対処 P.180
- C** メーター P.76, 80
 見方・明るさの調整 P.78, 84
 警告灯／表示灯 P.72
 警告灯点灯時の対処 P.407
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.85
 表示内容 P.85

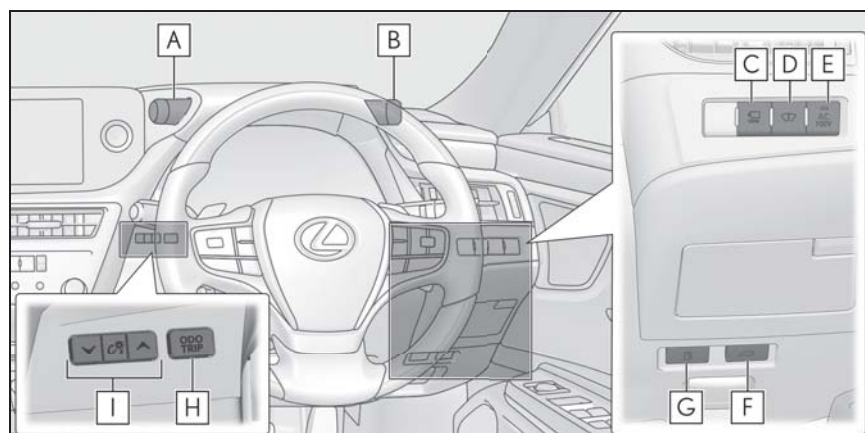
エネルギーモニター	P.95
警告メッセージ表示時の対処	P.415
E パーキングブレーキスイッチ	P.183
かける・解除する	P.183
冬季の注意	P.306
警告ブザー・警告メッセージ	P.184, 407, 417
F 方向指示レバー	P.183
ランプスイッチ	P.188
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P.188
AHS（アダプティブハイビームシステム）★	P.191
AHB（オートマチックハイビーム）★	P.195
マルチウェザーライト★	P.198
リヤフォグランプ★	P.199
G ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.200
使い方	P.200
ウォッシャー液の補充	P.373
警告メッセージ	P.373, 417
ヘッドランプクリーナー★	P.200
H 非常点滅灯スイッチ	P.399
I ボンネット解除レバー	P.371
J ハンドル位置調整スイッチ	P.130
調整方法	P.130
調整位置の登録	P.125
K オートエアコン	P.316
操作方法	P.316
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	P.317
L オーディオ※	
音楽を聴く※	
M トランクオープナーメインスイッチ	P.117

[N] デジタルアウターミラーディスプレイ★ P.142

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

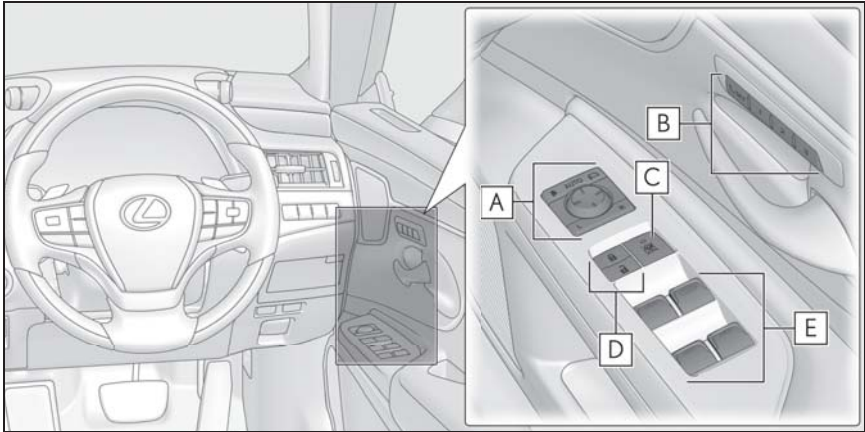
■ スイッチ類



- A** ドライブモードセレクトスイッチ P.264
- B** VSC OFF スイッチ P.299
- C** カメラスイッチ★※
- D** ヘッドアップディスプレイスイッチ★ P.91
- E** AC100V スイッチ★ P.348, 356
- F** トランクオープナースイッチ P.113
- G** 給油扉オープナースイッチ P.205
- H** ODO TRIP スイッチ P.78, 84
- I** インストルメントパネル照度調整スイッチ P.79, 84

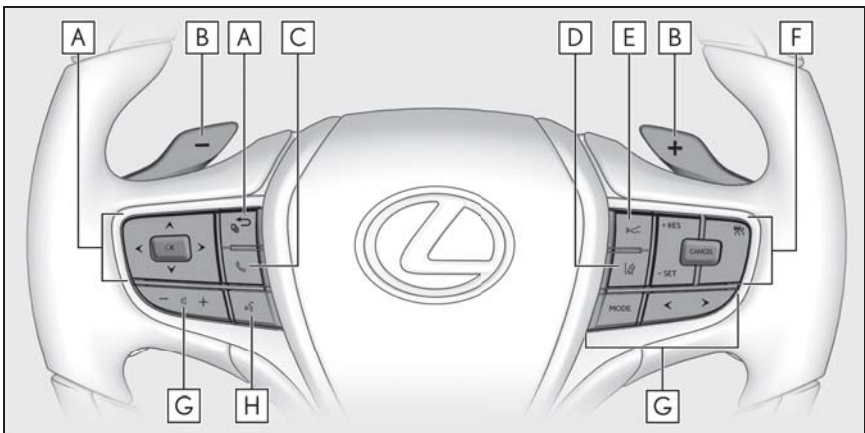
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



- A** ドアミラースイッチ★ P.140
 デジタルアウターミラースイッチ★ P.143
- B** ポジションメモリースイッチ P.125
- C** ウインドウロックスイッチ P.159
- D** ドアロックスイッチ P.109
- E** パワーウインドウスイッチ P.157

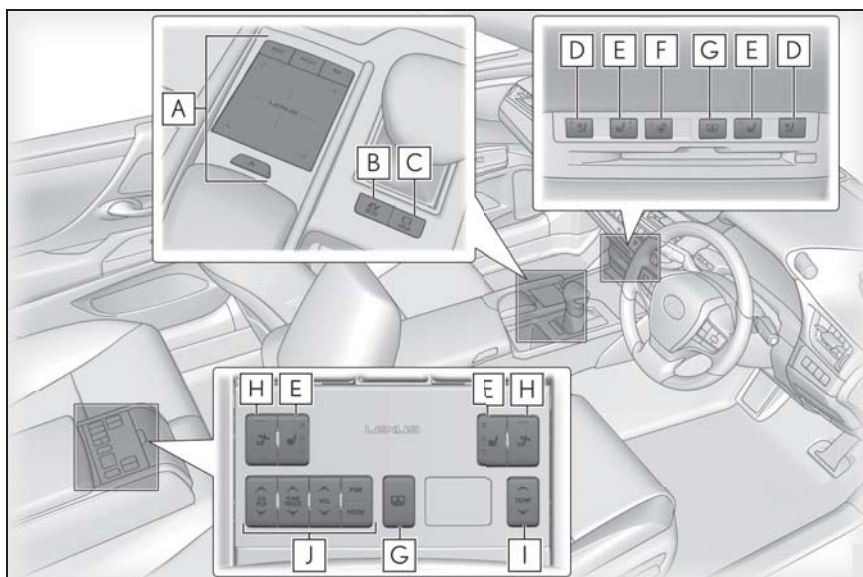
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** メーター操作スイッチ P.86

B	パドルシフトスイッチ	P.181
C	電話スイッチ ※	
D	LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ	P.221
E	車間距離切りかえスイッチ	P.238
F	クルーズコントロールスイッチ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）	P.233
G	オーディオ操作スイッチ ※	
H	トークスイッチ ※	

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



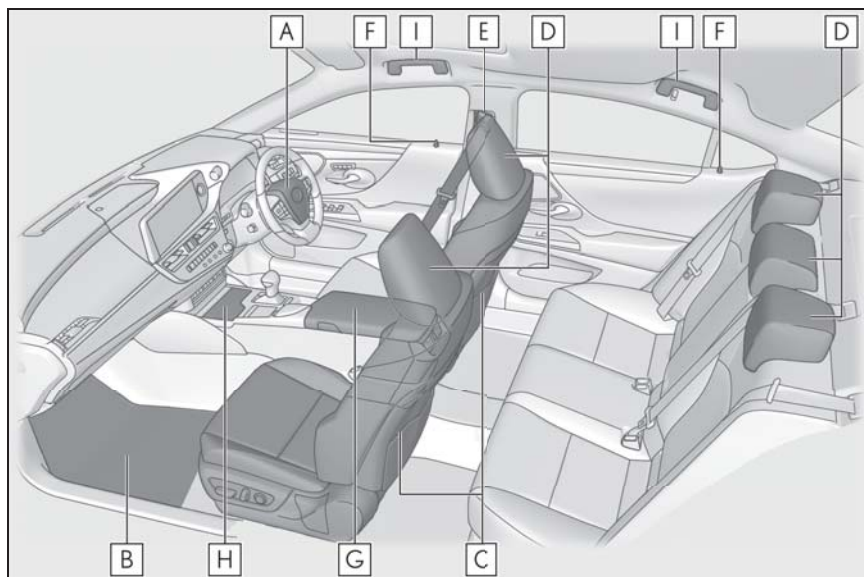
A	リモートタッチ	P.310
B	EV ドライブモードスイッチ	P.177
C	ブレーキホールドスイッチ	P.186
D	シートベンチレータースイッチ	P.326
E	フロントシートヒータースイッチ	P.326

	リヤシートヒータースイッチ★	P.326
F	ステアリングヒータースイッチ	P.326
G	リヤサンシェードスイッチ★	P.345
H	リヤシートリクライニング調整スイッチ★	P.124
I	リヤ席温度調整スイッチ★	P.319
J	オーディオコントロールスイッチ★※	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

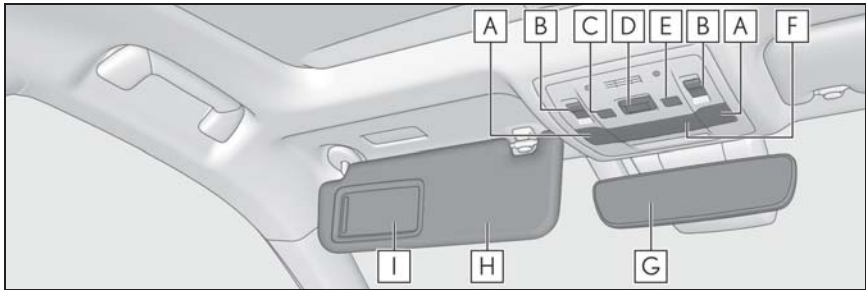
※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 室内



- A** SRS エアバッグ P.32
- B** フロアマット P.26
- C** フロントシート P.123
- D** ヘッドレスト P.128
- E** シートベルト P.29
- F** ドアロックボタン P.109
- G** コンソールボックス P.334
- H** カップホルダー P.334
- I** アシストグリップ P.344

■ 天井



- A** パーソナルランプ P.331
- B** ムーンルーフスイッチ P.160
- C** 侵入・傾斜センサー OFF スイッチ P.68
- D** ヘルプネットスイッチパネル※¹
- E** インテリアランプドア連動スイッチ P.331
- F** インテリアランプ P.331
- G** インナーミラー★ P.131
 デジタルインナーミラー★ P.132
- H** サンバイザー ※² P.338
- I** バニティミラー P.338

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※²やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.45)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	32
ポップアップフード	38
排気ガスに対する注意	40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	42
チャイルドシート	43

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	57
ハイブリッドシステムの注意	60

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム	65
オートアラーム	66

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

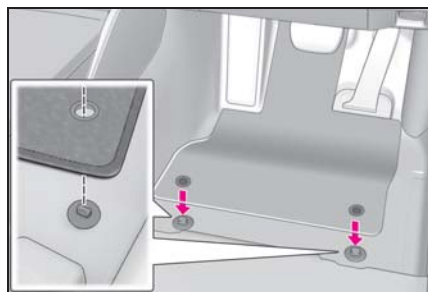
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

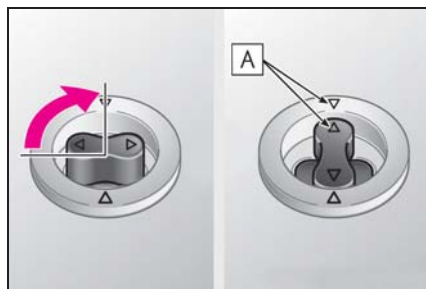
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーパーツの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク[A]を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

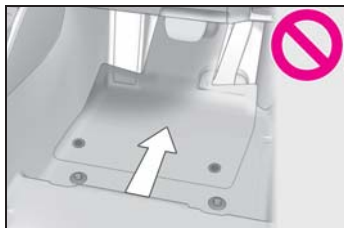
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**■ 運転する前に**

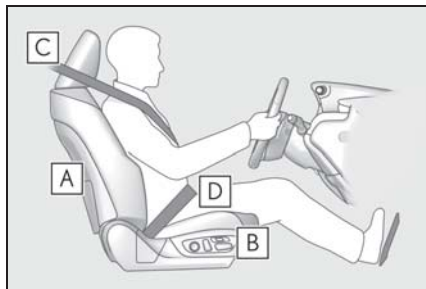
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.123）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.123）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.128）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.30）

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.43)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラー★・デジタルアウターミラー★を正しく調整してください。(→P.131, 132, 140, 142)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

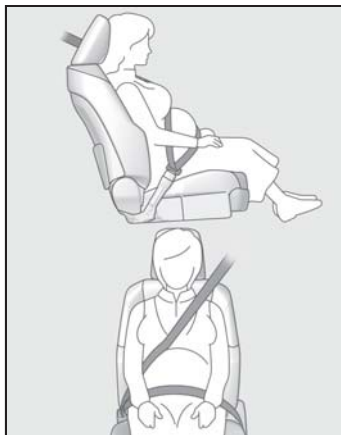
■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.30)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.42

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

知識

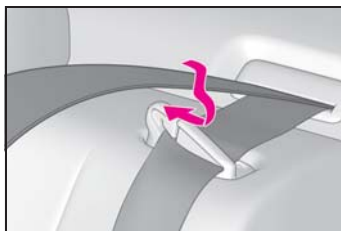
■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

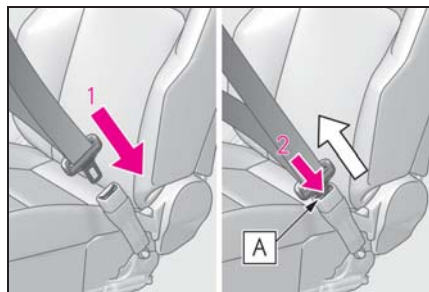
- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.43)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.29)

■ リヤ席シートベルトについて

シートベルトがガイドからはずれた場合には、ガイドに通してから使用してください。



着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチツ”と音がするまでプレートを保ックルに挿し込む

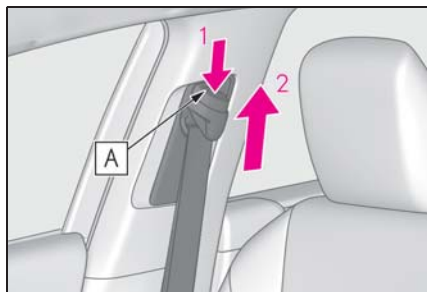
2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す



■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

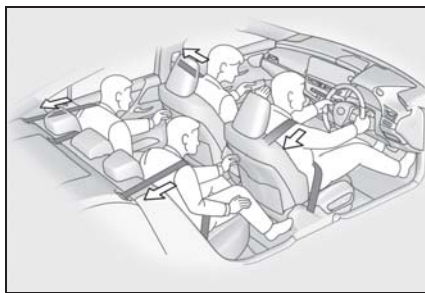


- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。



警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

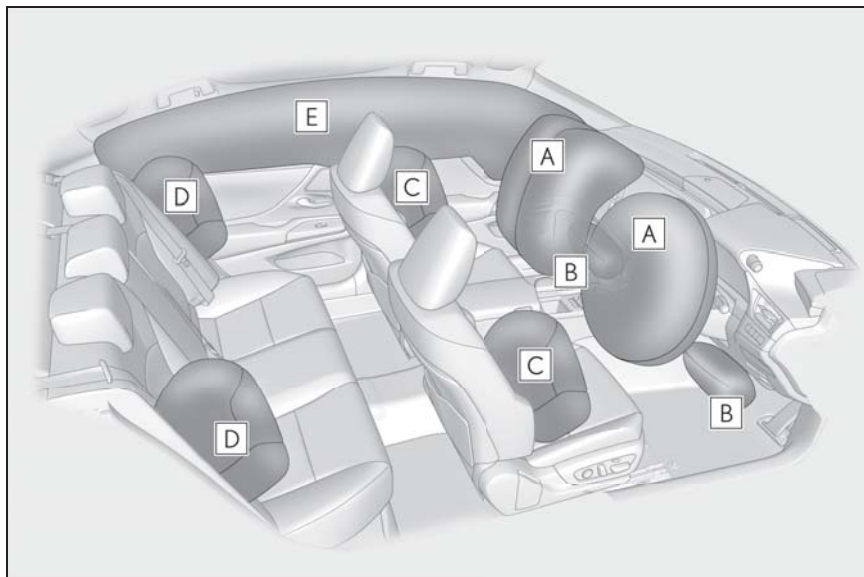
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

B SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

D SRS リヤサイドエアバッグ
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

E SRS カーテンシールドエアバッグ

(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.63）
- すべてのドアが解錠されます。（→P.107）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.298）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.332）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.399）
- G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

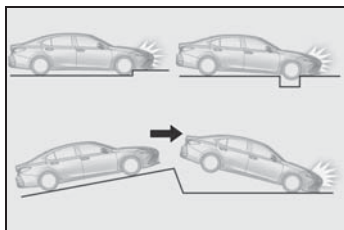
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

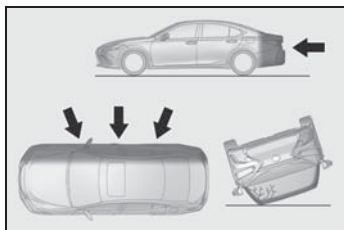
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

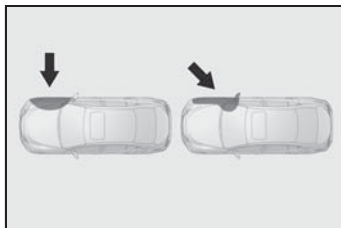
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

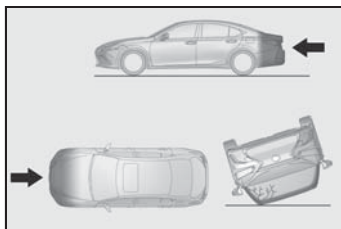
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



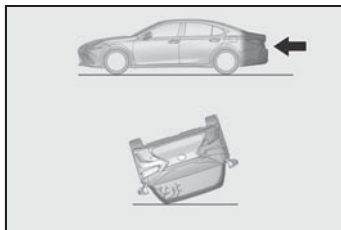
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

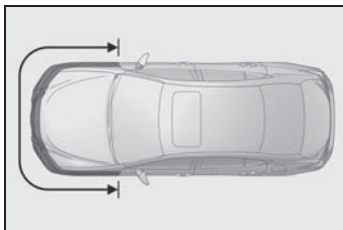
- 後方からの衝突
- 横転



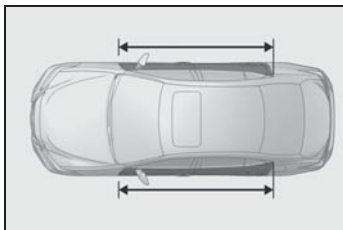
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

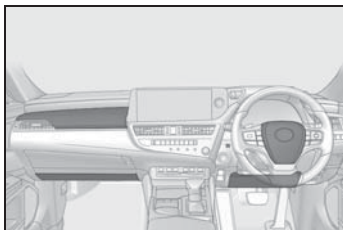
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



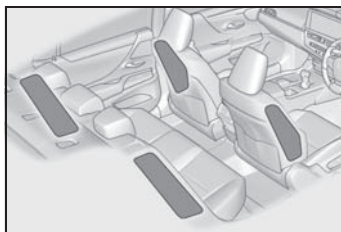
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



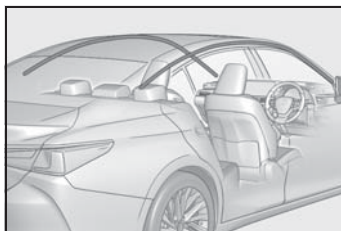
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

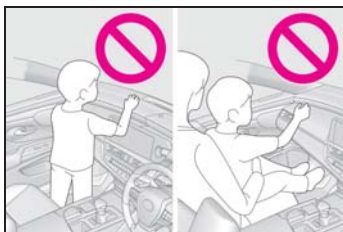
警告

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.43)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

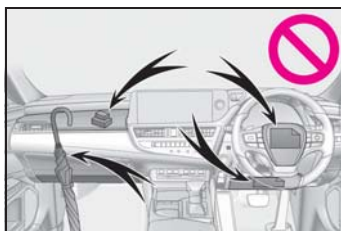
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→P.425)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造

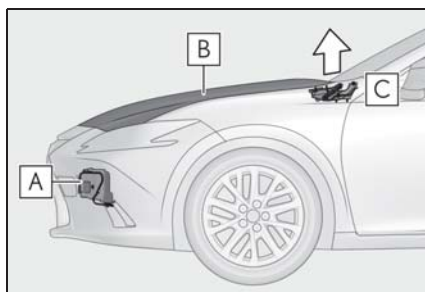
警告

- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、エンジンルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品

- A** センサー
- B** ボンネット
- C** リフター

知識**■ ポップアップフードについて**

- 廃車するときは、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。レクサス販売店で交換してください。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって歩行

者・自転車運転者との衝突の可能性が高いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

- 作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）
- その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
 - ・ 縁石に衝突したとき
 - ・ 深い溝や穴に落ち込んだとき
 - ・ ジャンプして地面にぶつけたとき
 - ・ 駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

- 走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。
- 車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

- 横たわっている人に衝突したとき
- 作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

- 横方向や後部から衝撃を受けたとき
- 横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

⚠ 警告

■ポップアップフードが作動したとき

- ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がリ、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。
- ポップアップフードが作動したあとはレックス販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。
- ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ポップアップフードについて

- ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

 注意

- 4輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動してなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けしないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高が変わると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

**警告****■ 排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のこと
をお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを
着用させてください。シート
ベルトを正しく着用できない小
さなお子さまを乗せるときは、
適切なチャイルドシートをご用
意ください。(→P.43)
- 運転装置にふれるのを防ぐた
め、お子さまはリヤシートに乗
せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パ
ワーウィンドウを誤操作したり
しないように、チャイルドプロ
テクター (→P.109) ・ ウィン
ドウロックスイッチ
(→P.159) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウ
ィンドウ・ボンネット・トラン
クやシートなど、体を挟まれる
おそれがある装備類を操作させ
ないでください。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子
さまの安全を確保するための注意事
項やチャイルドシートの取り付け方
などをまとめた「チャイルドシート」
を参照してください。(→P.43)

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにし
ないでください。車内が高温になっ
て熱射病や脱水症状になり、重大な
健康障害におよぶか、最悪の場合死
亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作
し、ドアガラスなどに挟まれたり、
発炎筒などでやけどしたり、運転装
置を動かして、思わぬ事故につな
がるおそれがあり危険です。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.43

チャイルドシートを使用するとき
は：P.44

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.47

チャイルドシートの取り付け方法：
P.51

・ シートベルトで固定する：P.52

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.54
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.55

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

 警告

● レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

● お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。

● チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.47）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

● チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

● チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは**■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき**

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● クッション前端をいちばん上に上げる

● シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

● ランバーサポート（腰部前後調整）をいちばんうしろに下げる

● ランバーサポート（腰部上下調整）★をいちばん下に下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上ま

で上げてください。



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ リヤシート（リクライニング調整 可能タイプ）★にチャイルドシ ートを取り付けるとき

リヤシートにチャイルドシートを取り
付ける場合には、リヤシートを次
のように調整し、チャイルドシート
を取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付ける
ときに、背もたれとチャイルドシートの
間にすき間がある場合は、背もたれと
チャイルドシートのすき間が少なくなる
ように背もたれを調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシート
が干渉してチャイルドシートが正
しく取り付けられない場合は、
ヘッドレストを取りはずしてくだ
さい。取りはずしができない場合
は、ヘッドレストをいちばん上ま
で上げてください。



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

● やむを得ず 助手席にチャイルドシ
ートを取り付ける場合には、チャイル
ドシートをうしろ向きに取り付けな
いください。

うしろ向きに取り付けていると、事
故などで助手席 SRS エアバッグがふ
くらんだとき、重大な傷害におよぶ
か、最悪の場合死亡につながるおそ
れがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容
のラベルが貼られています。併せて
参照してください。

警告



警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



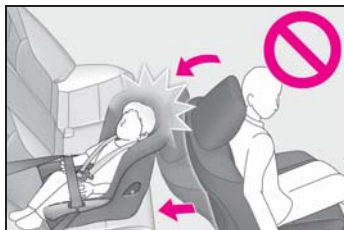
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.48）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.50）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

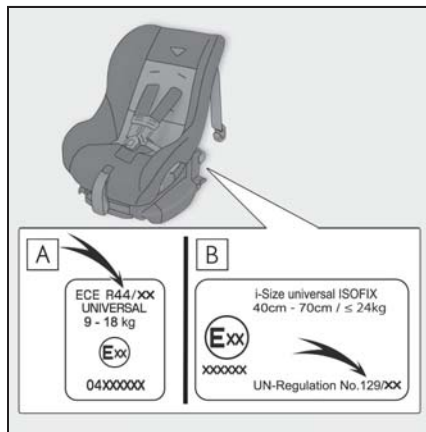
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※¹ または、UN

（ECE）R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク ※²

対象となるお子さまの身長および使用可能な体重が記載されています。

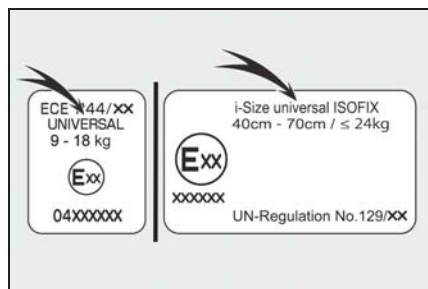
2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認

頂くか、または販売業者へ確認してください。

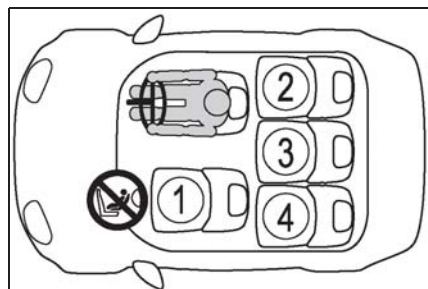
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehiclespecific（特定車両）」



※¹UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※²表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	U ※4 L
② ※2, 3	U L
③ ※3	U
④ ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.50）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび
ISOFIX チャイルドシートに適し
ています。



トップテザーアンカレッジが装
備されています。



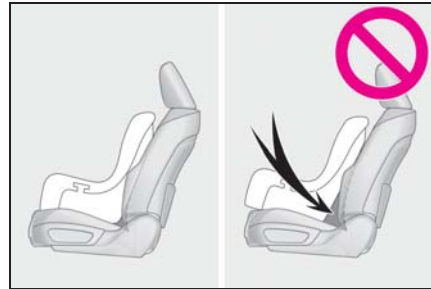
やむを得ず助手席にチャイルド
シートを取り付ける場合には、
チャイルドシートをうしろ向き
に取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態
で取り付けてください。シートの高さ
調整ができる場合は、いちばん高い位
置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてくださ
い。

前向きにチャイルドシートを取り付け
るときに、背もたれとチャイルドシ
ートの間にすき間がある場合は、背もた
れとチャイルドシートのすき間が少な
くなるように背もたれを調整してくだ

さい。



※³ヘッドレストとチャイルドシートが干
渉してチャイルドシートが正しく取り
付けられない場合、ヘッドレストの取
りはずしが可能なときは、ヘッドレス
トを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッ
ドレストをいちばん上まで上げてくださ
い。

※⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使
用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト 式が搭載可能な着座位置（有 ／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルド シートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイ ルドシートの治具（R1/R2X/ R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルド シートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの 治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表

に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。

「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	×	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅰ (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向 きの のみ	○	×	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	○	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を

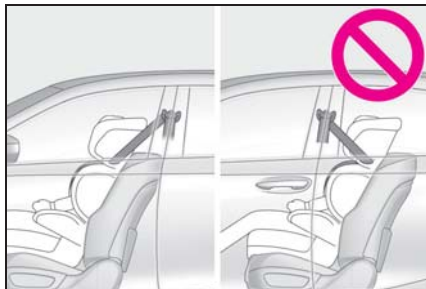
通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認し

てください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるま

で背もたれを調整してください。

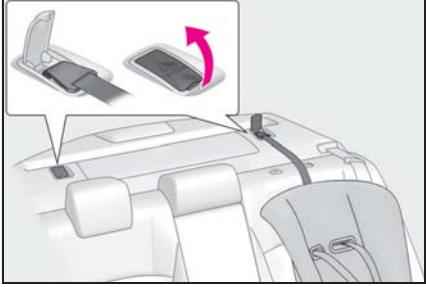
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.52
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.54
テザーベルトを固定する		P.55

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが

提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.47, 48）

1 助手席：

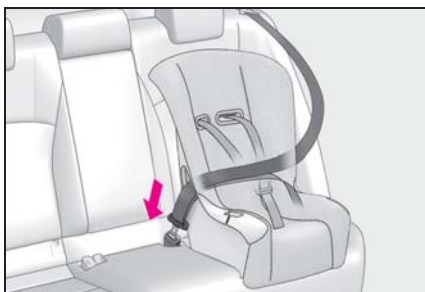
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.44）

リヤシート（リクライニング調整可能タイプ）★：

背もたれとチャイルドシートの間
にすき間がある場合は、背もたれ
とチャイルドシートのすき間が少
なくなるように背もたれを調整し
てください。(→P.45)

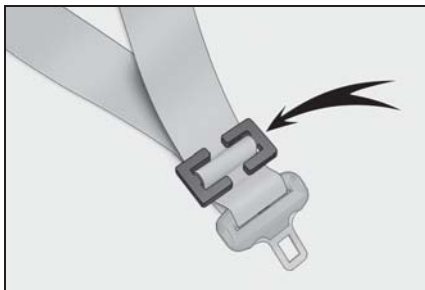
- 2** チャイルドシートにシートベルト
を取り付け、プレートバックル
に“カチッ”と音がするまで挿
し込む。ベルトがねじれていない
ようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に
従い、シートベルトをチャイルドシート
にしっかりと固定させてください。



- 3** チャイルドシートにシートベルト
の固定装置が備わっていない場合
は、ロッキングクリップ（別売）
を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、
レクサス販売店にご相談ください。（ロッ
キングクリップ品番：73119-22010）



- 4** 取り付け後はチャイルドシートを
前後左右にゆすり、しっかりと固

定されていることを確認してくだ
さい。(→P.53)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シー
トベルトをチャイルドシートから取
りはずす

バックル解除時に、シートクッションの
反発により、チャイルドシートが跳ね上
がる場合があります。

チャイルドシートを抑えながらバックル
の解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られます
ので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせな
いください。万一ベルトが首に巻
き付いた場合、窒息など重大な傷害
におよぶか、最悪の場合死亡につな
がるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしま
い、バックルもはずせない場合は、
ハサミなどでシートベルトを切断し
てください。
- シートベルトのプレートとバックル
がしっかりと固定されて、ベルトがね
じれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆ
すって、しっかりと固定されているか
確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、
シートを調整しないでください。

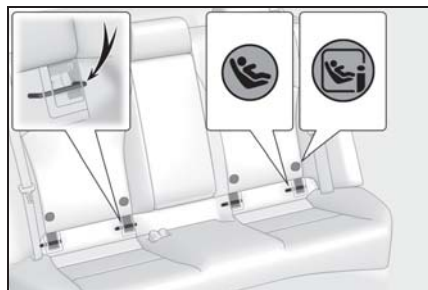
警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

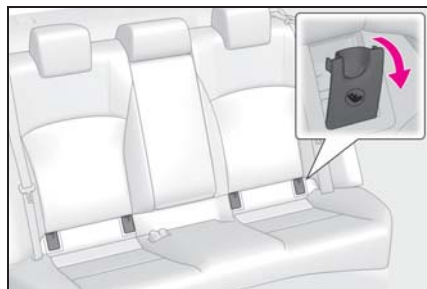
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照

するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.47, 48)

1 リヤシート（リクライニング調整可能タイプ）★：背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 カバーを取りはずす

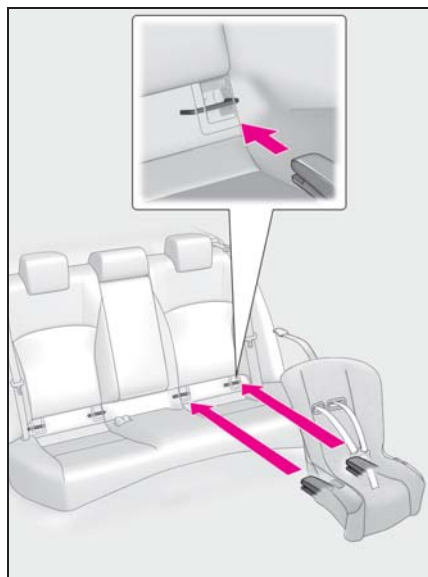


3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってくだ

さい。



- 4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.53)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

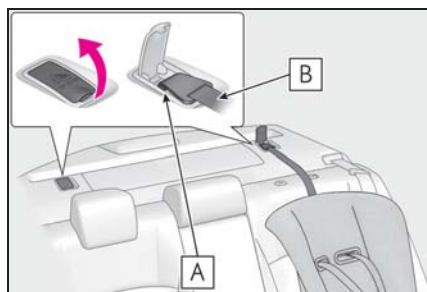
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



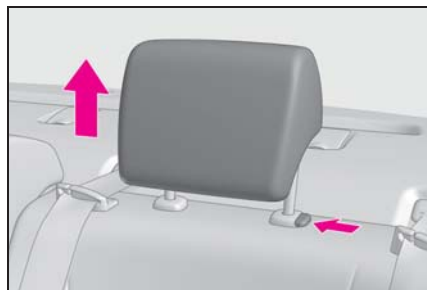
【A】 トップテザーアンカレッジ

【B】 テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

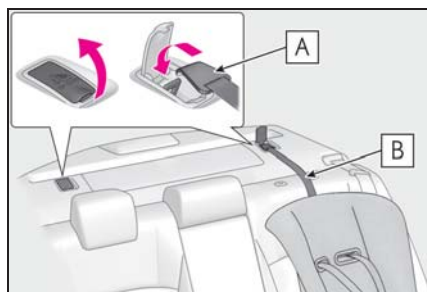
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを取りはずす



2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.53)



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

⚠ 注意

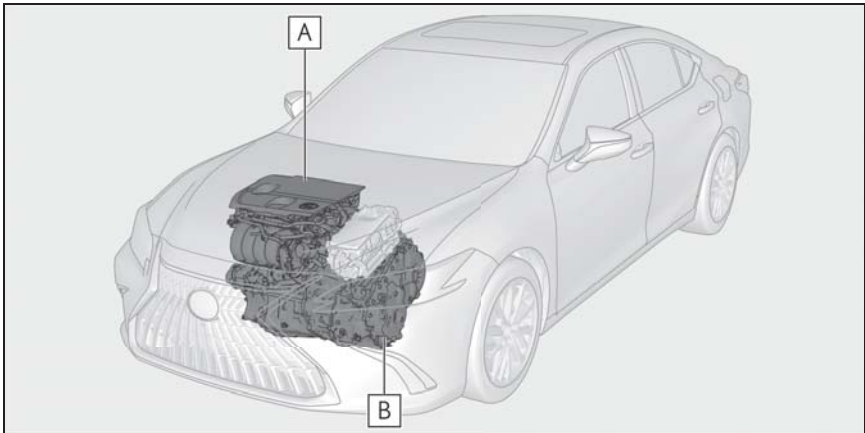
■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B 電気モーター

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが

自動停止しないことがあります。
(→P.58)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力

強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



知識

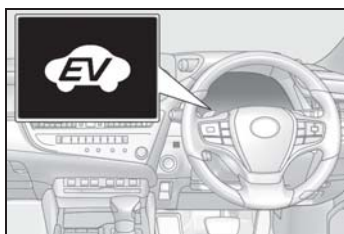
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがDまたはSで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがDまたはSで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。*

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

* 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.445

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われなことがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチツ”などの高電圧リレーの音

- トランクを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部（運転席側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■ メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■ カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないようにするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。この音は、車内にも聞こえることがあります。車速が約 25km/h をこえると消音します。



知識

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

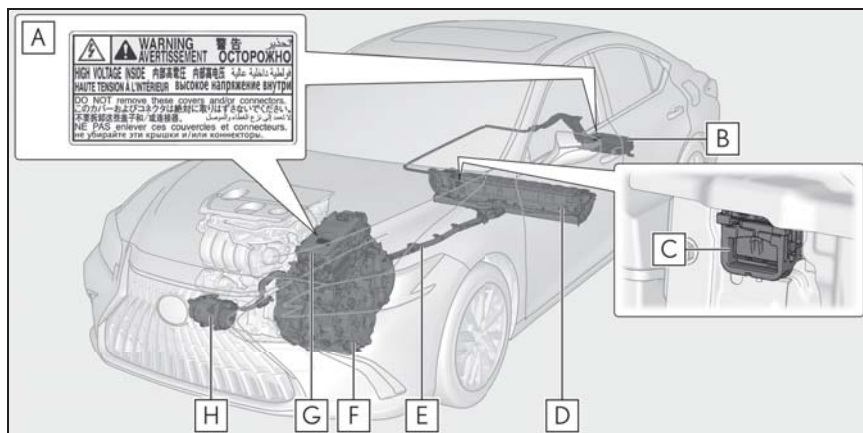
■ マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検を受けてください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** ラベル
- B** AC100V・1500W インバーター★
- C** サービスプラグ
- D** 駆動用電池
- E** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- F** 電気モーター
- G** パワーコントロールユニット
- H** エアコンコンプレッサー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.409）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約9.0Lです。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■ 極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ 適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

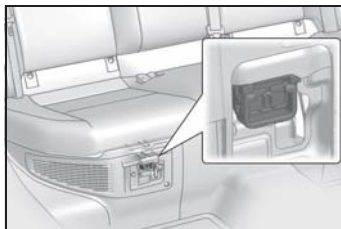
警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

 警告

- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.403）

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下部（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



⚠ 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。
- 吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

- 吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P.385 を参照してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。P.385 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

緊急停止システム

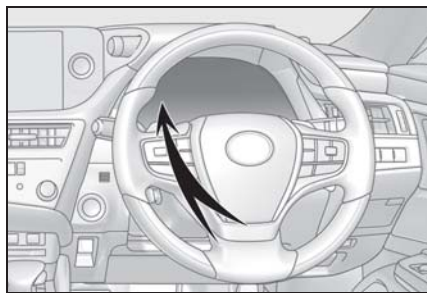
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



 知識

- 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

イモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

れているとき

- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

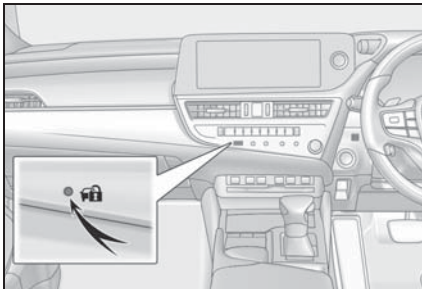
■ イモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆わ

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー& スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者が車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車内の傾きを検知したとき

G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか

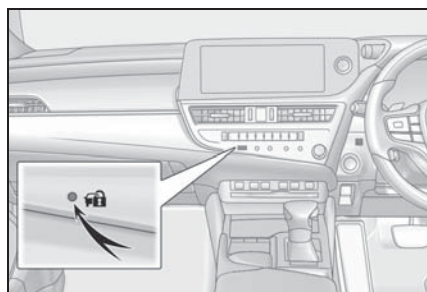
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを開め、スマートエントリー& スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー& スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを開始する（数秒後に解除・停止します）



■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

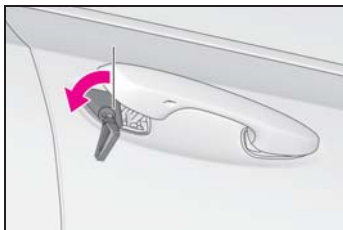
- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め忘れなどを、ご指定のEメールアドレスへお知らせすることができます。うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。
- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

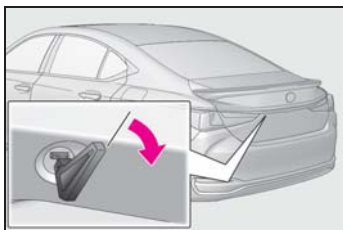
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

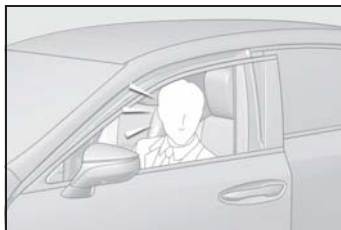
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



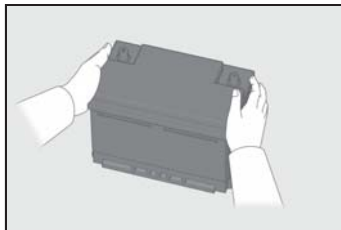
- メカニカルキーを使ってトランクを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、ドアロックスイッチで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで、補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.443）



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入・傾斜センサー

■ 侵入・傾斜センサーの検知について

- 侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。
- 傾斜センサーは、車の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入・傾斜センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.66)

■ 侵入・傾斜センサーを解除するには

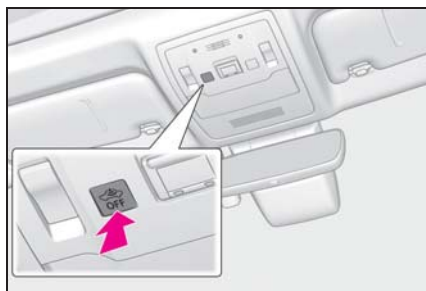
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入・傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 侵入・傾斜センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入・傾斜センサーは再びセットされます。

侵入・傾斜センサーを OFF / ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが

表示されます。



知識

■ 侵入・傾斜センサーの作動・停止について

- 侵入・傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入・傾斜センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入・傾斜センサーは復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入・傾斜センサーは復帰します。

■ 侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

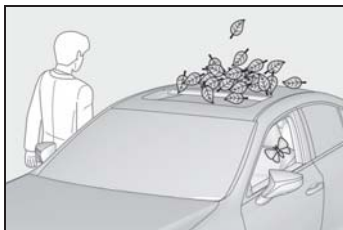
- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



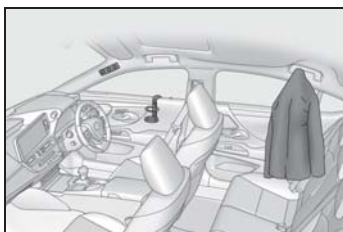
- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知すること

があります。

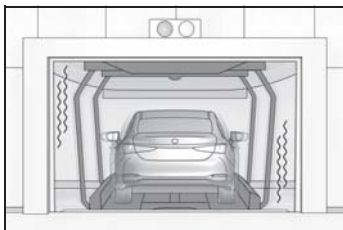
- ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
- ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
- ・ 室外の歩行者の動き



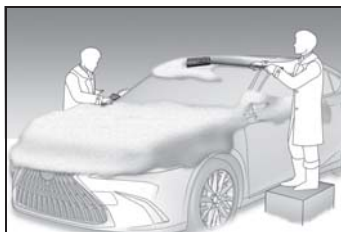
- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

■ 傾斜センサーについて

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

- フェリー・トレーラー・列車などで運搬するとき
- 立体駐車場に駐車したとき
- 車両移動をともなう洗車機を使用するとき
- タイヤ空気圧が少ないとき
- ジャッキアップするとき
- 地震や路面陥没が起きたとき
- ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。
- 電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯.....	72
計器類（F SPORT 以外）.....	76
計器類（F SPORT）.....	80
マルチインフォメーションディスプレイ.....	85
ヘッドアップディスプレイ.....	91
エネルギーモニター／Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面 .	95

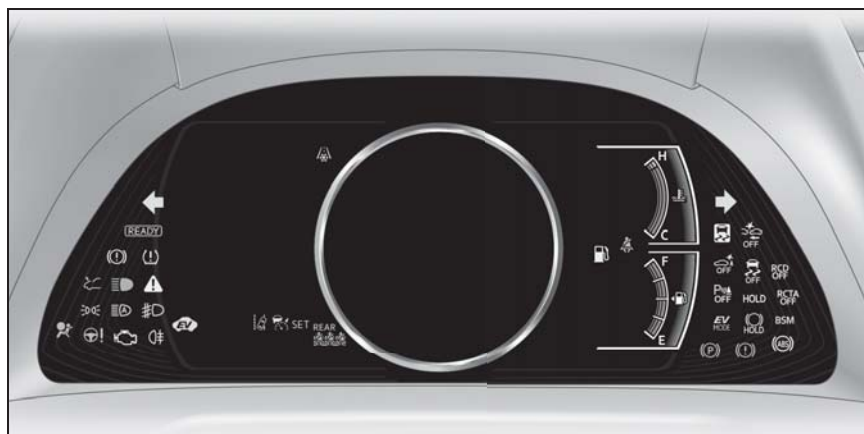
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー★・デジタルアウターミラーディスプレイ★の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メーターの警告灯／表示灯

▶ F SPORT 以外



▶ F SPORT



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.407)

(赤色)



ブレーキ警告灯 ※1
(→P.407)

(黄色)



高水温警告灯 ※2 (→P.407)



充電警告灯 ※2 (→P.407)



油圧警告灯 ※2 (→P.408)



エンジン警告灯 ※1
(→P.408)



SRS エアバッグ／プリテン
ション警告灯 ※1
(→P.408)



ポップアップフード警告灯 ※1
(→P.408)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.408)



ペダル誤操作警告灯 ※2
(→P.211, 409)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.409)

(赤色)



パワーステアリング警告灯 ※1
(→P.409)

(黄色)



燃料残量警告灯 (→P.409)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.409)



リヤ席シートベルト非着用警
告灯 ※2 (→P.410)



タイヤ空気圧警告灯 ※1
(→P.410)



(橙色)

LTA 表示灯 ※2 (→P.410)



(点滅)

クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※1 (→P.411)



(点滅)

RCTA OFF 表示灯 ※1
(→P.411)



(点滅)

RCD OFF 表示灯★
(→P.411)



(点滅)

PKSB OFF 表示灯 ※1
(→P.412)



(点滅または
点灯)

PCS 警告灯 ※1 (→P.412)



スリップ表示灯 ※1
(→P.412)



(点滅)

パーキングブレーキ表示灯
(→P.412)



(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯
※1 (→P.413)



ハイブリッドシステム過熱警
告灯 ※2 (→P.413)



フロントドア開警告灯★ ※3
(→P.413)



マスターウォーニング ※1
(→P.413)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを
ON モードにすると点灯し、数秒後ま
たはハイブリッドシステムを始動する
と消灯します。点灯しない場合や点灯
したままのときはシステム異常のおそ
れがあります。レクサス販売店で点検
を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ

イに表示されます。

※³デジタルアウトミラーディスプレイ
に表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.183)



尾灯表示灯 (→P.188)



ハイビーム表示灯 (→P.190)



AHS 表示灯★ (→P.192)



マルチウェザーライト表示灯★
(→P.198)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.199)



PCS 警告灯 ※^{1, 2} (→P.211)



クルーズコントロール表示灯
※³ (→P.233)



レーダークルーズコントロール表示灯 ※³ (→P.233)



クルーズコントロールセット表示灯 ※³ (→P.233)



(白色)

LTA 表示灯 ※³ (→P.226)



(緑色)

LTA 表示灯 ※³ (→P.212,
226)



(橙色点滅)

LTA 表示灯 ※³ (→P.226)



BSM ドアミラーインジケーター★※^{1, 4} (→P.259, 276)



BSM デジタルアウトミラー
アイコン★※^{1, 5} (→P.259,
276)



BSM 表示灯 (→P.259)



クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※^{1, 2} (→P.269)



RCTA OFF 表示灯 ※^{1, 2}
(→P.277)



RCD OFF 表示灯★※²
(→P.282)



PKSB OFF 表示灯 ※^{1, 2}
(→P.286)



(点滅)

スリップ表示灯 ※¹
(→P.299)



VSC OFF 表示灯 ※^{1, 2}
(→P.299)



スマートエントリー&スター
トシステム表示灯 ※³
(→P.172)



READY インジケーター
(→P.172)



EV ドライブモード表示灯
(→P.177)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.183)



ブレーキホールドスタンバイ
表示灯 ※¹ (→P.186)



ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.186)



AGC 表示灯 ※³ (→P.266)



EV インジケーター ※⁶
(→P.58)



低温表示灯 ※^{3, 7} (→P.76, 80)



ITS Connect アイコン★
(→P.253)



ITS Connect アイコン★
(→P.253)



ITS Connect アイコン★
(→P.253)



駆動用電池残量表示灯★ ※³
(→P.96)

● 走行モード表示

▶ F SPORT 以外



エコドライブモード表示灯
(→P.264)



スポーツモード表示灯
(→P.264)

▶ F SPORT



カスタムモード表示灯
(→P.264)



エコドライブモード表示灯
(→P.264)



スポーツ S モード表示灯
(→P.264)



スポーツ S+ モード表示灯
(→P.264)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを

ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※⁴ ドアミラーに表示されます。

※⁵ デジタルアウターミラーディスプレイに表示されます。

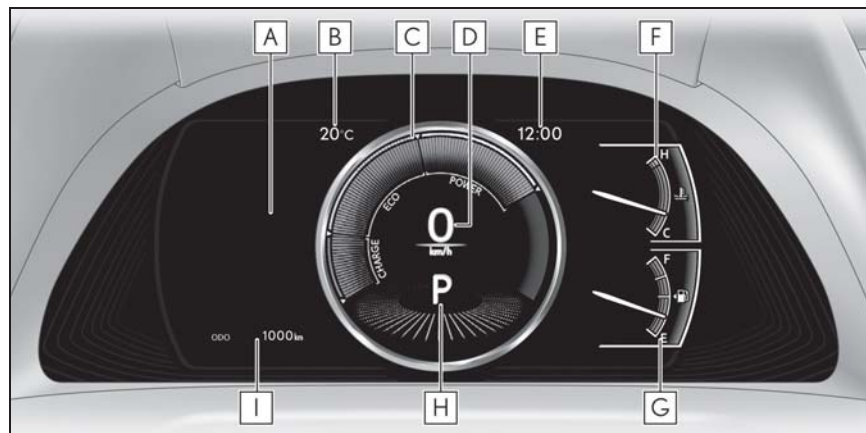
※⁶ F SPORT 以外：マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※⁷ 外気温が約 3° C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

計器類 (F SPORT 以外)

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.85)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.415)

B 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

C ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.77)

走行モードや設定によってタコメーターに切りかえることができます。(→P.89, 264)

D スピードメーター

E 時計

表示される時刻は、センタパネルのアナログ時計と連動しています。(→P.338)

F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.77 を参照してください。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

H シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.178)

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.78)

■ ハイブリッドシステムインジケータ

です。



■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ちに制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケータの作動条件

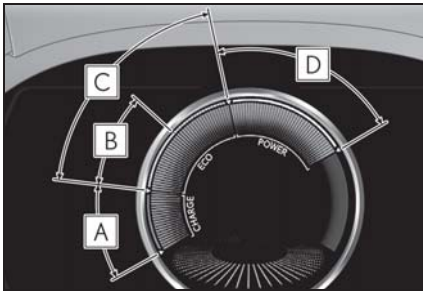
次のときにハイブリッドシステムインジケータが表示されます。

- シフトレバーが D または S のとき
- ハイブリッドシステムが始動しているとき

■ 燃料計と航続可能距離の手動更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする



A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。インジケータのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換すること

- 5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.86

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。（→P.89）

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンプレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.448）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

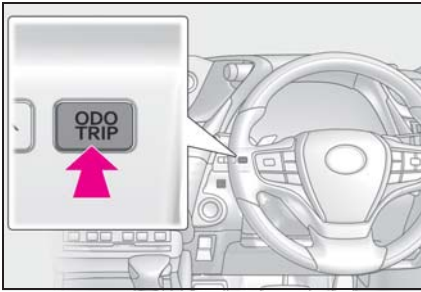
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

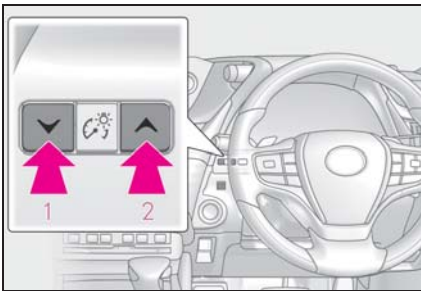
■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

知識

■メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

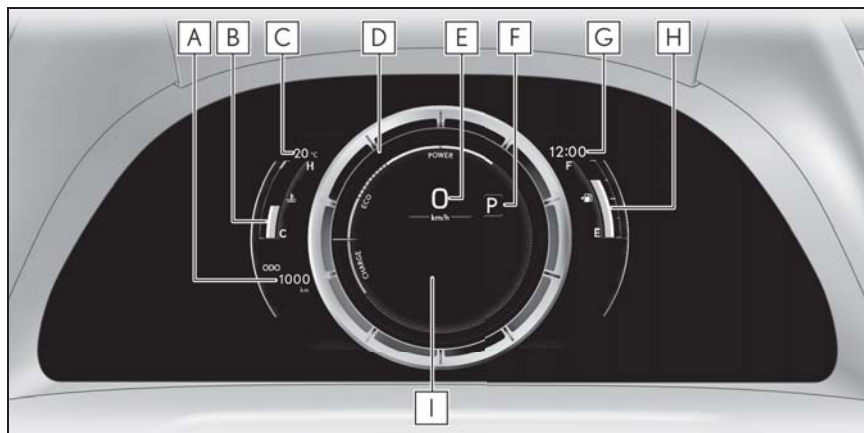
計器類 (F SPORT)

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーターリングの位置に応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。(→P.85)

▶ メーターリング中央時



A オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.84)

B 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

C 外気温

外気温を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.82)

走行モードや設定によってタコメーターに切りかえることができます。(→P.89, 264)

・ REV インジケーター (→P.82)

・ REV ピーク (→P.83)

E スピードメーター

F シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.178)

G 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。(→P.338)

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.83 を参照してください。

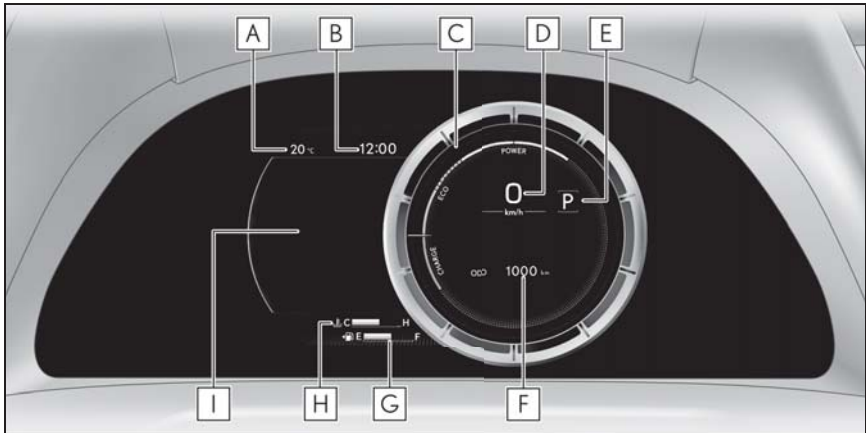
- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.85)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.415)

▶ メーターリング移動時



A 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C のあいだで表示します。

外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

B 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。(→P.338)

C ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.82)

走行モードや設定によってタコメーターに切りかえることができます。(→P.89, 264)

- ・ REV インジケーター (→P.82)
- ・ REV ピーク (→P.83)

D スピードメーター

E シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.178)

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.84)

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。実際の燃料残量が正しく表示されない場合は、P.83 を参照してください。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ “F” 付近で給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

H 水温計

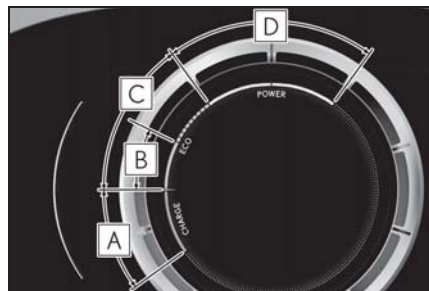
エンジン冷却水の温度を示します。

I マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.85)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.415)

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーター内にリング状のインジケーター (**A**) を表示します。

設定したエンジン回転数に到達したときは橙色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイの  から、表示開始するエンジン回転数を設定できます。(→P.89)



■ REV ピーク

4000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーター指針の残像を約 1 秒間表示します。



知識

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーターの作動条件

次のときにハイブリッドシステムインジケーターが表示されます。

- シフトレバーが D または S のとき
- ハイブリッドシステムが始動しているとき

■ 燃料計と航続可能距離の手動更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 “ODO TRIP” スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 “ODO TRIP” スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする
- 5 そのまま約 5 秒間 “ODO TRIP” スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.86

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。（→P.89）

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンブレキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計のバー表示がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.448）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

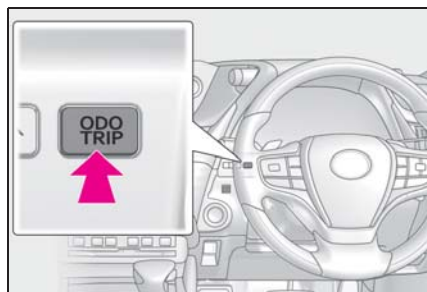
● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示しま

す。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

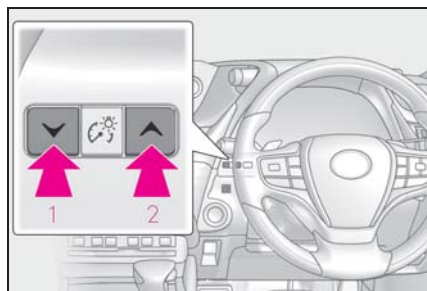
■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



1 暗くする

2 明るくする

知識

■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、それぞれの明るさのレベルを調整す

ることができます。

昼照度と夜照度は、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

メーターの表示・配置を切りかえるには

ボタンを押すごとにメーターリングが移動して表示が切りかわります。



マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示（F SPORT 以外）

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスを割り込み表示します。



■ ディスプレイの表示（F SPORT）

▶ メーターリング中央時

走行に関するさまざまな情報を表示します。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスを割り込み表示します。



▶ メーターリング移動時

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバースなどを割り込み表示します。



■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押すとメニューアイコンが表示されます。

F SPORT：メーターリング移動時のみ表示されます。



走行情報表示 (→P.87)



ナビゲーションシステム連携表示 (→P.88)



オーディオシステム連携表示 (→P.89)



運転支援機能情報 (→P.89)



警告メッセージ (→P.415)



設定 (→P.89)

□ 知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■ 運転中の使用について

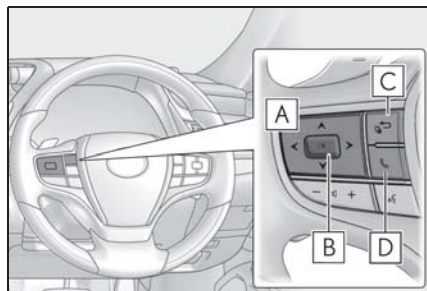
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ 低温時の画面表示について

→P.78, 84

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** **<** **>** : メニューの切りかえ
▲ **▼** : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

- B** 短押し：決定
 長押し：リセット

C メーターリング移動※・ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※ F SPORT

走行に関する情報について

■ 表示項目 (F SPORT 以外)

メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、 または  を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- エネルギーモニター (→P.96)
- タイヤ空気圧 (→P.376)
- 表示 OFF

■ 表示項目 (F SPORT)

▶ メーターリング中央時

メーター操作スイッチの  または  を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- タイヤ空気圧 (→P.376)
- 表示 OFF

▶ メーターリング移動時

メーター操作スイッチの  または

 を押して  を選択し、 または  を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- エネルギーモニター (→P.96)
- G モニター
- タイヤ空気圧 (→P.376)
- 表示 OFF
- ドライブインフォメーション 1 / 2

表示される数値は参考として利用してください。

- ドライブインフォメーション 1
 - ・ 瞬間燃費
 - ・ リセット間平均燃費
- ドライブインフォメーション 2
 - ・ 航続可能距離
 - ・ リセット間平均車速

表示する項目は、メニューアイコンの  から変更することができます。(→P.89)

表示できる項目は次のとおりです。

● 瞬間燃費

バー表示：現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセット間：リセット後の平均燃費を表示※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示

給油後：給油後の平均燃費を表示

● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示 ※1

始動後：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

● 距離

航続可能距離：燃料残量による走行可能な距離を表示 ※2, 3

始動後：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

● その他

ブランク：非表示

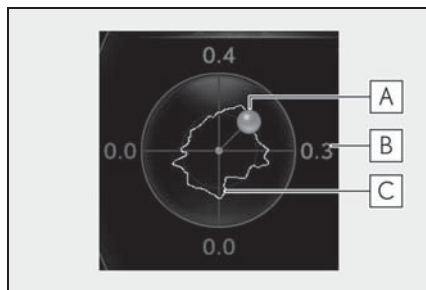
※1 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの“OK”を長押しします。

※2 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

※3 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示とともに更新することができます。（→P.77, 83）

■ G モニター（F SPORT）

車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。



A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

路面状況・気温・車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

● 最大 G の軌跡のリセット

メーター操作スイッチの“OK”を長押しすることで、軌跡をリセットすることができます。

● ピークホールド機能

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内
- コンパス（ヘッドアップ表示）
- ETC に関する通知



知識

■ 目的地案内について

ヘッドアップディスプレイの目的地案内表示を ON にしている場合、メーター側の目的地案内は非表示になります。
(→P.93)

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.221)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.233)
- RSA (ロードサインアシスト) (→P.230)
- ITS Connect ★ (→P.252)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定について

■ 変更できる項目 (メーター表示)

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位の単位を選択することができます。

● 車速表示 (F SPORT 以外)

スピードメーターの表示を、デジタルまたはアナログから選択することができます。

● ドライブインフォ 1 / ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。(→P.87)

● 時計

12 時間表示 / 24 時間表示を切りかえることができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● テーマカラー

カーソルの色などを変更することができます。

● タコメーター切りかえ

走行モードに応じたハイブリッドシステムインジケーターとタコメーターの切りかえ方を変更することができます。

● REV インジケーター (F SPORT)

- ・ REV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。
- ・ REV インジケーター (橙色) が表示されるエンジン回転数を変更することができます。

● REV ピーク (F SPORT)

REV ピークの作動・非作動を切りかえることができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすこと

ができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.458



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

このとき “はい” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “はい” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。



知識

■ カスタマイズ機能

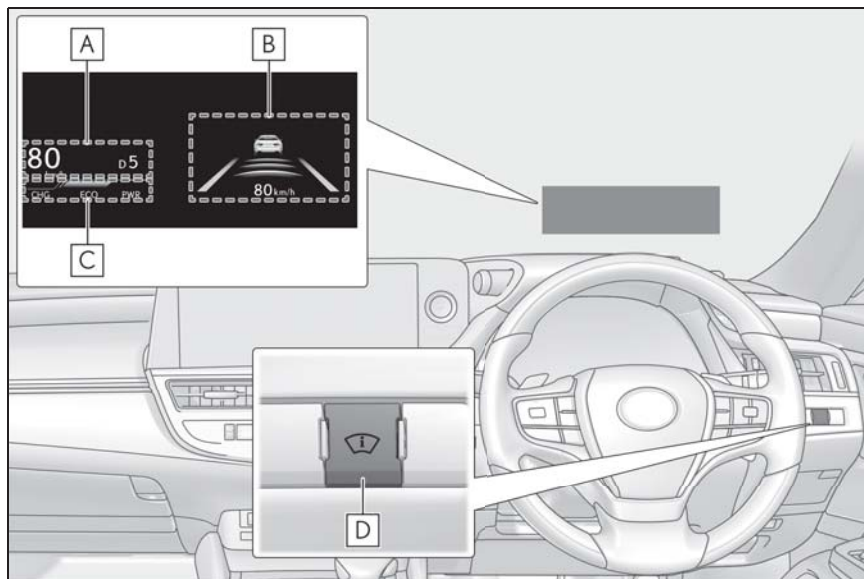
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.458）

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品



2

走行に関する情報表示

イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。

- ・ スピードメーター
- ・ シフトポジション・シフトレンジ表示 (→P.178)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) 表示エリア (→P.230)

B 運転支援システム表示エリア (→P.94)

ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

- ・ 交差点名
- ・ 目的地案内
- ・ レーン (車線) 案内

C ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア (→P.95)

D ヘッドアップディスプレイスイッチ

知識

■ ヘッドアップディスプレイの作動条件
パワースイッチが ON モードのとき

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ 交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■ レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

警告

■ ヘッドアップディスプレイを使用するときは

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

注意

■ ヘッドアップディスプレイ映写部について

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

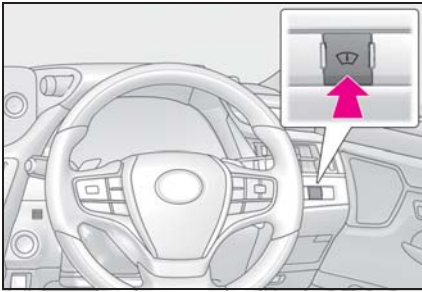


- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの  から、次の設定を変更することができます。(→P.85)

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● ハイブリッドシステムインジケータ／タコメーター

ハイブリッドシステムインジケータ／タコメーター／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

● 表示内容

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 目的地案内
- ・ レーン表示
- ・ 運転支援システム表示 ※
- ・ オーディオ表示

※ 運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの  による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.125)

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.211）
- 先行車発進告知機能（→P.244）
- ドライバー異常時対応システム（→P.247）
- ITS Connect★（→P.252）
- クリアランスソナー（P.268）
- パーキングサポートブレーキ（静

止物）（→P.291）

- ブレーキオーバーライドシステム（→P.165）
- ドライブスタートコントロール（→P.169）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.415）

インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス（→P.90）や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

● 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

● ETC に関する通知

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。



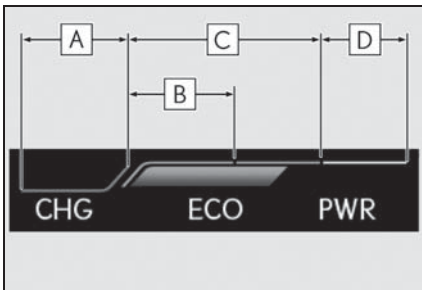
知識

■ 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター表示エリア

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

B ハイブリッドエコエリア

C エコエリア

D パワーエリア

表示される内容はメーターのハイブリッドシステムインジケーターと同様です。詳しくは、P.77、82 を参照してください。

■ タコメーター

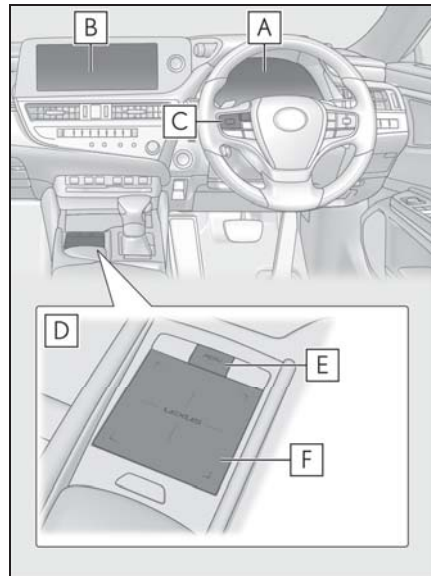
毎分のエンジン回転数を表示します。

エネルギーモニター／ Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイに表示します。

エネルギーモニター、Harmonious Driving Navi. 画面、または燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

B センターディスプレイ

C メーター操作スイッチ

D リモートタッチ (→P.310)

E “MENU” ボタン

F タッチパッド

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **i** を選択し、**▲** または **▼** を押してエネルギーモニターを表示させる

▶ センターディスプレイ

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、メニュー画面を表示させる

2 **i** を選択する

3 “エネルギーモニター” を選択する

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

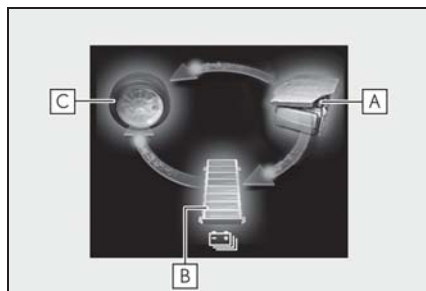
矢印の色は次のように変化します。

青色：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄色：電気エネルギーを使用しているとき

赤色：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ



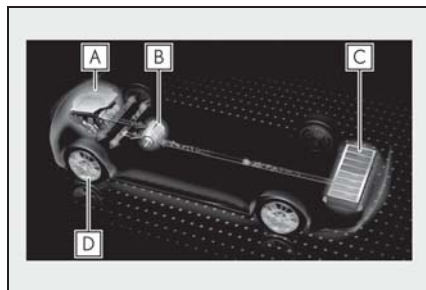
図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B 駆動用電池

C タイヤ

▶ センターディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

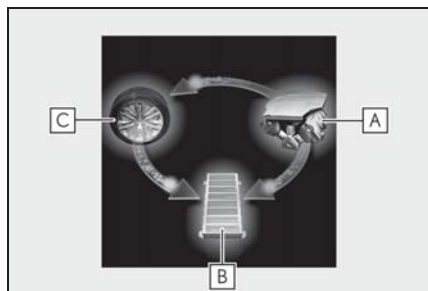
A エンジン

B モーター

C 駆動用電池

D タイヤ

▶ センターディスプレイ（サイド画面の表示）



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B 駆動用電池

C タイヤ

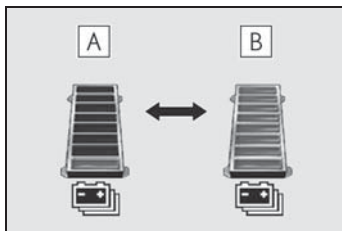


知識

■ 駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8 段階で表示されます。

- 図は例として、マルチインフォメーションディスプレイで説明します。
- 実際の表示内容とは異なる場合があります。



A 少ない

B 多い

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの“MENU”ボタンを押し、メニュー画面を表示させる
- 2 ⓘを選択する
- 3 “Driving Navi.” を選択する

Harmonious Driving Navi. 画面が表示されます。

■ 画面の表示について



A エコレベルインジケータ

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

B エコレベルメーター

エコドライブインジケータランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

C エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

D トリップインフォメーション（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

E トリップインフォメーション（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F 更新スイッチ ※

走行情報などを G-Link センターへ送信します。

G エコカルテススイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO₂ 排出量・平均燃費が表示されます。

H アドバイススイッチ

- ・運転者の運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。よいところを確認したり、さらによくするにはどうしたらよいかを知ることができます。
- ・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ G-Link サービスをご利用されているときに使用することができます。

また、センターディスプレイに通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



知識

■ G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するもの

であり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの“MENU”ボタンを押し、メニュー画面を表示させる
- 2 ⓘを選択する
- 3 “トリップインフォメーション” または “燃費履歴” を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



A 履歴消去

B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

C 瞬間燃費

D 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

E ハイブリッドシステム始動後平均車速

F ハイブリッドシステム始動後経過時間

G 航続可能距離

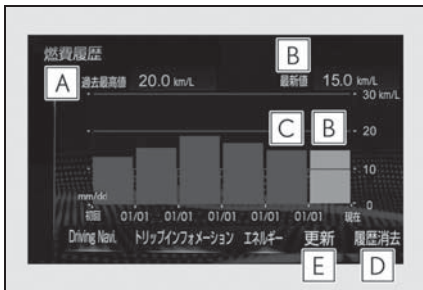
平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴”を選択します。



A 過去最高値表示

B 最新値表示

C 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

D 履歴消去

E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離に実際に走行できるとは限りません。

サイド画面の使い方

サイド画面に車両情報を表示して（→P.313）、**◀**または**▶**を選択してお好みの画面を表示します。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション（Aタイプ）

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃

費、回収エネルギーと航続可能距離を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション (Bタイプ)

航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。

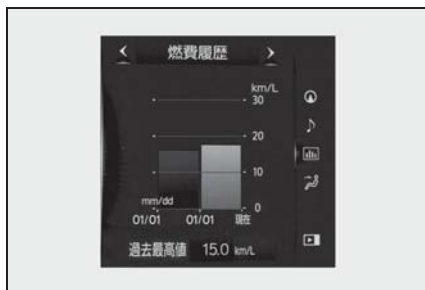


表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ エネルギーモニター

ハイブリッドシステム動作状況・エネルギーの回収状況を表示します。
(→P.96)

3-1. キー

キー 102

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 106

トランク 111

スマートエントリー&スタートシステム 118

3-3. シートの調整

フロントシート 123

リヤシート（リクライニング調整可能タイプ） 124

パワーイージーアクセスシステム／
ポジションメモリー／メモリー
コール機能 125

ヘッドレスト 128

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 130

インナーミラー 131

デジタルインナーミラー 132

ドアミラー 140

デジタルアウターミラー 142

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

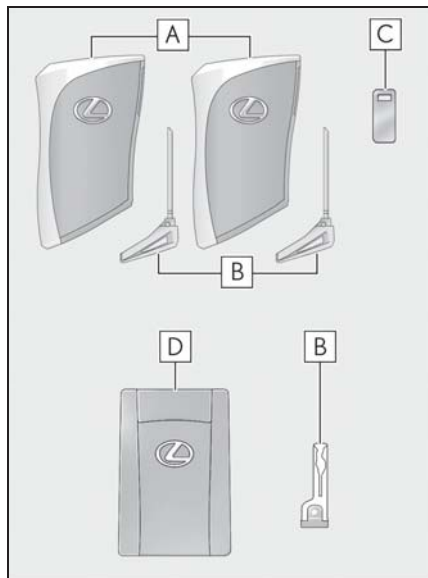
パワーウインドウ 157

ムーンルーフ 160

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.118)
- ・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.118)



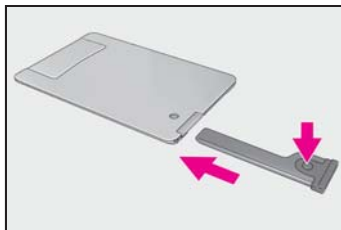
知識

■ カードキーについて

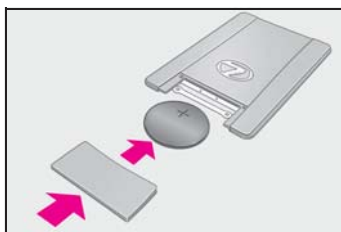
- カードキーは非防水です。
- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してくだ

さい。

- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 ～ 1 年半で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッ

ドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→P.119)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.388)
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーのLEDが点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます(→P.388)が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、

■ 電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・ 必ず日本国内でご使用下さい。

- マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

レクサス販売店ででの交換をおすすめします。

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P.388

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたったりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない

⚠ 注意

- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.441

■ 電子キーを紛失したとき

→P.440

■ カードキーの取り扱いについて

- メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。

水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなる場合があります。

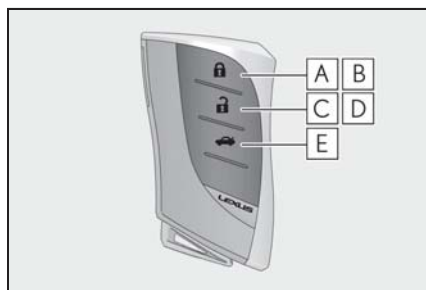
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

- ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
- ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
- ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A ドアの施錠（→P.106）

B ドアガラスとムーンルーフを閉め

る ※ (→P.106)

C ドアの解錠 (→P.106)

D ドアガラスとムーンルーフを開く
※ (→P.106)

E トランクを開ける (→P.114)

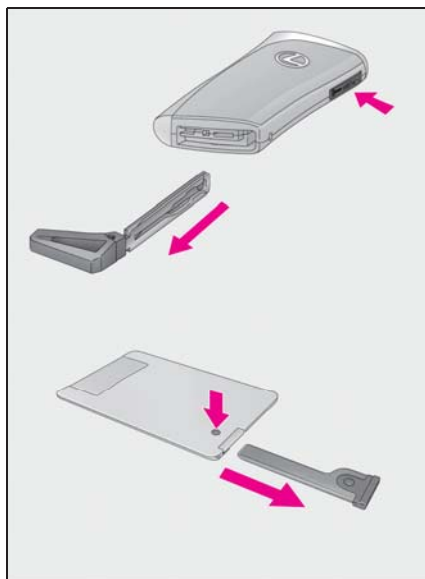
※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.441)



知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF (→P.117) にして、グローブボックス (→P.334)・アームレストドア (→P.346) を施錠します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

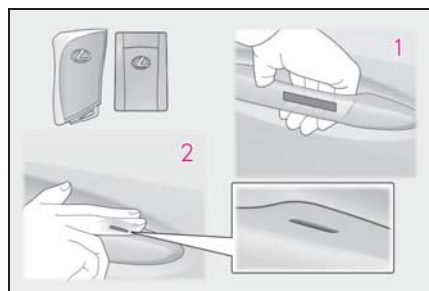
→P.440

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

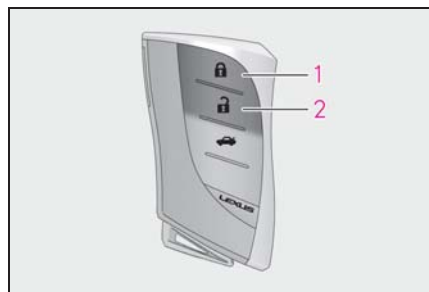
ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフが開きます。※

※ レクサス販売店ででの設定変更が必要です。

知識

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止する (操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.68)

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、

 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切り換え操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.66)

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

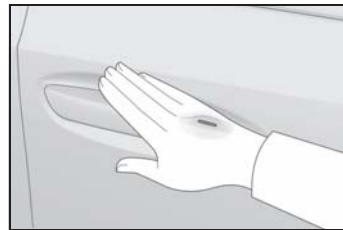
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開け

なかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■ 半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー&スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■ オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.66)

■ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に動かないおそれのあるとき

→P.119

■スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.441) 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.388)

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - ・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
 - ・ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.458)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.441)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.458)

！警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

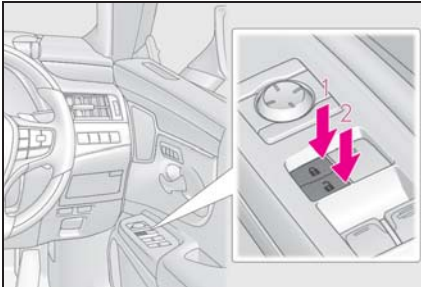
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

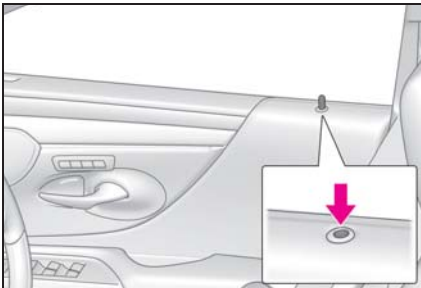
■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

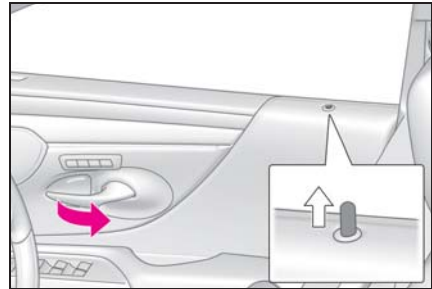
ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタン

が上がります。



□ 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するには

- 1 ドアロックボタンを押し下げる
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

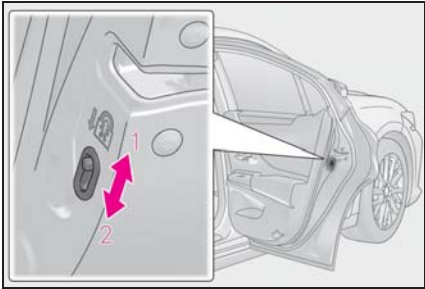
パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドア、ボンネットまたはトランクが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドア、ボンネットまたはトランクがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



- 1 解錠
- 2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

 知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.458 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステム作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。

機能	作動内容
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

パワートランクリッド装着車は、トランククローザーで閉めることもできます。

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

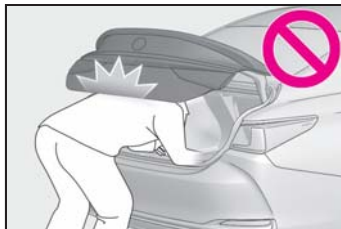
■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- パワートランクリッド非装着車は、半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



警告

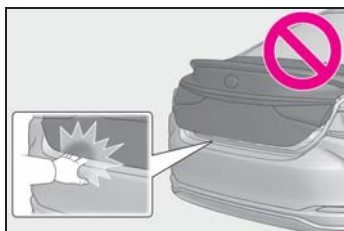
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



- パワートランクリッド非装着車は、トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを開めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ イージークローザーについて（パワートランクリッド装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ パワートランクリッドについて（パワートランクリッド装着車）

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ ハイブリッドシステム停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■ ハンズフリーパワートランクリッドについて（パワートランクリッド装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

■ 挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

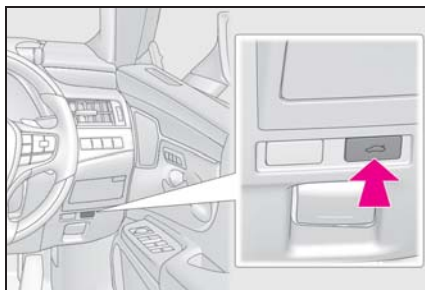
■ パワートランクリッドの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

トランクオープナースイッチを押す

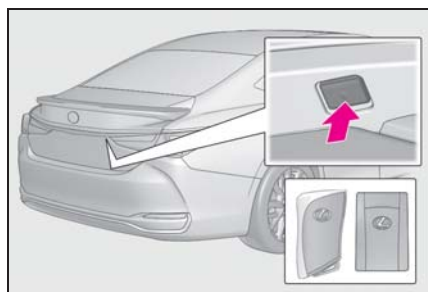


■ スマートエントリー&スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、スイッチを押す次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯

しなくてもトランクを開けることができます。

- スマートエントリー&スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



■ ワイヤレス機能を使用して開く

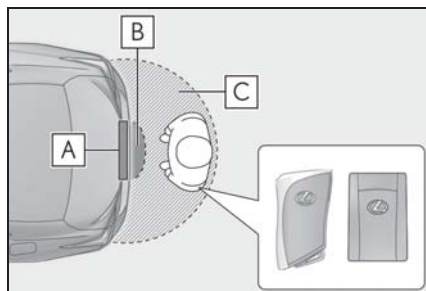
スイッチを押し続ける
ブザーが鳴ります。



■ ハンズフリーパワートランクリッドを使用して開閉する（パワートランクリッド装着車）

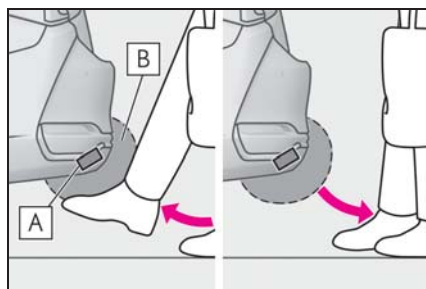
- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動

範囲内でリヤバンパーから約 30
～ 50cm 離れた位置に立つ



- A** キックセンサー
- B** ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア
- C** スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア
(→P.118)

- 2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて引く
 - ・足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
 - ・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
 - ・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
 - ・車室内またはトランク内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



- A** キックセンサー

B ハンズフリーパワートランクリッド作動検知エリア

- 3** 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後トランクが自動で全開・全閉します。

トランクが開く途中で再度操作をすると、作動を停止します。

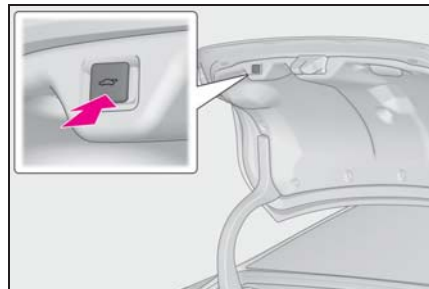
トランクが閉まる途中で再度操作をすると、トランクは再び開きます。

■ トランククローザースイッチを使用して閉じる（パワートランクリッド装着車）

スイッチを押す

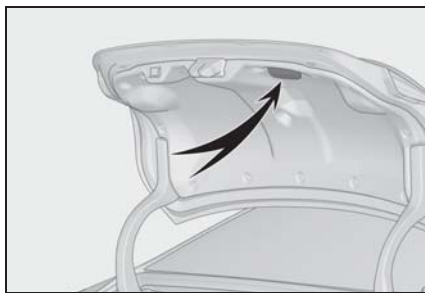
ブザーが鳴り、自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。



■ トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉める



□ 知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ イージークローザー（パワートランクリッド装着車）

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

- パワースイッチがOFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いて、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波

状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを開めたときに施錠されてしまいます。トランクを開めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープンスイッチでトランクを開けてください。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっているとパワートランクリッドは作動しません。

■ 落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下ないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■ スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→P.441）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.388）

■ ハンズフリーパワートランクリッドの作動条件（パワートランクリッド装着車）

- ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定が ON で、パワースイッチが OFF のとき
- 電子キーを携帯して作動範囲内にある

とき

■ ハンズフリーパワートランクリッドが正常に作動しない状況（パワートランクリッド装着車）

ハンズフリーパワートランクリッドは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき
リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。
- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.119）
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき
アクセサリ用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワートランクリッドの誤作動を防ぐために（パワートランクリッド装着車）

ハンズフリーパワートランクリッドは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワートランクリッドの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワートランクリッド（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■半ドア走行時警告ブザー

→P.109

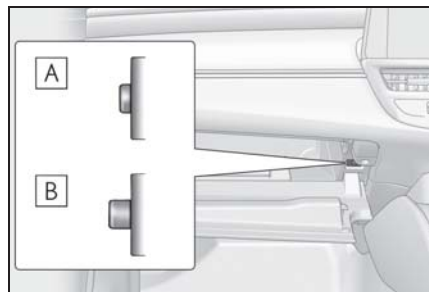
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のトランクオープナーメインスイッチを OFF にする



A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー&スタートシステム・ハンズフリーパワートランクリッド★でもトランクを開けられなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■駐車場などでキーを預けるときは

→P.105

スマートエントリー&スタートシステム

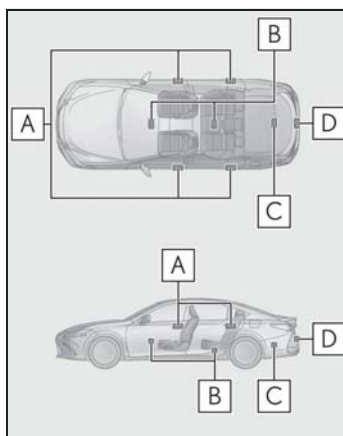
電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.106）
- トランクを開ける（→P.113）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.172）



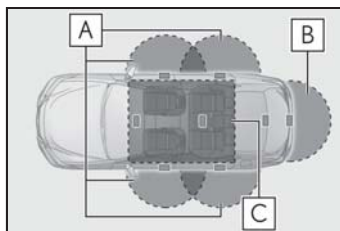
知識

■ アンテナの位置



- A** 車外アンテナ
- B** 車室内アンテナ
- C** トランク内アンテナ
- D** トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとする、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法

は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを開けた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリモードにした（パワースイッチがアクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFFにした	運転席ドアを閉めてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
 - ・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

- 節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、

 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.441）

- 電子キーの電池が消耗しているとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
 - 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
 - リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
 - 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
 - コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき
- **ご留意いただきたいこと**
- 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ トランクを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
 - インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
 - 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
 - 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動することができます。
 - 電子キーが作動範囲内にいるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)
 - ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます)
 - 手袋を着用していると施錠しないことがあります。
 - ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
 - 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。
 - 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。

その場合は次のような処置をしてください。

- ・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
- ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.119）
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しない場合があります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーの電池の消耗を抑えることができます。（→P.119）

■システムを正しく作動させるために

- 電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、

キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

- トランク内に電子キーを置かないでください。

電子キーの場所（応急用タイヤ★付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→P.115）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電子キーが正常に働かないときは

- ドアの施錠・解錠ができないとき、またはトランクが開けられないときは、次の方法を行ってください。
 - ・電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
 - ・電子キーをトランクにあるスイッチ（→P.113）に近付けてスイッチを押す
 - ・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.441）

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.66）

- ハイブリッドシステムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.442）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠が

できます。(→P.106, 114, 441)

- ハイブリッドシステムの始動・パワー
スイッチのモード切り替え：→P.442
- ハイブリッドシステムの停
止：→P.174

警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.118）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

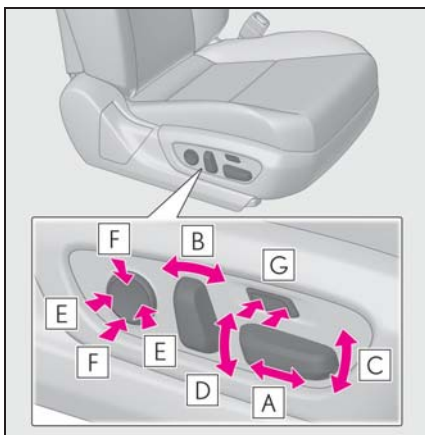
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

調整するには



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部前後調整
(ランバーサポート)
- F** 腰部上下調整 (ランバーサポート) ★
- G** クッションの長さ調整★ (運転席)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートを調整するときは

- 周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。
- ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切り替え・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.125)

警告

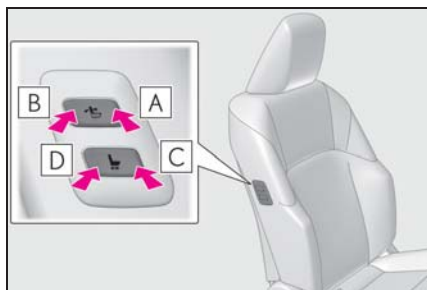
■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側面スイッチ★



- A** 背もたれを前に傾ける
- B** 背もたれをうしろに傾ける
- C** シートを前方に動かす
- D** シートを後方に動かす

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

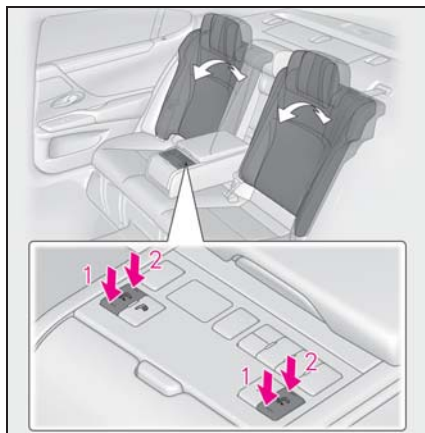
操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

リヤシート（リクライニング調整可能タイプ）★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

リヤシートの背もたれを調整することができます。

調整のしかた



- 1** 背もたれを前に傾ける
- 2** 背もたれをうしろに傾ける

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラー★・デジタルアウターミラー★・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

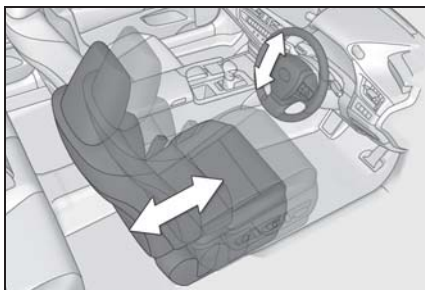
ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、

シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにする
- シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方または最上方にあるときやリヤ席に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。
- パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。
- 降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

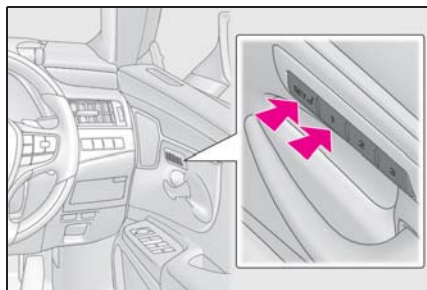
■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.458)

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON モードにする
- 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度★・デジタルアウターミラーの表示範囲★・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する

- 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のボタンで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■登録できるシート位置 (→P.123)

次のシート位置が登録できます。

- 前後位置調整
- リクライニング調整
- クッション前端の上下調整
- シート全体の上下調整

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

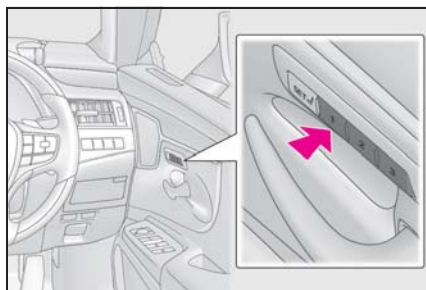
警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたりたり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

■ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON モードにする
- 3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する (シートのみ作動停止)
- ハンドル位置調整スイッチを操作する (ハンドルのみ作動停止)
- ヘッドアップディスプレイ★の表示位置を調整する (ヘッドアップディスプレイ)

イのみ作動停止)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席側：運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

助手席側★：助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

電子キーにドライビングポジションを登録／解除／呼び出しをするには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

お好みのポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

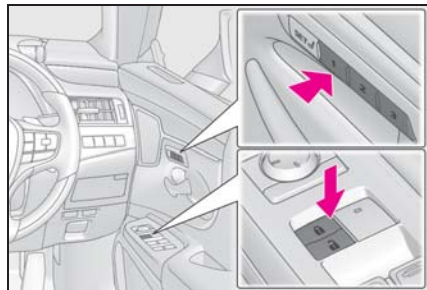
解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON モードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

- 1 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチを ON モードにする
- 4 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションに登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジション

が登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2** パワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席以外のドアをスマートエントリー & スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能と連動するドアを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.458)

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

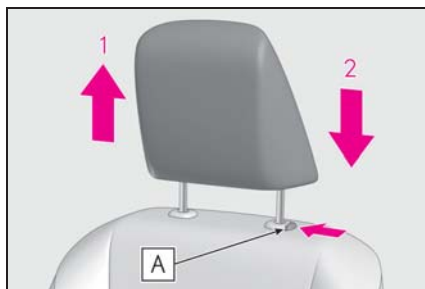
⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには



1 上げる

2 下げる

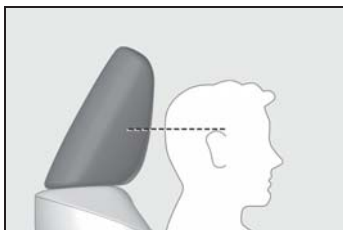
下げるときは、解除ボタン **A** を押しながらか操作します。



知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ外側席について（背もたれ調整可能タイプ以外）

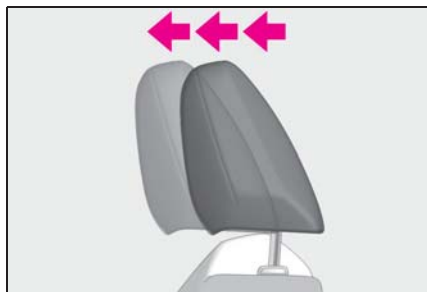
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。

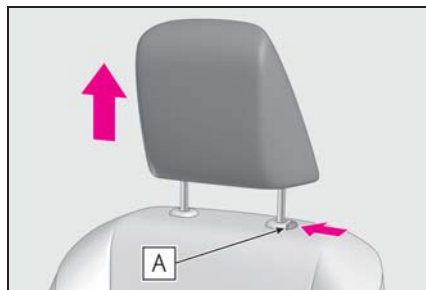


ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン **A** を押しながらヘッドレ

ストを引き上げます。

フロント席：ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.123）

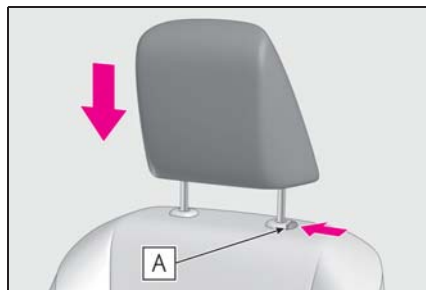


ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン

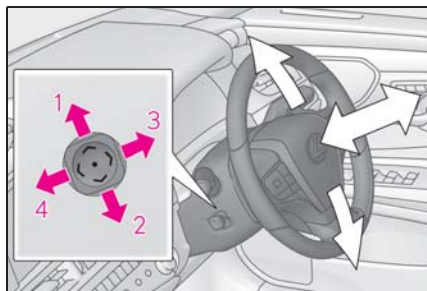
A を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.125)

■パワーイージーアクセスシステム

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.125)

■カスタマイズ機能

ハンドル作動の設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.458)

警告

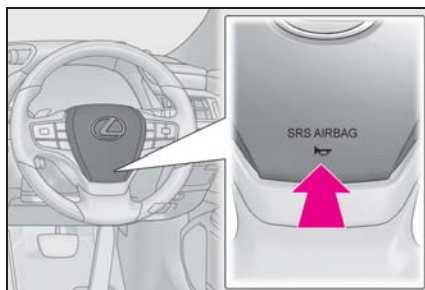
■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります



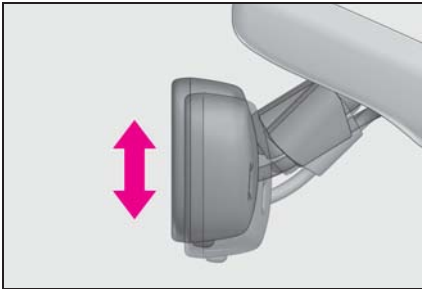
インナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

自動防眩機能を使うには

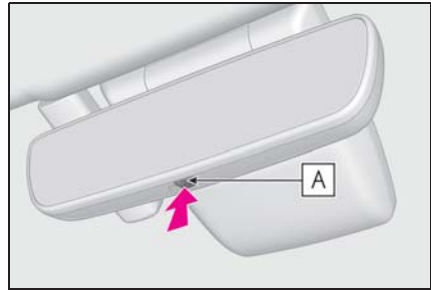
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。

パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



📖 知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物、リヤサンシェードなどで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

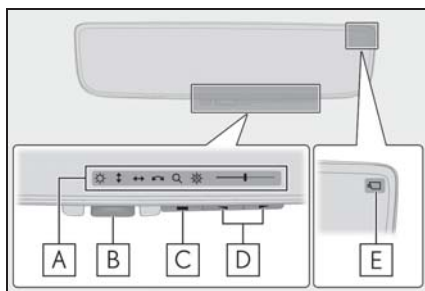
！ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。(→P.133)
- ・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- ・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A アイコン表示エリア

調整アイコン (→P.134)・調整ゲージが表示されます。

B 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

C メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

D 選択／調整スイッチ

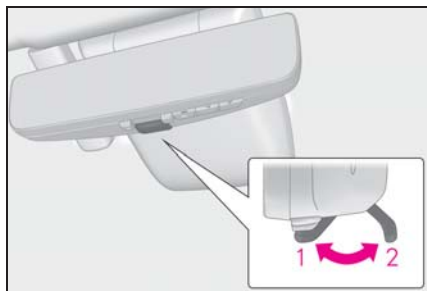
調整項目の設定を変更します。

E カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイにが表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■ デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチがON モードのとき

パワースイッチをON モードからOFF またはアクセサリモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■ デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェードを閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 映像の色と実際の色が異なって見える

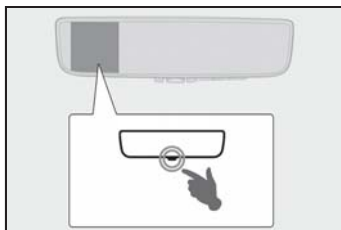
- ・ 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
- ・ 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

- デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わずぶらつきを感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■ システムに異常が発生したら

デジタルミラーモード使用時に、図で示すシンボルが表示された場合、システムに異常があるおそれがあります。シンボルの表示は数秒後に消えます。切り替えレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

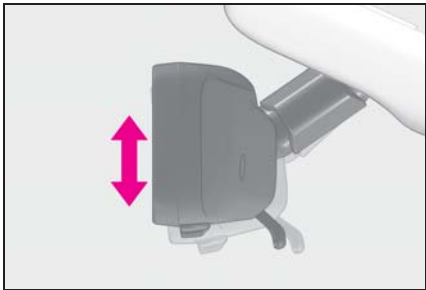


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。鏡面ミラーモードに切りかえて、イ

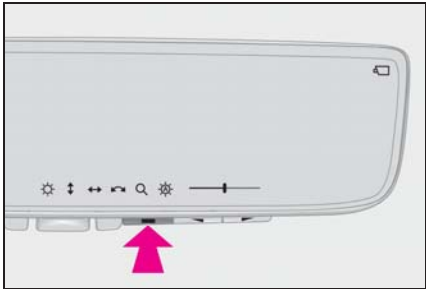
センサーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON / OFF ができます。

- 1 メニュースイッチを押す
調整アイコンが表示されます。



- 2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する
- 3  または  を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	自動防眩機能の ON / OFF を切りかえることができます。 ※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON / OFF 切り換え（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON / OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

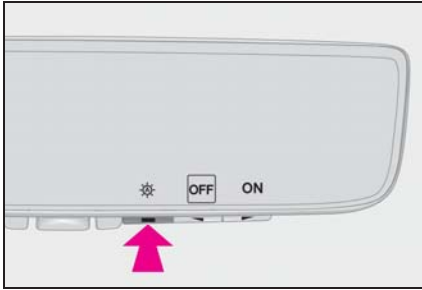
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.134

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュースイッチを押す

設定画面が表示されます。

2 または を押して、自動防眩機能の ON / OFF を切りかえる

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。



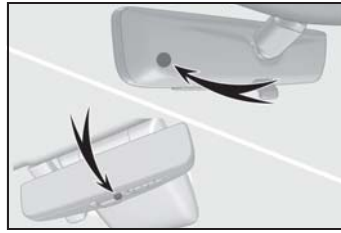
知識

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■ 安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店にご相談ください。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

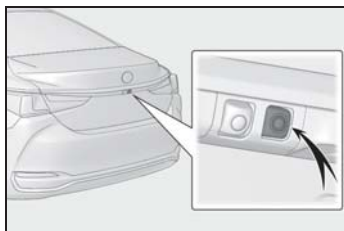
カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。



知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



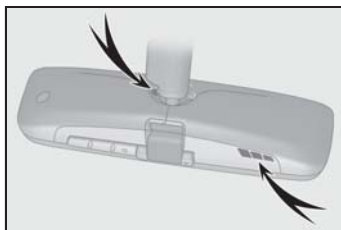
■ 冷却用のファンについて

デジタルインナーミラー内には、ミラー冷却用のファンがあります。デジタルインナーミラーの使用中は、冷却用のファンの音が聞こえることがあります。

⚠ 注意

■ デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

- ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。
- ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあります。
- ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。
- ミラーの通風口をふさがないようにください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあります。



■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
- ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置が、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- ・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

 注意

- ・ カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- ・ カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフからの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・ 夜間など暗いところで使用した ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・ カメラ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低い ・ 雨天時など湿度が高い ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した。 ・ 排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着している	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
	トランクが完全に閉まっていない	トランクを閉めてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上にが表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった。 ディスプレイ上のが消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に  が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い (徐々にディスプレイ上が暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます)	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 (ミラーの温度が下がるとが消えます) ミラーの温度が下がってもが消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切り換えレバーが正常に作動しない	切り換えレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 (メニュースイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます)

ドアミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

警告

■ 走行中の留意事項

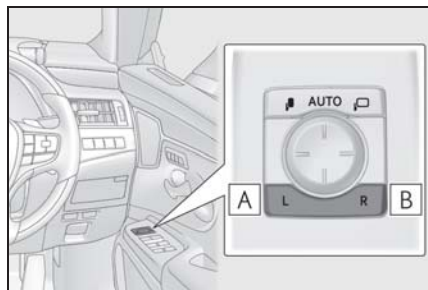
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

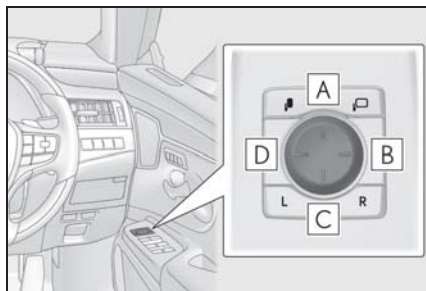
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す



A 左 (L)

B 右 (R)

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■ 鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.317)

■ 自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、運転席側／助手席側ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.131)

■ ミラー角度の自動調整

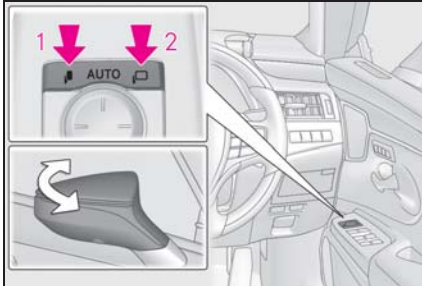
お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.125)

警告

■ **ミラーヒーターが作動しているとき**
 ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

警告

■ **ミラーが動いているとき**
 手をふれないでください。
 手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

ドアミラーを格納するには

1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。



知識

■ 寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、マニュアル作動で作動させるか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーをRに入れるたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

デジタルアウターミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両サイドに取り付けたカメラの映像をデジタルアウターミラーのディスプレイに表示する装置です。

⚠ 警告

■ デジタルアウターミラーをお使いになる前に

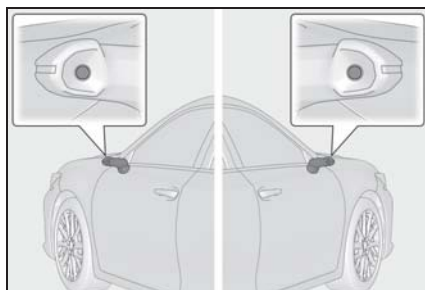
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行前に必ず映像の表示範囲を調整してください。(→P.143)
調整していないと、正しく後方を表示しないことがあります。
- リバース連動・フロントドア開連動・ターン連動・マニュアル操作による広範囲映像モード時は、ディスプレイに表示される映像（人・物・車両など）が通常表示される大きさと異なります。あらかじめ違いを確認してください。
- フロントドアが閉まっていることを必ず確認してください。フロントドアが少しでも開いていると、デジタルアウターミラーの映像が正しく表示されません。
- カメラ部が倒れていないことを確認してください。
カメラ部が格納されている、または前方に倒れていると、デジタルアウターミラーの映像が正しく表示されません。

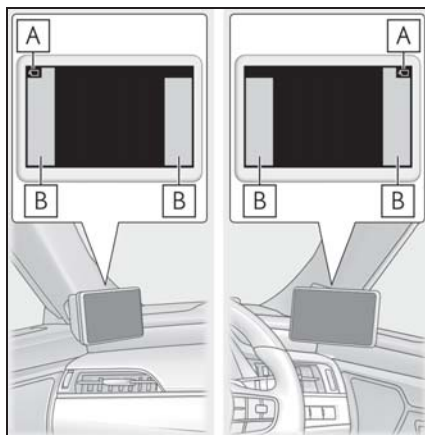
● 炎天下での駐車時などは、ディスプレイの金属部分が高温になっている場合があるため、ふれるとやけどをするおそれがあります。

各部の名称

■ カメラ



■ ディスプレイ



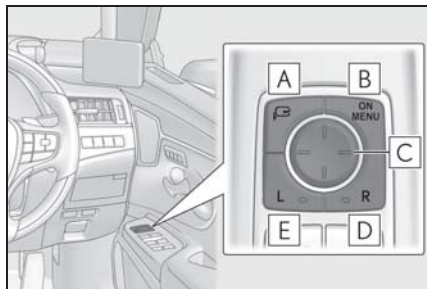
A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整メニューアイコンなどが表示されます。

■ スイッチ



- A** カメラ部の格納／もとの位置にもどす (→P.147)
- B** 画面や調整メニューを表示
- C** 調整メニューの選択・映像の調整 (→P.143)
- D** 右側の画面を選択
- E** 左側の画面を選択



知識

■ 作動条件

次のいずれかのときに作動します。

- ▶ 映像が表示される
 - ・ パワースイッチが ON モードのとき
 - ・ ON / MENU スイッチを押したとき
 - ・ フロントドアを開けたとき
- ▶ 映像が非表示になる
 - ・ パワースイッチを OFF にし、約 2 分以上経過したとき ※
 - ・ 車外から施錠したとき

※ カメラインジケーターが約 10 秒間点滅したあとに映像が消えます。

■ デジタルアウターミラーについて

- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、ディスプレイの明るさを調整してください。(→P.144)
- 次のような現象が発生することがあり

ますが、異常ではありません。

- ・ 後続車のライトがちらついて見える
- ・ 映像の色と実際の色が異なって見える
- ・ 夜間、後続車のヘッドライトの周囲が白くぼやけて見える
- ・ 夜間、暗いところでちらつきが目立つ
- デジタルアウターミラーのディスプレイが発熱することがありますが、異常ではありません。
- 体調、年齢などにより、ディスプレイに焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、安全な場所に停車し、ディスプレイの明るさを調整する(→P.144) などし、焦点が合うまで運転は控えてください。
- 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こす恐れがあります。

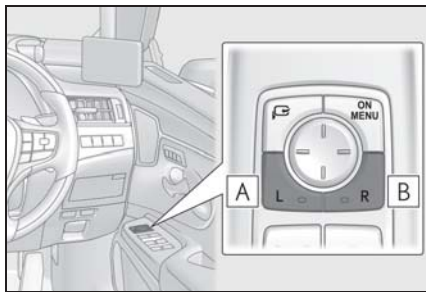
調整するには

■ 表示範囲の調整

ディスプレイの表示範囲を調整することができます。

▶ 通常時

- 1 調整したいディスプレイを選ぶには、スイッチを押す



A 左 (L)

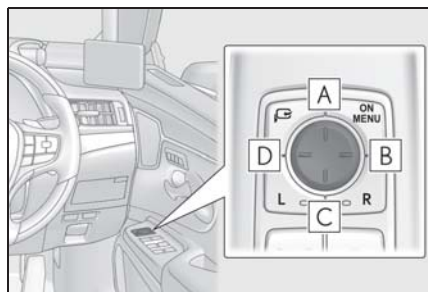
B 右 (R)

スイッチを押すと、インジケーターが点

灯します。

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 2** ディスプレイの表示範囲を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

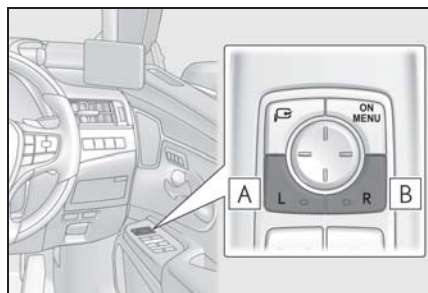
C 下

D 左

- ▶ リバース連動時

ブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で操作してください。

- 1** シフトレバーを R に入れる (→P.179)
- 2** 調整したいディスプレイを選ぶには、スイッチを押す



A 左 (L)

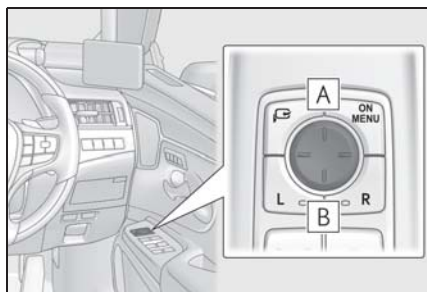
B 右 (R)

スイッチを押すと、インジケーターが点

灯します。

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 3** ディスプレイの表示範囲を調整するにはスイッチを押す



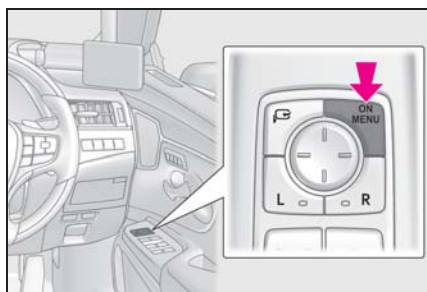
A 上

B 下

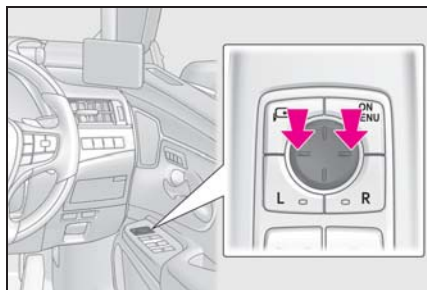
■ 調整メニューの操作方法

- ▶ 表示映像の傾き以外の調整

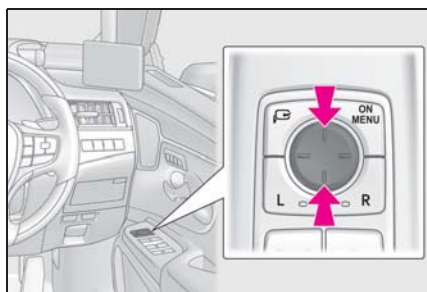
- 1** 調整メニューを表示するには、スイッチを押す



- 2 調整するメニューを表示するには、スイッチを押す

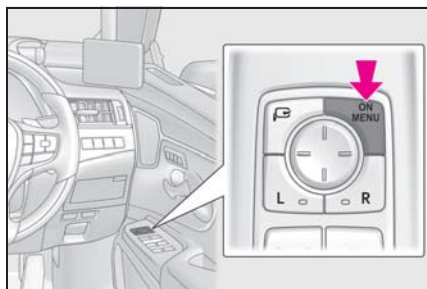


- 3 調整メニューの設定を変更するには、スイッチを押す

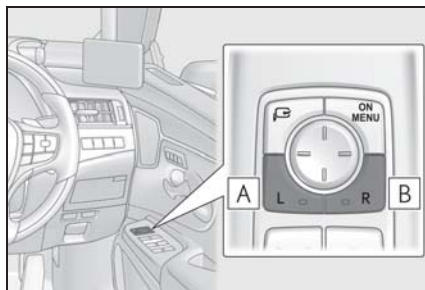


▶ 表示映像の傾き調整

- 1 調整メニューを表示するには、スイッチを長押しする



- 2 調整したいディスプレイを選ぶには、スイッチを押す



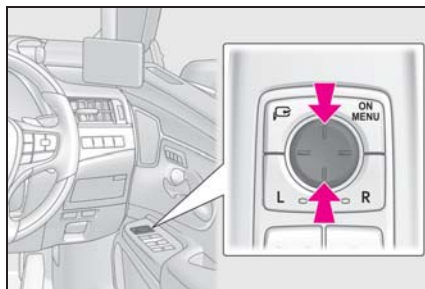
A 左 (L)

B 右 (R)

スイッチを押すと、インジケーターが点灯します。

もう一度押すと、選択が解除されます。

- 3 表示映像の傾きを調整するには、スイッチを押す



■ 調整メニューアイコン

アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、カメラ部を自動的に格納・復帰する機能の ON / OFF を変更することができます。(→P.147)
	シフトレバーを R に入れたとき、表示範囲拡大する機能の ON / OFF を変更することができます。(→P.147)
	方向指示レバーを操作したとき、表示範囲拡大する機能の ON / OFF を変更することができます。(→P.150)
	前方に走行するとき、距離目安線を表示する機能の ON / OFF を変更することができます。(→P.151)
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。(→P.144)

□ 知識

■ 調整するときは

必ず安全な場所に停車して調整を行ってください。

■ 調整について

- 次のときアイコンの表示が消えます。
 - ・ ON / MENU スイッチを押す
 - ・ パワースイッチを OFF にしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ 一定時間スイッチを操作しなかったとき
 - ・ シフトレバーを R にしたとき（シフトレバーが R のときは、リバース連動広範囲映像モードになります）※

※ リバース連動広範囲映像モードが ON のとき

- 次の操作をするときに、広範囲映像モードになります。
 - ・ シフトレバーを R にする（調整アイコン  を ON にしたときのみ）
- シフトレバーを R 以外にすると解除されます。

- ・  と  が選択されていないときに、 のいずれかを押す
- 一定以上の車速で、一定時間走行すると解除されます。

または、再度  または

 を押すと解除されます。

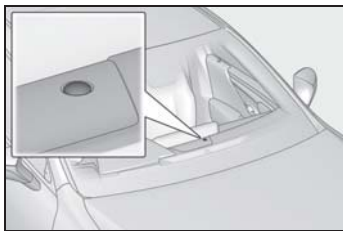
- ・ 方向指示レバーを操作する（調整アイコン  を ON にしたときのみ）
- 方向指示レバーをもとの位置にもどして、数秒間経過すると解除されます。

- 映像の調整を限界値まで行くと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

- ディスプレイが明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
- ディスプレイの明るさは、車両周辺の明るさに合わせて自動でかわります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえざられると、映像の明るさを自動で調整する機能が正常に働かなくなります。



⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は、デジタルアウターミラーの表示範囲やメニュー調整をしないでください。
デジタルアウターミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。
- ・ 後退時など、ディスプレイに映された車両周辺の人・物が、実際の距離と異なって見える場合があります。

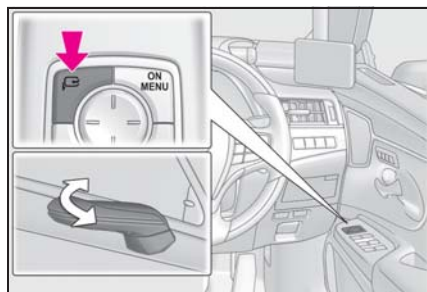
- ・ 立体駐車場など明るい場所と暗い場所が混在する場所や、夜間に後方車両のヘッドライトが映された場合などに、周囲が暗く映る場合があります。

カメラ部を格納するには

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



■ オート作動での格納・復帰のしかた

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、カメラ部を自動的に格納・復帰させることができます。

調整アイコンの  を ON にする
(→P.143)

リバース連動広範囲映像モードについて

後退時にディスプレイの表示範囲が広くなり、距離目安線が表示されます。この機能を使用しないときは、調整アイコンの  を OFF にしてく

ださい。(→P.144)

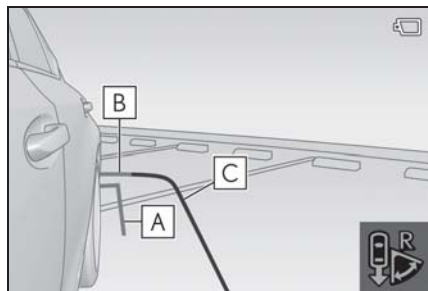
作動中は・がディスプレイに表示されます。

■ 後退時に表示される範囲を調整するとき

→P.143

■ 距離目安線について

リバース連動広範囲映像モードのとき、ディスプレイに表示されます。ドアが開いているときは、表示されません。



A バンパー後端から約 0.2m 先 (赤色) を示します。

B バンパー後端から約 0.5m 先 (赤色) を示します。

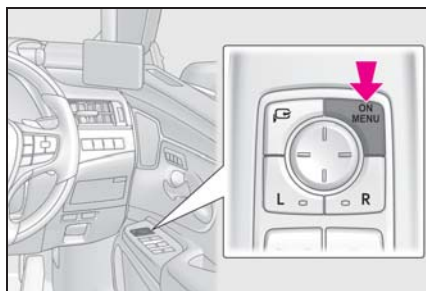
C バンパー後端・車両側方から約 0.5m 先 (青色) を示します。※

※ 距離目安線の表示を非表示にすることができます。

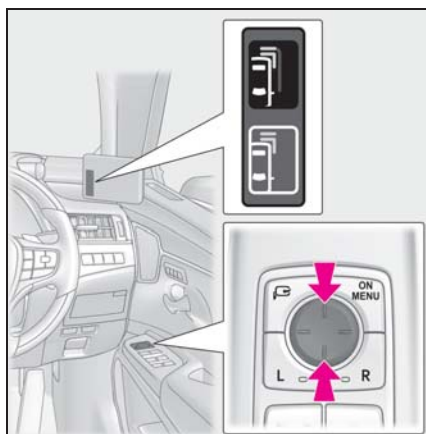
■ 距離目安線の切りかえについて

リバース連動広範囲映像モードのとき、切りかえることができます。ブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で操作してください。

1 距離目安線切りかえメニューを表示するには、スイッチを押す



2 距離目安線の表示を変更するには、スイッチを押す



■ 距離目安線の表示位置について

平らな路面に対しての距離目安線です。次の場合、ディスプレイの距離目安線が実際の路面上の距離と異なる場所に表示されます。

- ・ 傾斜の急な場所
- ・ 乗員人数や積載量などにより自車が傾いているとき
- ・ トラックの荷台の様な立体物があるとき

知識

■ リバース連動広範囲映像モードの作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 調整アイコンの  が ON のとき
- シフトレバーが R のとき

上記の作動条件のいずれかが満たされなくなると、リバース連動広範囲映像モードは解除されます。

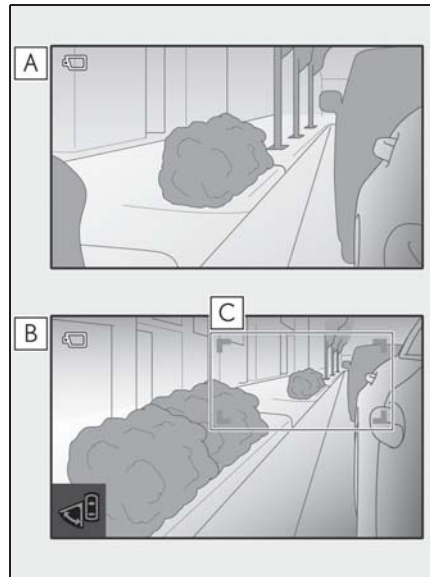
マニュアル広範囲映像モードについて

車を側方に寄せる場合など、マニュアル広範囲映像モードによって、後輪周辺の障害物などを確認することができます。



ともに選択していない

状態で、 の上側・下側・左側・右側のいずれかを押したとき、両方のディスプレイ表示範囲が広がります。



A 通常の表示範囲

B 拡大表示範囲

表示範囲が広がっているときは、ディスプレイに  または  が点灯します。

C **A** の表示範囲部分

知識

■ マニュアル広範囲映像モードの解除条件

次のいずれかの条件のとき、機能が解除されます。

-  または  を選択したとき
- 再度  の上側・下側・左側・右側のいずれかを押したとき
- 約 30km/h 以上で、15 秒以上走行したとき

- 調整アイコンのがONで、シフトレバーをRにしたとき（リバース連動広範囲映像モード）

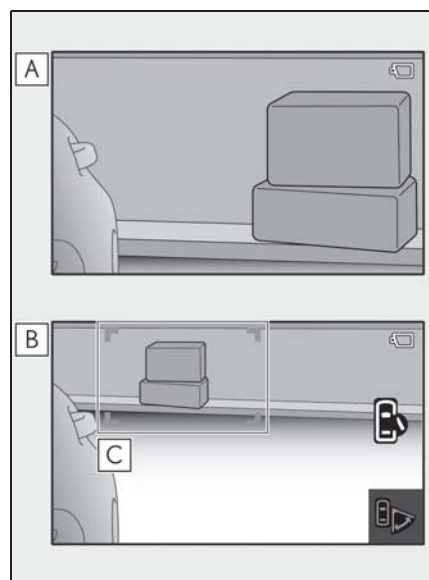
■ マニュアル広範囲映像モードからリバース広範囲映像モードに切りかえたとき

シフトレバーをR（リバース広範囲映像モード作動時）から再度R以外にした場合、マニュアル広範囲映像モードに復帰します。

フロントドア開連動広範囲映像モードについて

フロントドアを開けたとき、ディスプレイの表示範囲が広がり、より広い範囲の後方を確認することができます。

ドアを開けた側のディスプレイのみ表示範囲が広がります。



A ドアが閉まっているときの表示範囲

B ドアが開いているときの拡大表示範囲

ドアが開いているときは、ディスプレイにまたはが点灯します。

表示範囲が広がっているときは、ディスプレイにまたはが点灯します。

C **A** の表示範囲部分



知識

■ フロントドア開連動広範囲映像モードの作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車両が停車しているとき
- フロントドアが開いているとき
- 調整アイコンのがONで、シフトレバーがR以外のとき※
- マニュアル広範囲映像モードが作動していないとき

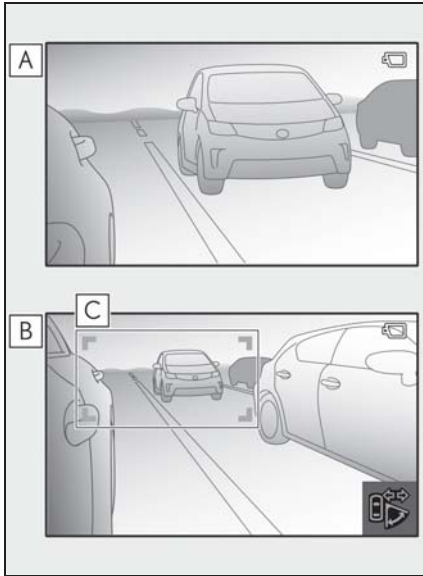
※調整アイコンのがOFFのときは、シフトレバーがRにあっても作動しません。

ターン連動広範囲映像モードについて

右左折時や車線変更などで方向指示レバーを操作し方向指示表示灯を点滅させたとき、選択した側にあるディスプレイの表示範囲が広がり死角を低減します。

方向指示レバーをもとにもどすと、数秒で表示範囲がもとにもどります。次のようにディスプレイに表示され

ます。



A 方向指示レバーを操作していないとき（通常の表示範囲）

B 方向指示レバーを操作しているとき（拡大表示範囲）

表示範囲が広がっているときは、

 または  が点灯します。

C **A** の表示範囲部分



知識

■ ターン連動広範囲映像モードの作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 調整アイコンの  が ON のとき
- 調整アイコンの  が ON で、シフトレバーが R 以外のとき ※
- マニュアル広範囲映像モードが作動していないとき

- フロントドア開連動広範囲映像モードが作動していないとき

上記の作動条件のいずれかが満たされなくなると、ターン連動広範囲映像モードは解除されます。

※ 調整アイコンの  が OFF のときは、シフトレバーが R にあっても作動しません。

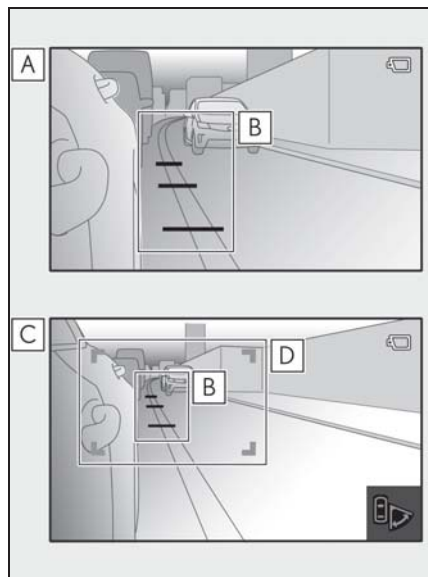
■ ターン連動広範囲映像モードについて

右左折や車線変更時に使用してください。右左折や車線変更以外の方向指示レバーを操作しない場面で表示範囲を広くする場合は、マニュアル広範囲映像モードを使用してください。（→P.149）

距離目安線表示について

前方に走行しているとき、方向指示レバーを操作したとき、または停車時にマニュアル広範囲映像モードを表示しているとき、距離目安線が表示されます。

■ ディスプレイ表示



A 通常の表示範囲

B 距離目安線（水色）

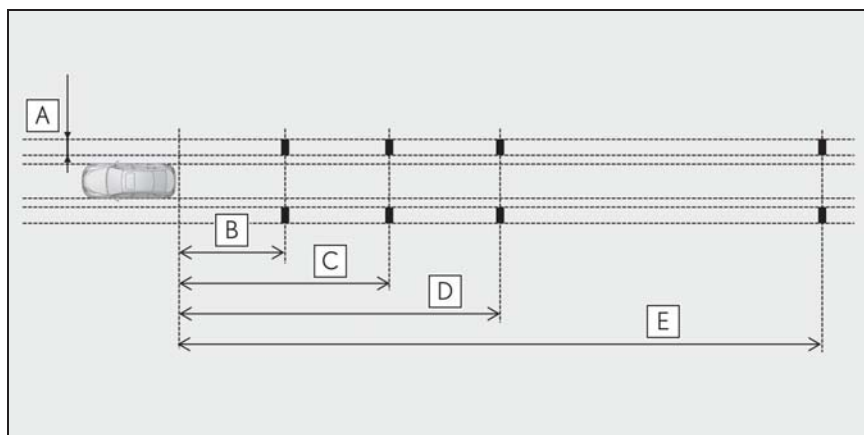
- ・ 車速約 5km/h 以上るとき、方向指示レバーを操作したとき、またはマニュアル広範囲映像モードが作動しているとき、距離目安線が 3 本表示されます。
 - ・ 車速が約 3km/h 以下になり、方向指示レバーを操作していない場合は、表示が消えます。
- 車速約 70km/h 以上るとき、距離目安線が 4 本表示されます。
- 車速が約 60km/h 以下になると、距離目安線が 3 本になります。

C 拡大表示範囲

ターン連動広範囲映像モードまたはマニュアル広範囲映像モードのとき

D A の表示範囲部分

■ 距離目安線の表示位置



- A** 車両の両側面について、側面から約 20cm 離れた距離から約 50cm の距離
- B** バンパー後端から約 5m 後方
- C** バンパー後端から約 10m 後方
- D** バンパー後端から約 15m 後方

E バンパー後端から約 30m 後方**■ 距離目安線の表示位置について**

平らな路面に対しての距離目安線です。次の場合、ディスプレイの距離目安線が実際の路面上の距離と異なる場所に表示されます。

- 傾斜の急な場所
- 乗員人数や積載量などにより自転車が傾いているとき
- トラックの荷台のような立体物があるとき

**知識****■ 距離目安線の表示条件**

次の条件をすべて満たしたとき距離目安線が表示されます。

- パワースイッチが ON モードのとき
- 調整アイコンの  が ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- フロントドアが閉まっているとき
- 方向指示レバーを操作したとき、または停車時にマニュアル広範囲映像モードを表示したとき

お手入れについて**■ ディスプレイのお手入れについて**

ディスプレイが汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴・雪・泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。霜や雪が

付着したときは、カメラヒーターを作動させてください。(→P.316)

また、泥や汚れなどは、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズ部をふき取ってください。

⚠ 注意**■ ディスプレイの故障や誤作動を防ぐために**

● アルコール・シンナー・ベンジンなどの薬品でディスプレイ本体をふかないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

● ディスプレイ本体にライターなどの火を近づけないでください。破損したり、車両火災につながるおそれがあります。

● ディスプレイ本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

● 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してレクサス販売店で点検を受けてください。

● ディスプレイを強い力で押したり、手をかけたりしないでください。破損するおそれがあります。

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

● デジタルアウトミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・ カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

 注意

- ・ カメラレンズ部を洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズ部をふき取ってください。カメラレンズ部を強くこするとカメラレンズ部が傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- ・ カメラ周辺部分は樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- ・ 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部を強くぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

困ったときの対処法

下記のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイが見にくい	ディスプレイが汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	・ 夜間など暗いところで使用 ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用 ・ 無線機・携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器がディスプレイ付近にあるとき ・ レンズ付近の温度が高い、または低い ・ 外気温が低いとき ・ 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・ 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用了	車両周辺の状況を直接確認しながら、運転してください。 (一時的に映像が見にくい場合がありますが、故障ではありません)
	高温時ディスプレイが暗くなっている	エアコンを使用してディスプレイ周辺の温度を下げてください。
	車室内が極めて低温のとき、ディスプレイの反応が遅くなっている	エアコンを使用してディスプレイ周辺の温度を上げてください。
	カメラレンズ部に霜や雪が付着していたり、曇っている	カメラヒーターを作動させてください。(→P.316)
	カメラレンズ部に泥など異物や汚れが付着している	大量の水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズ部をふき取ってください。
	表示範囲の調整ができていない	表示範囲を調整してください。(→P.143)
	フロントドアが完全に閉まっていない	フロントドアを閉めてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	カメラ部が格納されているか、前側に倒れている	カメラ部を画像が正しく表示される位置にしてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	レクス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイの表示が青色になった	システムに異常が発生した	レクサス販売店で点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに “ デジタルアウターミラー故障 販売店で点検を受けてください ” と表示された		
表示範囲の変更や調整アイコンの操作ができない		
カメラインジケータが消えた		

 知識

■ フリー / オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー / オープンソースソフトウェアを含んでいます。

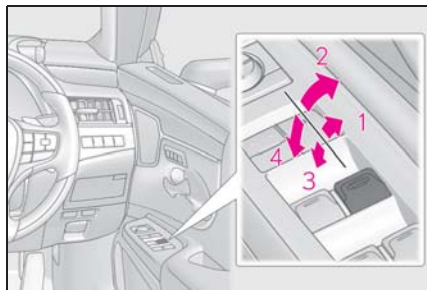
このようなフリー / オープンソースソフトウェアのライセンス情報は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/cms/toyota/>

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉できないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける。
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊ (→P.442)
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊ (→P.106)
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを開めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.66)

＊ レクサス販売店での設定変更が必要です。

■ 窓開警告ブザー

パワースイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“窓が開いています”と表示されます。

■ カスタマイズ機能

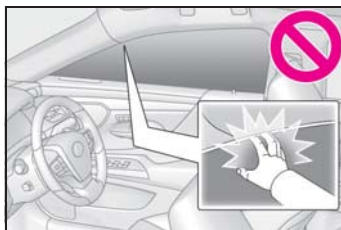
ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.458)

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.159)
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

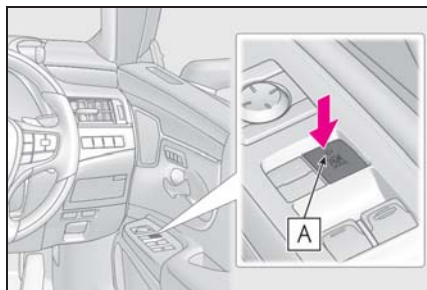
ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター

A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

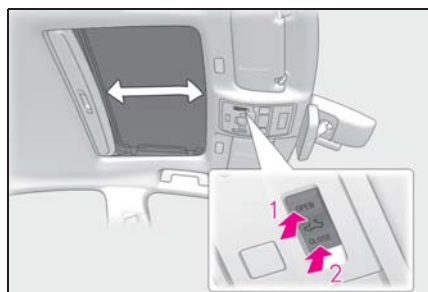


ムーンルーフ

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ/ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ ムーンルーフを開閉するには



1 ムーンルーフを開く ※

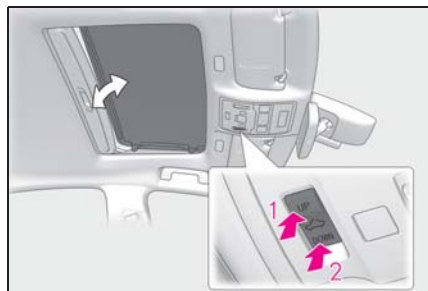
全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ (→P.442)

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ (→P.106)

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。(→P.66)

※レクサス販売店で設定変更が必要です。

■ ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スwitchの“CLOSE”側を押し続ける ※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。全閉位置で停止します。

- 3** ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に動かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に動かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 スwitchの "DOWN" 側を押し続ける※

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

- 3** ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に動かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.458)

⚠ 警告

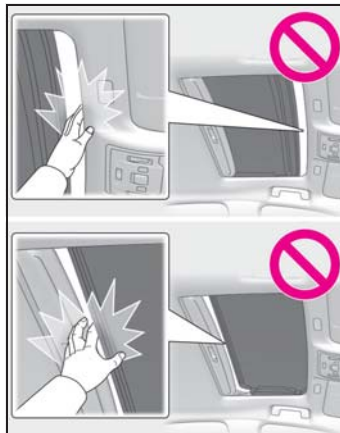
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



 警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 164

荷物を積むときの注意..... 170

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ
..... 172

EV ドライブモード..... 177

ハイブリッドトランスミッション
..... 178

方向指示レバー..... 183

パーキングブレーキ..... 183

ブレーキホールド..... 186

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使
い方

ランプスイッチ..... 188

AHS（アダプティブハイビームシス
テム）..... 191AHB（オートマチックハイビーム）
..... 195

マルチウェザーライト..... 198

リヤフォグランプ..... 199

ワイパー & ウォッシャー..... 200

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 204

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System +..... 206

PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 211LTA（レーントレーシングアシスト）
..... 221

RSA（ロードサインアシスト）..... 230

レーダークルーズコントロール（全
車速追従機能付き）..... 233

先行車発進告知機能..... 244

ドライバー異常時対応システム..... 247

ITS Connect..... 252

BSM（ブラインドスポットモニ
ター）..... 259ドライブモードセレクトスイッチ
..... 264PKSA（パーキングサポートアラ
ート）..... 267

クリアランスソナー..... 268

RCTA（リヤクロストラフィックア
ラート）..... 275RCD（リヤカメラディテクション）
..... 282PKSB（パーキングサポートブレ
ーキ）..... 285パーキングサポートブレーキ（静止
物）..... 291パーキングサポートブレーキ（後方
接近車両）..... 294パーキングサポートブレーキ（後方
歩行者）..... 296

運転を補助する装置..... 298

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス
..... 303

寒冷時の運転..... 305

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.172

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.179)
- 2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する (→P.183)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.183)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.178)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.183)、シフトレバーをPにする (→P.178)
- 3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
- 2 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→P.298)

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.303)

■ 燃費向上について (オートグライドコントロール)

エコドライブモードを選択しているとき、オートグライドコントロールが作動することがあります。(→P.266)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてく

ださい。

■ハイブリッドシステム出力の抑制制御 (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P.409)

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などをバンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していたとしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

 警告

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.400 を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能なくなります。(→P.178)

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー★・デジタルアウトミラー★・インナーミラー★・デジタルインナーミラー★の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。

 警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 注意

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.421, 432を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・ハイブリッドトランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRCの作動を停止(→P.299)すると、急発進の抑制制御も停止※します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRCの作動を停止してください。

(→P.299)

※ 後退速度の抑制制御は作動します。

- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。
- ・ パワースイッチを ON モードにしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
- ・ 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ センターディスプレイの前
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

 警告

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.183）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイ

に  とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

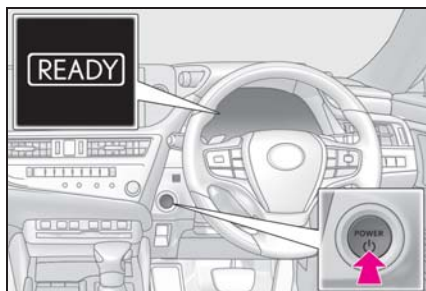
- 4 パワースイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ パワースイッチ照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはパワースイッチをアクセサリモードまたは ON モードから OFF にしたときは、パワースイッチ照明が遅く点滅します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が速く点滅します。
- パワースイッチがアクセサリモード、または ON モードのときは、パワースイッチ照明が点灯します。

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.65）
レクサス販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.442 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.109）はハイブリッドシステムを始動できます。

■ 外気温が低いときは

- ハイブリッドシステム始動時に READY インジケータの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.58

■ 補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.443 を参照してください。

■ 電池の消耗について

→P.388

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

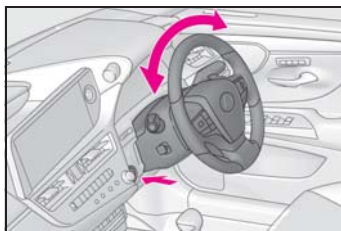
→P.119

■ ご留意いただきたいこと

→P.120

■ ステアリングロック機能

- パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに“ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください”が表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



- 短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに“スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認”が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケータが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケータが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.63

■電子キーの電池交換

→P.388

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待つてから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー & スタートシステムを非作動にしたときは、P.441 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.183)、シフトレバーを P の位置にする (→P.178)
- 3 パワースイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離した状態にして、メーターの “ アクセサリー ” や “ イグニッション ON ” の表示が消灯していることを確認する

警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

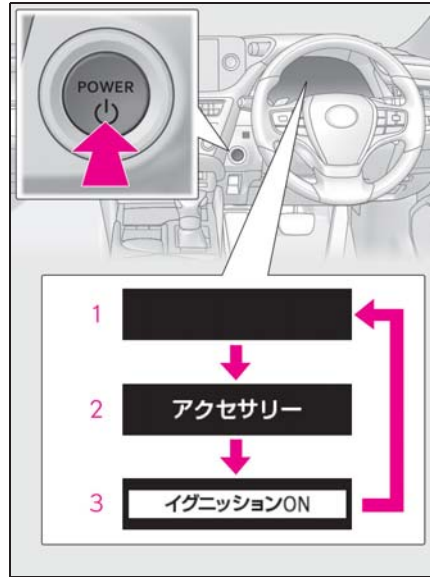
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P.400)

ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。メーターに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。メーターに“イグニッション ON”が表示されます。

※シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリーモードか1時間以上ONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、補機バッ

テリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.183)
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに “電源を Off してください” が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの “電源を Off してください” の表示が消灯していることを確認する



注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、メーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

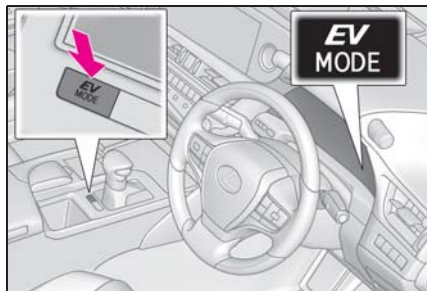
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す
EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて
次のときはEV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約0℃を下まわるとなような低温下に長時

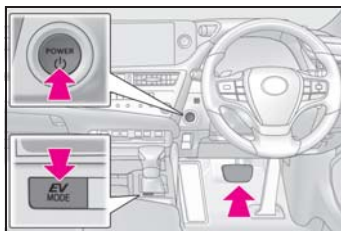
間駐車したあとなど

- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.97）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前にEV ドライブモードスイッチを押してください。



■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.97）

- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除されるときは、前もってマルチインフォメーションディスプレイに表示して知らせます。

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなる場合があります。



警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

ハイブリッドトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 (→P.181)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- Sモードで走行中にS5またはS4レンジにシフトダウンしたとき (→P.233)
- Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき (→P.264)
- 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)

→P.169

⚠ 警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

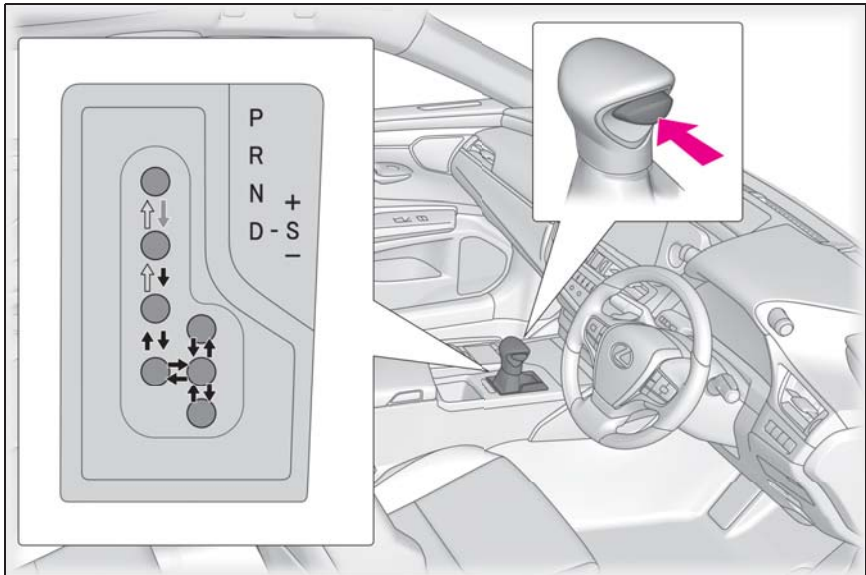
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

⚠ 注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



パワースイッチがON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態

でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※



シフトレバーのボタンを押しながら操作します。



シフトレバーのボタンを押さず、そのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めて押してもシフトロックは解除されません。



知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

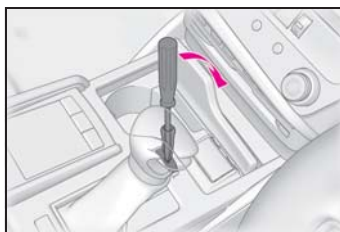
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す (→P.183)
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カップホルダーのフタを押して開ける

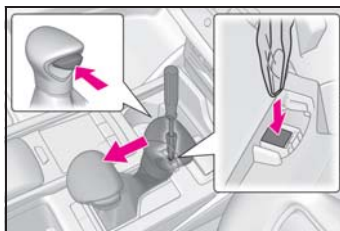
- 5 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 6 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告**■シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

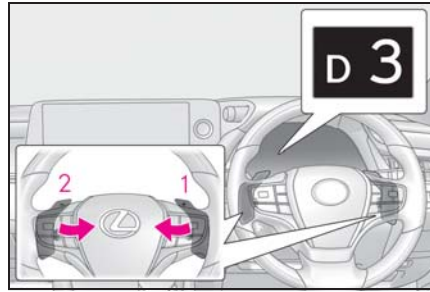
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.264

D ポジションでレンジ選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの “-” 側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。パドルシフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。レンジを選択することで、使用するレンジの上限を制限し、不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

知識**■Dポジションでパドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき**

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーで D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの “+” 側を長押ししたとき

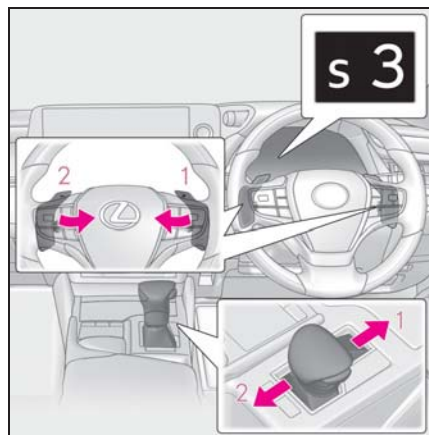
■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

S モードでシフトレンジ選択するには

シフトレバーを S ポジションにする

と、S モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで、選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S4 または S5 に設定されます。

■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- S1 から S4 のシフトレンジでの加速時は、車速に応じて、シフトレンジが自動的に切りかわります。

□ 知識

■ S モードについて

- S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると S6 レンジに設定されます。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

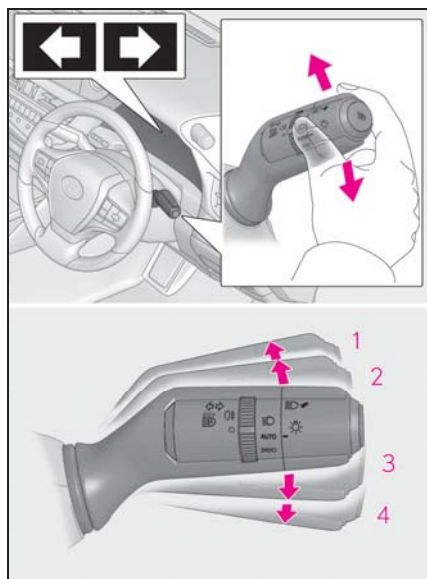
■ シフトレバーを S にしても、“S” が点灯しないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- 3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- 4 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

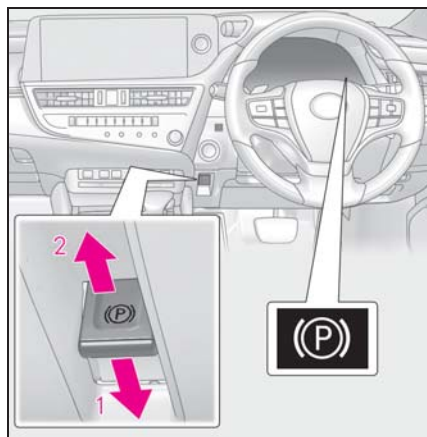
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



- 1 スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。（→P.185）

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

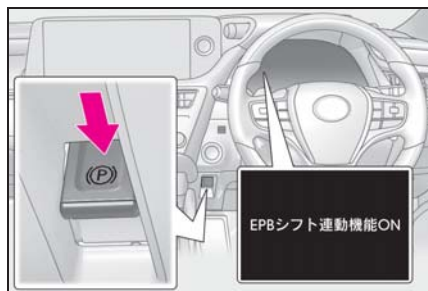
- 2 スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトレバーを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■ パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：シフトレバーを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが D・S または R のとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

- マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースwitchのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON モード以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースwitchを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。
- パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.164

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■ ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.407

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.306

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

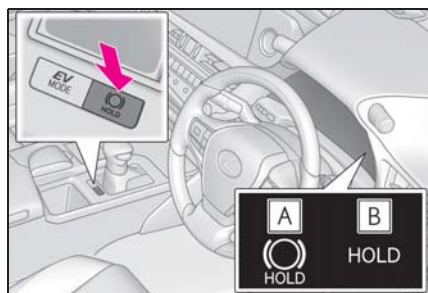
シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）

A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しました” や “EPB 故障 販売店で点検して

ください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

(→P.183)

■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに” BrakeHold 故障 ” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.413

注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

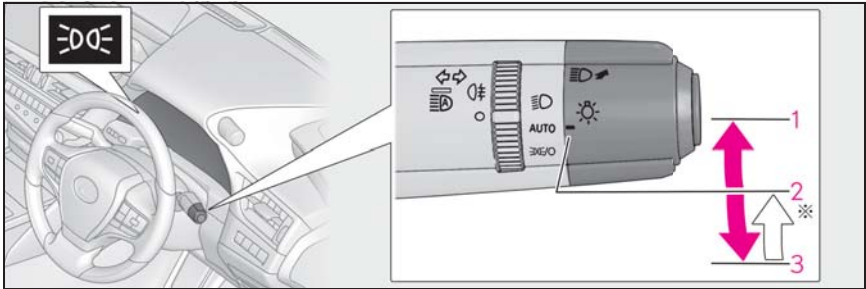
タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO ※ ¹	デイトタイムランニングランプ (→P.189) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプ が点灯
3  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

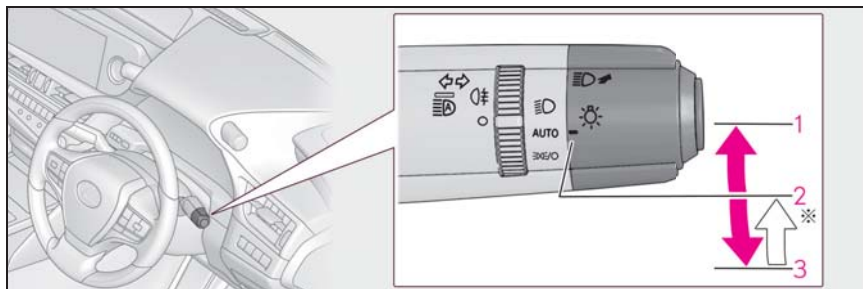
※¹ 操作するたびに、**2** **AUTO** による点灯状態と **3**  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると **2** **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

 スイッチを **3**  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に **1**  か **3**  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを **3**  の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2**  の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 	ヘッドランプ・スモールランプ・デイトタイムランニングランプ (→P.189) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ デイトタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、デイトタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

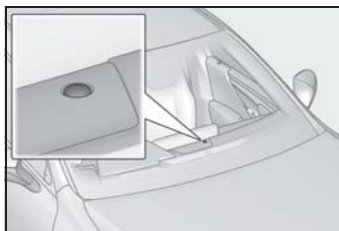
デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチをAUTOにしてからOFFまたは

IIIの位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチがOFFの状態ではヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約20分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチをONモードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約20分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ おもてなし照明

ランプスイッチがAUTOの位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

→P.418

■ カスタマイズ機能

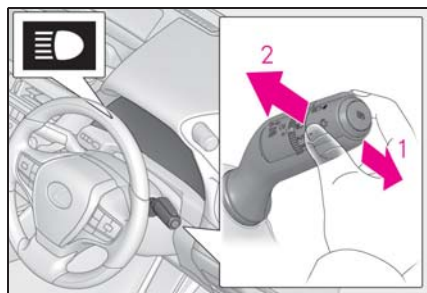
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→P.458)

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたと

き、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）



知識

■ コーナリングランプ制御について

- 車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

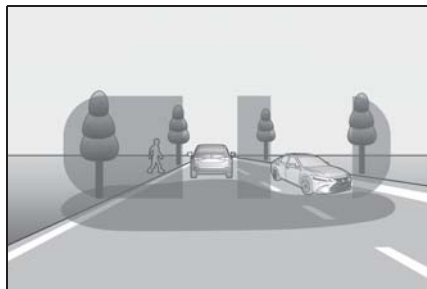
システムの制御

AHS（アダプティブハイビームシステム）の作動中はヘッドランプが次のように作動します。

- 条件に応じてハイビームとロービームが自動的に切りかわります。
- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイ

ビーム)

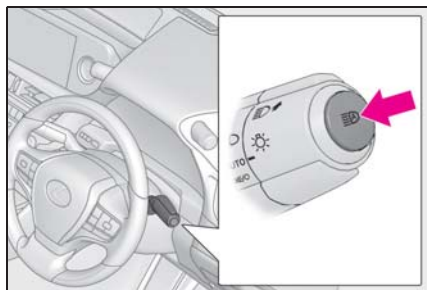
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。
- 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

アダプティブハイビームシステムを使うには

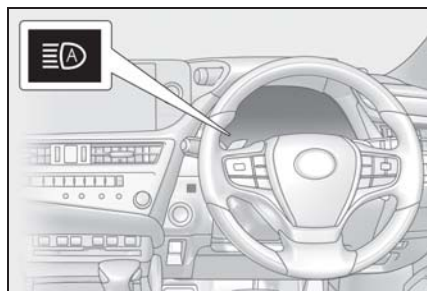
- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをまたはの位置にする

アダプティブハイビームシステムが自動

すると、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■ システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上 ※
- ・ 車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

- ・ 車速が約 15km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がいる

- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

- ・ 車速が約 12km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両の台数が多い
- ・ 前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

- 車速が約 3 ~ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

■ 前方カメラの検知について

- 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

- ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
 - 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
 - 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
 - ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
 - 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
 - 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき
 - ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは
- P.418
- カスタマイズ機能
- 機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

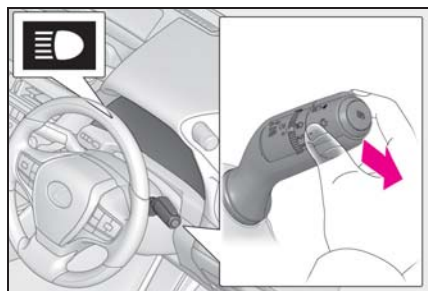
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

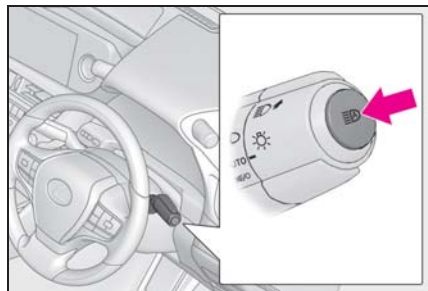


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

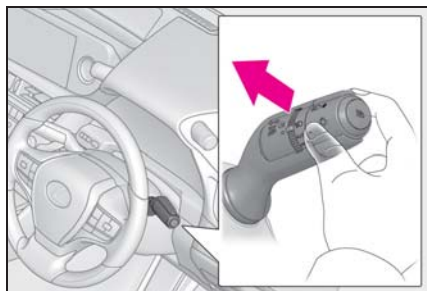
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



□ 知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

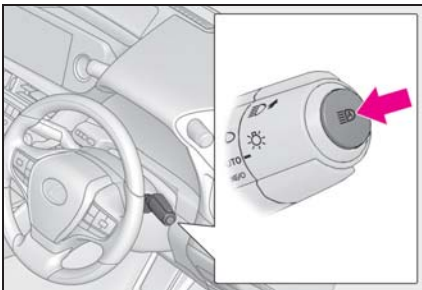
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

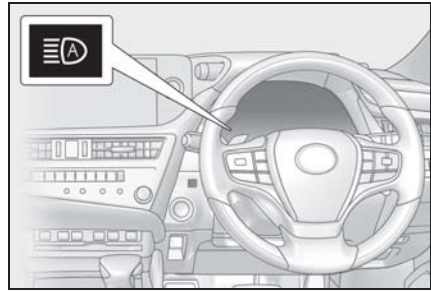
オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチを または AUTO の位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方カメラが極端に高温になっているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があつたり光軸がずれているとき

- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 先行車から水、雪、土ほこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ バンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

→P.418

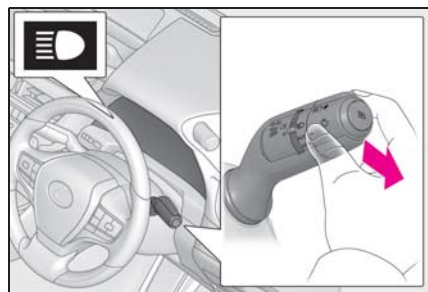
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



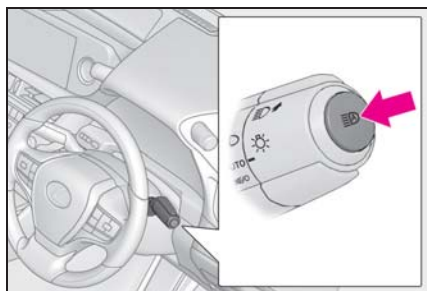
■ ロービームへの切りかえ

と思われるときに使用します。

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

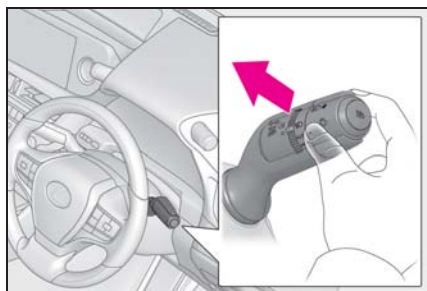
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



□ 知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になる

マルチウェザーライト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチウェザーライトはコーナリングランプを点灯させることにより、雨や霧などの悪天候下での視界を確保するシステムです。

マルチウェザーライトの ON / OFF 切りかえ

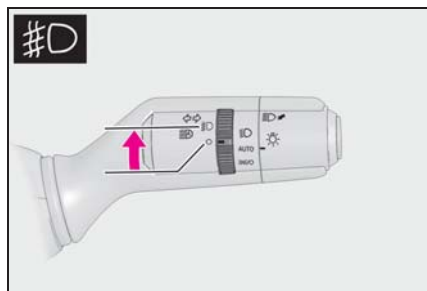
1 ランプスイッチを  または

AUTOの位置にする

2 リングを  または  の位置にする

手を離すと  の位置までもどります。

マルチウェザーライトが ON になり、メーター内のマルチウェザーライト表示灯が点灯します。



再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

次の条件をすべて満たすとマルチウェザーライトが作動し、両側のコーナリングランプが点灯します。

・ ヘッドランプが点灯しているとき

・ 車速が 45km/h 未満のとき

車速が 45km/h 以上になると一時的に消灯しますが、35km/h 未満になると再点灯します。

■リヤフォグランプ★について

マルチウェザーライトが ON のときは、リヤフォグランプも点灯することがあります。(→P.199)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

→P.418

■カスタマイズ機能

リヤフォグランプ装着車：マルチウェザーライトの作動・非作動を変更できません。(カスタマイズ一覧：→P.458)

リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下で後続車両に自車の存在を知らせることができます。

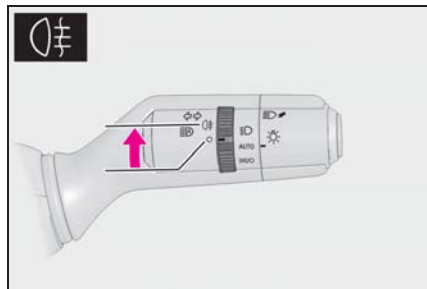
操作のしかた

1 ランプスイッチを  または
AUTOの位置にする

2 リングを  の位置にする

手を離すと  の位置までもどります。

リヤフォグランプが点灯し、メーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。



再度操作すると消灯します。

知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているとき（リヤフォグランプ点灯後は車幅灯にしても点灯しています）

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。

必要なとき以外は使用しないでください。

■マルチウェザーライトの作動

リヤフォグランプが点灯時は、マルチウェザーライトも作動することがあります。（→P.198）

■“ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください”が表示されたときは

→P.418

ワイパー & ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切り替えたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。



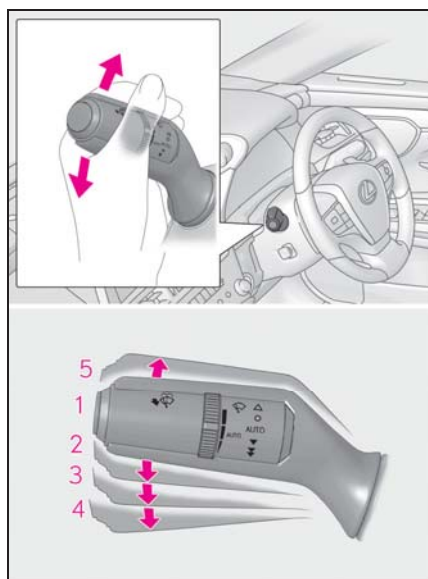
注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 ○ 停止

2 AUTO 雨滴感知オート作動

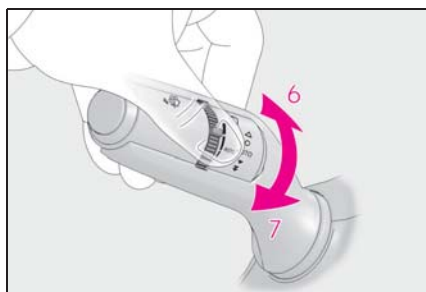
(AUTO)

3 ▼ 低速作動 (LO)

4 ▼ 高速作動 (HI)

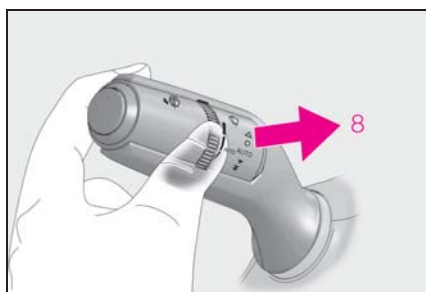
5 ▲ 一時作動 (MIST)

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整 (高)

7 雨滴センサーの感度調整 (低)



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーが連動してウォッシャーが作動します。(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません)

ヘッドランプクリーナー装着車：パワースイッチが ON モードの状態ヘッドランプが点灯しているとき、5 回手前に引くごとにヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

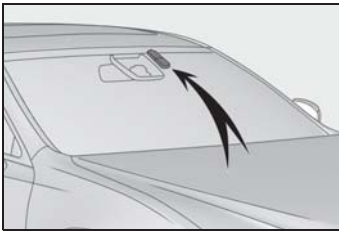
AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）への影響があります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON モードのときに AUTO を選択すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -30℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外を選択してワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ フロントドア開連動ワイパー停止機能

AUTO 選択中にシフトレバーが P にあり、ワイパーが作動しているとき、フロントドアを開けるとワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ ワイパーの保護制御

雪などの障害物でワイパーの作動が大きく制限されると、保護のため自動で作動が停止することがあります。また、片側のワイパーの作動のみが制限された場合、運転席側と助手席側のワイパーが接触することがあります。その場合は、ワイパースイッチを OFF にし、障害物を取り除いたあとでワイパーを使用してください。

■ 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したときは

ハイブリッドシステムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON モードにすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

警告

■ AUTO 選択時のワイパー作動について

AUTO を選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

警告**■ ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

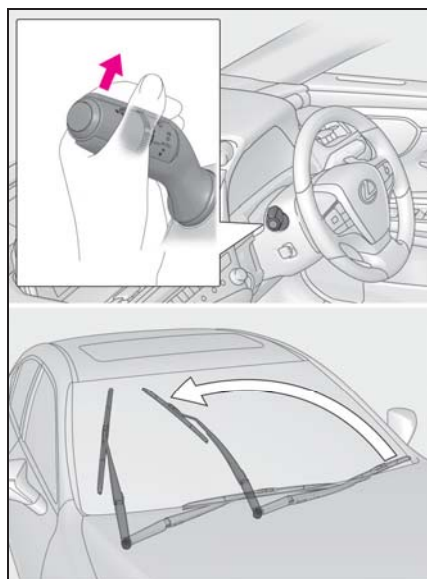
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

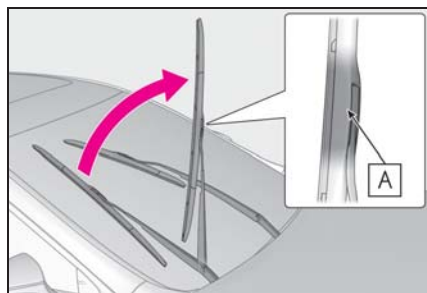
パワースイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを

△の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。

**■ ワイパーを立てる**

ワイパーアームのフック部 **A** を持つてガラス面から引き上げる

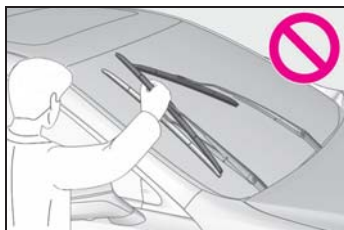
**知識****■ ワイパーを格納位置にもどすには**

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON モードにし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

 注意

■ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。



知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。



警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

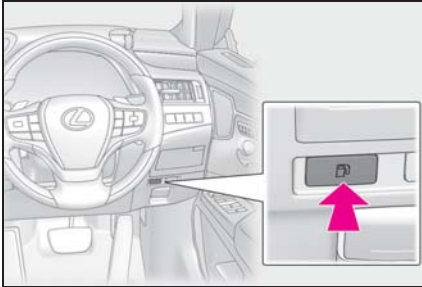
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

 注意

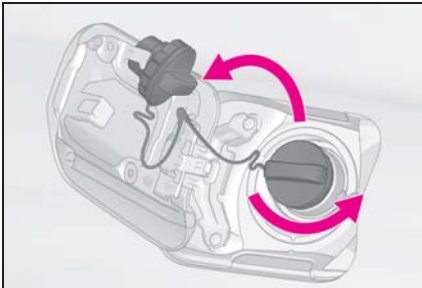
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

1 給油扉オープンスイッチを押す



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



 知識

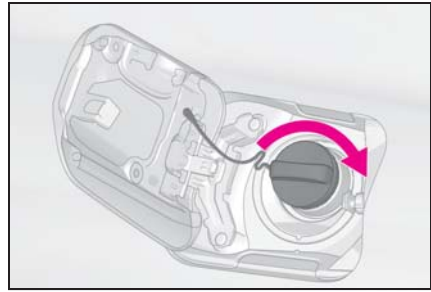
■ 給油扉が開かないとき

→P.440

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→P.211
 - LTA（レーントレーシングアシスト）
→P.221
 - AHS（アダプティブハイビームシステム）★
→P.191
 - AHB（オートマチックハイビーム）★
→P.195
 - RSA（ロードサインアシスト）
→P.230
 - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
→P.233
 - 先行車発進告知機能
→P.244
 - ドライバー異常時対応システム
→P.247
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

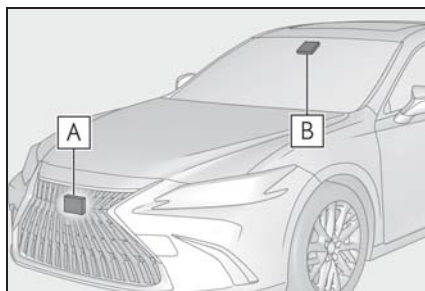
■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

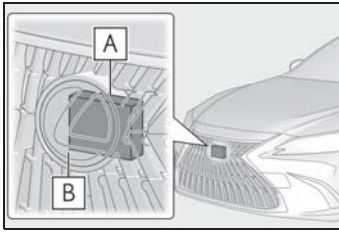
警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

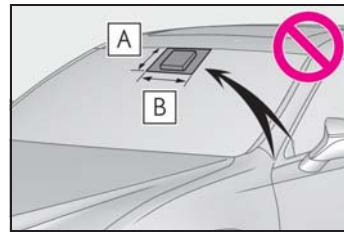
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパーを交換したとき

前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



- A** フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
- B** 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

 警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.317）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

● 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウィンドウガラスの曇りを取るには：→P.317）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外の時	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウィンドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

● 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外の時

- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
- ・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.211）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティのON／OFFや、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.214）

システムの作動対象

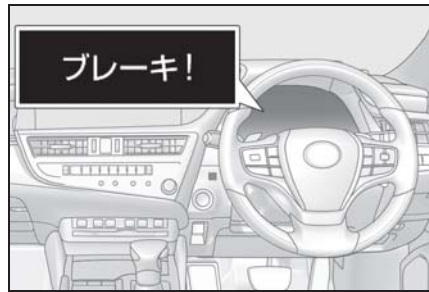
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

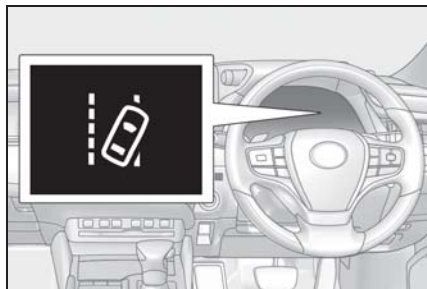
■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるときシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

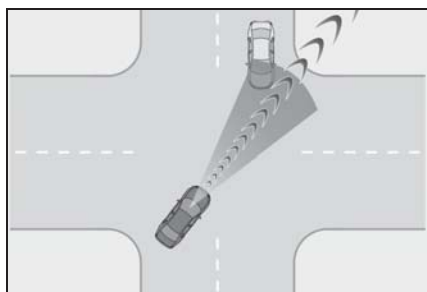


■ 交差点右左折支援

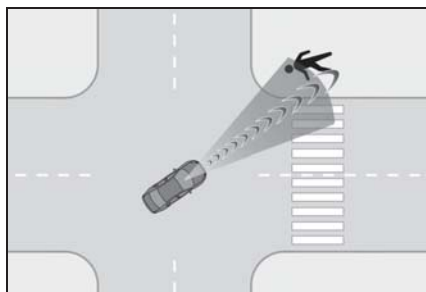
次のような状況において衝突の可能性が高いときシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）



■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いときシステムが判断したとき、AVS（→P.298）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.217
 - ・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.219
 - お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- プリクラッシュブレーキについて
- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
 - プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
 - プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
- ・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
- ・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
- ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■プリクラッシュセーフティの ON / OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.85) から、プリクラッシュセーフティの ON (作動) / OFF (非作動) を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

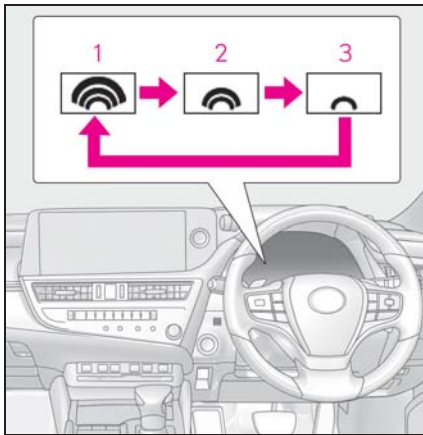


■衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.85) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。



- 2 中間
初期設定
3 遅い

1 早い



知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき
- ・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

● 交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	—	約 10 ～ 25km/h

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.219）

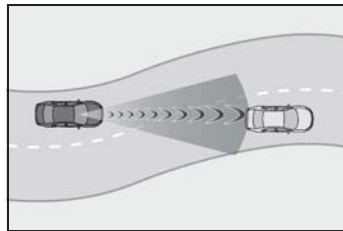
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



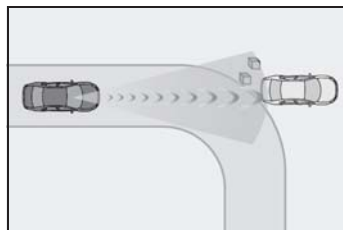
■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

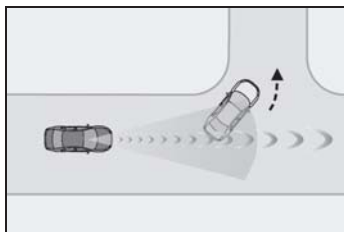
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



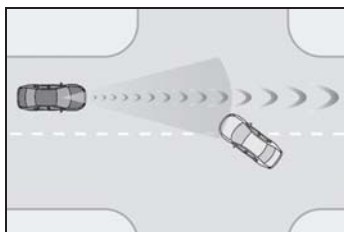
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



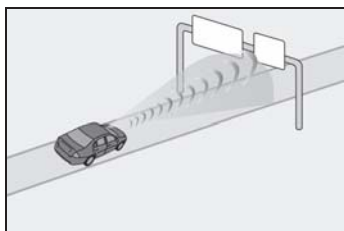
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



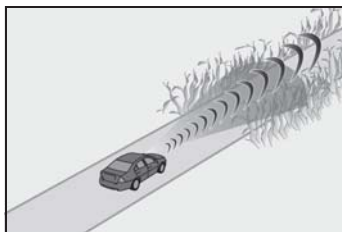
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



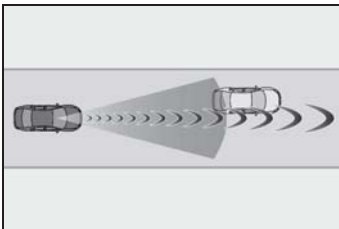
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右折中に、対向車が自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

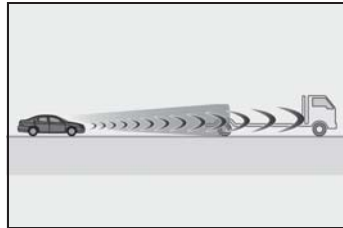
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき

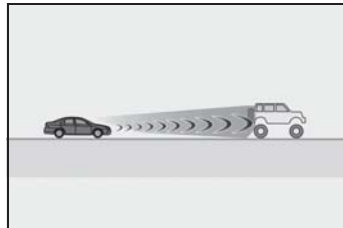


- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき

- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



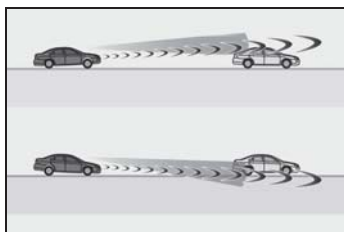
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラックター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

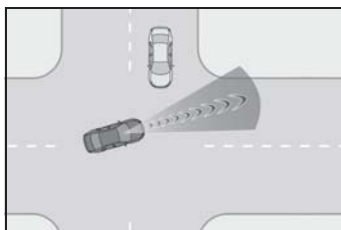
グスカートを着用している場合など)

- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき

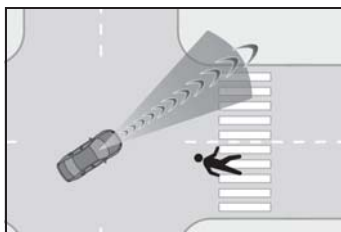


- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも2つ以上離れた車線を走行しているとき

- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。

- ・ 車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
- ・ 車線幅が狭いとき、または広いとき
- ・ 工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
- ・ 対象に近づきすぎたとき
- ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・ 対向車がいるとき
- ・ VSC が作動しているとき

- 例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき

- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
- ・ 道路面に深いわだちがあるとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 左右に傾きのある道路を走行しているとき

■ VSC を停止したとき

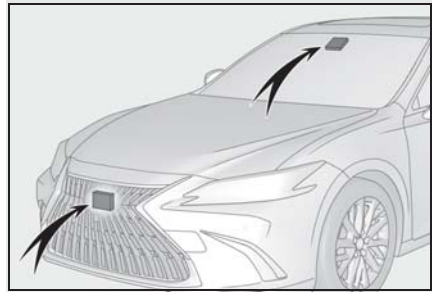
- VSC の作動を停止 (→P.299) したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LTA (レーントレーシングアシスト)

白 (黄) 線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) (→P.233) の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します

白 (黄) 線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

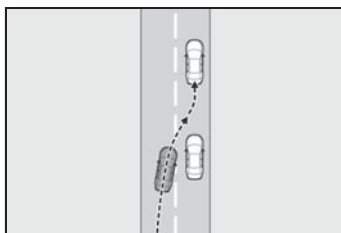
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（プルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

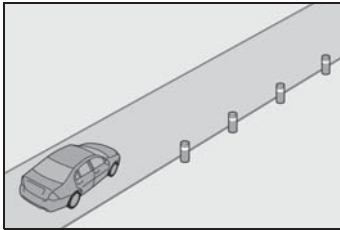
- 先行車追従表示中（→P.226）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



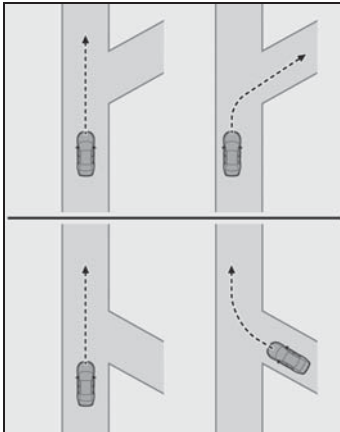
- 先行車追従表示中（→P.226）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→P.226）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

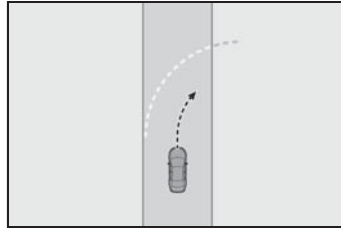
- 先行車追従表示中（→P.226）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）



- 分岐・合流路などを走行するとき



- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

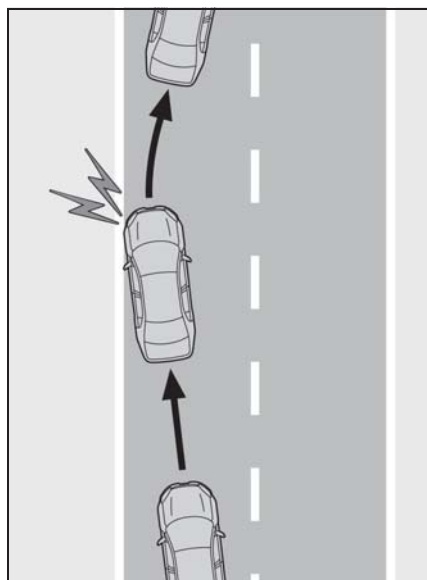
車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチイン

フォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、方向指示燈の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



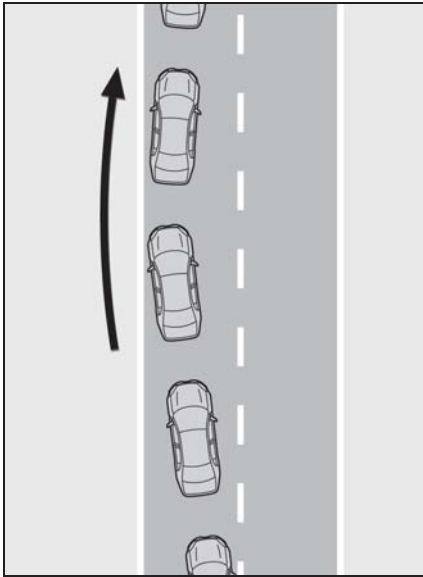
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるシステムが判断した場合、方向指示燈の点滅中

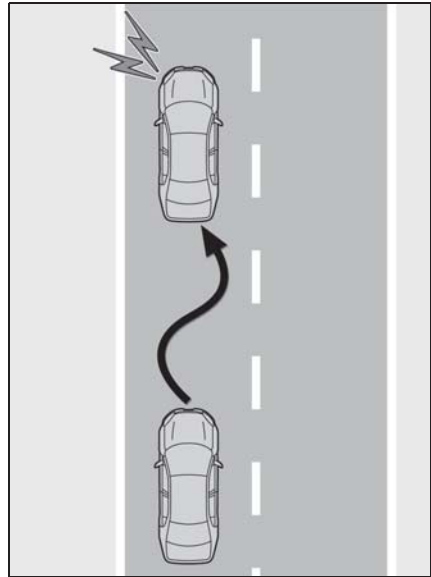
も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

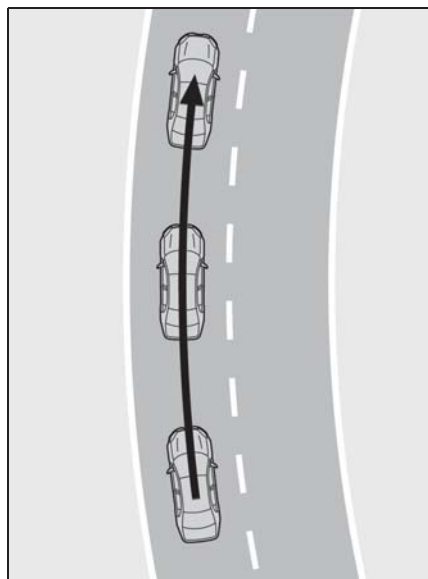


■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。



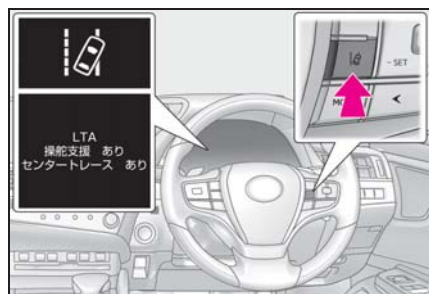
設定のしかた

■ 車線維持支援機能のON/OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON/OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

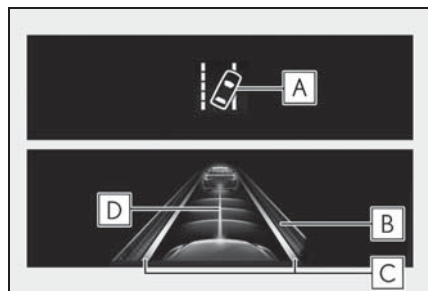
LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON するには、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



[A] LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

[B] ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起

が作動中

C 車線逸脱警報機能表示

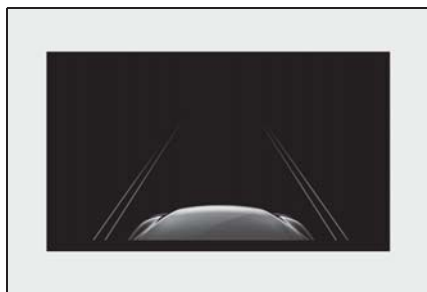
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

D 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※1
- ・ システムが白（黄）線または走路※2を認識しているとき（白〔黄〕線または走路※2が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・マルチインフォメーションディスプレイので“ふらつき検知”を“On”に設定しているとき（→P.85）
- ・車速が約 50km/h 以上のとき
- ・車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・LTA を ON にしているとき
- ・マルチインフォメーションディスプレイので“セントラートレース”を“On”に設定しているとき（→P.85）
- ・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・急カーブを走行していないとき
- ・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・手放し運転に対する注意喚起（→P.229）が行われていないとき
- ・車線中央付近を走行しているとき
- ・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

- 作動条件（→P.227）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.225）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で“警報手段”をに設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段をに選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- 車線維持支援機能作動中に カーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断したとき
車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

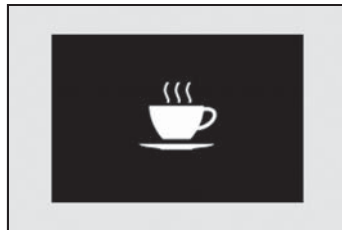
- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段をに選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

- “LTA 故障販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。雷克萨斯販売店で点検を受けてください。

- “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから

ら再度、LTA を ON にしてください。

- “LTA 現在の車速では使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

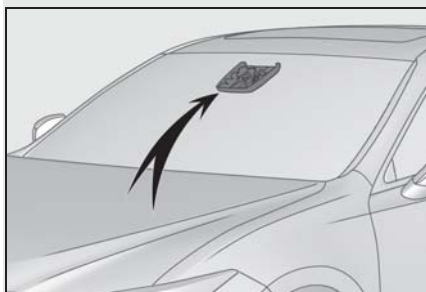
■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→P.458)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたはナビゲーションシステム (情報を取得した場合) を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

⚠ 警告

■ RSA をお使いになる前に

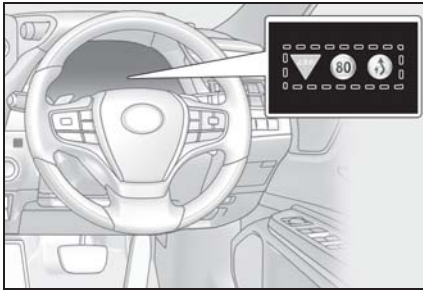
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム (情報を取得した場合) に

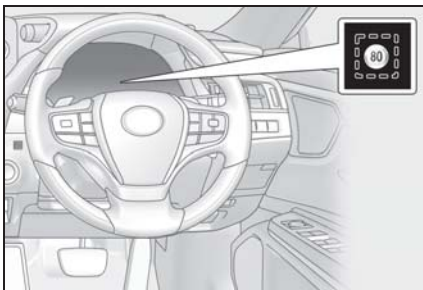
よって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 運転支援機能情報を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。(→P.85)



- 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- ・ 最高速度標識
- ・ 車両進入禁止標識（告知時のみ）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

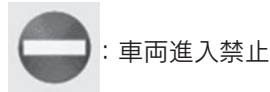
認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



：最高速度



：車両進入禁止



：一時停止



：はみ出し通行禁止



：終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択し、“OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して “RSA” を選択し、“OK” を押す

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に

標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼有的时候
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が

古いとき

- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.458)

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

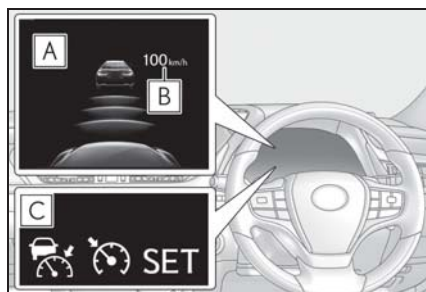
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.236）
- 定速制御モード（→P.239）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）（→P.240）

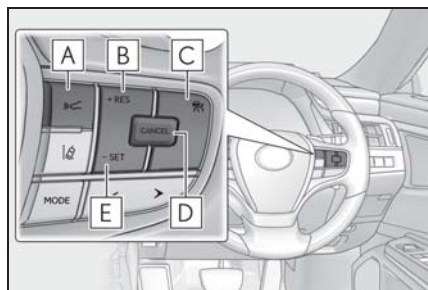
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.243
 - ・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.243

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

警告

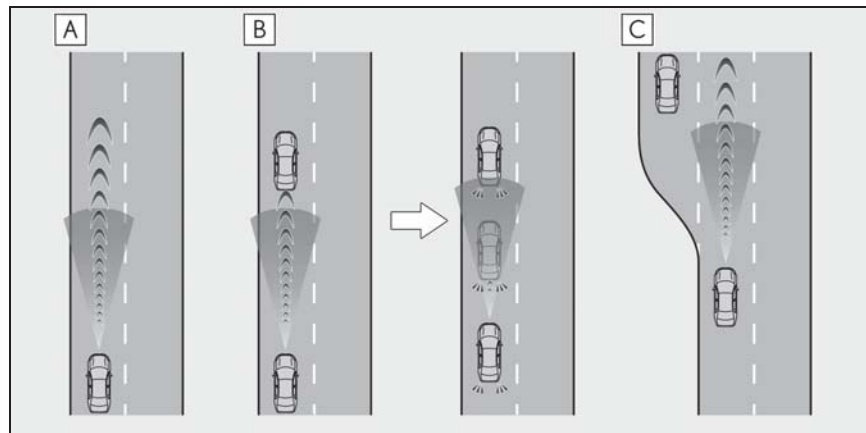
- 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
 - 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
 - レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況
- 次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 歩行者や自転車等が混在している道
 - 交通量の多い道
 - 急カーブのある道
 - 曲がりくねった道
 - 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
 - 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
 - 高速道路や自動車専用道路の出入り口

- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

- 1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF するには再度スイッチを押します。

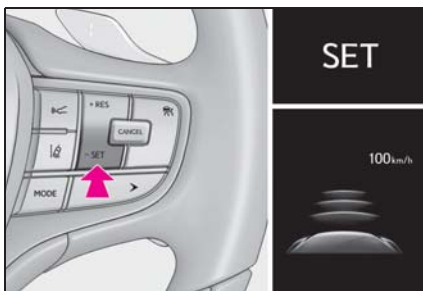
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.239）



- 2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

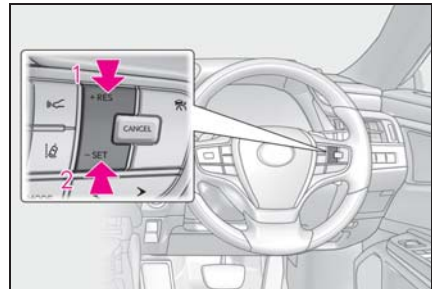
スイッチを離れたときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



- 1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.239）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

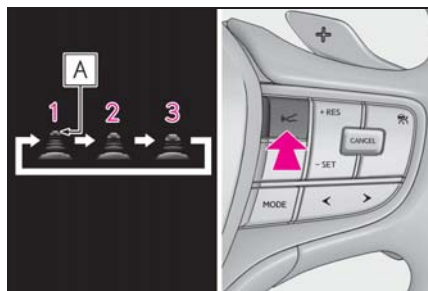
- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

- 2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

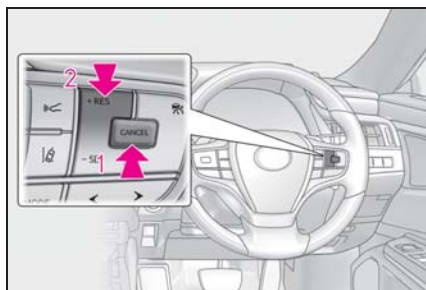
先行車の発進後、“+RES” スイッ

チを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

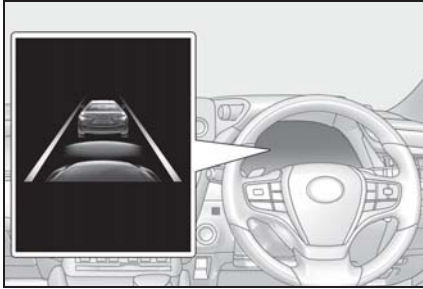
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してくだ

さい。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

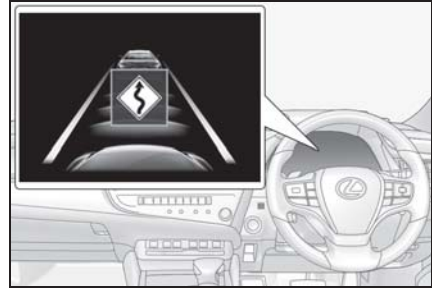
車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示



車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.85) から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON / OFF を切りかえることができます。

“OK” を押すごとに設定が切りかわります。

定速制御モードでの走行

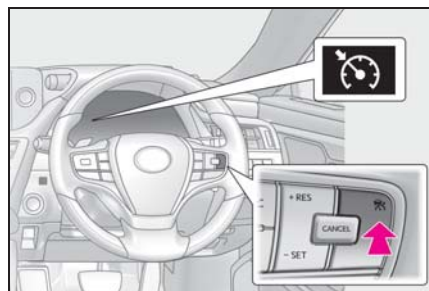
定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールがOFFの状態、クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、ク

ルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



- 2** 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

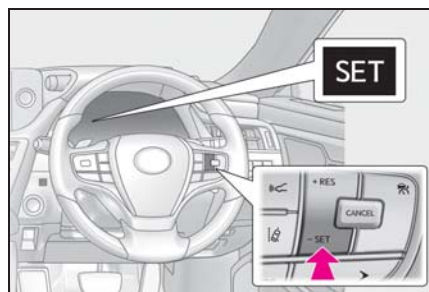
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。

設定速度をかえる

→P.237

制御を解除する・復帰させる

→P.238



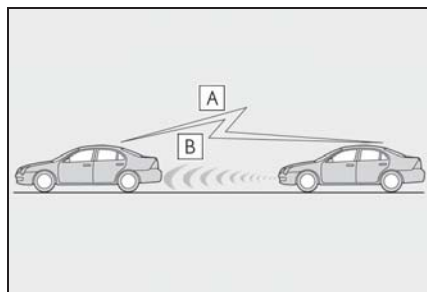
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.252 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

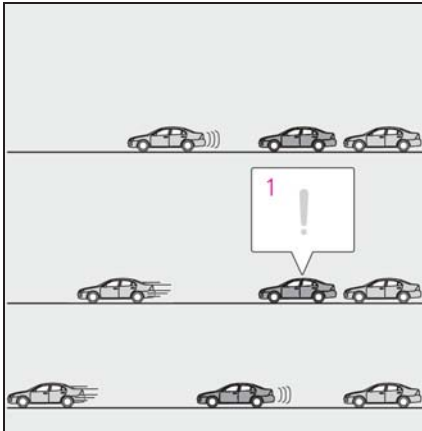
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

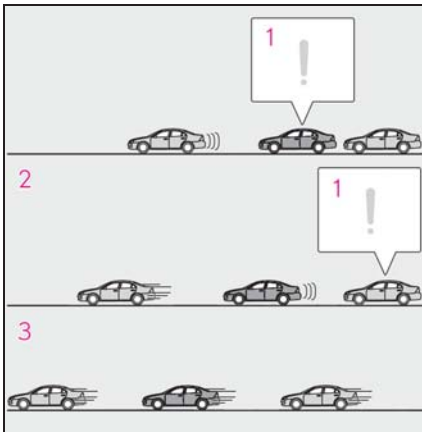
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



1 先行車の発進に素早く気づく

2 スムーズな加速で追従

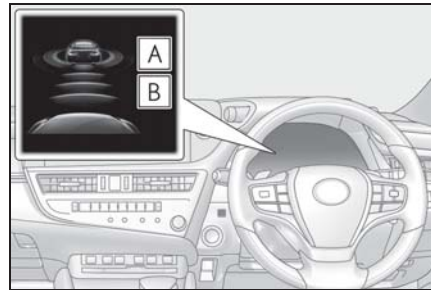
3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  (→P.85) から、通信利用型クルーズコントロールの ON (作

動) /OFF (非作動) を変更することができます。

■ システム作動時の表示



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて本機能の作動レベルがかわります。(→P.238)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

□ 知識

■ 設定条件について

● シフトレバーが D のとき設定できます。

● 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
(ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます)

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で

加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・車両が停止したあと約3分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

- 車速が約30km/h未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、

または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき
- 急な坂道を走行しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.209, 415)

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

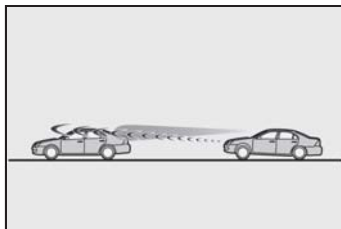
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→P.238)も作動しないおそれ

があります。

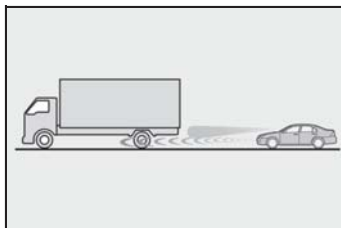
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき(荷物を積んでいないトレーラーなど)



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合(重い荷物を積んだときなど)



- 先行車の車高が極端に高いとき



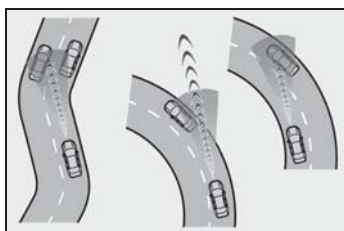
■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速(場合によってアクセルペダルを操作)してください。

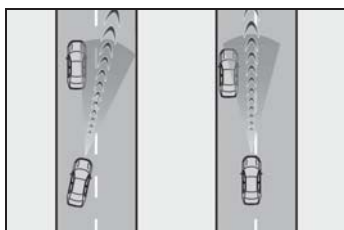
センサーが正常に車両を検知できず、シ

システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

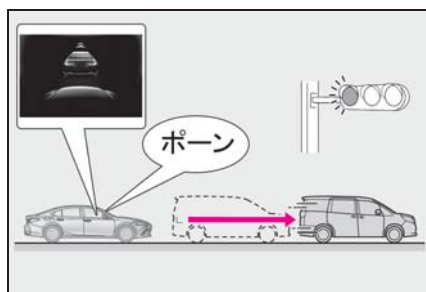
- 上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき
- カーブへの進入速度が過度に高いとき
- 急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があります

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車では

ないものを先行車と認識しているとき

- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON / OFF

システムの ON / OFF を切りかえることができます。（→P.85）

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して “先行車発進告知” を選択し、“OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して “先行車発進告知” を選択し、“OK” を押す
- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。（→P.85）

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

- 3 メーター操作スイッチの▲または▼を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す
- 4 メーター操作スイッチの▲または▼を押して “ 告知タイミング ” を選択し、“OK” を押す

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

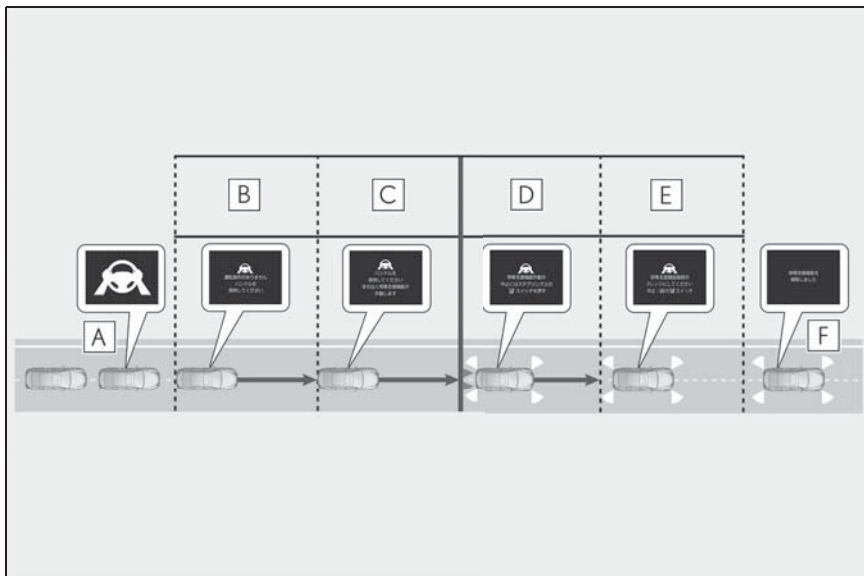
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。**B**「警告 1 状態」、**C**「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常 / 異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には**D**「減速停止制御」、**E**「停止保持」で自車を減速、停車させ、**E**「停止保持」を継続します。



A 手放し運転警告 (→P.229)

- B** 「警告 1 状態」
- C** 「警告 2 状態」
- D** 「減速停止制御」
- E** 「停止保持」
- F** 制御解除

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.398)
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- 車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTA スイッチを ON し、LTA 制御中
- レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中
- 自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

- B**「警告 1 状態」、**C**「警告 2 状態」、**D**「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
 - ・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
 - ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
 - ・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
 - ・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
 - ・運転者がブレーキ操作をしたとき
 - ・運転者がアクセル操作をしたとき
 - ・ブレーキ異常検出時
 - ・方向指示レバーを操作したとき
- E**「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。



- ・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
- ・パワースイッチをイグニッション ON モードから OFF にしたとき
- ・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。

LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押して LTA 制御を ON にしてください。

- B**「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押してシステム作動を解除したとき
- C**「警告 2 状態」、**D**「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
- 手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（**C**「警告 2 状態」および**D**「減速停止制御」のみ）
- 運転者がブレーキ操作をしたとき
- 運転者がアクセル操作をしたとき
- 方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、

一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。(→P.229)

■ ドライバー異常時対応システムの留意事項

- ヘルプネット通話中は、音声聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
- LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B 「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、**【C】「警告 2 状態」**に移行します。



C 「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意

喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ～ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、**【D】「減速停止制御」**に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。



□ 知識

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

【C】「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D 「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を

停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると【E】「停止保持」に移行します。



□ 知識

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

【D】「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E 「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。



□ 知識

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について

【E】「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

ヘルプネット通話中は音声聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■ 非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は続きます。ハザードスイッチを2回押すと、非常点滅灯が消灯します。

ITS Connect ★

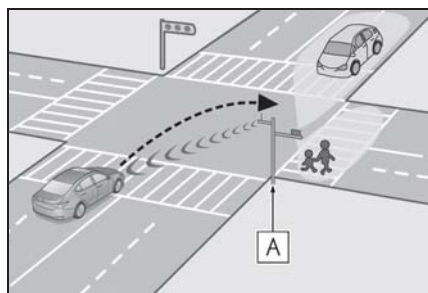
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.233 を参照してください。

知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

● 本システムは、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

● 本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

機種名：DTU-1010

型式認定番号：10005

● 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」(→P.257)をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」(→P.254)をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。



注意

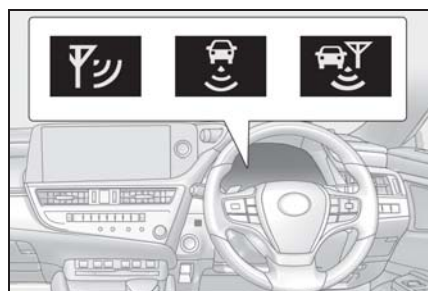
■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディ

スプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向

車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるときにシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されてい

い交差点で、地図データを用いることにより右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号が変わることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、

ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



■ 一時停止注意喚起※

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとしてシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 前方停止車両存在案内※

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。



■ わき道車両存在案内※

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。



※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ナビゲーション／地図の基本操作／DSSS (Driving Safety Support Systems) 運転支援機能について」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



■ 通信車両接近通知の使い方

- マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。
ハンドルのメーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して を選択し、**▲** または **▼** を押して、通知画面を表示してください。
- 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。



■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
- ・ トンネルや高架下を通過しているとき

- ・ ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでの間

- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
- ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
- ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
- ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
- ・ 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- ・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- ・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
- ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- ・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出合い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 交差点手前で一旦停止せずに通過しよ

うとしたとき

- ・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- ・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・遅い速度で走行しているとき
 - ・停車しているとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
 - ・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
 - ・停車していないとき
 - ・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
 - ・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
 - ・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
 - ・立体交差点付近を走行しているとき
 - ・緊急車両から受信した情報が誤っているとき
- 通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・相手通信車両から受信した情報が誤つ

ているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.85) で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・赤信号注意喚起
- ・信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起
- ・一時停止注意喚起
- ・前方停止車両存在案内
- ・わき道車両存在案内

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

- ・右折時注意喚起
- ・出会い頭注意喚起
- ・赤信号注意喚起
- ・一時停止注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

● クルーズ (ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

！ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

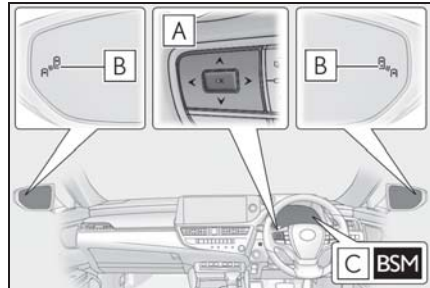
ブラインドスポットモニターは、ドアミラー★またはデジタルアウターミラー★の死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが正しく機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラー★またはディスプレイの映像★による安全確認を行う必要があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

▶ ドアミラー装着車



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

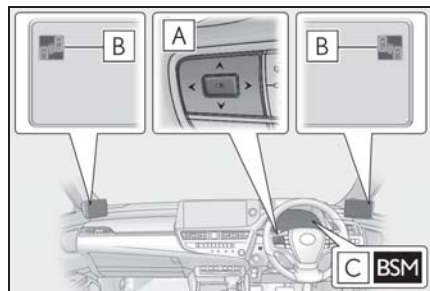
B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

▶ デジタルアウターミラー装着車



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切り替えます。

B デジタルアウターミラーアイコン

デジタルアウターミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のデジタルアウターミラーアイコンが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、デジタルアウターミラーアイコンが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して “BSM” を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに ON / OFF が切りかわります。

設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



 202 -LSC077

 知識**■ ドアミラーインジケーター★またはデジタルアウターミラーアイコン★の視認性について**

強い日差しのもとなど周囲の環境によっては、ドアミラーインジケーターまたはデジタルアウターミラーアイコンが見えづらことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません” が表示されたときは

後側方レーダーセンサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。後側方レーダーセンサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。

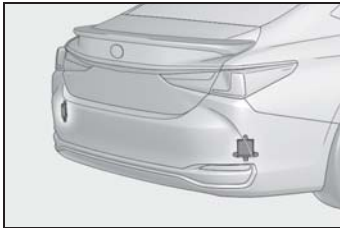
(カスタマイズ一覧：→P.458)

警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.260）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、ブラインドスポットモニターの作動条件（→P.263）でしばらく走行してください（目安：約10分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



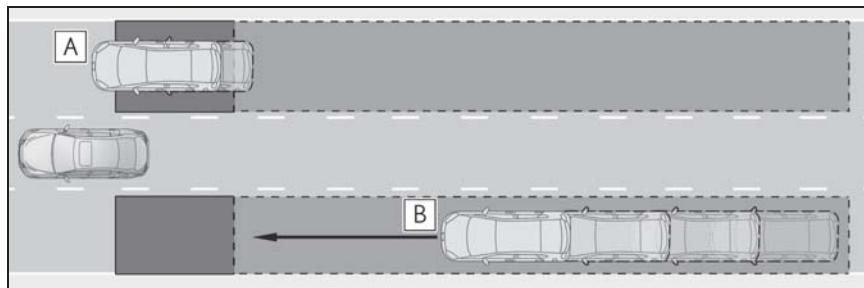
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。
- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーをつけたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際には、レクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーター★またはデジタルアウターミラーのディスプレイに表示されるアイコン★によってその車両の存在を運転者に知らせます。



A ドアミラー★またはデジタルアウターミラーのディスプレイ★に映らない領域（死角領域）を併走する車両

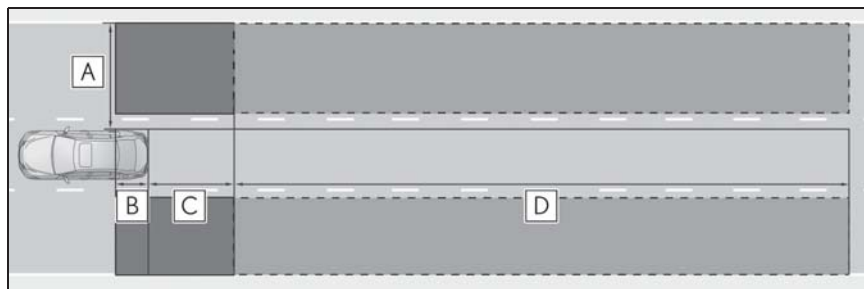
B 後方からドアミラー★またはデジタルアウターミラーのディスプレイ★に映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：



A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域
※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※²

※¹ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーター★またはデジタルアウトミラーアイコン★は他車がより遠くにいる状態で点灯・点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがON のとき
- シフトレバーが R 以外 のとき
- 車速が約 16km/h 以上 のとき

■ブラインドスポットモニターが車両を検知する条件

次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※

● 2 つ隣の車線を走行する他車 ※

● 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ 後側方レーダーセンサーや後側方レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、後側方レーダーセンサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどが後側方レーダーセンサーや後側方レーダーセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき

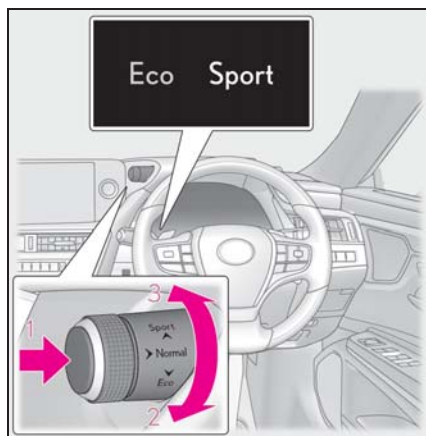
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやけん引フックを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ 後側方レーダーセンサーや後側方レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、後側方レーダーセンサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリやけん引フックを装着しているとき

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前側へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

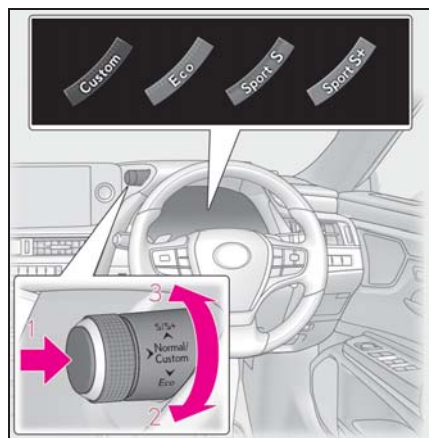
3 スポーツモード

ハイブリッドシステムの制御により、ア

クセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。また、ステアリングのフィーリングも変化し、コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツモードに切りかわり、スポーツモード表示灯が点灯します

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



1 ノーマルモード／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、カスタムモード表示灯が点灯します。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。(→P.310)

2 エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前側へまわすとエコドライブモードに切りかわり、エコドライブモード表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

・ スポーツ S モード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速が可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、スポーツ S モード表示灯が点灯します。

・ スポーツ S + モード

ハイブリッドシステムに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ S + モードに切りかわり、スポーツ S+ モード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・ エコ空調モードを OFF にする
(→P.322)

- ・ 風量を調整する (→P.316, 319)
- ・ エコドライブモードを解除する

■ AGC (オートグライドコントロール)

- AGC は電気モーターを制御することにより減速力を弱め、車両が惰性走行することで燃費を向上させるシステムです。
エコドライブモードで D レンジを選択して走行しているとき、アクセルペダルがほぼ離された状態で作動します。

作動時は AGC 表示灯が点灯します。



- 次のときシステムは作動しません。
- ・ エコドライブモード以外するとき
- ・ ブレーキを操作しているとき
- ・ シフトレバーが D 以外するとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下のとき
- ・ 下り坂で加速したとき
- ・ PCS (プリクラッシュセーフティ) が作動しているとき
- ・ PKSB (パーキングサポートブレーキ) が作動しているとき
- ・ レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き) が作動しているとき
- ・ TRC または VSC が作動したとき
- ・ TRC または VSC が  スイッチによって OFF になったとき

■ スポーツ／カスタムモード★の自動解除

スポーツ／カスタムモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サイド画面の割り込み表示

モードを切りかえるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。(→P.313)

■ カスタマイズ機能 (NAVI・AI-AVS 装着車)

カスタムモードの設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧: →P.458)

PKSA（パーキングサポートアラート）

PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせする RCTA（リヤクロストラフィックアラート）、リヤカメラで後方歩行者を検知しお知らせする RCD（リヤカメラディテクション）機能★により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車支援機能

■ クリアランスソナー

→P.268

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

→P.275

■ RCD（リヤカメラディテクション）★

→P.282

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警報ブザー

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

クリアランスソナー、RCTA、RCD★のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.86）

- 1  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す
- 3  または  を押して  を選択し、“OK” を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

“OK” を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD★のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトレバーを切りかえたとき
- センサー異常やシステムが一時的に使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

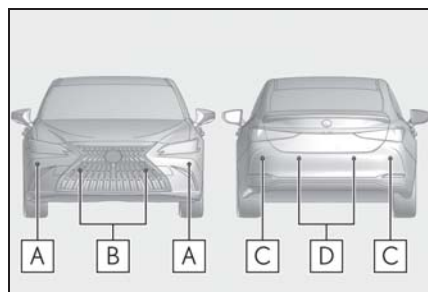
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★およびセンターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

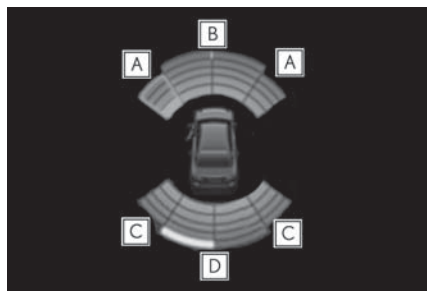
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはセンターディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

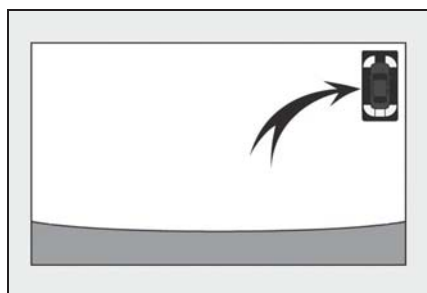
C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

- センターディスプレイの表示

作動対象を検知するとセンターディスプレイ上に自動表示されます。

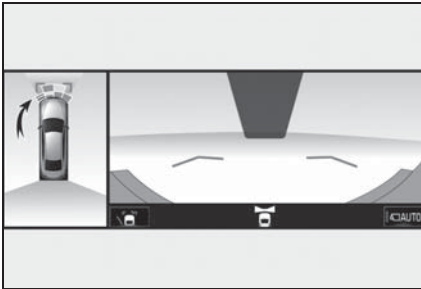
- ・ シフトレバーがRのとき



- ・ シフトレバーがN、SまたはDのとき（前進するとき）



作動対象を検知するとパノラミックビューモニター★画面上に自動表示されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。(→P.86)

- 1 **<** または **>** を押して を選択する
- 2 **▲** または **▼** を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す
- 3 **▲** または **▼** を押して を選択し、“OK” を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯(→P.74)が点灯します。

OFF (停止) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マル

チインフォメーションディスプレイの

から を ON (作動) にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。(パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにしても、復帰しません)

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

警告

■ クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの  からブザー音量を変更することができます。(→P.267)

■ マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・

泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません” が表示されたときは

- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。
- 補機バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱい回してください。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- 次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

- ・ オーディオ使用時
- ・ エアコン使用時
- ・ 他システムのブザー音吹鳴時

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

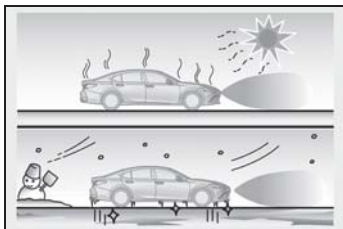
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時

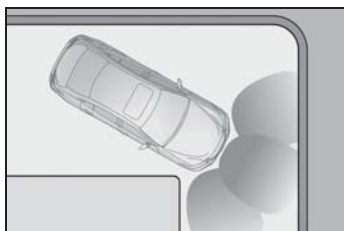
など

- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

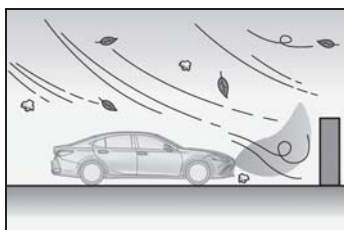
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

● 狭い道路を走行するとき



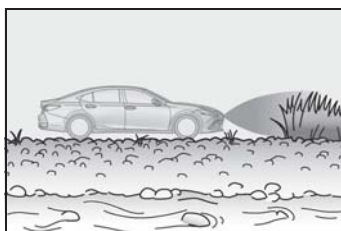
- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれた

とき

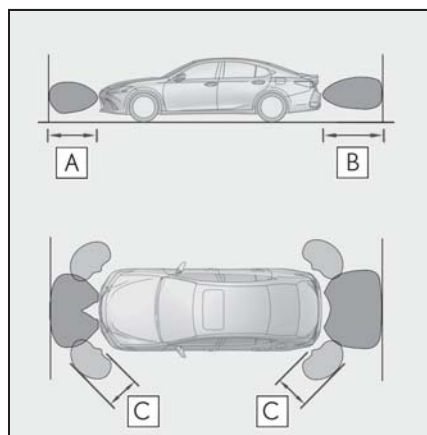
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイ、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 静止物までのおおよその距離： 150cm ～ 60cm※（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.274）

- 静止物までのおおよその距離： 100cm ～ 60cm※（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.274）

- 静止物までのおおよその距離： 60cm ～ 45cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり（→P.274）

- 静止物までのおおよその距離： 45cm ～ 30cm※

マルチインフォメーション ディスプレイ	センターディスプレイ	ヘッドアップディスプレイ
		

※ 自動ミュート機能あり (→P.274)

- 静止物までのおおよその距離： 30cm ～ 15cm※¹

マルチインフォメーション ディスプレイ ※ ²	センターディスプレイ ※ ²	ヘッドアップディスプレイ
		

※¹ 自動ミュート機能なし (→P.274)

※² 点灯および音が遅い点滅

- 静止物までのおおよその距離： 15cm 以下 ※¹

マルチインフォメーション ディスプレイ ※ ²	センターディスプレイ ※ ²	ヘッドアップディスプレイ
		

※¹ 自動ミュート機能なし (→P.274)

※² 点灯および音が早い点滅

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下の

とき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザー

が消音されます。(自動ミュート機能)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

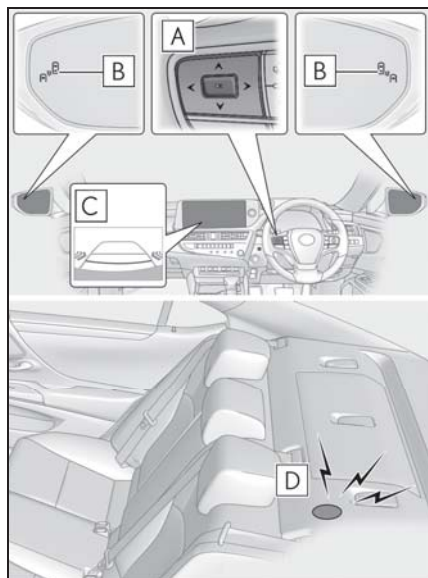
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。(→P.259)

■ システムを正しく作動させるために

→P.261

システムの構成部品

▶ ドアミラー装着車



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA機能のON / OFFを切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側のRCTAアイコン（→P.278）が点灯します。

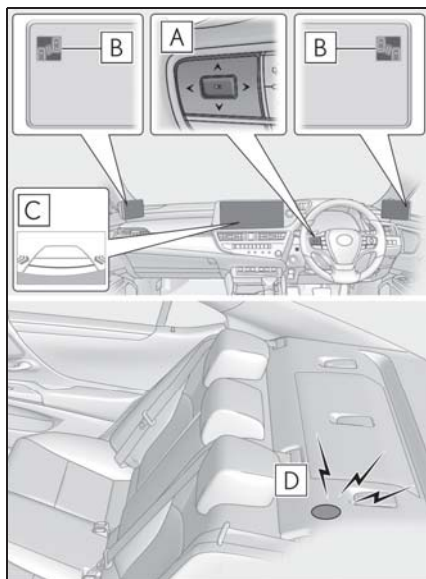
イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴

ります。

▶ デジタルアウトターミラー装着車



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA機能のON / OFFを切りかえます。

B デジタルアウトターミラーアイコン

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のデジタルアウトターミラーアイコンが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側のRCTAアイコン（→P.278）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近して

いる車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。(→P.86)

- 1  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す
- 3  または  を押して “RCTA” を選択し、“OK” を押す

RCTA 機能が OFF のときは、RCTA OFF 表示灯 (→P.74) が点灯します。
パワースイッチが ON モードになるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーター★またはデジタルアウターミラーアイコン★の視認性について

強い日差しのもとなど周囲の環境によっては、ドアミラーインジケーターまたはデジタルアウターミラーアイコンが見えづらことがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

後側方レーダーセンサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。後側方レーダーセンサー

周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

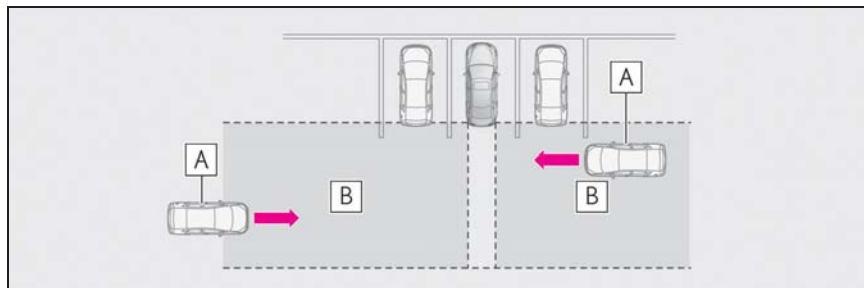
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.261

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーインジケーター★またはデジタルアウトミラーアイコン★とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

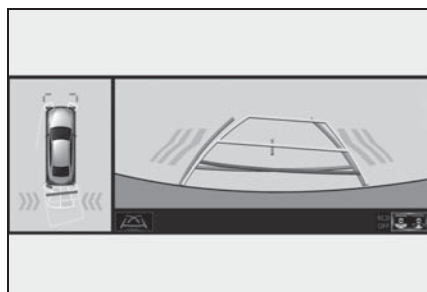
B 接近車両を検知できる範囲

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA アイコンの表示

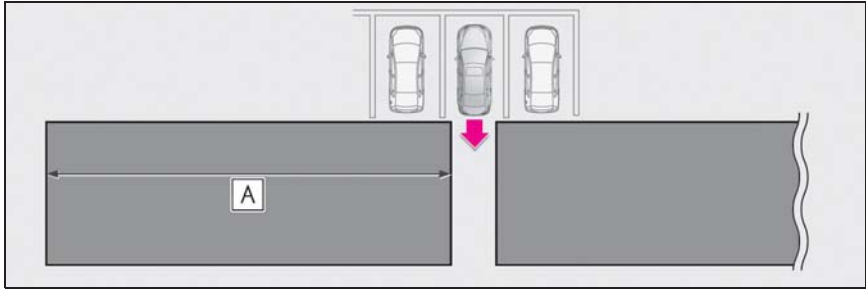
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m



知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON モードのとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトレバーが R のとき
- 自車の车速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の车速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

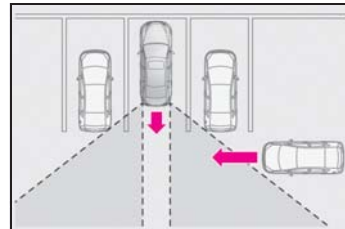
マルチインフォメーションディスプレイの  からブザー音量を変更することができます。（→P.267）

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以

外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

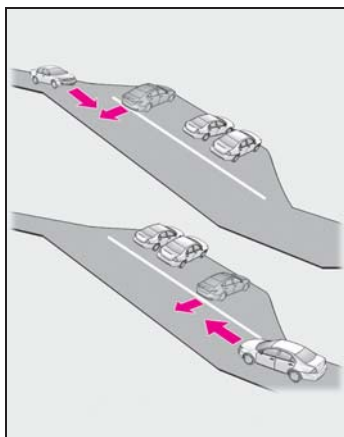
■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

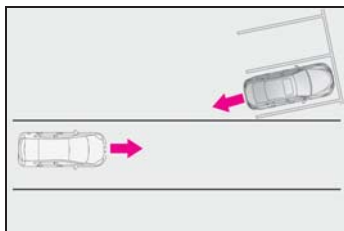
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃

などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

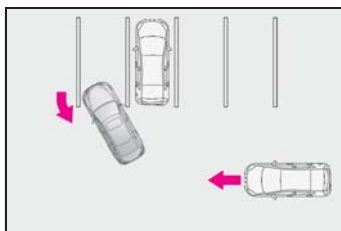


- 斜めの駐車場から出庫するとき

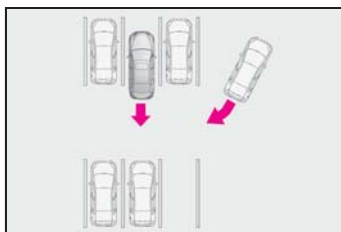


- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



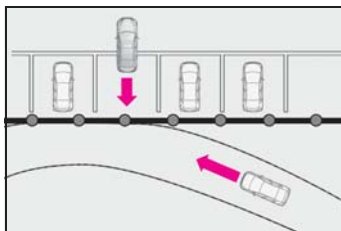
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



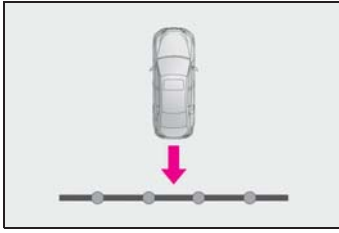
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

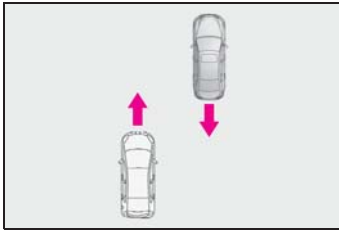
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



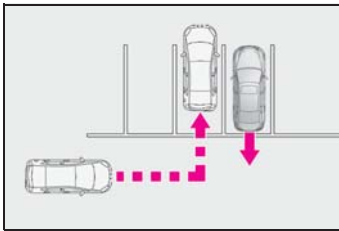
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき
- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時

RCD (リヤカメラディテクション) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限りがあります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグラмп等）を取り付けしないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けしないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

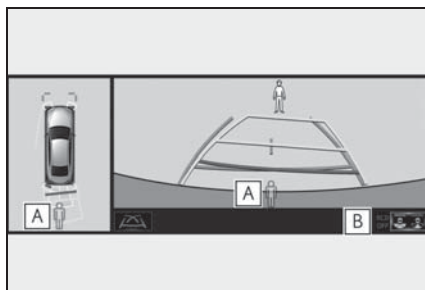
●トランクを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

センターディスプレイ



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

B RCD OFF 表示灯

RCD 機能が OFF のときは、メーター上に RCD OFF 表示灯が点灯します。パワースイッチが ON モードになると、RCD 機能は ON になります。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。(→P.86)

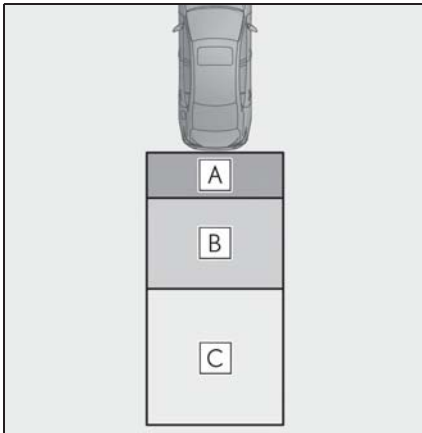
- 1 < または > を押して を選択する
- 2 または を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す

- 3 ▲または▼を押して“RCD”を選択し、“OK”を押す

RCD 機能が OFF の時は、RCD OFF 表示灯 (→P.74) がマルチインフォメーションディスプレイ上に表示されます。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとセンサーディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



- A** 歩行者が**A** エリアにいる場合
ブザー：繰り返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯
- B** 歩行者が**B** エリアにいる場合
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴
ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴
歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯
- C** **C** エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるときシステムが

判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：3 回点滅後、点灯

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON モードのとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトレバーが R にあるとき

■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの からブザー音量を変更することができます。(→P.267)

RCD のブザー音量は RCTA のブザー音量と連動します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“リヤカメラ検知現在使用できません レンズの汚れを除去してください”が表示されたときは

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっては、汚れを取り除いた後も、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“リヤカメラ検知 現在使用できません”が表示されたときは

- 補機バッテリー脱着後などに表示された時は、ハンドルを左右いっぱいに回してください。
- シフトレバーが R にあるときのみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
 - ・寝転んでいる人
 - ・走っている人
 - ・自転車や建物の影から突然現れる歩行者
 - ・自転車やスケートボード等に乗っている人
 - ・合羽やロングスカートを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
 - ・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者
- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・悪天候（雨、雪、霧等）
 - ・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
 - ・強い光がカメラに直接あたっているとき
 - ・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
 - ・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
 - ・カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・けん引フックを取り付けているとき
 - ・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
 - ・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

- 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐

車車両等）

- ・移動物（通行車両、バイク等）
- ・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
- ・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
- ・グレーチングや側溝
- ・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
- ・影
- 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
 - ・路肩や段差があるとき
 - ・勾配変化があるとき
 - ・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
 - ・カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・けん引フックを取り付けているとき
 - ・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
 - ・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
 - ・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 検知を妨げる状況
 - ・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
 - ・高温 / 低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）

→P.291

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

→P.294

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

→P.296

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

警告

- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

注意

- マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、カメラレンズの汚れを取り除いてください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON / OFF を切りかえます。（→P.86）

- 1  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して  を選択し、“OK” を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.74）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  から  を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイ、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御が出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は “ブレーキを踏んでください” が表示されます。

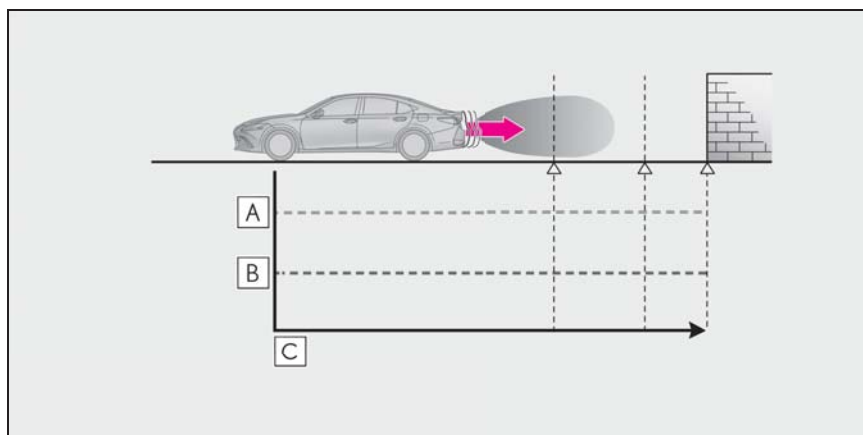
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

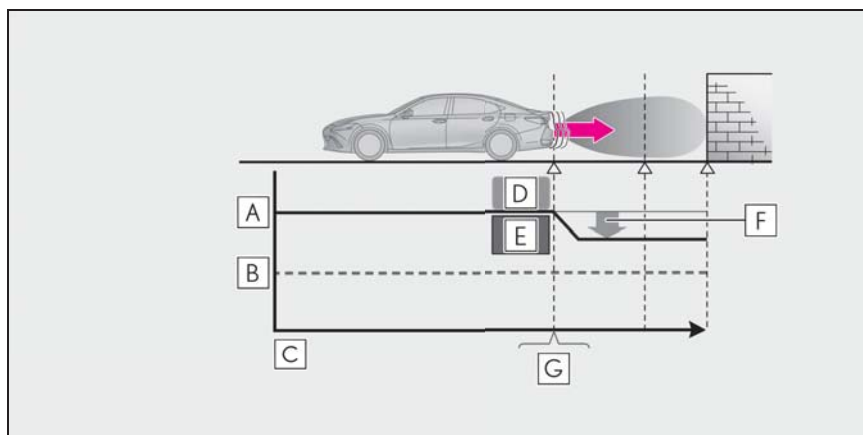


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図2 (ハイブリッドシステム出力抑制制御時)



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

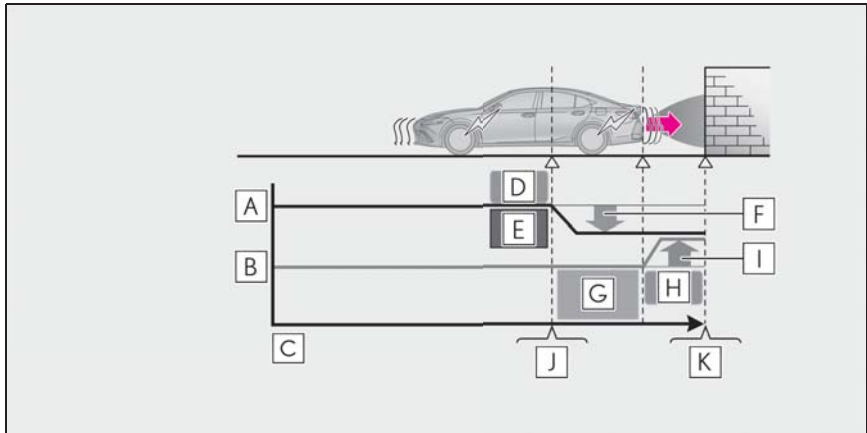
D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとしてシステムが判断したとき

F ハイブリッドシステム出力を抑える

G 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

● 図3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始

E 作動対象と衝突の可能性があるとしてシステムが判断したとき

F ハイブリッドシステム出力を抑える

G 作動対象と衝突の可能性が非常に高いとしてシステムが判断したとき

H ブレーキ制御開始

I ブレーキ制御を上げる

J 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “ブレーキ！”

K 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示 “アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください”



知識

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯しま

す。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約2秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ） 作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合、次のいずれかを行うと、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰します。このとき、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→P.74）

- PKSB システムを ON（作動）にする（→P.286）
- パワースイッチを OFF にしてから、ON モードにする
- シフトレバーを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、 PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

シフトレバーが R にあるときのみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトレバーが R にあるとき以外にも表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” と “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示され、 PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れ

を取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはレクサス販売店で点検を受けてください。

- センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。また、車両停止状態でハンドルを左右いっぱいに回してください。

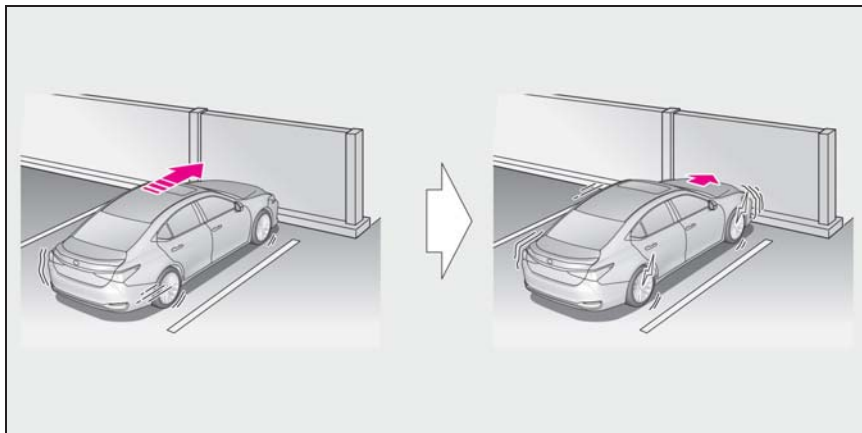
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

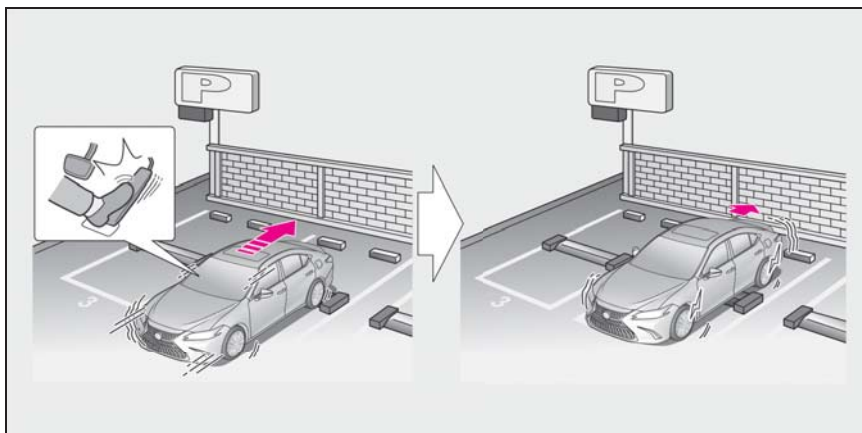
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

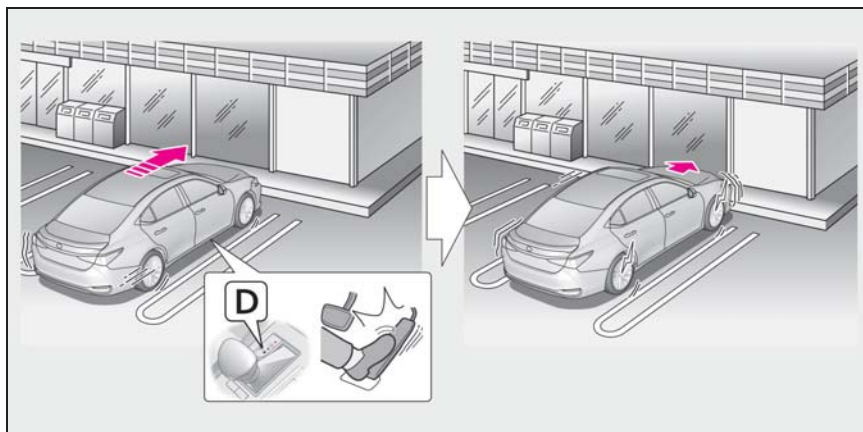
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.268

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.269

■ 万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

→P.289

■ 洗車時の注意

→P.270

📖 知識

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.73, 74）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下

- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約

2 秒が経過したとき

- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.272）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.271

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.271

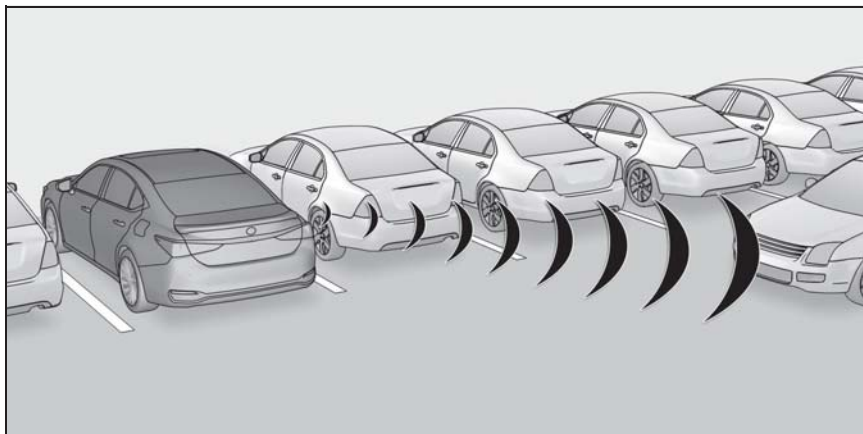
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.261



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.261



知識

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.73, 74）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトレバーが R にあるとき
 - ・ 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
 - ・ 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.279）とは異なります。そのため、RCTA が後方接近車両をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.279

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.280

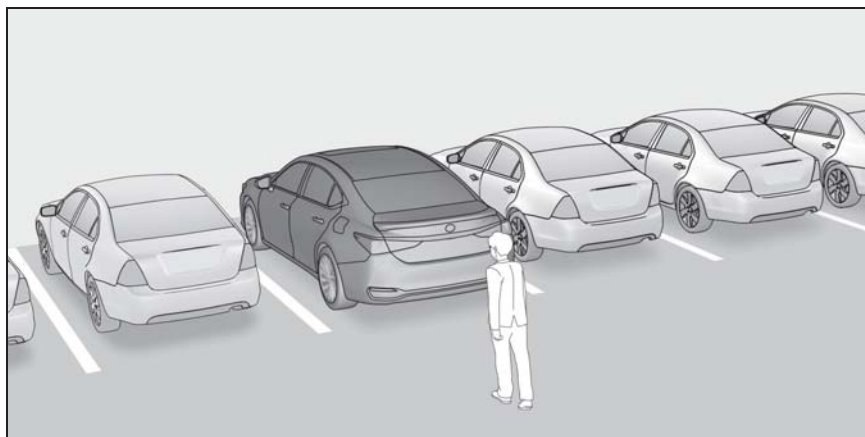
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

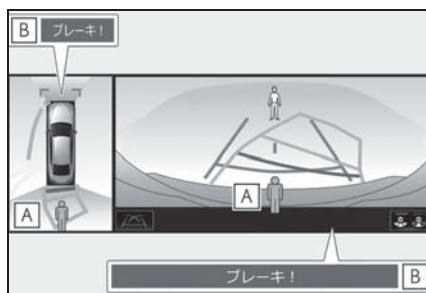
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



センターディスプレイ表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作を促します。マルチインフォメーションディスプレイとヘッドアップディスプレイにも同様に表示されます。



A 歩行者検知表示

B ブレーキ表示

警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.282

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.73, 74）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・車速が 15km/h 以下
 - ・シフトレバーが R にあるとき
 - ・システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるときシステムが判断したとき

●ブレーキ制御

- ・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を OFF（非作動）にしたとき

- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御

- ・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.290

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.283）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.284

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.284

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシスト・ビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ NAVI・AI-AVS (AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム) ★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定性の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。

また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。(→P.264)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

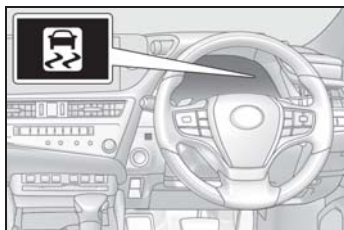
■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。



■ TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

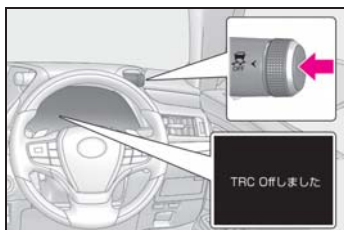


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに“TRC Off しました”と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF”と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.221）

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーをPまたはNのシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- エンジンスイッチがイグニッションOFFモード

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動

したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースwitchをOFFにしたとき
- (TRCのみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

- 車速が約 10km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

- ブレーキを踏んでいない

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒート为了避免するため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドルを控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ NAVI・AI-AVS ★の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報により、コーナーの前からあらかじめ減衰力を制御します。これにより、優れたコーナーリング性能を確保します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

 警告**■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P.457）

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→P.264）

ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。（→P.77, 82）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。

減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんばんに行われることになり、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。※

（タイヤについて：→P.374）

※ 18 インチ／19 インチタイヤ装着車には、タイヤチェーンを取り付けないでください。



知識

■ タイヤチェーンについて（17 インチタイヤ装着車）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ タイヤチェーンについて（18 インチ／19 インチタイヤ装着車）

タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

⚠ 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき（17 インチタイヤ装着車）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

 注意

■ タイヤチェーンの使用について（17インチタイヤ装着車）

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

（タイヤについての詳しい説明はP.374を参照してください）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ ワイパーの保護制御について

→P.201

 注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPにして駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。

(→P.183)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※¹ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。(→P.202)

5-1. リモートタッチ／ディスプレイ	
リモートタッチ	310
センターディスプレイ	312
5-2. レクサスクライメイト コンシェルジュ	
レクサスクライメイトコンシェルジュ	314
5-3. エアコンの使い方	
オートエアコン	316
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター	326
5-4. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	330
5-5. 収納装備	
収納装備一覧	333
トランク内装備	336
5-6. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	338
アクセサリコンセント (AC100V・1500W)	348
非常時給電システム	355

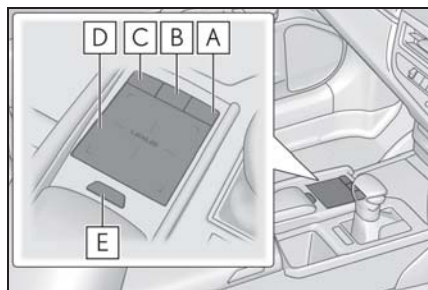
リモートタッチ

リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ



A もどるボタン

1 つ前の画面にもどります。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

D タッチパッド

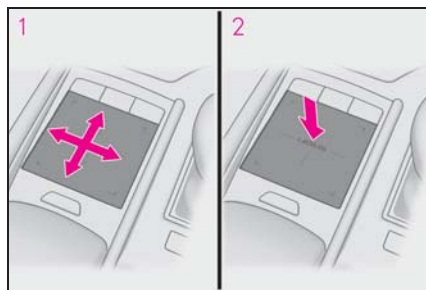
画面上のスイッチを選択または決定します。

また、リスト画面のスクロールや地図の拡大／縮小などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に  が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

■ タッチパッドの使い方



- 1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

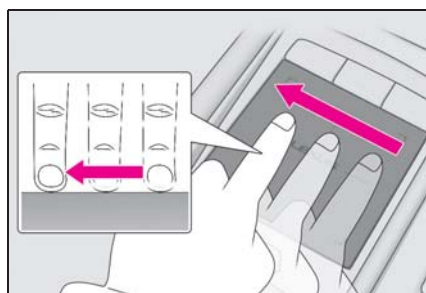
- 2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

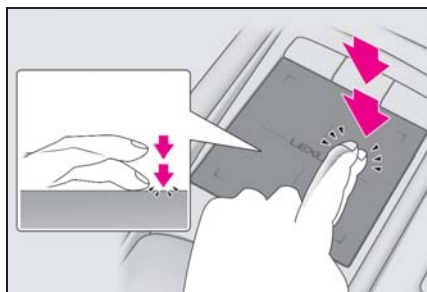
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



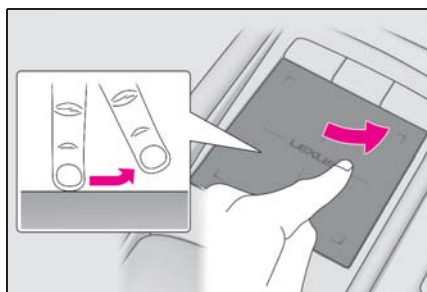
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



● フリック

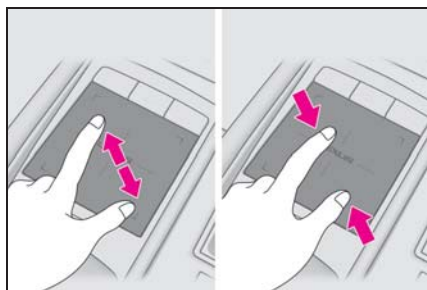
タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面を動かすことができます。



● ピンチアウト/ピンチイン

タッチパッドにふれた2本の指を広げたり近付けたりします。

地図の拡大や縮小を行うことができます。



⚠ 注意

■ リモートタッチの故障を防ぐために

- リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

センターディスプレイ

ディスプレイの見方

■ メニュー画面

リモートタッチの“MENU”ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

画面に直接タッチして選択することもできます。詳細については、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



ボタン	機能
	目的地を設定する ※
	オーディオ操作画面を表示する ※

ボタン	機能
 /  / 	デジタルテレビ操作画面を表示する ※ AppleCarPlay/AndroidAuto を接続すると、“TV”の代わりに“Apple CarPlay” / “Android Auto”が表示されます。 ※
	ハンズフリー操作画面を表示する ※
	G-Link/SmartDeviceLink ™ Apps 画面を表示する。 ※
	情報画面を表示する ※ (→P.95)
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する (→P.319)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、

オーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。
画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



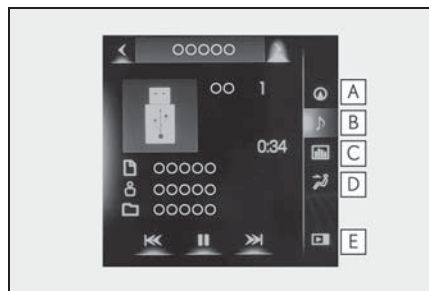
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

◀ または ▶ を選択してお好みの画面を表示する



A ナビゲーションシステム ※

B オーディオ ※

C 車両情報 (→P.99)

D エアコン (→P.321)

E サイド画面の表示／非表示を切りかえる

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやベンチレーター・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。

各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

リモートタッチの“MENU”を押して、を選択し、エアコン操作画面を表示します。その後、サブメニュー（→P.319）のを選択すると、クライメイトコンシェルジュ操作画面が表示されます。

クライメイトコンシェルジュを使用する

を選択する

画面上の作動表示灯が点灯し、エアコン・フロント席のシートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



知識

■ クライメイトコンシェルジュを使用するときは

サブファンクションメニューやオプション操作画面からもクライメイトコンシェルジュを作動させることができます。（→P.319）

各システムの作動について

■ エアコン（→P.316）

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ フロント席のシートヒーター／ベンチレーター（→P.326）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気がOFFになることもあります。助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.326）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。



知識

**■ フロント席のシートヒーター／ベンチ
レーターの作動について**

フロント席のシートヒーター／ベンチ
レーターのスイッチでオート設定にした
場合は、乗員の検知を行いません。

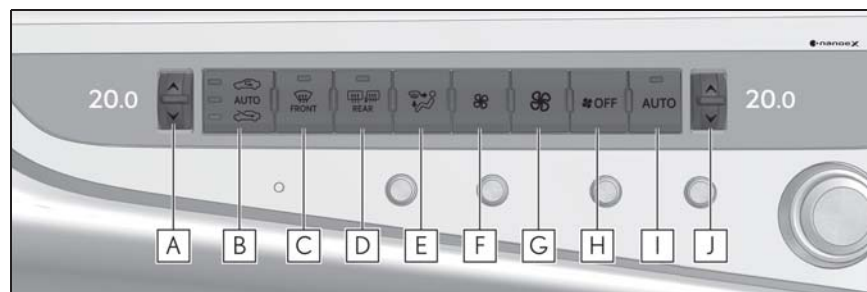
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの“MENU”を押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。(→P.312)

また、サイド画面に表示し操作することもできます。

エアコン操作スイッチについて（フロント席）



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 内外気切りかえスイッチ
- C** フロントデフロスタースイッチ
- D** リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチ★／カメラヒータースイッチ★
- E** 吹き出し口切りかえスイッチ
- F** 風量減スイッチ
- G** 風量増スイッチ
- H** OFF スイッチ
- I** AUTO スイッチ
- J** 運転席側温度調整スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上、下げるときは下に操

作する

“A/C” の表示灯が消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッチを、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スwitchを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す
スイッチを押すごとに吹き出し口が切りかわります。(→P.319)

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに次のように設定が切りかわります。

内気循環 → AUTO※¹ → 外気導入 → 内気循環

AUTO を選択したときは、内気循環と外気導入の切りかえを自動で行います。また、トンネル情報を考慮して最適な内外気設定に切りかえます。(トンネル連動内気※²)

※¹ エアコンが OFF のときは選択できません。

※² トンネル連動内気の設定を変更することができます。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇り

が取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチ★/カメラヒータースイッチ★

リヤウインドウガラスの曇りを取る
ときや、ドアミラー★、またはデジタルアウトミラーのカメラ★から雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒータースイッチ/カメラヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、エアコン設定に関わらず自動的に切りかわる場合があります。

■電子キーによるエアコン設定の記憶制御

- 電子キーでドアを解錠してパワースイッチを ON モードにすると、その電子キーに対応して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- パワースイッチを OFF にすると、そのときのエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠したり、助手席のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。
- スマートエントリー&スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※運転席ポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
- ・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
- ・エコ空調モードを OFF にする (→P.319)
- ・風量を調整する
- ・エコドライブモードを解除する (→P.264)

■外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき
“A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■音声操作システムについて

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■エアコンフィルターについて

→P.383

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.458)

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

警告

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★/カメラヒーター★作動中の警告

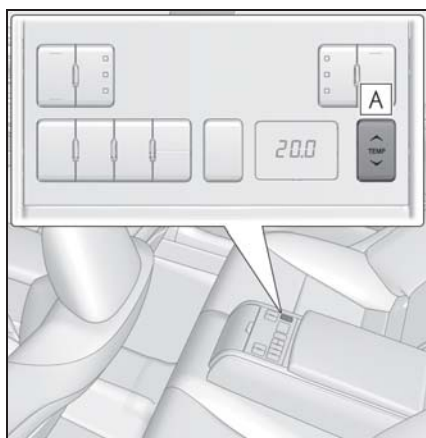
ドアミラーの鏡面★、またはデジタルアウターミラーのカメラ部★が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐためにハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

エアコン操作スイッチについて(リヤ席)★



A リヤ席温度調整スイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときはリヤ席温度

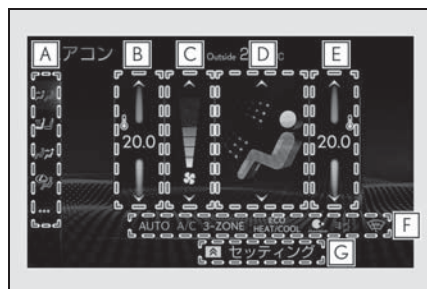
調整スイッチの“^”を、下げるときは“v”を押す

フロントエアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

画面に直接タッチして選択することもできます。



A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

エアコン操作画面を表示する

ステアリングヒーター/フロント席のシートヒーター/シートベンチレーター操作画面を表示する

(3 席独立コントロールエアコン装着車)：リヤエアコン操作画面を表示する

クライメイトコンシェルジュ操作画面を表示する

オプション操作画面を表示する

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 吹き出し口を切りかえる

: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風



: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席側の温度を調整する**F** 各機能 ON / OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

G サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、次の機能の ON / OFF を切りかえることができます。



: クライメイトコンシェルジュを作動させる (→P.314)

“AUTO” : 吹き出し口と風量が自動的に調整される (→P.323)

“Off” : ファンを停止する

“A/C” : 冷房・除湿する

“DUAL” ★ : 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード) (→P.325)

“3-ZONE” ★ : 運転席と助手席、およびリヤ席の設定温度を別々に設定する (3席独立モード) (→P.325)

ECO HEAT/COOL : エコ空調モードに設定する

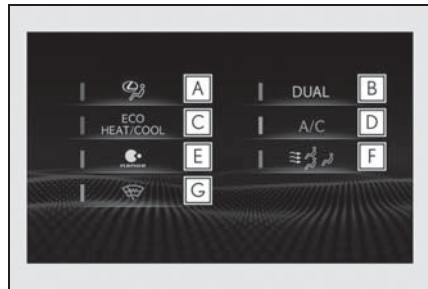
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オプション操作画面

サブメニューの **...** を選択する。

各機能の ON / OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車



A クライメイトコンシェルジュを作動させる (→P.314)

B 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード) (→P.325)

C エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

D 冷房・除湿する

E 「ナノイー X」※ を作動させる

「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

F フロント席集中送風モード (S-FLOW) を設定する (→P.324)

G フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ (ウインドシールドデアイサー) ★

※ 「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式

会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車



A クライメイトコンシェルジュを
作動させる (→P.314)

B 運転席と助手席、およびリヤ席の
設定温度を別々に設定する (3 席
独立モード) (→P.325)

C エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを
抑えます。

D 冷房・除湿する

E 「ナノイー X」※ を作動させる
「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置
のことです。

F フロント席集中送風モード (S-
FLOW) を設定する (→P.324)

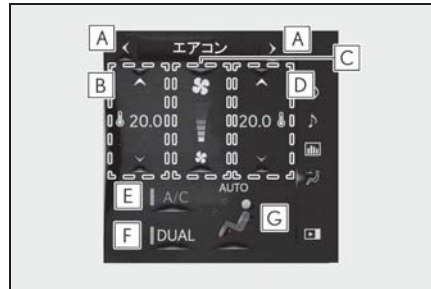
G フロントウインドウガラスとワイ
パーブレードの凍結を防ぐ (ウイ
ンドシールドデアイサー) ★

※ 「nanoe」、「ナノイー」および
「nanoe」マークは、パナソニック株式
会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ サイド画面

▶ 左右独立コントロールエアコン装
着車



A ステアリングヒーター／フロント
席のシートヒーター／シートベン
チレーター操作画面を表示する
(→P.329)

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 運転席側の温度を調整する

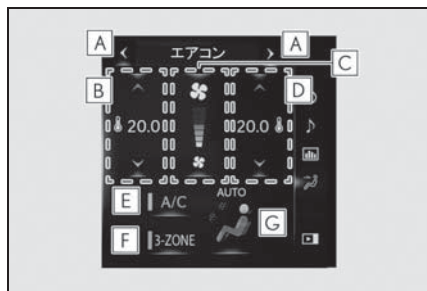
E 冷房・除湿する

F 運転席と助手席の設定温度を別々
に設定する (左右独立モード)
(→P.325)

G 吹き出し口を切りかえる

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車



A ステアリングヒーター／フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター操作画面を表示する (→P.329)

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 運転席側の温度を調整する

E 冷房・除湿する

F 運転席と助手席、およびリヤ席の設定温度を別々に設定する (3 席独立モード) (→P.325)

G 吹き出し口を切りかえる

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動で OFF になります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ 「ナノイー X」について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席中央側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※¹。

● ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します※²。

● 「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・ 吹き出し口が  または

 のとき

・ 運転席中央側の吹き出し口が開いているとき

● 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

● 「ナノイー X」作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※¹ 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※² 「ナノイー X」が ON のとき (→P.320)

警告**■ ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

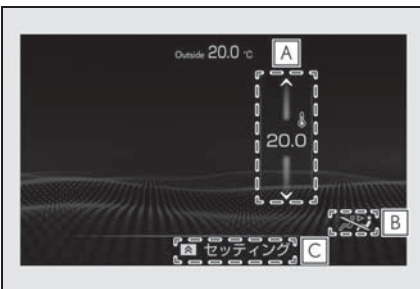
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 「ナノイーX」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意**■ 「ナノイーX」の損傷を防ぐために**

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に動かなくなるおそれがあります。

リヤエアコン操作画面★

A リヤ席の温度を調整する

B 機能 ON / OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

C サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、リヤ席のエアコンスイッチ操作禁止の ON / OFF を切りかえることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの“AUTO”を選択する (→P.319)

2 AUTO モードになるまで内外気切り換えスイッチをくり返し操作する

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの“Off”を選択する (→P.319)

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識**■ オート設定の作動について**

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ 内外気切りかえの AUTO モード

AUTO モードでは排出ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

“A/C” が OFF で送風が作動中に AUTO モードにすると、“A/C” が ON になります。再度 “A/C” を OFF にすると内外気切りかえの AUTO モードは解除されます。

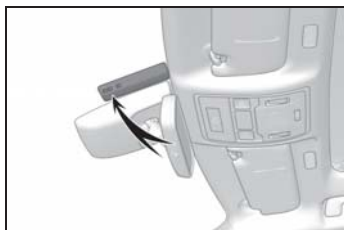
⚠ 注意

■ 湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- ・ 湿度センサーを分解しない
- ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- ・ 湿度センサーにシールなどを貼らない



フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、 が点灯します。

■ 手でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

センターディスプレイの  を選択し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■ 送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が

車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
- 2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON モードにする。

各席の設定温度を別々に設定する

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- サブファンクションメニューの “DUAL” を選択する (→P.319)
- オプション操作画面で “DUAL” を選択する
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

▶ 3 席独立コントロールエアコン装着車

次のいずれかの操作をすると、3 席独立モードが ON になります。

- サブファンクションメニューの “3-ZONE” を選択する (→P.319)
- オプション操作画面で “3-ZONE” を選択する

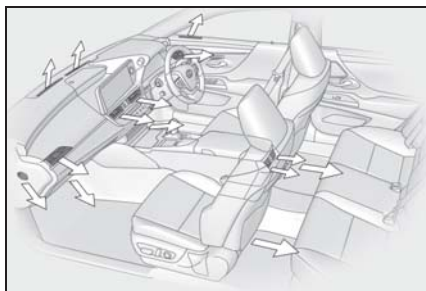
● 運転席以外の設定温度を変更する

3 席独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

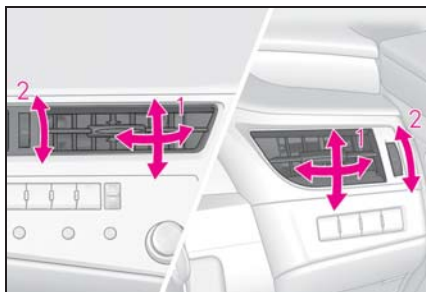
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



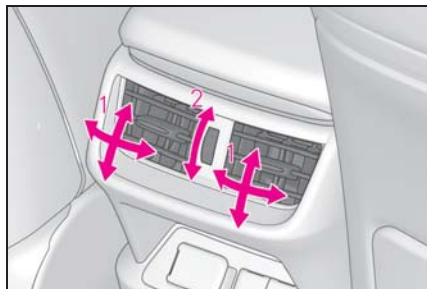
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター／サイド



- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

▶ リヤ

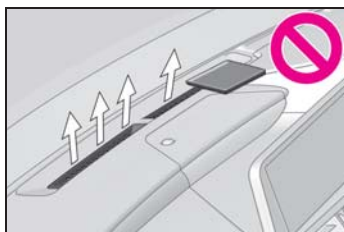


- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開閉する

警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

リモートタッチの“MENU”を押して、を選択し、エアコン操作画面を表示します。その後、サブメニュー（→P.319）のを選択すると、ステアリングヒーター／フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター操作画面が表示されます。

警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

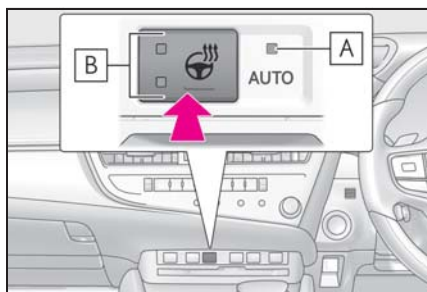
■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、AUTO インジケーター **A**、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ AUTO モードを選択したときは

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、ステアリングヒーターの機能が OFF になることがあります。

■ 設定の記憶について

パワースイッチを ON モードにすると、記憶された設定が呼び出されます。

シートヒーター／シートベンチレーター

■ シートヒーター

▶ フロント席

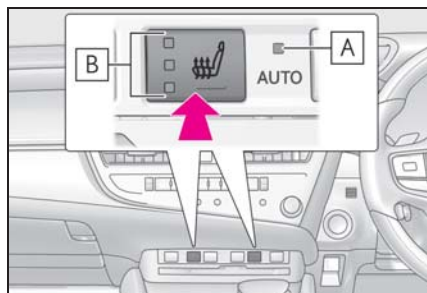
スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、AUTO インジケーター

A、またはレベルインジケーター

B のいずれか、または両方が点灯します。



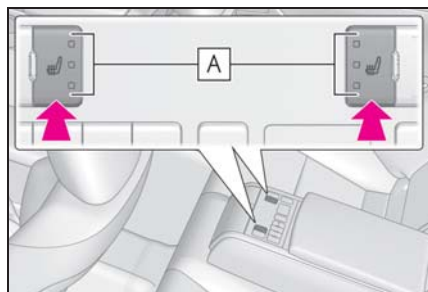
▶ リヤ席★

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター

A が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

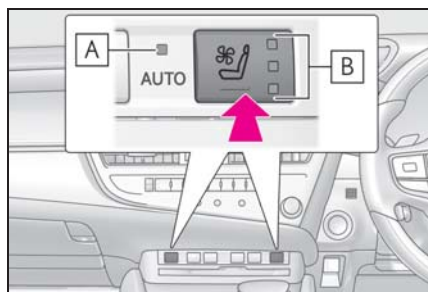
■ シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、AUTO インジケーター

A、またはレベルインジケーター **B** のいずれか、または両方が点灯します。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■ エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強（AUTO 選択時）のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの作動状態が強く

なります。

■ AUTO モードを選択したときは

エアコンの設定温度、外気温などに応じて、次の機能が OFF になることがあります。

- ・ フロント席のシートヒーター
- ・ シートベンチレーター

■ 設定の記憶について

パワースイッチを ON モードにすると、記憶された次の設定が呼び出されます。

- ・ フロント席のシートヒーター
- ・ シートベンチレーター

⚠ 警告

■ 異常過熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

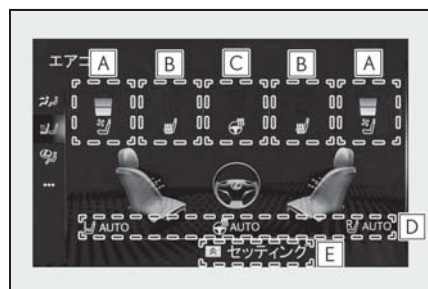
- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

操作画面について

■ メイン画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

画面に直接タッチして選択することもできます。



A シートベンチレーターの風量を切りかえる

3 段階に調整できます。

作動中は風量の強弱が表示されます。

B フロント席のシートヒーターの温度を調整する

3 段階に調整できます。

作動中は温度の強弱が表示されます。

C ステアリングヒーターの温度を調整する

2 段階に調整できます。

作動中は温度の強弱が表示されます。

D AUTO モード ON / OFF 表示灯 AUTO モードが ON のとき、表示灯が点灯します。

E サブファンクションメニュー

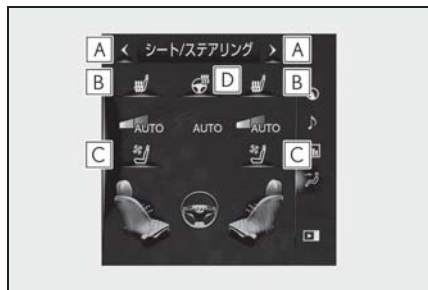
リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、次の機能をオート設定に切りかえることができます。

AUTO: 助手席のシートヒーター／ベンチレーター

AUTO: ステアリングヒーター

AUTO: 運転席のシートヒーター／ベンチレーター

■ サイド画面



A エアコン操作画面を表示する

(→P.316)

B フロント席のシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO→強→中→弱→OFF

C シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→強→中→弱→OFF

D ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。

AUTO→強→弱→OFF

□ 知識

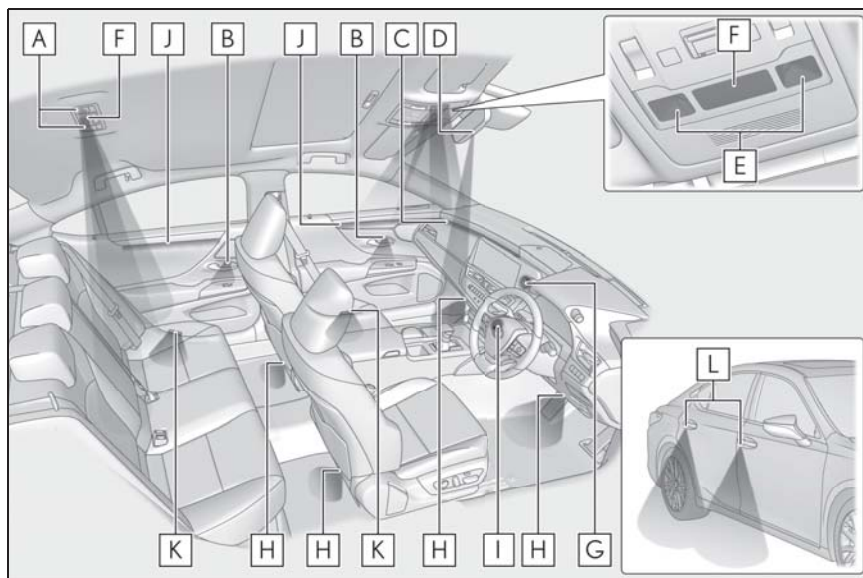
■ カスタマイズ機能

ステアリングヒーター AUTO モード時の温度や、シートヒーター＆ベンチレーターのオート設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→P.458)

室内灯一覧

室内灯の位置



- A** リヤパーソナルランプ (→P.331)
- B** インサイドハンドル照明★
- C** インストルメントパネルオーナメント照明★
- D** シフト照明
- E** フロントパーソナルランプ (→P.331)
- F** インテリアランプ (→P.331)
- G** 時計照明
- H** 足元照明
- I** パワースイッチ照明
- J** ドアトリム照明★
- K** ドアカーテシランプ
- L** 室外足元照明

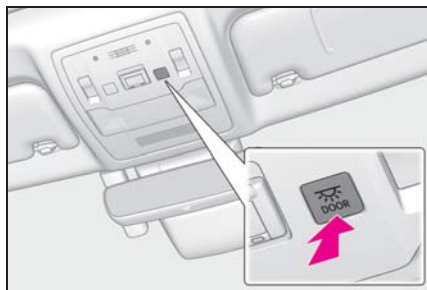
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

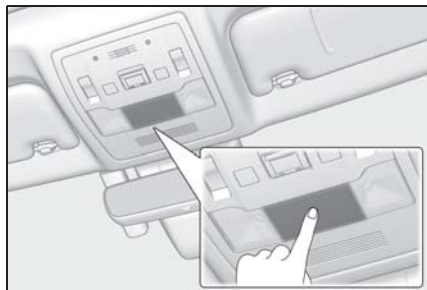


■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

リヤインテリアランプは、フロントインテリアランプに連動して点灯・消灯します。

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

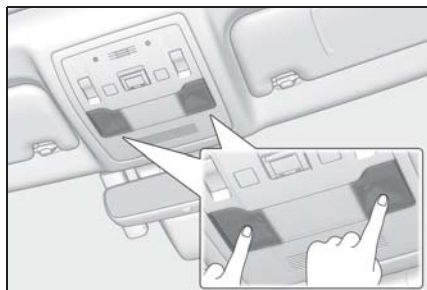


パーソナルランプを操作するには

■ ランプを点灯・消灯する

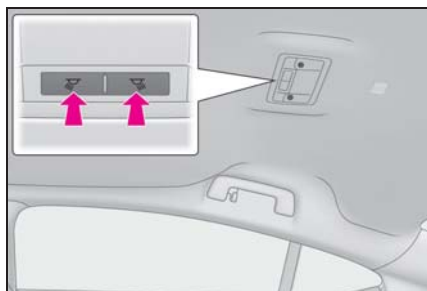
▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する



知識

■ イルミネテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースwitchのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースwitchを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとフロント
パーソナルランプが正常に反応しない
おそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- ぬれた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.458)



注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

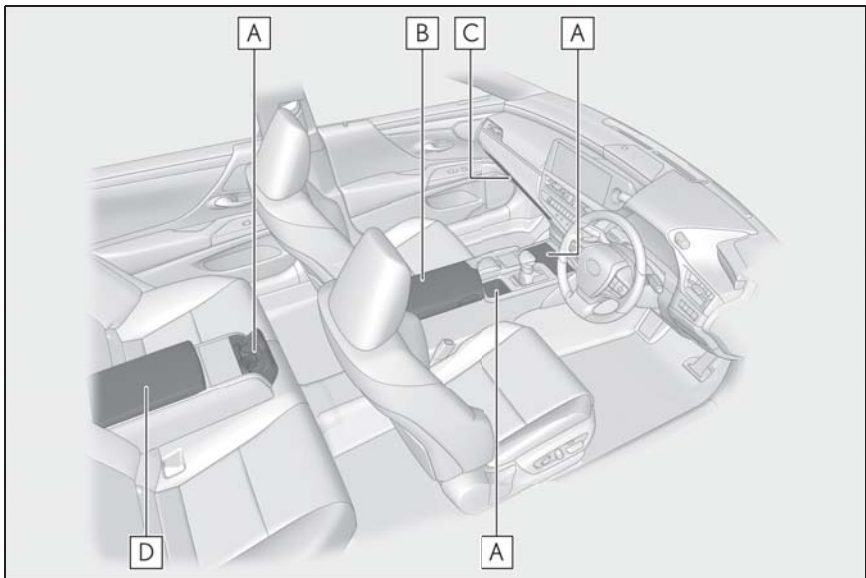
ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ ランプのレンズの取りはずしについて

フロントインテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** カップホルダー (→P.334)
- B** コンソールボックス (→P.334)
- C** グローブボックス (→P.334)
- D** 小物入れ (→P.335)

警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ・ライターやスプレー缶を収納
装備内に放置したままにしないでくだ
さい。

放置したまましていると、次のようなこ
とが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の
収納物との接触などにより、メガネ
が変形やひび割れを起こす

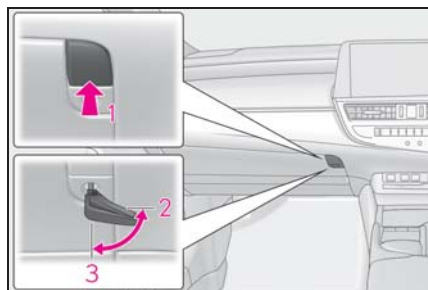
- 室温が高くなったときにライターや
スプレー缶が爆発したり、他の収納
物との接触でライターが着火したり
スプレー缶のガスがもれるなどして
火災につながる

■ 収納装備を使わないときは

収納装備を使わないときは、フタを必
ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いた
フタに体があたったり、収納していた
ものが飛び出したりして、思わぬ事故
につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける（グローブボックスオープナーを押す）
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠



知識

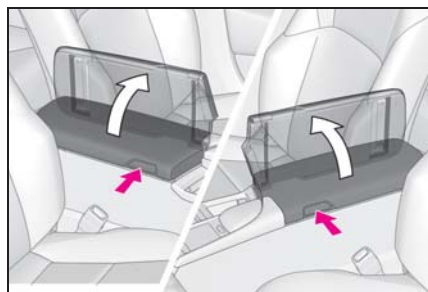
■ グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■ トランクオープナーメインスイッチ

→P.117

コンソールボックスを使うには



ボタンを押してフタを開ける
両側から開けることができます。



知識

■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。



警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたフタが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

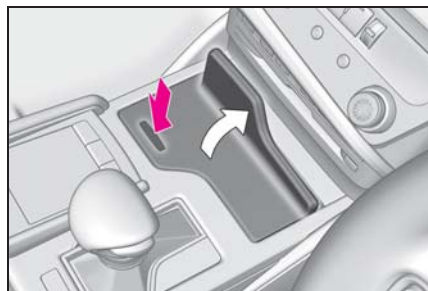
■ コンソールボックスの損傷を防ぐために

コンソールボックスが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

カップホルダーを使うには

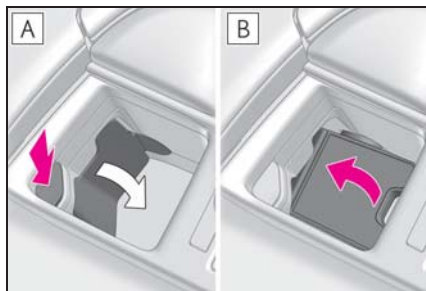
▶ フロント（A タイプ）

カップホルダーのフタを押して開ける



▶ フロント（B タイプ）

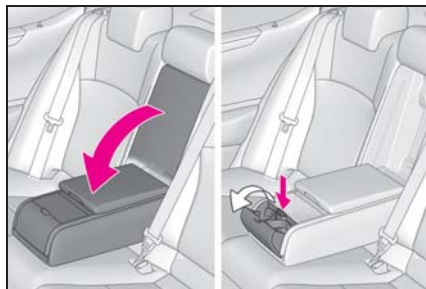
カップホルダーの深さを調整できます。



A 上げる（ボタンを押す）

B 下げる

▶ リヤ



アームレストを手前に倒しボタンを押して開ける

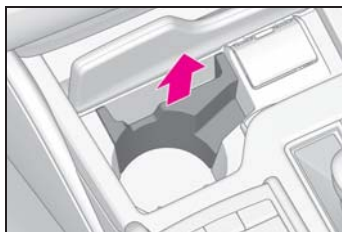


知識

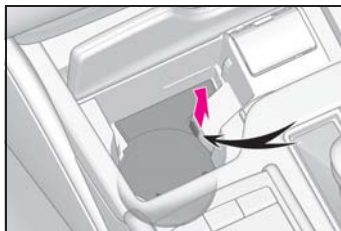
■ フロントカップホルダー（A タイプ）

- USB 端子のフタを閉めてから、カップホルダーのフタを開けてください。
- カップホルダーの清掃をするときは、次の手順で仕切りなどを取りはずすことができます。

1 仕切りを取りはずす



2 プレートを取りはずす



■ リヤカップホルダーを収納するとき

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップ・缶・ペットボトル（フロント [B タイプ]）以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

⚠ 注意

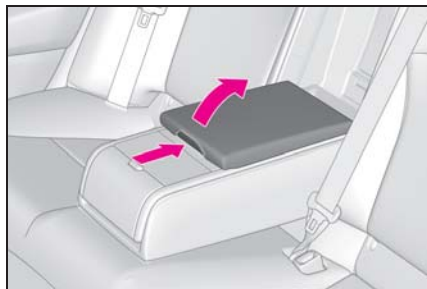
■ ショートや損傷を防ぐために

- フロント（B タイプ）：カップ・缶・ペットボトルの大きさによっては、浅くした状態で使用しないでください。取り出すときや急ブレーキ時に倒れたりして、飲料水などがこぼれたりするおそれがあります。
- リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

小物入れ

アームレストを手前に倒しノブを押

して開ける

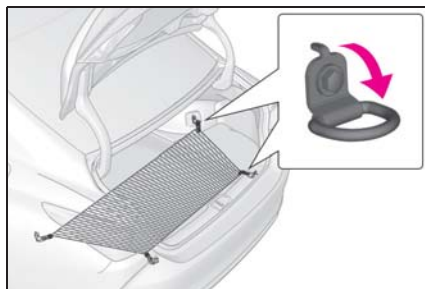


トランク内装備

荷物固定用フック

フックを起こして使用する。

フックを使って荷物を固定することができます。

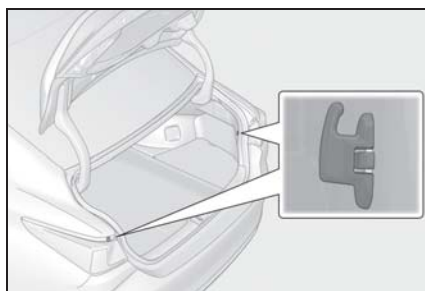


⚠ 警告

■ 荷物固定用フックを使用しないときは

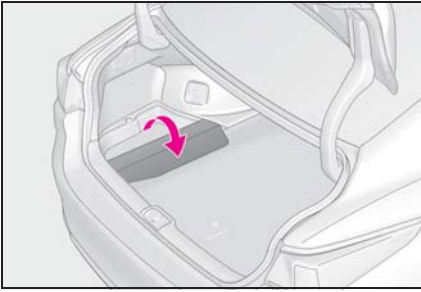
けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



ラゲージマット

ラゲージマットを引き上げる

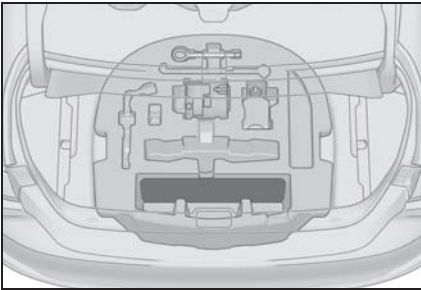


三角表示板収納スペース

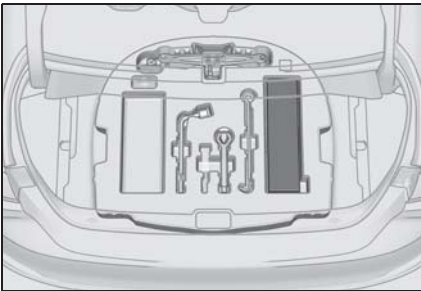
ラゲージマットを引き上げフックで固定し、三角表示板を収納することができます。

大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

- ▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

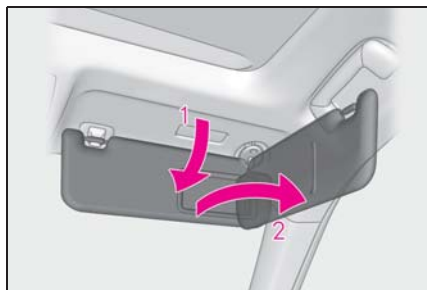


- ▶ 応急用タイヤ装着車



その他の室内装備

サンバイザーを使うには

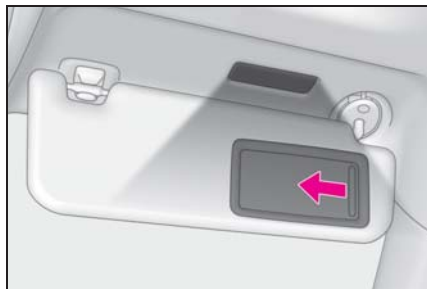


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



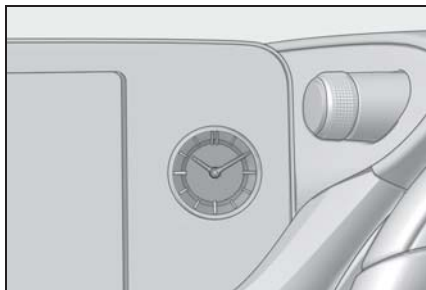
⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐためにハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

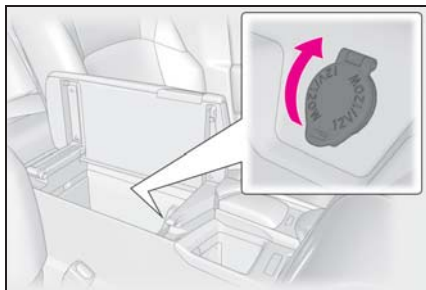


アクセサリースOCKETを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

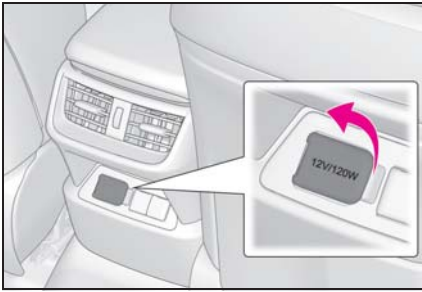
▶ フロント

フタを開けて使用する



▶ リヤ★

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。



知識

■ 作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

■ アクセサリソケットを使用するときは

コンソールボックスのフタを閉じた状態でも、仕切りのあいだに配線を通すことができます。



⚠ 注意

■ アクセサリソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかったりしないように、使用しないときはフタを開けておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリソケットを使用しないでください。

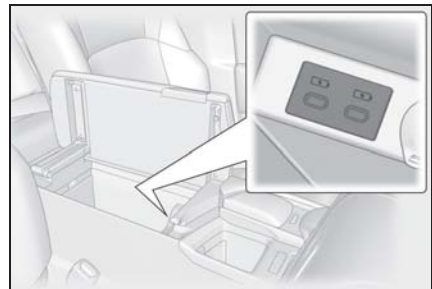
充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。

この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

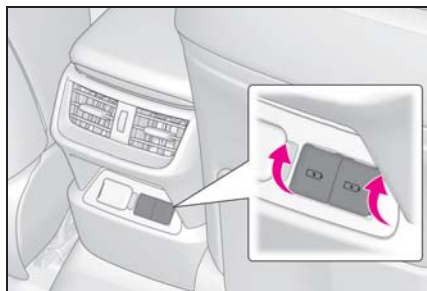
■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには

▶ フロント★



▶ リヤ

フタを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ 充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。



注意

■ 充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。

● リヤ：充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

● 強い力や衝撃を加えないでください。

● 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

● 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

● 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

おだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

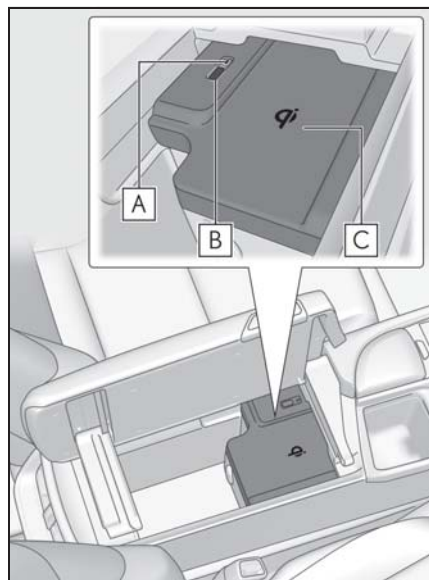


■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」および「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 電源スイッチ

□ 充電エリア

■ 充電する

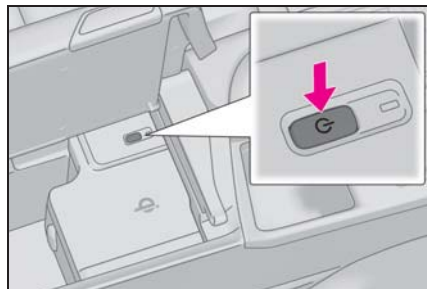
1 コンソールボックスのフタを開ける（→P.334）

2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON / OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

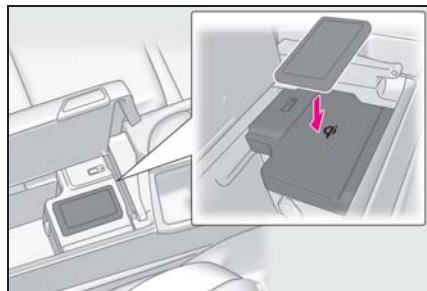


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



● 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

● 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	レクサス販売店へお問い合わせください。

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知： 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ： 充電エリアの中央付近から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■ 使用条件

パワースイッチがアクセサリモードまたは ON モードのとき

■ 使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けたときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ 充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■ 充電中の留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■ 作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物を挟まない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

⚠ 注意

■ 機能が正常に動かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた

⚠ 注意

- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

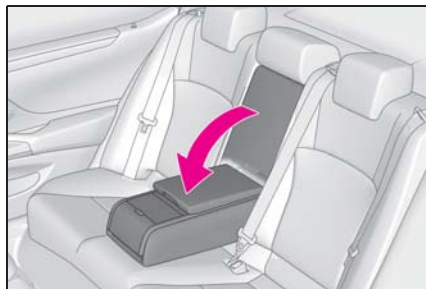
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

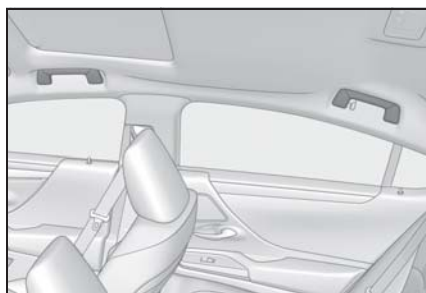


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告**アシストグリップについて**

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

注意**アシストグリップの破損を防ぐために**

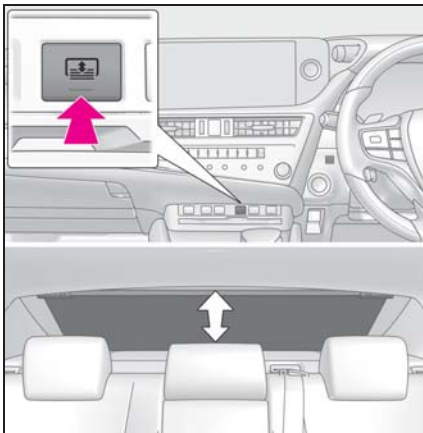
破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード／リヤドアサンシェード★**リヤサンシェード**

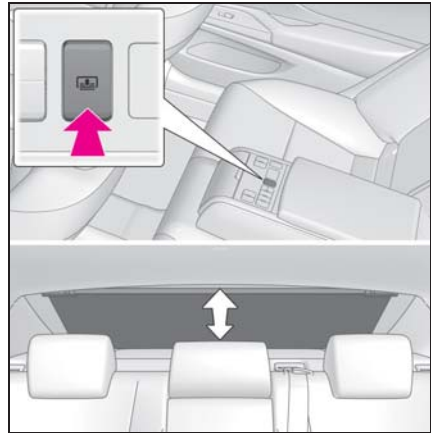
スイッチ操作でリヤサンシェードが上昇／下降します。

▶ フロント席からの操作

スイッチを押す（上昇／下降）

**▶ リヤ席からの操作★**

スイッチを押す（上昇／下降）

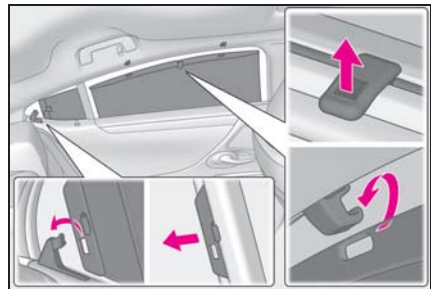


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤドアサンシェード

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、ゆっくり収納します。

**知識****■ 作動条件**

- パワースイッチが ON モードのとき
- パワースイッチを OFF にしたあと、約 1 分間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降しま

す。

ただし、次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す※
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能により、リヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

※ スイッチ操作後はリバース連動機能が作動しない場合があります。作動可能状態にするには、再度上記の操作を行ってください。

警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードが作動しているとき、リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。

巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

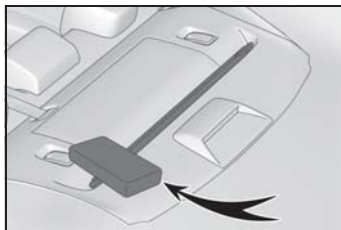
ハイブリッドシステムが停止しているときは、リヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるために

以下のことをお守りください。

- リヤサンシェードのモーターや他の部分に負荷をかけすぎない

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない



- リヤサンシェード・リヤドアサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間リヤサンシェードの操作を続けない

トランクスルー

トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

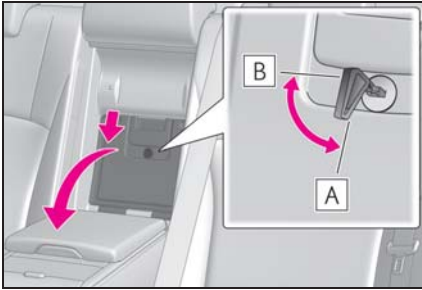
1 アームレストを倒す



2 ハンドルを押し下げてアームレストドアを開ける

アームレストドアはメカニカルキーを

使って施錠／解錠できます。



A 解錠

B 施錠

警告

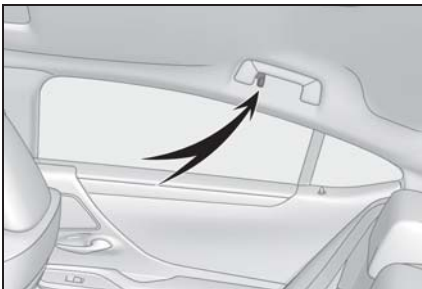
■ 使用しないときは

アームレストドアを閉めておいてください。

急ブレーキをかけたときに収納していたものが客室に飛び出したり、けがをするおそれがあります。

コートフック

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

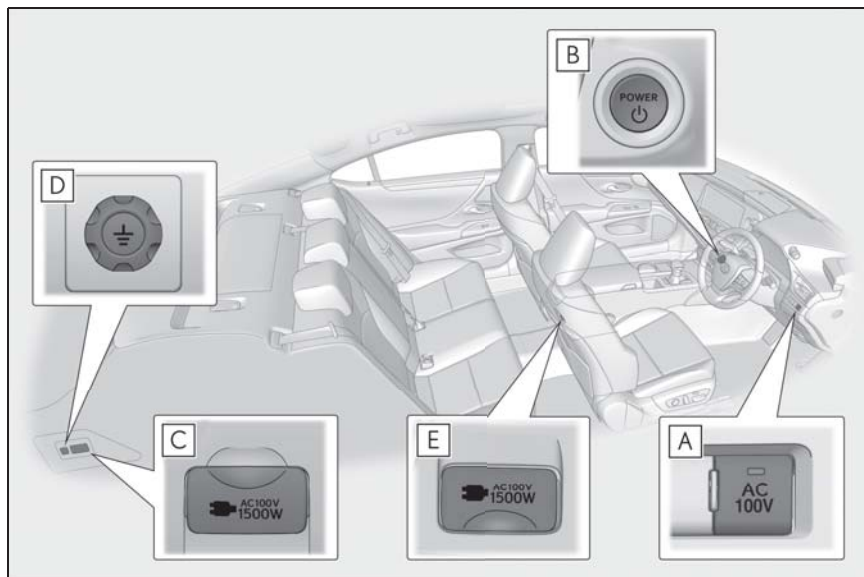
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アクセサリコンセント (AC100V・1500W) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内において、AC100Vで最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称



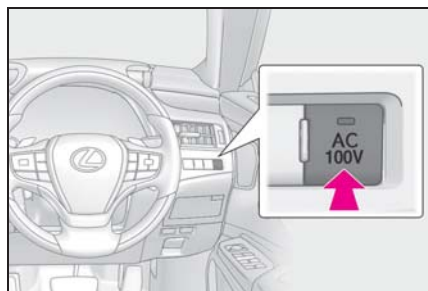
- A** AC100V スイッチ
- B** パワースイッチ (→P.172)
- C** トランク内コンセント
- D** アース端子
- E** 室内コンセント

コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す (→P.183)
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.172)
- 3 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。

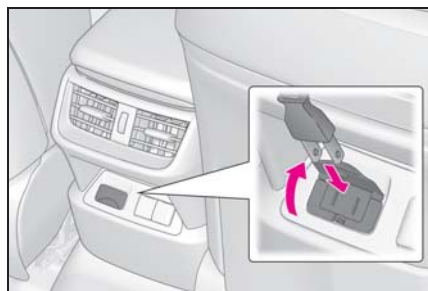


電気製品の電源プラグを接続するとき

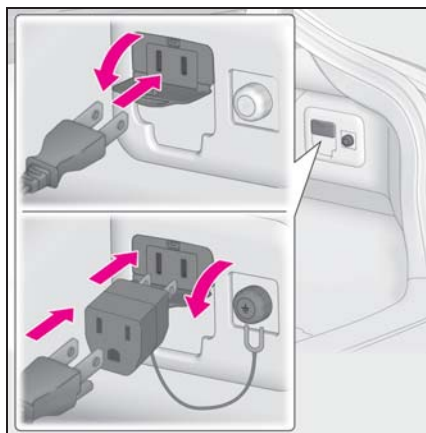
フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

コンセントはコンソールボックス背面、トランク内にあります。

▶ コンソールボックス背面



▶ トランク内コンセント



アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

□ 知識

■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。

一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計がAC100Vで最大1500W以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなります。故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- 各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。
- 一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・走行中の振動による電気製品の故障
 - ・車室内の温度変化※による電気製品の故障または作動不良
 - ・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■アクセサリコンセントについて

- コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のようなAC100Vの電気製品は、消費電力の合計が1500W以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100Vスイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が1500W以下になっているかを確認し、再度AC100Vスイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度AC100Vスイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください。(→P.96) 残量が少ない場合は、シフトレバーをPにして、駆動用電池の残量を回復させ、再度AC100Vスイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100Vスイッチを押してください。

- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。

誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライバー・ACアダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをする
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

 警告

- 電源プラグはコンセントにしっかりと挿し込み、電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。
 - コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
 - お子さまにコンセントをさわらせないでください。
 - コンセントにはほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
 - 電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。
- 駐車中または停車中に使用するとき**
次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。
- パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーをPにしていることを確認してください。
 - 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→P.40）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。
- 車外で電気製品を使用するときや、災害などによる非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムを使用してください。（→P.355）

⚠ 警告

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

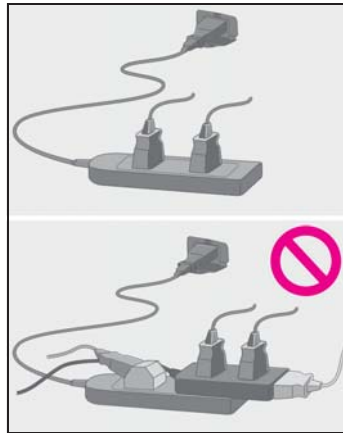
⚠ 注意

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりすると、故障や、ショートのおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら直ちに使用を中止してください。

**注意****■特に外気温が高いとき**

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめてから操作をやり直してください。

■特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

■電気製品の電源プラグをコンセントに接続するとき

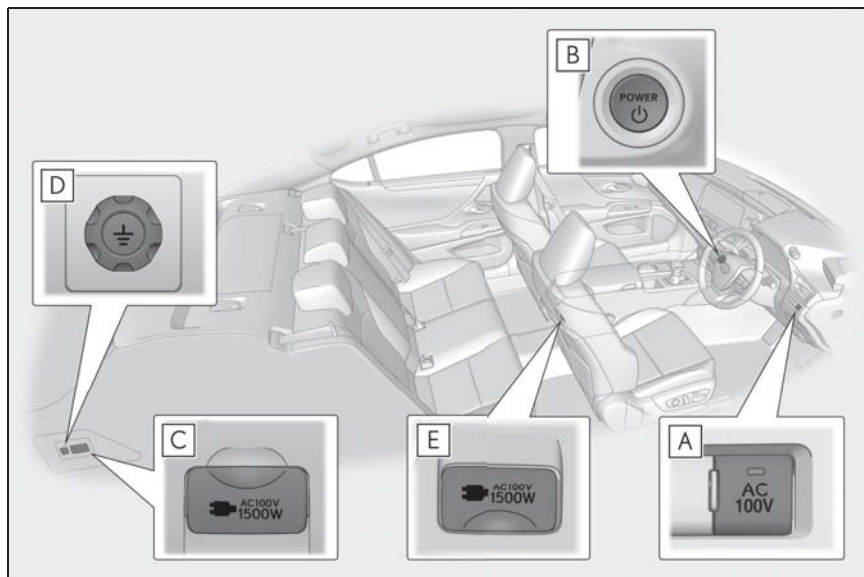
電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

非常時給電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

システムの構成部品



- A** AC100V スイッチ
- B** パワースイッチ (→P.172)
- C** トランク内コンセント
- D** アース端子
- E** 室内コンセント

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- パーキングブレーキがかかっていること

ること

- パワースイッチがOFFになっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気

のよい場所に駐車すること

- 地面が固く平らな場所に駐車すること

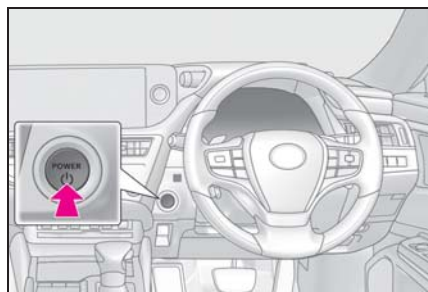
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

- 1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを2回押してONモードにする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



- 2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを3回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が1秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないことがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを4回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

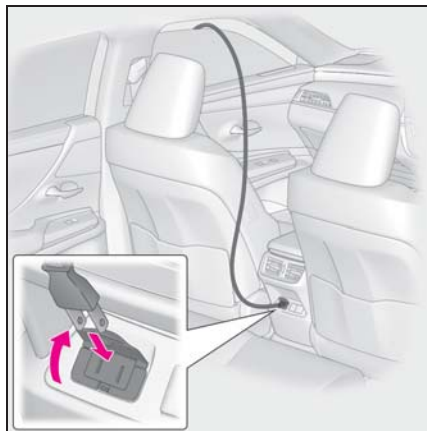


電気製品の電源プラグを接続するとき

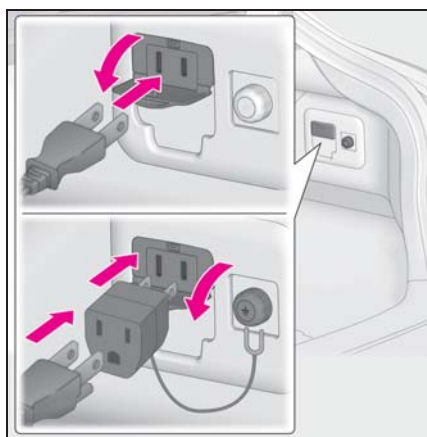
フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

コンセントはコンソールボックス背面、トランク内にあります。

▶ コンソールボックス背面



▶ トランク内コンセント



アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付プラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

電気製品が接続されていることがわかるように窓からコードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウィ

ンドスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。(→P.157)

非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

□ 知識

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンを始動した場合、条例にふれる可能性があります。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ 非常時給電システムについて

- AC100V で最大消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえることがあります。この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを

単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、ほかの電気製品と併用しないでください。

- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

- 給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- ・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっている

かを確認し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

- ・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
- マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、まず次の処置を行ってください。
- ・駆動用電池の残量を確認してください。(→P.96) 残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
- ・車内が高温になると、給電システムを保護するため給電システムが停止することがあります。その場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。
- ・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
- ・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

- マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

- ・“燃料の残量低下により給電停止しました”

燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。

- ・ “シフトポジション切りかえにより給電停止しました”
シフトレバーがPから切りかわったため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 非常時給電システムの使用中

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 電子キーでドアの施錠・解錠することはできません。メカニカルキー(→P.441)のみでドアの施錠・解錠ができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。
- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.188を参照してください。

■ 電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ(50 / 60Hz)機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム(外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など)に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- 非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPから切りかえないでください。
- 非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。
- 非常時給電システムの使用中は、お子様や介護を必要とする方、ベットの車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

 警告

- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをするプラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 電源プラグはコンセントにしっかりと差し込み電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにはこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでおいてもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすることがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

警告

- 車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。
- **接続する電気製品について**
- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

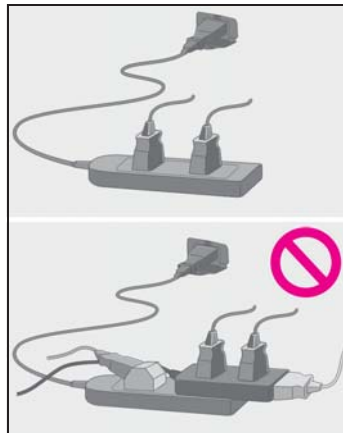
注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ **ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障や、ショートのおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら直ちに使用を中止してください。

**注意****■ 非常時給電システムの使用中**

長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出る場合がありますが、異常ではありません。

■ 特に外気温が高いとき

● 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

● 給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。

■ 特に外気温が低いとき

● 駆動用電池を保護するため、給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

● 排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■ 電気製品の電源プラグをコンセントに接続するとき

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源がOFFになっていることを確認してください。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 364

内装の手入れ 368

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 371

ガレージジャッキ 372

ウォッシュャー液の補充 373

タイヤについて 374

タイヤ空気圧について 382

エアコンフィルターの交換 383

駆動用電池冷却用吸入口／フィル
ターの清掃 385

電子キーの電池交換 388

ヒューズの点検・交換 390

電球（バルブ）の交換 392

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を温めると、

復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラー★またはデジタルアウトターミラーのカメラ部★を格納する
 - ・ パワートランクリッドを停止する

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラー★またはデジタルアウトターミラーのカメラ部★を復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラー★が引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する
（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、ス

マートエントリー & スタートシステムの作動を停止する (→P.119)

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について (F SPORT 専用オレンジブレーキキャリパー装着車)

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などの汚

れを落とす

- ・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部分のお手入れについて

メッキ部分の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

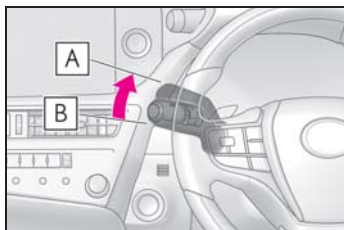
エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.200)

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

● 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

● 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

● フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

● 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、ハイブリッドシステムが作動しているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニターについて

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

 注意

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.200)

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。

高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る



知識

■ カーベットの洗浄について

カーベットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。



警告

■ 車両への水の浸入

- 床・リヤ席・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.63)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.32)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

⚠ 注意

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.206)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

📖 知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約5%にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

📖 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

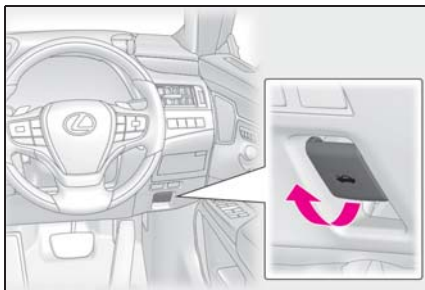
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめて
やわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面
に残った洗剤・水分をふき取る

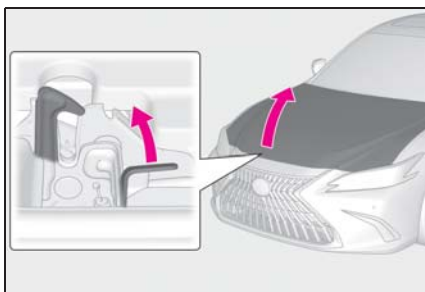
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。

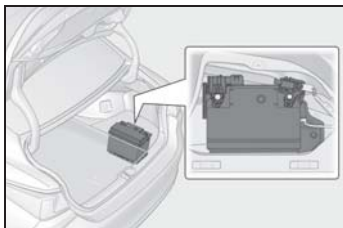


- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



■補機バッテリーについて

- この車両の補機バッテリーはトランク（運転席側）のラゲージマット内にあり、エンジンルームには搭載されていません。



- 補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.443）



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

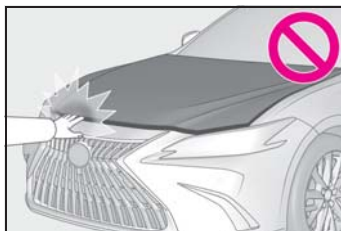
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていることを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告

■ 補機バッテリーの取り扱いについて
→P.447

注意

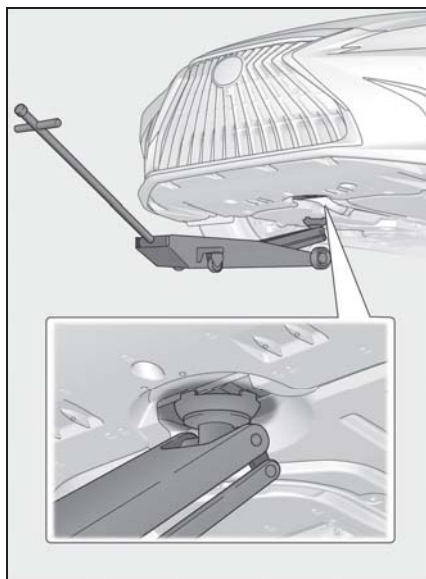
■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

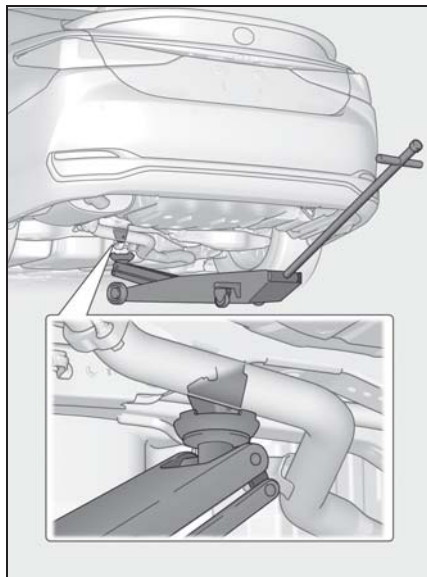
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する**■ フロント側**

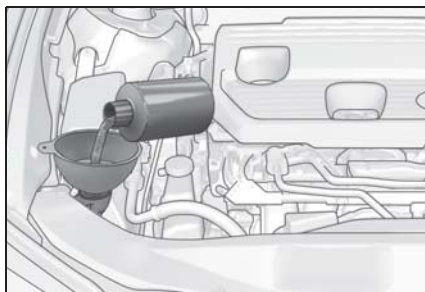
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに“ウォッシャー液を補充してください”と表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

**注意****■ ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無**● タイヤの溝の深さ****● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無****知識****■ タイヤ空気圧の数値****▶ 17 インチ／18 インチタイヤ**

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

後輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

▶ 19 インチタイヤ

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

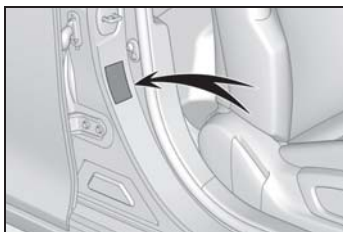
▶ 応急用タイヤ★

420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

● タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

● 17 インチタイヤ装着車：
18 インチ／19 インチタイヤ装着車とタイヤの切れ角度が異なります。そのため、18 インチ／19 インチタイヤを装着した場合、周辺部品と十分な隙間が確保できないため、装着できません。

■ 低扁平タイヤについて（18 インチ／19 インチタイヤ装着車）

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1 ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

また、雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告**■異常があるホイールの使用禁止**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**■低扁平タイヤについて（18 インチ／19 インチタイヤ装着車）**

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

- 適切なタイヤ空気圧で使用する
空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路面、路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける
タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

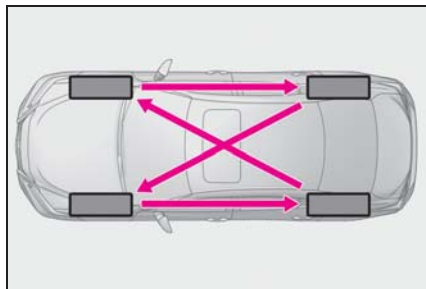
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテー

ションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識**■タイヤローテーションを行うとき**

必ずパワースイッチがOFFの状態で行ってください。ONモードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったんOFFにしてから再度ONモードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下して

いる場合、画面表示と警告灯で警報します。(→P.410, 415)

- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→P.85)

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。



知識

■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示について

- パワースイッチを ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システ

ムが正しく作動しない場合があります。

- ・ 純正ホイール以外を使用したとき
- ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・ 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムの警報精度について

タイヤ空気圧警報システムの精度は、システムを初期化したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、初期化したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。

■ 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。(→P.380)



知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。



注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

- バルブキャップを必ず取り付けてください。
バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。
バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ バンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
(→P.378)

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき
(→P.380)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。また、タイヤの位置判定を行います。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上ハイブリッドシステムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 ハイブリッドシステムを始動する (→P.172)

- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する

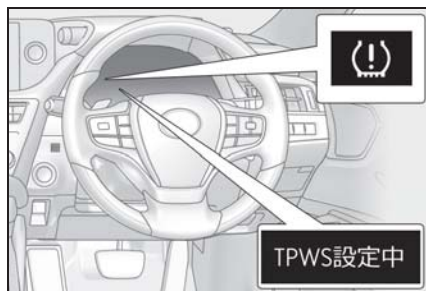
- 5 メーター操作スイッチの  または  を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

- 6 メーター操作スイッチの  または  を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す

- 7 メーター操作スイッチの  または  を押し、“初期化”を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまで“OK”を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が“--”になり、タイヤ

の位置判定を開始します。



- 8 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■ 初期化するとき

- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ 初期化操作について

- 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ 初期化がうまくいかないとき

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
 - ・ 約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・ 未舗装の場所を走行した
 - ・ 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

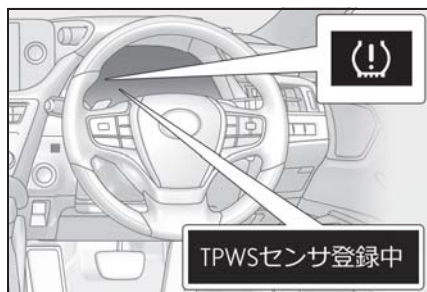
- 1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）
- 2 ハイブリッドシステムを始動する（→P.172）
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

- 5 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す
- 6 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押し、“自動 ID 登録”を選択して“OK”をタイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまで押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が“--”になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。



- 7 約 2 分間待つ
- すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。
- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合
- 8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.379)
- ▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合
- 8 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する
- 約 40km/h 以上を維持できない場合でも

時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

- 9 タイヤ空気圧警報システムを初期化する (→P.379)

知識

■ ID コードの登録をするときは

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。
- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ ID コード登録の中止について

- ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
- ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON モードにしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。

タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

- しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ ID コードの登録がうまくいかないとき

- 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
 - ・走行前に約 15 分以上駐車していない
 - ・約 40km/h 以上を維持して走行していない
 - ・未舗装の場所を走行した
 - ・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
 - ・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある
- 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
- 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご相談ください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。
低扁平タイヤの場合、2 週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等につけないようにする

警告**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

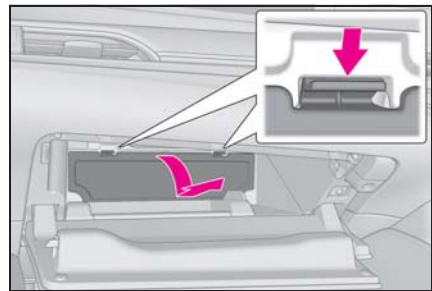
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

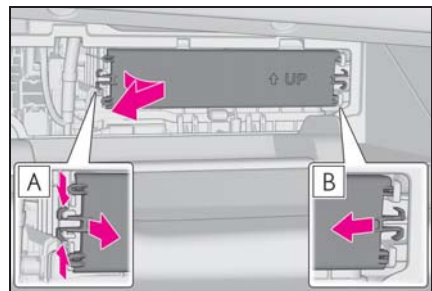
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

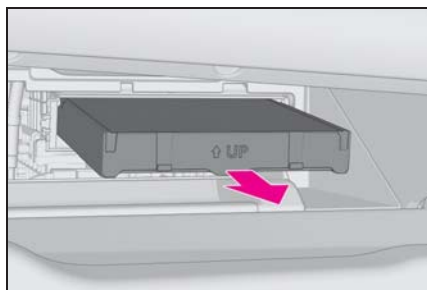
- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開ける
- 3 パネルを取りはずす



- 4 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィルターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

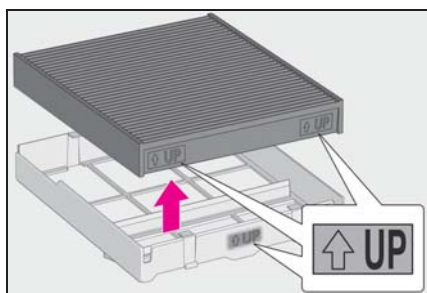


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km[7500km^{※1}] ごと、ただし
12ヶ月をこえないこと^{※2}

^{※1}大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2}芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますの

で、フィルターを交換してください。



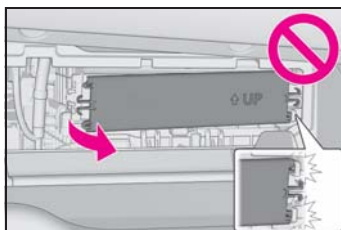
注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



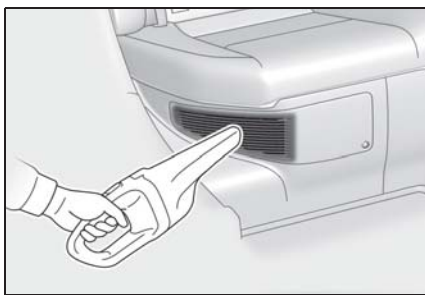
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。(→P.387)

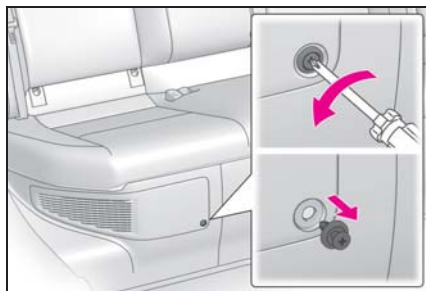


ほこりを取り除ききれないときは

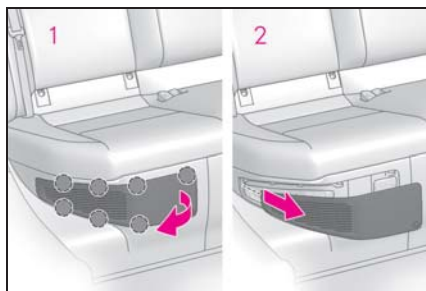
次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

- 1 パワースイッチを OFF にする

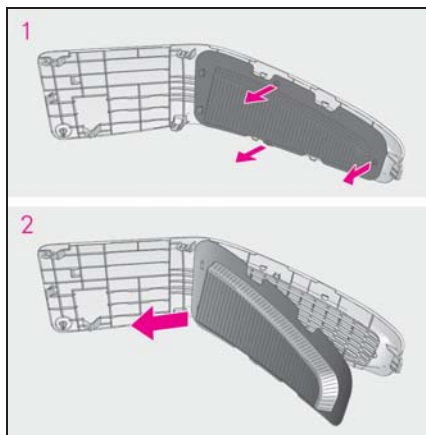
- 2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



- 3 吸入口カバーを取りはずす

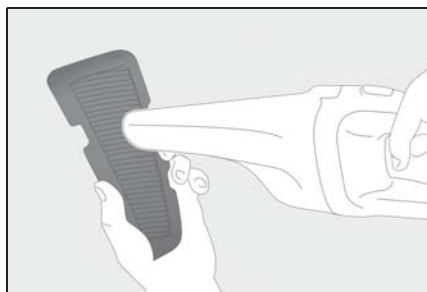


- 1 吸入口カバーを手前に引いて、図で示す 7ヶ所のツメを右端からはずす
- 2 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす
- 4 フィルターを取りはずす

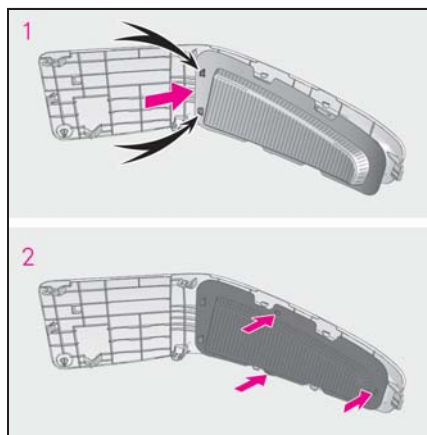


- 1 図で示す 3ヶ所のツメからフィルターをはずす
- 2 吸入口カバーからフィルターを取りはずす
- 5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



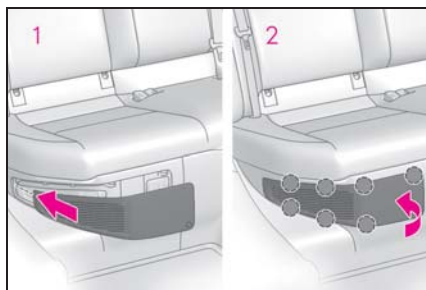
- 6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける



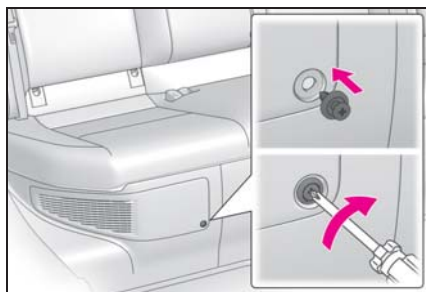
- 1 図で示す 2ヶ所のツメにフィルターを引っかける
- 2 残り 3ヶ所のツメにフィルターを取り付ける

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

- 7 吸入口カバーを取り付ける



- 1 吸入口カバー左端のツメを差し込む
- 2 図で示す 7ヶ所のツメを取り付ける
- 8 プラスドライバーを使用してクリップを取り付ける



知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

- 吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性

能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

- 誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身の清掃に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたとき
- 吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。(→P.385)
- 清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

■ 吸入口カバーを取りはずすときは

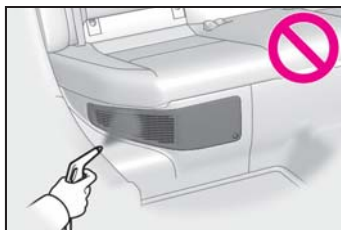
吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。(→P.61)

注意

■ 吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因となったりするおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

- 吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、レクサス販売店で新しいフィルターに交換してください。
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

 注意

■ マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ カードキーの電池交換が必要なとき

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

事前に準備するもの

電池交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

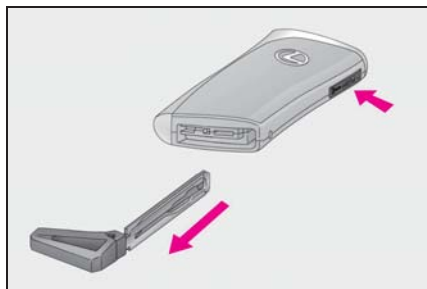
 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

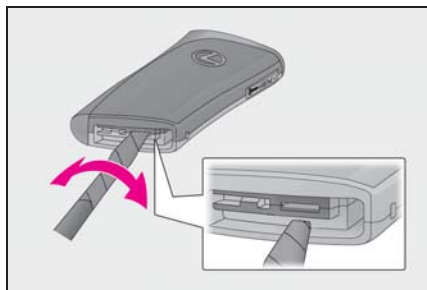
電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



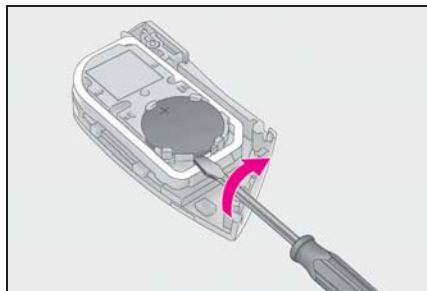
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
 - 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさせないでください。
 - カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
 - 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ### ■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために
- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
 - 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
 - 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

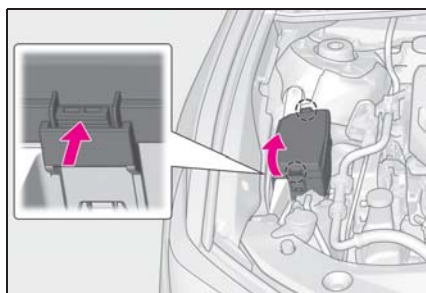
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

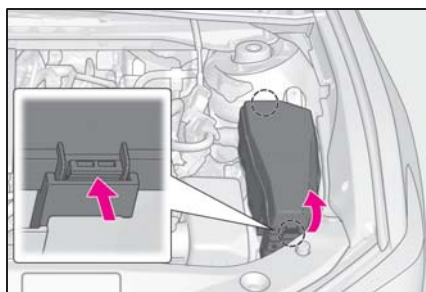
▶ エンジンルーム (1)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム (2)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

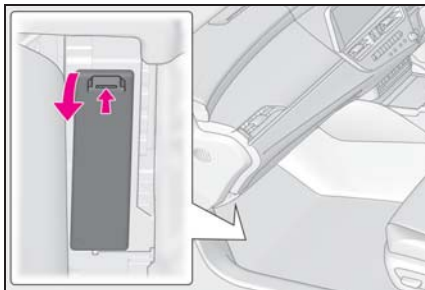


▶ 助手席足元

ツメを押しながら、ヒューズボックスカバーを取りはずす

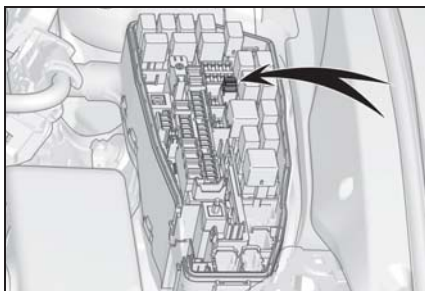
取りはずすときや、取り付けるときはツ

メを押してください。

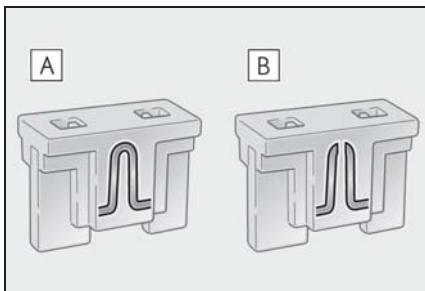


3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしてヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P.392)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかる

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

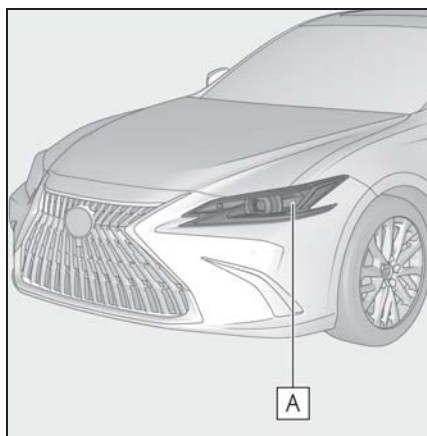
■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球の W（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の位置



A フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

■ レクサス販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／デイトタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ装着車）
- コーナリングランプ

- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ドアハンドル照明
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯
- リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

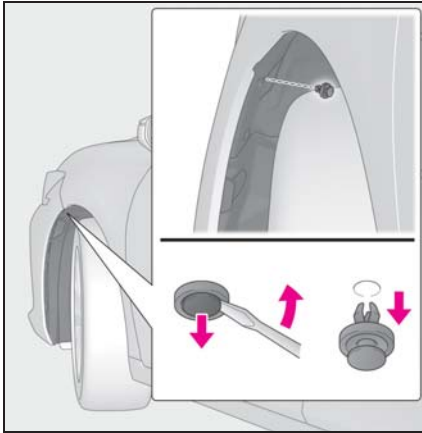
電球交換をするには（三眼フル LED ヘッドランプ非装着車）

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

- 1 交換するランプの反対側にハンドルをいっぱいまでまわしてスペースを広げ、クリップを取りはずす

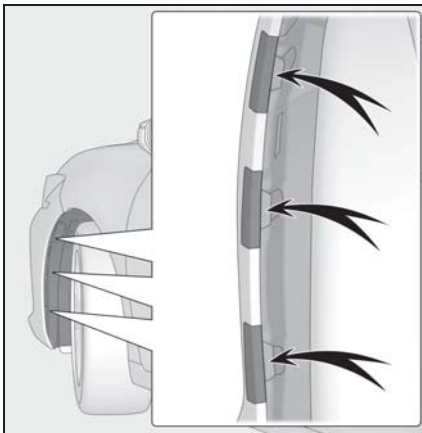
運転席側を交換するときは左に、助手席側を交換するときは右にハンドルをまわ

します。



- 2** 傷が付くのを防ぐため、図のようにフロントバンパーに保護テープを貼る

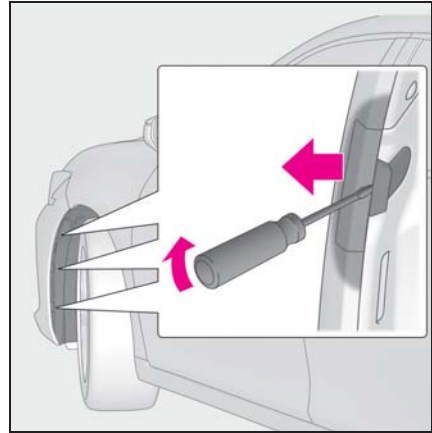
マスキングテープなど粘着力の弱いテープを使用してください。保護テープを取りはずす際に跡が残ったり、塗装が損傷するおそれがあります。



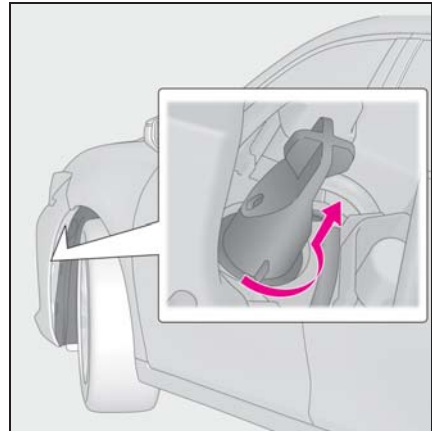
- 3** フロントバンパーとフェンダーライナーのあいだにマイナスドライバーを挿し込み、ツメのかん合をはずす

図のようにフロントバンパーを外側へ引くと、ツメのかん合がはずれやすくなり

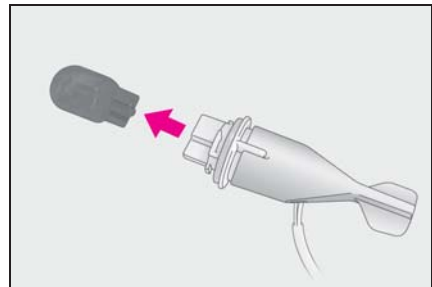
ます。



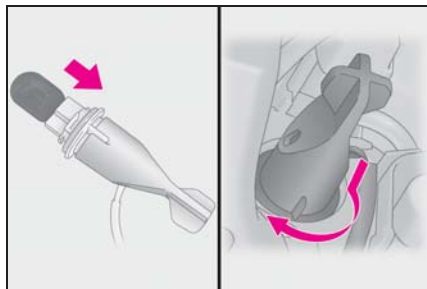
- 4** フェンダーライナーをめくり、ソケットを左にまわして取りはずす



- 5** 電球を取りはずす

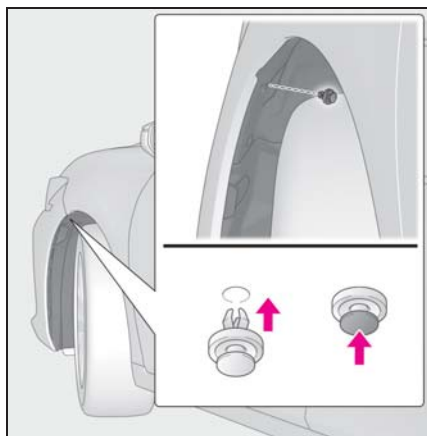


- 6 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

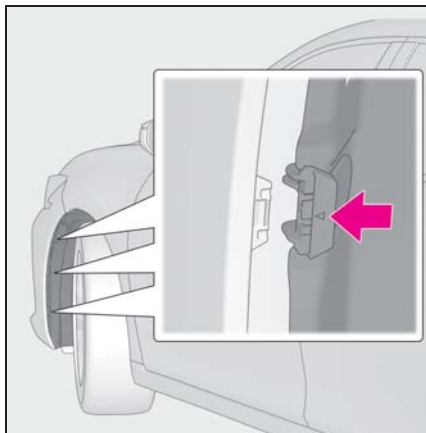


- 7 フェンダーライナーをもとにもどし、クリップを取り付ける

フェンダーライナーがフロントバンパー内側の正しい位置にあるか確認してください。



- 8 フロントバンパーにフェンダーライナーのツメをかみ合わせて固定し、保護テープをはがす



⚠ 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

 警告**■ お車の故障や火災を防ぐために**

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは.....	398
非常点滅灯（ハザードランプ）..	399
発炎筒	399
車両を緊急停止するには	400
水没・冠水したときは	401

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	403
警告灯がついたときは	407
警告メッセージが表示されたときは	415
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）	421
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	432
ハイブリッドシステムが始動できな いときは	438
キーをなくしたときは	440
給油扉が開かないときは	440
電子キーが正常に働かないときは	441
補機バッテリーがあがったときは	443
オーバーヒートしたときは	448
スタックしたときは	451

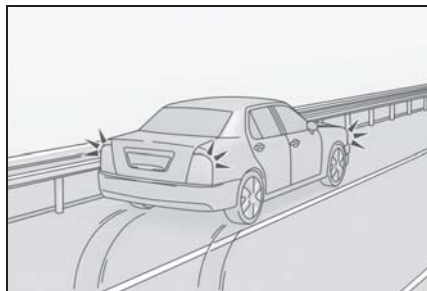
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

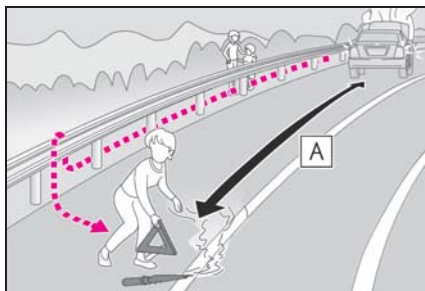
- 非常点滅灯（→P.399）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.399）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

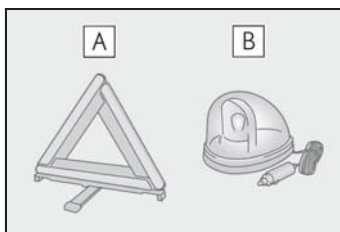
- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

非常点滅灯（ハザードランプ）

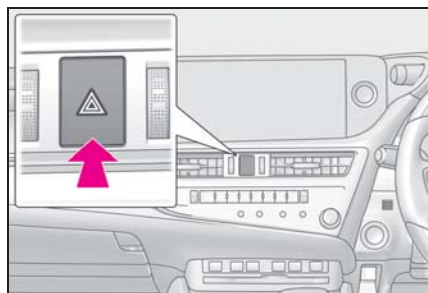
事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。



■ 非常点滅灯について

- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

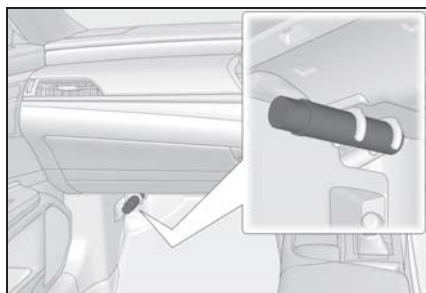
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。

（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）

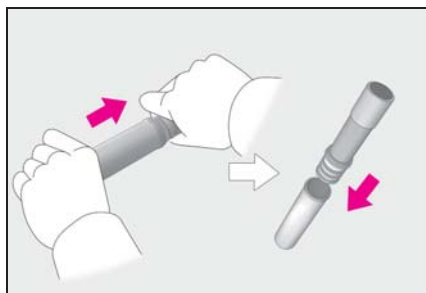
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



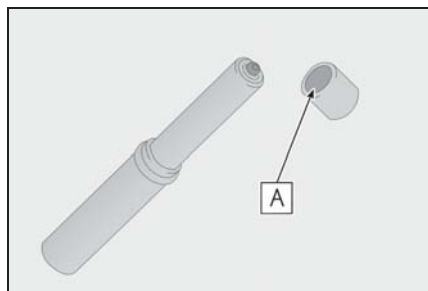
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

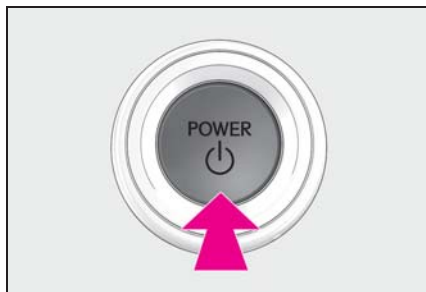
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されています。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識**■ 水位がフロアをこえると**

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー ※ の使用について

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。

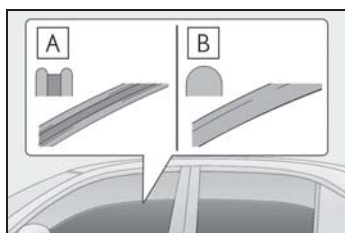
合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー ※ で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ 合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス



警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。



注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

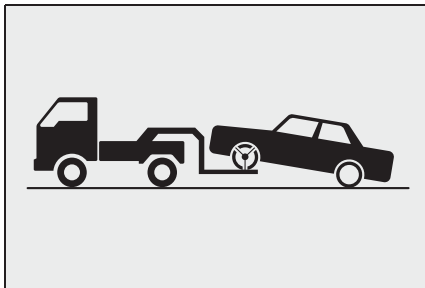
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

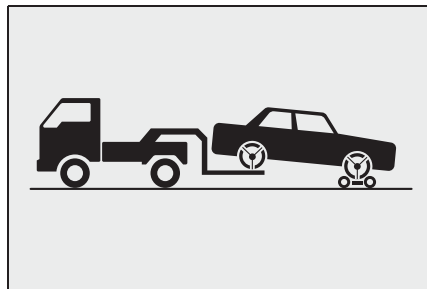
▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.184)

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

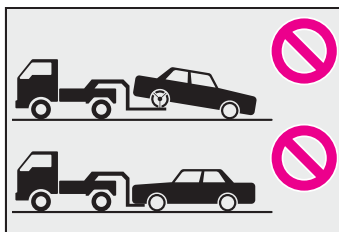


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

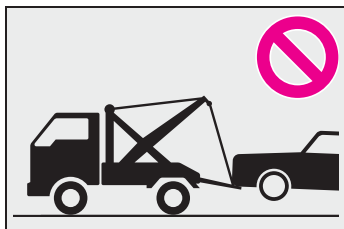
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

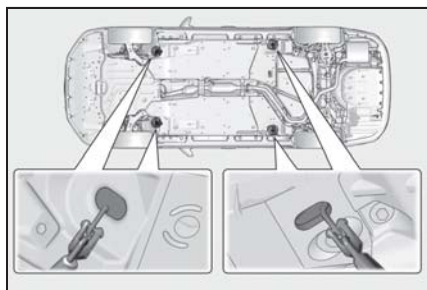
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

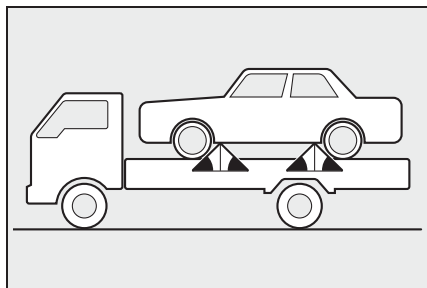


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45° になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

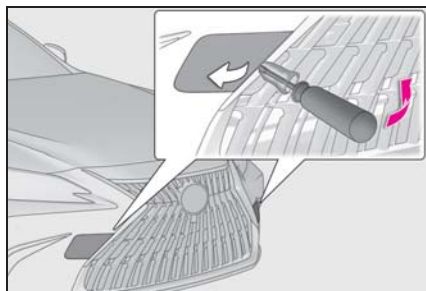
ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

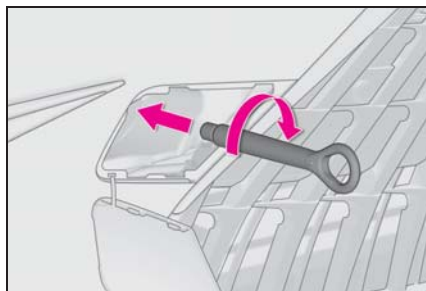
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 トランク内のけん引フックを取り出す (→P.422, 432)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



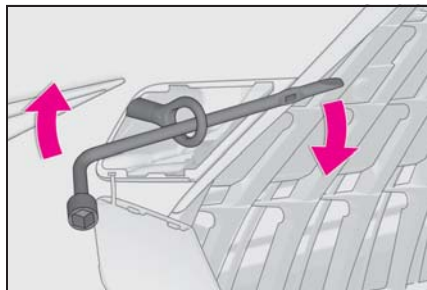
- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチ★※や金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店で購入することができます。



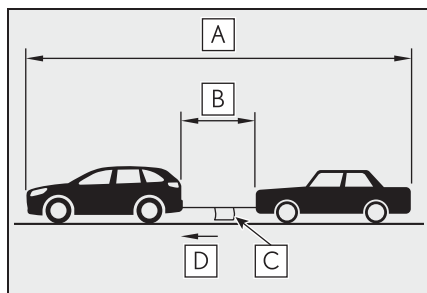
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。

(→P.184)

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないとき

は：→P.180

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチ★※について

トランクに搭載されています。

(→P.422, 432)

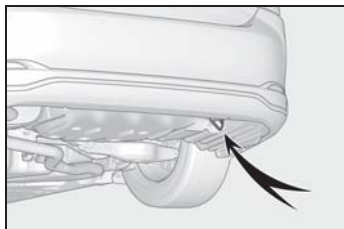
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することは

できません。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.448）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ポップアップフード警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した → ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。 レクサス販売店で交換してください。 ポップアップフードの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ●アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 7L 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一

定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※¹ (警告ブザー ※²)

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※¹マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でパワースイッチを ON にした場合、一定時間点灯します。

※²リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間継続的に鳴ります。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 → レクサス販売店で点検を受けてください。 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.413）に従ってください。

■ LTA 表示灯 ※ (警告ブザー)

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.229）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： クリアランスソナーの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.270)

■ RCTA OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.261）に汚れや付着物がある → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.277)

■ RCD OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： RCD（リヤカメラディテクション）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.283)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.290）

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	警告ブザーが鳴った場合： ブリクラッシュセーフティの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合： ブリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.209, 415） ブリクラッシュセーフティがOFF、またはVSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.221

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 → 安全な場所に停車し、対処方法（→P.448）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ フロントドア開警告灯★※

警告灯	警告内容・対処方法
	フロントドアが完全に閉っていない フロントドアが少しでも開いていると、デジタルアウターミラーの映像が正しく表示されません。 → フロントドアを閉める

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ デジタルアウターミラーディスプレイに表示されます。

■ マスターウォーニング（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 → P.415



知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警

告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.421, 432

パンクしていないときは：

パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON モードにして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認し

てください。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

- ▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
- 2 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う (→P.378)

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ 応急用タイヤ★に交換した場合

応急用タイヤには空気圧バルブ／送信機は装備されていません。タイヤがパンクした場合、応急用タイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.377

⚠ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤがパンクしている場合は応急用タイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

警告

- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。

タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

- **タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

- **タイヤ空気圧警報システムについて**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.378）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

F SPORT 以外：

**A** マスターウォーニング

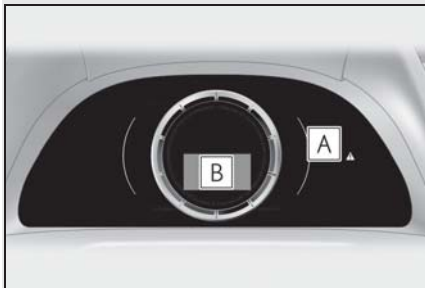
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

F SPORT（メーターリング中央時）：



A マスターウォーニング

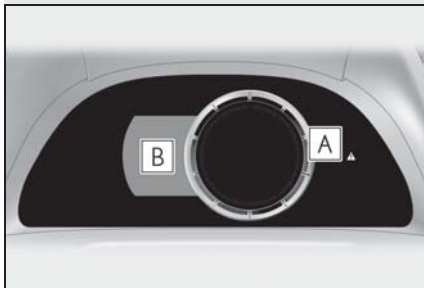
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

F SPORT（メーターリング移動時）：



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によってマスターウォーニングや警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	警告ブザー ※	警告内容
点灯	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
点滅	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

- 上記の点灯・点滅状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。
- メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.407）に従ってください。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください”が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオ

イル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります”が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.448

■ “駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■ “アクセルペダルが踏まれています” が表示されたときは

シフトレバーが P で、アクセルペダルを

踏んだときにメッセージが表示されます。アクセルペダルから足を離してください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “電力消費が大きい一部空調・ヒータ作動を制限中です” が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●マルチウェザーライト★

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■ “クルーズコントロール一時使用不可
取扱書を確認ください”が表示された
ときは

レーダークルーズコントロール（全車速
追従機能付き）のシステムが一時的、ま
たは対処を行うまで使用できません。（要
因および対処方法 →P.209）

■ “クルーズコントロール 現在使用でき
ません”が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速
追従機能付き）のシステムが一時的に使用
不可と判断されています。しばらく走行
してからレーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付き）を再度設定し
てください。

■ 前方カメラの異常を示すメッセージが
表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消され
るまで、以下のシステムは作動しない可
能性があります。（→P.209, 407）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHS（アダプティブハイビームシステム）★
- AHB（オートマチックハイビーム）★
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能
- ドライバー異常時対応システム

★：グレード、オプションなどにより、装
備の有無があります。

■ レーダーの異常を示すメッセージが表
示されたときは

メッセージに表示された異常が解消され
るまで、以下のシステムは作動しない可
能性があります。（→P.209, 407）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- 先行車発進告知機能

■ 販売店で点検をうながすメッセージ
が表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシス
テム、または部位などに問題が発生して
います。すみやかにレクサス販売店で点
検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが
表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、
対処方法に従ってください。
 - ・ “エンジン冷却水高温”（→P.448）
- 次のメッセージが表示されたときは、
故障している可能性があります。ただ
ちにレクサス販売店で点検を受けてく
ださい。
 - ・ “スマートエントリー&スタートシ
ステム故障”
 - ・ “ハイブリッドシステム故障”
 - ・ “エンジン系故障”
 - ・ “バッテリー系故障”
 - ・ “アクセル系故障”
- 次のメッセージが表示されたときは、
故障している可能性があります。ただ
ちに安全な場所に停車し、レクサス販
売店へ連絡してください。走行を続け
ると危険です。
 - ・ “故障のためブレーキ力が低下”
 - ・ “充電システム故障”
 - ・ “エンジン油圧不足”

- 次のメッセージが表示されたときは、
ガス欠になっている可能性があります。
ただちに安全な場所に停車し、燃料残
量が少ない場合は給油してください。
（→P.61）
 - ・ “ハイブリッドシステム停止”

- ・ “エンジン停止”
 - “補機バッテリー（始動用）充電不足” が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
 - ・ 数秒後※ に表示が消えたときは：ハイブリッドシステムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
 - ・ 表示が消えないときは：「補機バッテリーがあがったときは」（→P.443）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。
- ※ 約 6 秒間表示されます。
- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
 - ・ 駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は P.385 の要領で清掃してください。
 - ・ 駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、レクサス販売店で点検を受けてください。



注意

- “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” がひんばんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

- “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたとき

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.421）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

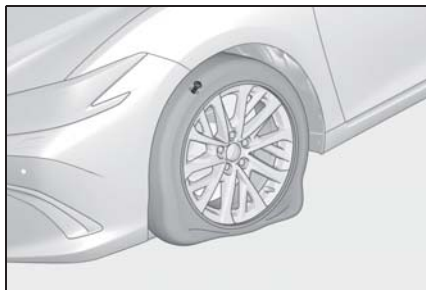
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

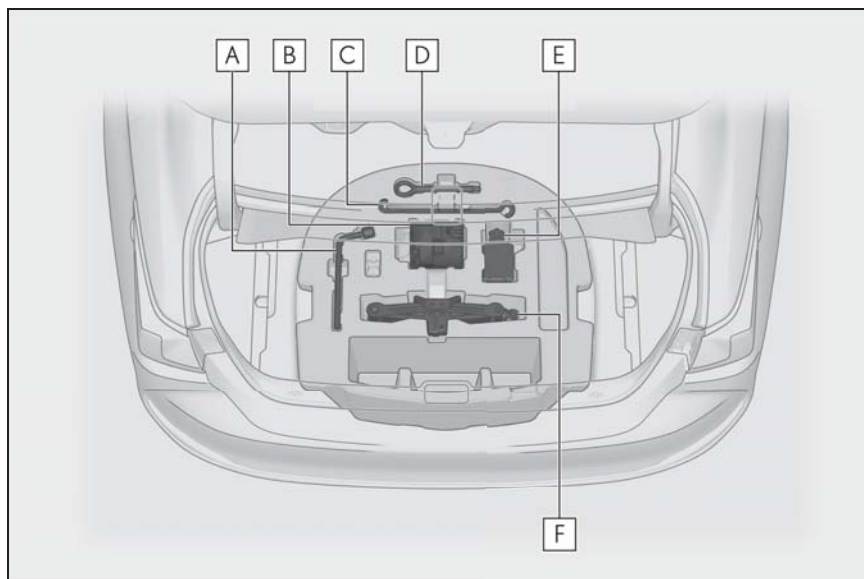
■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

- 補修液の有効期限がきれているとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置



- A** ホイールナットレンチ ※1
- B** タイヤパンク応急修理キット（コンプレッサー）
- C** ジャッキハンドル ※1
- D** けん引フック
- E** タイヤパンク応急修理キット（ボトル）
- F** ジャッキ ※1, 2

※1 ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチは工場出荷時には搭載されていませんが、レクサス販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

※2 ジャッキの使い方（→P.434）

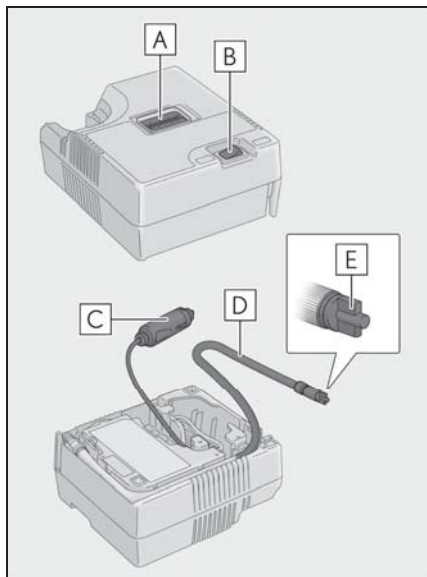
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液

の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

！ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

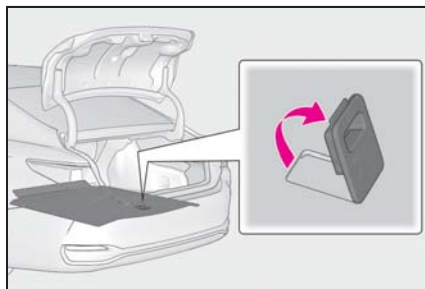
■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

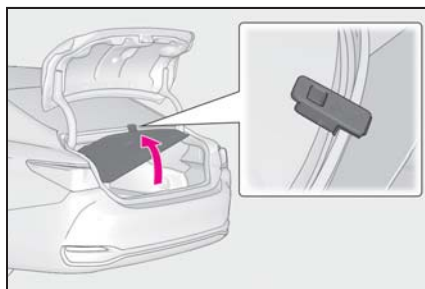
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理キットを取り出すには

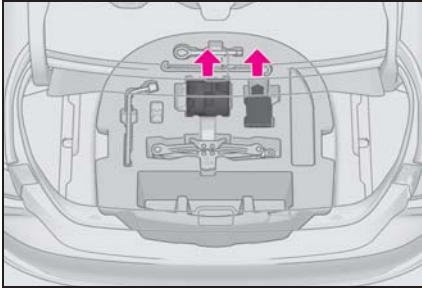
- 1 トランクを開ける
- 2 フックを持ってラゲージマットを引き上げる



- 3 フックを使ってラゲージマットをトランクの端にかけ固定する



4 応急修理キットを取り出す



⚠ 注意

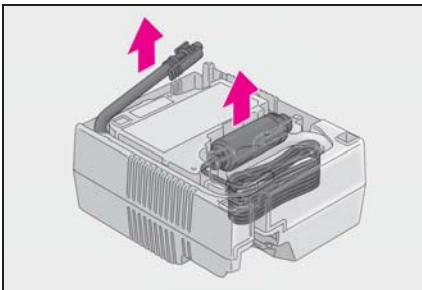
■ラゲージマットの損傷を防ぐために
トランクを閉めるとき、ラゲージマット
のフックをトランクの端にかけたま
まにしないでください。

応急修理をするには

1 応急修理キットをピニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の
位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

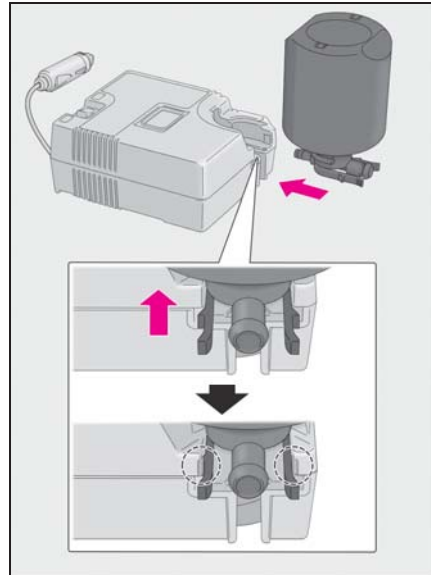
2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

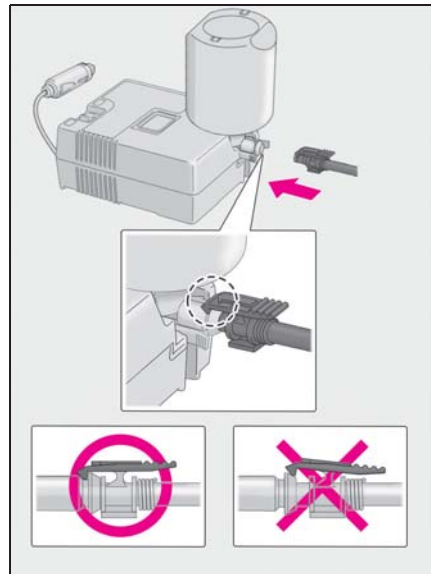
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。



4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかりと
接続しているか確認してください。

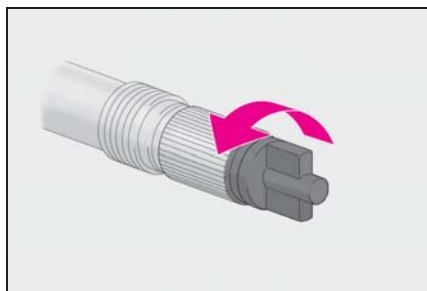


- 5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



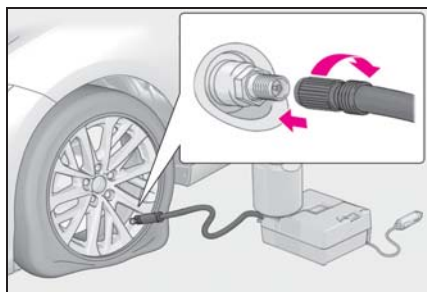
- 6 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

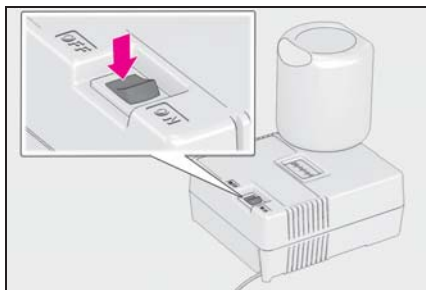


- 7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

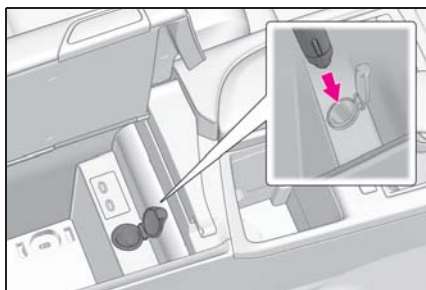


- 8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する

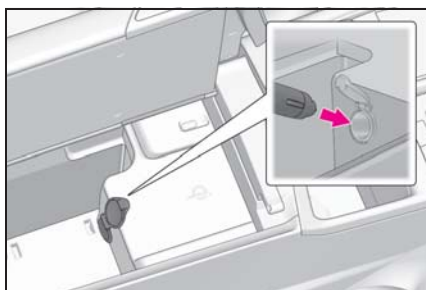


- 9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む

▶ フロント（おくだけ充電 [ワイヤレス充電器] 非装着車）

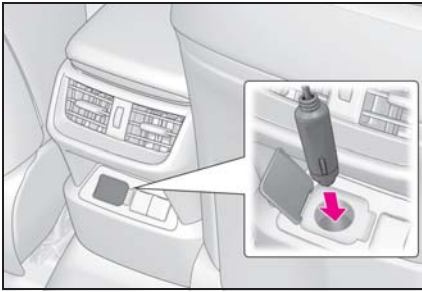


▶ フロント（おくだけ充電 [ワイヤレス充電器] 装着車）

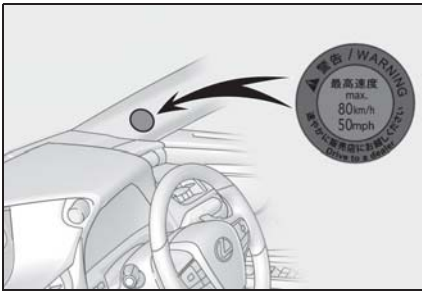


▶ リヤ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

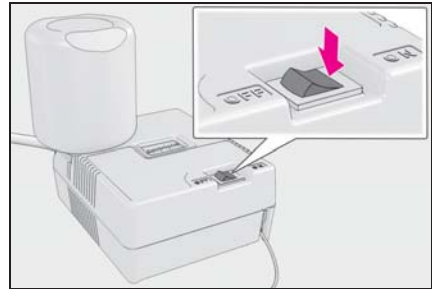


11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.374)

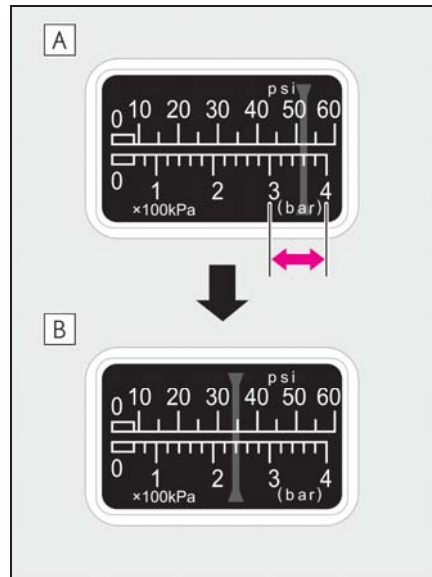


12 ハイブリッドシステムを始動する
(→P.172)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



- A** 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B** スwitchを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

（→P.374, 457）

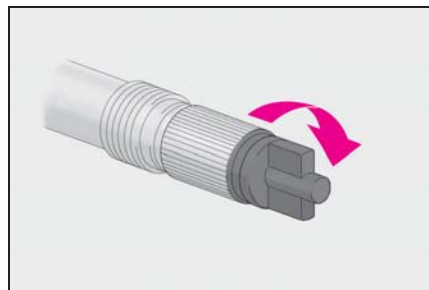
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



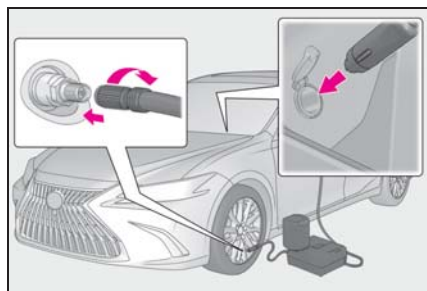
- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、

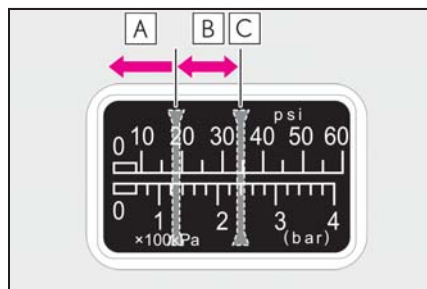
速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



- 21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



- A** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- B** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

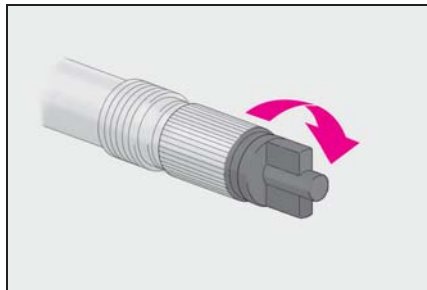
- C** 空気圧が指定空気圧（→P.374）の場合：手順 **23** へ

- 22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填

し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランク内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、レクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス売店にご相談ください。

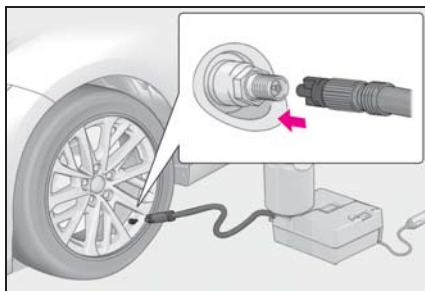
レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。



知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急（パンク）修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

⚠ 警告

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

 注意

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ほこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

■ バンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

パンクしたときは（応急用 タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの
応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は
P.374 を参照してください）

警告

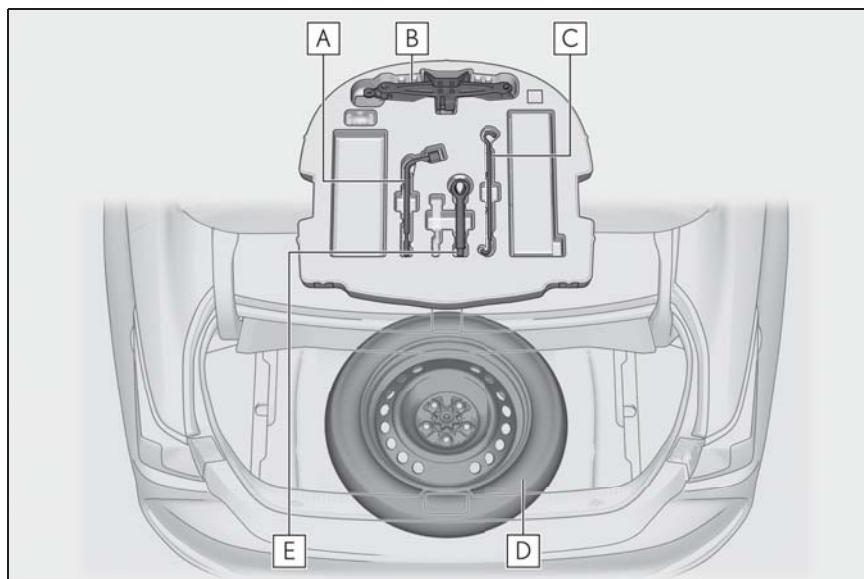
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修
理できないほど損傷したり、思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
（→P.399）

工具とジャッキの位置



A ホイールナットレンチ

B ジャッキ

C ジャッキハンドル

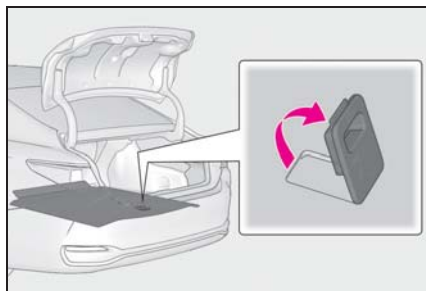
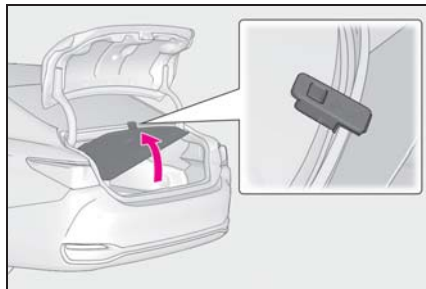
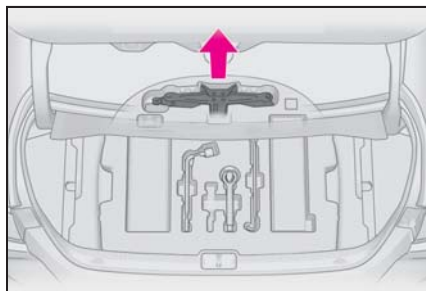
D 応急用タイヤ

E けん引フック

警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ジャッキは必ずこの車両用のものを使用し、他の車のジャッキを使用しないこと
- この車両用のジャッキはお客様の車にしか使うことができないため、他の車に使用しないこと
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

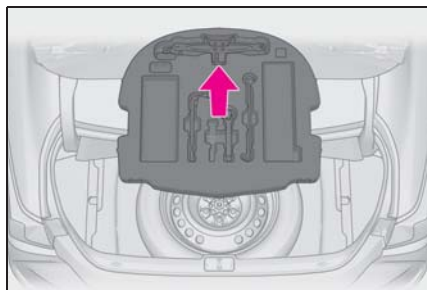
ジャッキを取り出すには**1 トランクを開ける****2 フックを持ってラゲージマットを引き上げる****3 フックを使ってラゲージマットをトランクの端にかけ固定する****4 ジャッキを取り出す****注意**

■ ラゲージマットの損傷を防ぐために

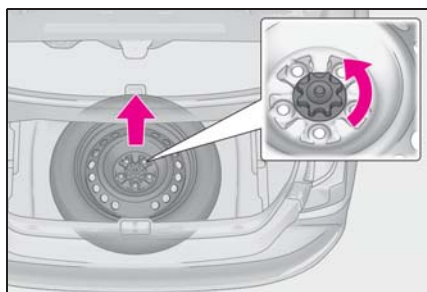
→P.425

応急用タイヤを取り出すには

- 1 デッキアンダーボックスを取りはずす



- 2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



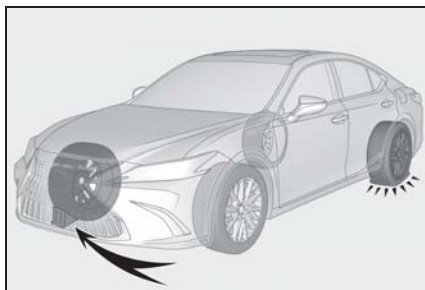
⚠ 警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

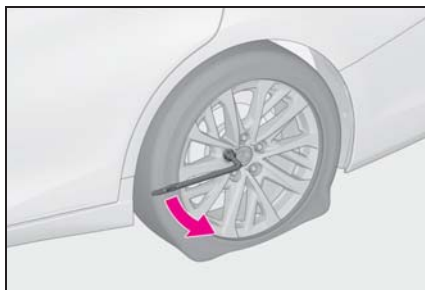
- 1 輪止め※をする



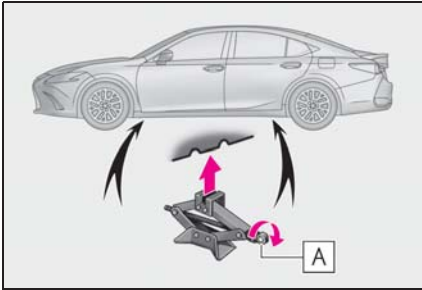
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

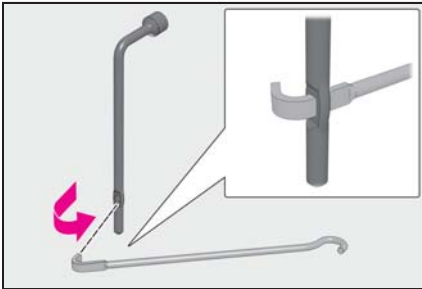
- 2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



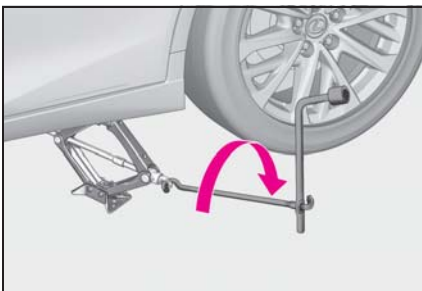
- 3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



- 4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上

します。



警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

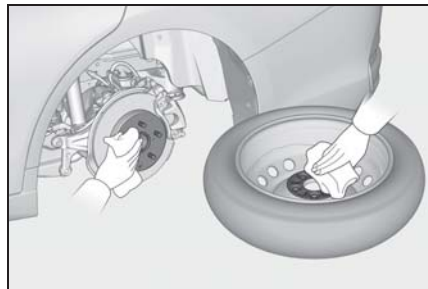
警告

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ ホイールの交換後はすぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

応急用タイヤを取り付けるには

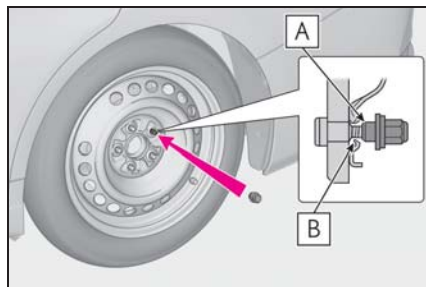
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

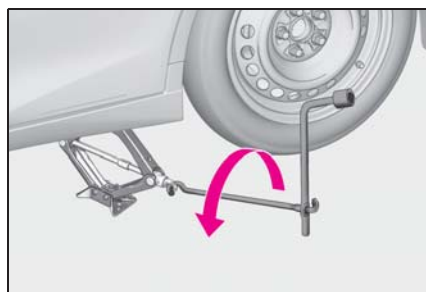


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部 **A** がホイールのシート部 **B** に軽くあたるまでまわします。



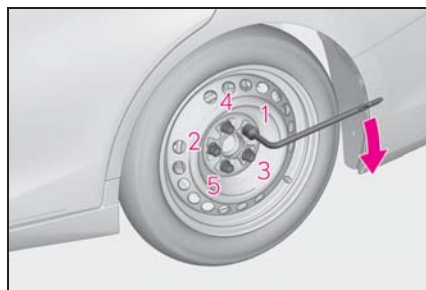
3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

$103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する



知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P.457)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは(17インチタイヤ装着車)

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する



警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります。次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC

- ・ TRC
- ・ NAVI・AI-AVS★
- ・ レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付き)
- ・ PCS(プリクラッシュセーフティ)
- ・ EPS
- ・ LTA(レーントレーシングアシスト)
- ・ バックガイドモニター★
- ・ クリアランスソナー
- ・ パーキングサポートブレーキ(静止物)
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ パノラミックビューモニター★
- ・ BSM(ブラインドスポットモニター)
- ・ AHB(オートマチックハイビーム)★
- ・ AHS(アダプティブハイビームシステム)★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意

■ 応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.172）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.441）
- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P.65）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ -30℃以下）可能性があります。（→P.61, 173）

**室内灯・ヘッドランプが暗い／
ホーンの音が小さい、または鳴
らない場合**

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.443)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。(→P.371)

**室内灯・ヘッドランプが点灯し
ない／ホーンが鳴らない場合**

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.443)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。(→P.371)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、
レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す
(→P.183)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯

が点灯します。

- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

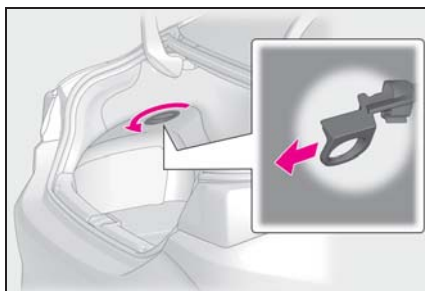
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

給油扉が開かないときは

給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

給油扉を開くには

トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.119)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。



知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- センターディスプレイまたはレクサス販売店でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.119)



注意

- スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

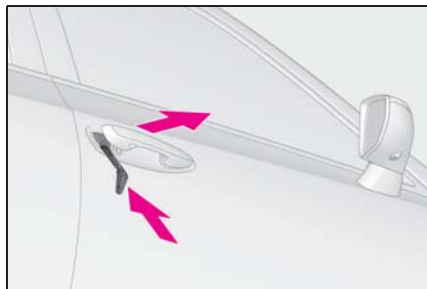
車両に付属しているすべての電子キーとカードキーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

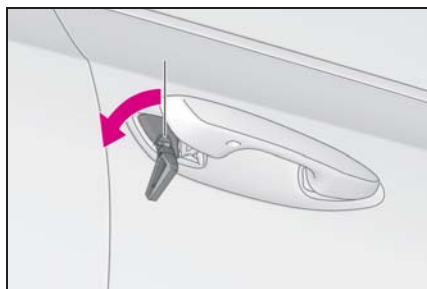
メカニカルキー (→P.105) を使って次の操作ができます。

■ ドアの施錠・解錠

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



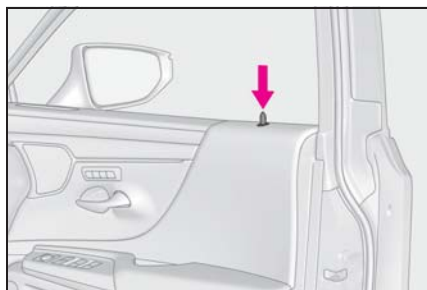
- 2 キーを回してドアを解錠する



- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルをもとにもどしたあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアを施錠するには

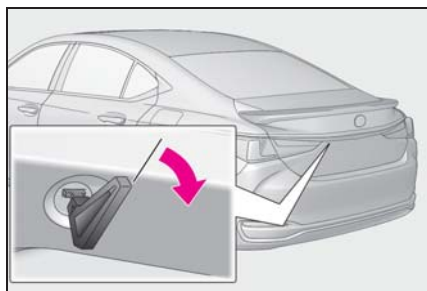
- 1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる



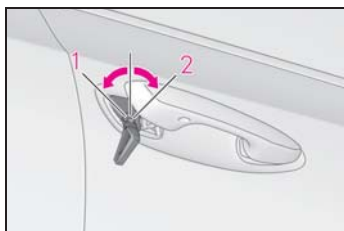
- ▶ フロント席ドア
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
- ▶ リヤ席ドア
- 2 ドアを閉める

■ トランクの解錠

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける



■ キー連動機能



- 1 ドアガラスとムーンルーフが開く（まわし続ける）※
- 2 ドアガラスとムーンルーフが閉まる（まわし続ける）※

※ レクサス販売店での設定が必要です。

⚠ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

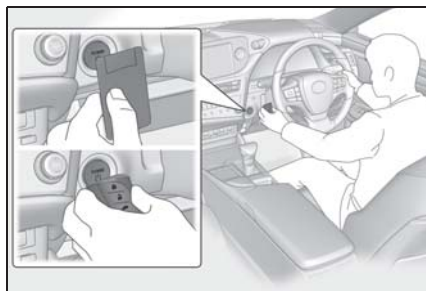
ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 シフトレバーがPの状態ではブレーキペダルを踏む
- 2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONモードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにが表示されていることを確認する
- 4 パワースイッチを短く確実に押す
処置をしても作動しないときは、

レクサス販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.388)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.66)

■ モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.175)

補機バッテリーがあがったときは

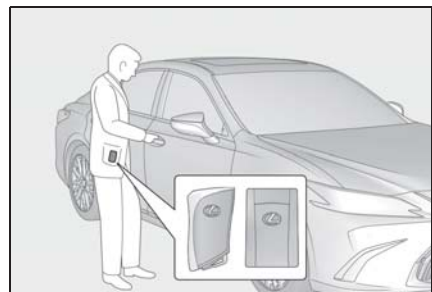
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

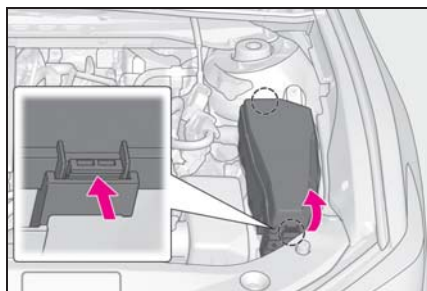
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.67)

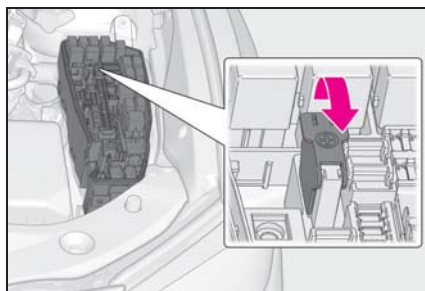


2 ボンネットを開けて(→P.371)、ヒューズボックスのカバーをはずす

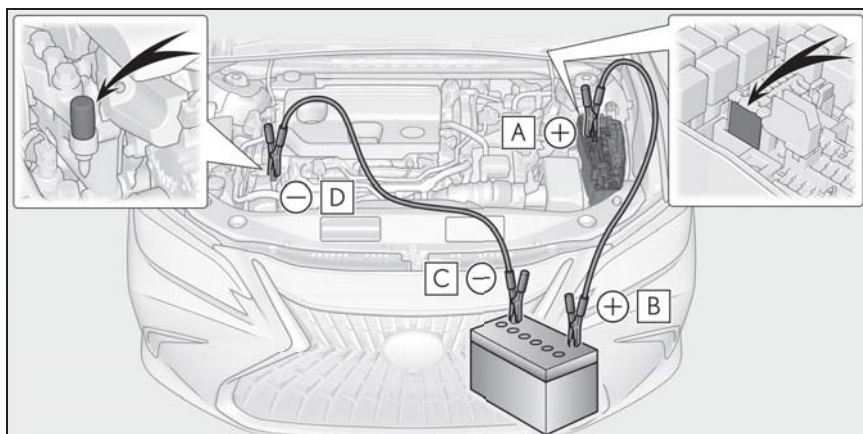
ツメを押しながらカバーを持ち上げる



3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車の補機バッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車の補機バッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を、未塗装の金属部[D]につなぐ



[A] 救援用端子（自車）

[B] バッテリーの+端子（救援車）

[C] バッテリーの-端子（救援車）

[D] 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約5分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチがOFFの状態ですずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん

ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する

- 8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

- 10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。



知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.471)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コン

ピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.371

■補機バッテリーの充電について

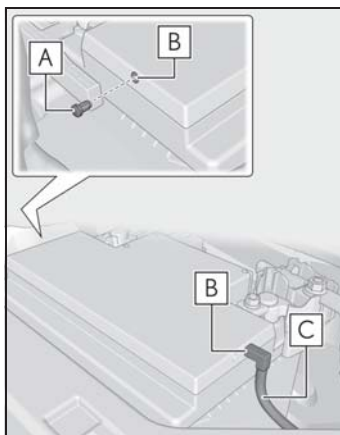
補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常に電源の状態を記憶しています。補機バッテリー脱着時、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。
- 補機バッテリーを交換するときは
 - 欧州規格バッテリーを使用してください

い。

- 交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (60Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (345A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
- ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
- ・ 適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはハイブリッドの始動ができなくなるおそれがあります。
- ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
- ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
- ・ 排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)



A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

必ず端子を先にはずしてください。
+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

⚠ 警告

- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない
- **補機バッテリーの取り扱いについて**
補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。
 - 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
 - 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
 - 誤って補機バッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
 - 誤って補機バッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
 - 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
 - お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにレクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ ブースターケーブルの取扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

**注意****■ 救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

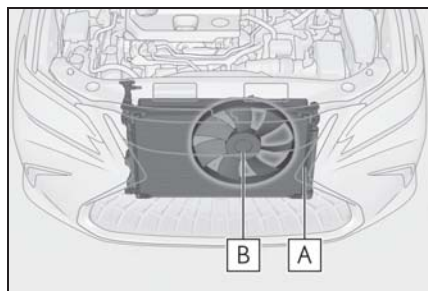
次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.76, 80）の表示がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”または“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です”が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- ▶ 水温計の表示がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください”が表示されたとき
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

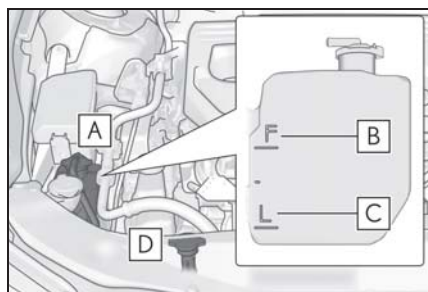
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

- 4** 冷却水の量がリザーバタンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバタンク

B “F”（上限）

C “L”（下限）

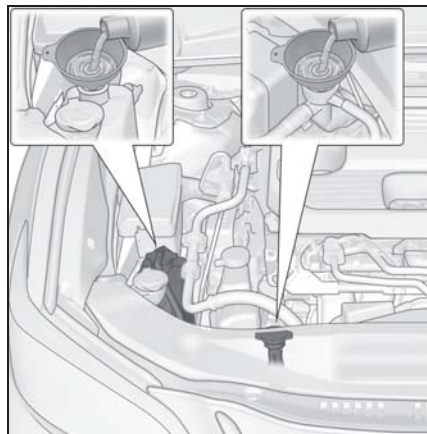
D 冷却水注入口のキャップ

- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受

けてください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

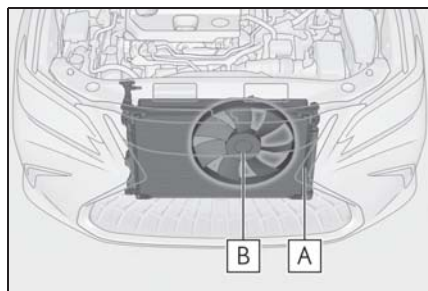
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7** ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、レクサス販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム高温 出力制限中です”が表示されたとき

- 1** 安全な場所に停車する

- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

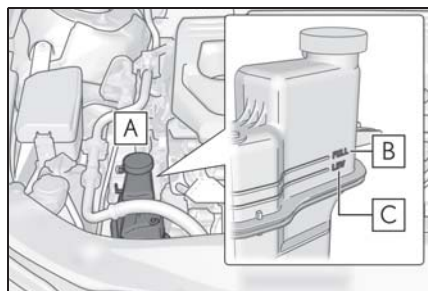


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバタンク

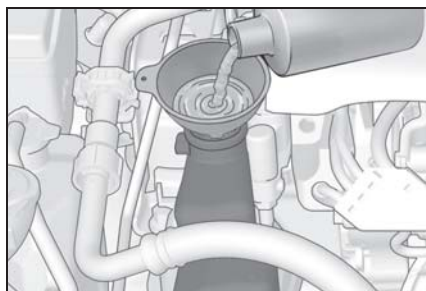
B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受けてください。



- 6 ハイブリッドシステムを停止してから5分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

ハイブリッドシステムを停止してレクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：

ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんばんに表示される場合は、レクサス販売店に連絡してください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

警告

- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーター・冷却水リザーバータンクが熱いうちは冷却水注入口のキャップや冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

注意**■ 冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

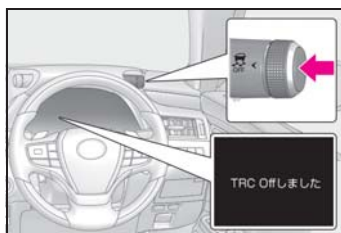
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識**■ 脱出しにくいとき**

 スイッチを押してTRCをOFFにしてください。



 警告**■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

● 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

● 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **454**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 **458**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 **471**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	50

※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

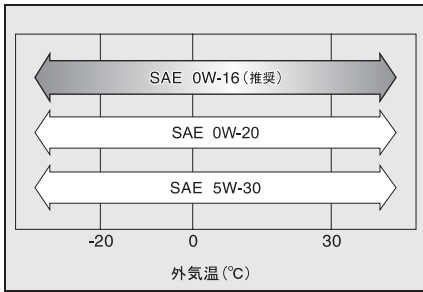
エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 弊社純正モーターオイル SP 0W-16 —API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： 弊社純正モーターオイル SP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.2 L	4.5 L

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



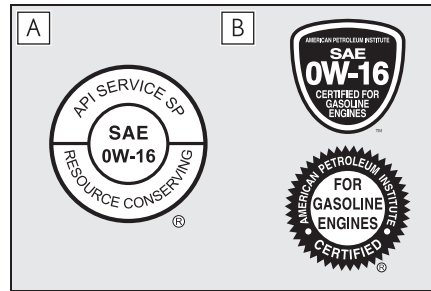
オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または高負荷走行に適しています。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、

SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックスアーティフィケーション）マークが付いています。



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリンエンジン	パワーコントロールユニット
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12° C 濃度 50% - 35° C	6.1	1.8

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
弊社純正オートフルード WS	3.9

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください



注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	85

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、ハイブリッドシステムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
(警告灯が点灯した場合の対処については、P.407 を参照してください)

※2 ハイブリッドシステムが作動している状態で 300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
(警告灯が点灯した場合の対処については、P.407 を参照してください)

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/55R17 94V	17 × 7 1/2J	240 (2.4)	240 (2.4)
	235/45R18 94Y	18 × 8J		
	235/40R19 92Y	19 × 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
応急用 タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯 (三眼フルLED ヘッドランプ非装着車)	21

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
ES300h	AXZH11	A25A-FXS (2.5L ガソリン)	3NM	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・センターディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する
- 3 画面の表示に従って機能の作動内容を選択する

前の画面にもどったり設定を終了したりする場合は、メーター操作スイッチの

 を押します。

■ センターディスプレイで設定するには

- 1 リモートタッチの“MENU” ボタン（→P.310）を押し、“設定・編集”を選択する
- 2 “設定・編集”画面の“車両”を選択する
- 3 “車両カスタマイズ”または“ドライブモードカスタマイズ”を選択する
- 4 “車両カスタマイズ”を選択した場合、設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+”または“-”を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

知識

■ カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告**■ カスタマイズ設定を行うとき**

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ カスタマイズ設定を行うとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.76, 80, 85）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
単位	km/L	L/100km	—	○	—
車速表示 ※2	デジタル	アナログ	—	○	—
ドライブインフォ 1	瞬間燃費	設定できる項目は→P.87を参照	—	○	—
	リセット間平均燃費				
ドライブインフォ 2	航続可能距離				
	リセット間平均車速		—	○	—
時計	12 時間表示	24 時間表示	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
テーマカラー	カラー 1	カラー 2	—	○	—

機能の内容 ※ ¹	初期設定	変更後	A	B	C
タコメーター切りかえ	自動切りかえ	常時タコメーター			
		常時ハイブリッドシステムインジケーター	—	○	—
REV インジケーター ※ ³	4000r/min.	2000 ~ 5700r/min	—	○	—
		なし			
REV ピーク ※ ³	あり	なし	—	○	—
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	—	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	—	○
		なし			

※¹機能についての詳しい説明は P.89 を参照してください

※²F SPORT 以外

※³F SPORT

■ ヘッドアップディスプレイ★ (→P.91)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
タコメーター切りかえ	ハイブリッドシステムインジケーター	タコメーター			
		表示なし	—	○	—
目的地案内	あり	なし	—	○	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック (→P.106, 111, 441)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠 (ドアロック連動トランク)	あり	なし	—	—	○

■ リヤシートリマインダー (→P.108)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リヤシートリマインダー	あり	なし	—	○	—

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.106, 118)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図 (ブザー音量調整)	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ~ 7			
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.106, 118)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	2.0 秒	非作動	—	—	○
		1.5 秒			
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.102, 106, 111)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける (短)	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける (長)			
		非作動			

■ トランク (→P.111)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ハンズフリーパワートランクリッド (キックセンサー) ★	あり	なし	—	○	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーイージーアクセスシステム (→P.125)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート前後移動量	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ハンドルの作動	チルトのみ	テレスコピックのみ	○	—	—
		チルト&テレスコピック			
		なし			

■ メモリーコール機能 (→P.125)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

■ ドアミラー★ / デジタルアウターミラー★ (→P.140, 147)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワーウィンドウ、ムーンルーフ共通 (→P.157, 160)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開機能	なし	あり	—	—	○
メカニカルキー連動閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ ドライブスタートコントロール (→P.169)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし※	—	○	—

※ “なし” に変更しても、パワースイッチを ON モードにするたびに “あり” に戻ります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.189)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	-2	-1 ~ 2	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	あり	なし	—	—	○

■ ランプ (→P.188)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
デイトタイムランニングランプ	あり	なし	—	—	○
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	—	○

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) ★ (→P.191)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アダプティブハイビームの作動	あり	なし ※1	—	—	○
自動でハイビームに切りかわる速度 ※2	約 15km/h	約 30km/h	—	—	○
		約 40km/h			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす ※2	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整 ※2	あり	なし	—	—	○
発進時のコーナーリングランプ点灯 ※2	あり	なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御 ※2	あり	なし	—	—	○
市街地用の配光制御 ※2	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 “なし” に変更しても、ハイビームとロービームが自動的に切りかわります。
(→P.469)

※2 “アダプティブハイビームシステムの作動” を “なし” に変更すると、連動して
“なし” に変更されます。

■ マルチウェザーライト★ (→P.198)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リヤフォグランプ★点灯時のマルチウェザーライトの作動	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）(→P.211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—
プリクラッシュセーフティ ※	あり／なし	—	○	—

※ パワースイッチを ON モード にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）(→P.221)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）(→P.230)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知车速	2km/h / 5km/h / 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.233）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能の車速抑制	強／弱／なし	—	○	—
通信利用型レーダークルーズコントロール機能★	あり／なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 先行車発進告知機能（→P.244）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	早い／普通／遅い	—	○	—

■ ITS Connect ★（→P.252）

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	B	C
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—
支援タイミング	早い	遅い	—	○	—

※ 機能についての詳しい説明は P.258 を参照してください

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.259）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラー★／デジタルアウターミラー★アイコンの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSA（パーキングサポートアラート）（→P.267）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	○
		レベル 3			

■ クリアランスソナー（→P.268）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	○

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.275）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.282）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCD（リヤカメラディテクション）機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.285）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	○

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.264）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
カスタムモード時のパワートレーン制御★	Normal	Power	○	—	—
		Eco			
カスタムモード時のシャシー制御★	Normal	Sport	○	—	—
カスタムモード時のエアコン作動★	Normal	Eco	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.316)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調節	標準	-3 ~ 3	○	—	○

■ シートヒーター／シートベンチレーター (→P.326)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整	標準	-2 (涼しめ) ~ +2 (暖かめ)	○	—	○

■ ステアリングヒーター (→P.326)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2 (低め) ~ +2 (高め)	○	—	○

■ イルミネーション (→P.330)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
インストルメントパネルオーナメント照明★、ドアトリム照明の点灯★	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
ドアを開けたときの室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■車両カスタマイズについて

- “車速感应オートドアロック” と “シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
 - ・シフトレバーを P 以外にすると全ドアが施錠されます。
 - ・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应オートドアロックが作動します。
- “スマートエントリー&スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）” ・ “作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。
- センターディスプレイ以外でもスイッ

チ操作などでカスタマイズ設定がでる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON モードにするまでセンターディスプレイには反映されません。

■ “アダプティブハイビームシステムの作動” を “なし” にしたとき

- アダプティブハイビームシステムスイッチが ON で、次の条件をすべて満たすと、ロービームからハイビームに自動的に切りかわります。
 - ・車速が約 30km/h 以上
 - ・車両前方が暗い
 - ・前方にランプを点灯した車両がいない
 - ・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- アダプティブハイビームシステムスイッチが ON で、次の条件のいずれかのときはロービームに自動的に切りかわります。
 - ・車速が約 25km/h 以下
 - ・車両前方が明るい
 - ・前方車両がランプを点灯している
 - ・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■時計の設定について

時計の設定を変更するときに時刻調整画

面が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
クリアランスソナー	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.270
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.290
タイヤ空気圧警報システム	・ タイヤローテーションを実施したとき ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき（指定空気圧が複数ある場合） ・ ID コードの登録を実施したとき	P.378
パワーウインドウ	・ 正常に動かないとき	P.157
ムーンルーフ		P.160
バックガイドモニター★	・ 補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・ 補機バッテリーの電圧が低下したとき ・ 補機バッテリーを着脱したとき	※
パノラミックビューモニター★	・ 補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・ 補機バッテリーの電圧が低下したとき ・ 補機バッテリーを着脱したとき	※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	474
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）	476
アルファベット順さくいん	478
五十音順さくいん	480

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.440）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.440）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.388）
- パワースイッチがON モードになっていませんか？
施錠するときは、パワースイッチをOFF にしてください。（→P.175）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.119）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.109）



誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.115）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.172）
- シフトレバーはP になっていますか？（→P.178）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.118）
- ステアリングロックされていますか？（→P.173）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でハイ

ブリッドシステムを始動することができます。（→P.439）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.443）



ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーがP から動かない

- パワースイッチはON モードになっていますか？

パワースイッチがON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→P.180）



ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.173）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→P.159）



パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.175）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.476）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.407、415 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.432）

- タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.421）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.451）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.66
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.415
	窓・ムーンルーフが開いている（エンジン停止中のみ）	P.158, 161
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.66
トランクを開めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.115
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.102
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.107
	電子キーを車内に置き忘れている	P.118

※ ドアまたはトランクを解錠するか、パワースイッチをアクセサリモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.109
	パーキングブレーキが解除されていない	P.185
	シートベルトを着用していない※	P.409
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.181
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.238
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.211
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）	P.224
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.230
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.268
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.247
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.275

状況	原因	詳細
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P.282
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect ★が作動した	P.252
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 316

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 298

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 298

AHB

(オートマチックハイビーム) .. 195

AHS

(アダプティブハイビームシステム)
..... 191

AI-AVS

(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 298, 301

AVS

(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 298

BSM

(ブラインドスポットモニター) 259

ECB

(エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム) 298

EDR

(イベントデータレコーダー) 7

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 298

FF

(フロントエンジンフロントドライ
ブ) 457

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) 91

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン) 455

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィック
ス) 43

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 188, 392

Lexus Safety System +

(レクサスセーフティシステム) 206

LTA (レーントレーシングアシス
ト) 221

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 211

RSA (ロードサインアシスト) 230

AHS (アダプティブハイビームシス
テム) 191

AHB (オートマチックハイビーム)
..... 195

先行車発進告知機能 244

ドライバー異常時対応システム 247

レーダークルーズコントロール 233

LTA

(レーントレーシングアシスト) 221

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 211

PKSA

(パーキングサポートアラート) 267

PKSB

(パーキングサポートブレーキ) 285

RCD

(リヤカメラディテクション) .. 282

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 275

警告メッセージ 277

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 32

S-VSC

(ステアリングアシステッドピーク
ルスタビリティコントロール) . 298

TRC

(トラクションコントロール) 298,
451

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 298

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	443
アームレスト.....	344
RSA（ロードサインアシスト）.....	230
ITS Connect.....	252
通信利用型レーダークルーズコントロール	240
アウターミラー（ドアミラー）.....	140
BSM（ブラインドスポットモニター）	259
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	275
運転席ポジションメモリー.....	125
格納のしかた.....	141
操作.....	140
ミラーヒーター.....	317
リバース連動機能.....	141
アクセサリーコンセント.....	348
アクセサリーソケット.....	338
アクセサリーモード.....	175
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	298
アシストグリップ.....	344
足元照明.....	330
アダプティブハイビームシステム...	191
アラーム	
オートアラーム.....	66
音さくいん.....	476
警告ブザー.....	407
アンチロックブレーキシステム（ABS）	298
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	118

い

EVドライブモード.....	177
イグニッションスイッチ（パワースイッ	

チ）.....	172
自動電源OFF機能.....	175
車両を緊急停止するには.....	400
ハイブリッドシステム始動のしかた...	172
モードの切りかえ.....	175
位置交換（タイヤローテーション）..	376
イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	65
インジケーター（表示灯）.....	74
インストルメントパネル照度調整スイッ チ.....	79, 84
インテリアランプ.....	330
インナーミラー.....	131

う

ウインカー（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換.....	392
方向指示レバー.....	183
ウインドウ	
ウインドシールドデアイサー.....	322
ウオッシャー.....	200
パワーウインドウ.....	157
リヤウインドウデフォッガー.....	317
ウインドウロックスイッチ.....	159
ウインドシールドデアイサー.....	322
ウオッシャー.....	200
液の補給.....	373
スイッチ.....	200
タンク容量.....	457
冬の前の準備・点検.....	305
動けなくなったときは（スタック）..	451
雨滴感知式ワイパー.....	200
運転	
雨の日の運転.....	164
運転を補助する装置.....	298
寒冷時の運転.....	305
正しい運転姿勢.....	27
手順.....	164

ハイブリッド車運転のアドバイス	303
運転支援機能情報表示	89
運転席シートベルト非着用警告灯...	409
運転席ポジションメモリー	125

え

エアコン	316
「ナノイー X」	322
曇り取り（フロントガラス）	317
フィルターの清掃	383
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	324
エアコン・デフォッガー	316
エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	408
改造・廃棄	37
警告ブザー	408
作動条件	33
正しい姿勢	27
配置	32
S-FLOW フロント席集中送風モード	324
エネルギーモニター	95
エレクトリックパワーステアリング （EPS） 機能	298
エンジン イモビライザーシステム	65
オーバーヒート	448
緊急時の停止方法	400
タコメーター	76, 80
ハイブリッドシステムが始動できない	438
ハイブリッドシステムの始動方法	172
パワースイッチ（イグニッションスイッ チ）	172
ボンネット	371
エンジンオイル	454
警告灯	408

冬の前の準備・点検	305
メンテナンスデータ	454
容量	454
エンジン回転計（タコメーター）..	76, 80
エンジンスイッチ（パワースイッチ）	172
エンジンのかけ方	172
自動電源 OFF 機能	175
車両を緊急停止するには	400
モードの切りかえ	175
エンジンフード（ボンネット）	371
開け方	371
警告メッセージ	109
エンジンルーム	371
エンジンルームから蒸気が出ている ..	448

お

オイル（エンジンオイル）	454
応急用タイヤ	432
交換方法	432
オーディオシステム連携表示	89
オートアラーム	66
オートドアロック・アンロック機能 ..	110
オートマチックハイビーム	195
オートレベリングシステム（ヘッドラン プ） 作動	190
オーバーヒート	448
オープナー 給油扉	205
トランク	113
ボンネット	371
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）..	340
お子さまを乗せるとき	42
ウインドウロックスイッチ	159
お子さまの安全のために	42
キーの電池	389
シートベルトの着用	29, 30

ステアリングヒーター・シートヒーターに関する警告	326
チャイルドシート	43
チャイルドシートの取り付け	43
チャイルドプロテクター	109
発炎筒の取り扱いに関する警告	400
バッテリーに関する警告	447
パワーウインドウに関する警告	158
“ODO TRIP” スイッチ	78, 84
オドメーター／トリップメーターディスプレイ	78, 84
“ODO TRIP” スイッチ	78, 84
表示項目	78, 84

か

カーテシランプ	
装着位置	330
カーテンシールドエアバッグ	32
カーベット	
洗浄	368
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	76, 80
回生ブレーキ	58
外装の電球（バルブ）	392
交換要領	392
ワット数	457
買い物フック	336
ガス欠になったとき	61
カスタマイズ機能	458
型式	457
カップホルダー	334
カメラ	
前方カメラ	206
デジタルアウトターミラー	142
デジタルインナーミラー	136
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	317

ガレージジャッキ	372
冠水路走行	169
寒冷時の運転	305

き

キー	102
カードキー	102
キーナンバプレート	102
キーの構成	102
キーレスエントリー	104, 118
キーをなくした	440
正常に働かない	441
施錠・解錠ができない	441
電子キー	102
電池が切れた	388
ハイブリッドシステムが始動できない	438
メカニカルキー	105
ワイヤレスリモコン	104
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	118
ワイヤレスドアロック	104
給油	
給油口が開けられない	440
給油のしかた	204
メンテナンスデータ	454
緊急時シートベルト固定機構	31
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）	439
緊急時の対処	
オーバーヒートした	448
キーの電池が切れた	388, 441
キーをなくした	440
警告灯がついた	407
警告メッセージが表示された	415
けん引	403
故障したときは	398
車両を緊急停止する	400

水没・冠水したときは.....	401
スタックした.....	451
電子キーが正常に動かない.....	441
ハイブリッドシステムが始動できない.....	438
発炎筒.....	399
バッテリーがあがった.....	443
パンクした.....	421, 432
補機バッテリーがあがった.....	443
緊急停止システム.....	63
緊急ブレーキ信号.....	299

く

空気圧 (タイヤ).....	457
タイヤ空気圧警報システム.....	376
メンテナンスデータ.....	457
区間距離計 (トリップメーター) 78, 84	
駆動用電池.....	60
警告メッセージ.....	63
充電について.....	58
搭載位置.....	60
冷却用吸入口.....	63
曇り取り	
カメラヒーター.....	317
フロントガラス.....	317
ミラーヒーター.....	317
リヤウインドウデフォグガー.....	317
クラクション (ホーン).....	130
クリアランスソナー.....	268
警告メッセージ.....	270
操作.....	269
クリアランスランプ (車幅灯).....	188
スイッチ.....	188
電球 (バルブ) の交換.....	392
クリップ	
フロアマット.....	26
クルーズコントロール.....	233
レーダークルーズコントロール (全車速追 従機能付き).....	233

グローブボックス.....	334
グローブボックスランプ.....	334

け

警告器 (ホーン).....	130
計器類 (メーター).....	76, 80
警告灯.....	407
RCTA OFF 表示灯.....	411
RCD OFF 表示灯.....	411
ABS & ブレーキアシスト.....	408
SRS エアバッグ.....	408
LTA 表示灯.....	410
エンジン.....	408
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	411
高水温.....	407
シートベルト非着用.....	409, 410
スリップ表示灯.....	412
タイヤ空気圧.....	410
燃料残量.....	409
パーキングブレーキ表示灯.....	412
パワーステアリング.....	409
PKSB OFF 表示灯.....	412
PCS.....	412
ブレーキ.....	407
ブレーキホールド作動表示灯.....	413
ペダル誤操作.....	409
ポップアップフード.....	408
マスターウォーニング.....	413
油圧.....	408

警告ブザー

RCD (リヤカメラディテクション).....	411
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	411
ABS & ブレーキアシスト.....	408
SRS エアバッグ.....	408
LTA (レーントレーニングアシスト).....	410
エンジン.....	408
クリアランスソナー.....	411

高水温	407
シートベルト非着用	409, 410
シフトダウン制限	181, 182
衝突警報	211
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	238
手放し運転警告 (LTA)	229
ドライブスタートコントロール	409
トランク開	109
ハイブリッドシステム	408
パワーステアリング	409
半ドア	107
半ドア走行時	109
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	412
ブリクラッシュセーフティ	412
ブリクラッシュブレーキ	211
ブレーキ	407
ブレーキオーバーライドシステム	409
ブレーキホールド	413
ポップアップフード	408
ボンネット開	109
窓開	158
ムーンルーフ開	161
油圧	408
リバース	178
警告メッセージ	415
化粧ミラー (バニティミラー)	338

こ

交換

キーの電池	388
タイヤ	432
電球 (バルブ)	392
ヒューズ	390
工具 (ツール)	422, 432
航続可能距離	87, 98
後退速度の抑制制御 (ドライブスタート	

コントロール)	169
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	392
高電圧部位	60
コーションラベル	60
コートフック	347
コーナリングランプ	190
電球 (バルブ) の交換	392
子供専用シート	
取り付け方	44
小物入れ	333, 335
コンソールボックス	334
コンソールボックスランプ	334
コンライト (自動点灯・消灯装置) ..	189

さ

サービスプラグ	60
サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯	183
電球 (バルブ) の交換	392
方向指示レバー	183
サイドミラー (ドアミラー)	140
BSM (ブラインドスポットモニター) ..	259
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	
.....	275
運転席ポジションメモリー	125
格納のしかた	141
操作	140
ミラーヒーター	317
リバース連動機能	141
サスペンションコントロール (PCS)	
.....	212
三角表示板等固定用バンド	337
サンシェード	
ルーフ	160
サンバイザー	338

し

シート	123, 124
運転席ポジションメモリー	125
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	43
調整	123, 124
手入れ	368
パワーイージーアクセスシステム	125
ヘッドレスト	128
メモリーコール機能	127
シートヒーター	326
シートベルト	29
お子さまの着用	29, 30
緊急時シートベルト固定機構	31
高さ調整	31
正しく着用するには	30
着け方・はずし方	30
手入れ	368
妊娠中の方の着用	29
非着用警告灯	409, 410
シートベルト非着用警告灯	409, 410
シートベルトプリテンショナー	
機能	31
プリテンショナー警告灯	408
シートベンチレーター	326
シートポジションメモリー	125
G モニター	88
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）	61
室内灯（インテリアランプ）	330
始動後走行距離	87
始動のしかた	172
シフト照明	330
シフトポジション	178
シフトレバー	178
シフトポジションの切りかえ	179
シフトレンジの切りかえ	181

操作	178
リバース警告ブザー	178
ジャッキ	
ガレージジャッキ	372
車載ジャッキ	432
ジャッキハンドル	432
車幅灯	
電球（バルブ）の交換	392
ランプスイッチ	188
車両型式	457
車両仕様（スペック）	454
車両接近通知装置	59
車両を緊急停止するには	400
充電用 USB Type-C 端子	339
瞬間燃費	87, 98
仕様（車両仕様）	454
衝撃感知ドアロック解除システム	107
初期化	471
クリアランスソナー	270
タイヤ空気圧警報システム	378
パワーウインドウ	157
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	290
ムーンルーフ	161
初期設定	471
助手席シートベルト非着用警告灯	409
侵入センサー（オートアラーム）	68

す

水温計	76, 80
スイッチ	
BSM	260
EV ドライブモード	177
LTA	226
PCS OFF	214
RCTA	277
TRC OFF	299
VSC OFF	299
イグニッション	172

インストルメントパネル照度調整	79, 84	方向指示レバー	183
ウインドウロック	159	ホーン (警音器)	130
ウインドシールドデアイサー	320	マルチウェザーライト	198
ウォッシャー	200	ムーンルーフ	160
運転席ポジションメモリー	125	メーター操作	86
AHS (アダプティブハイビームシステム)	192	ランプ	188
オートマチックハイビーム	195	リセット (タイヤ空気圧警報システム)	378
“ODO TRIP”	78, 84	リヤウインドウデフォグガー	316
クリアランスソナー	269	リヤカメラデテクション	282
シート調整	123, 124	リヤサンシェード	345
シートヒーター	327, 328	レーダークルーズコントロール	233
シートベンチレーター	327, 328	ワイパー	200
シートポジションメモリー	125	スタック	451
車間距離切りかえ (レーダークルーズコントロール)	234	ステアリングヒーター	326
侵入センサー OFF	68	ステアリングホイール (ハンドル)	130
ステアリングヒーター	327, 328	位置調整	130
タイヤ空気圧警報リセット	378	運転席ポジションメモリー	125
デジタルアウトミラー	143	ステアリングヒーター	326
デジタルインナーミラー	132	パワーウィンドウアクセスシステム	125
ドアミラー	140	メーター操作スイッチ	86
ドアロック	109	ステアリングロック	173
ドライブモードセレクト	264	解除できないとき	173
トランクオープナー	113	警告メッセージ	173
トランクオープナーメイン	117	ストップランプ (制動灯)	
トランククローザー	115	緊急ブレーキシグナル	299
パーキングブレーキ	183	電球 (バルブ) の交換	392
ハザードランプ	399	スノータイヤ (冬用タイヤ)	305
パドルシフト	181	スピードメーター	76, 80
パワーウインドウ	157	スベアタイヤ (応急用タイヤ)	432
パワースイッチ	172	交換方法	432
ハンドル位置調整	130	スペック (車両仕様)	454
PKSB	286	スマートエントリー&スタートシステム	118
非常点滅灯 (ハザードランプ)	399	アンテナの位置	118
フォグラмп	199	カスタマイズ設定	458
ブレーキホールド	186	緊急始動機能	439
ヘッドアップディスプレイ	92	作動範囲	118

正常に動かないとき	441
節電機能	119
電波がおよぼす影響について	122
ドアの解錠・施錠	106
トランクの開閉	113
ハイブリッドシステムの始動	172
スモールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換	392
ランプスイッチ	188
スリップ表示灯	299

せ

清掃	364, 368
アルミホイール	365
外装	364
シートベルト	368
内装	368
レーダーセンサー	206, 261
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	299
電球（バルブ）の交換	392
セカンダリーコリジョンブレーキ... ..	298
積算距離計（オドメーター）	78, 84
セキュリティインジケーター	65, 66
接近警報（レーダークルーズコントロー ル）	238
先行車発進告知機能	244
センサー	
LTA	221
インナーミラー	131
雨滴感知センサー	201
湿度センサー	324
侵入センサー	68
デジタルアウトミラー	147
デジタルインナーミラー	135
ライトセンサー	189
レーダーセンサー	206

洗車	364
前照灯（ヘッドランプ）	188
電球（バルブ）の交換	392
ライトセンサー	189
ランプ消し忘れ防止機能	189
ランプスイッチ	188
センターディスプレイ	312

そ

走行時間	87
走行情報表示	87
走行モード（ドライブモード）	264
送信機（タイヤ空気圧警報システム）	376
速度計（スピードメーター）	76, 80

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	183
電球（バルブ）の交換	392
方向指示レバー	183
ワット数	457
タイヤ	374
応急用タイヤ	432
空気圧	382, 457
空気圧警告灯	410
交換	432
チェーン	305
低扁平タイヤ	375
点検	374
パンクしたときは	421, 432
パンク応急修理キット	421
冬用タイヤ	305
ホイールサイズ	457
ローテーション（位置交換）	376
タイヤが空まわりする（スタックした）	451

タイヤ空気圧	
警告灯	410
タイヤ空気圧警報システム	
ID コードの登録・選択	380
機能について	376
空気圧バルブ／送信機について	378
空気圧表示画面	376
警告灯	410
初期化	378
タイヤチェーン	305
タコメーター	76, 80
REV インジケーター	82
REV ピーク	83

ち

チェーン (タイヤチェーン)	305
チャイルドシート	43
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	54
シートベルトでの固定	52
選択方法	43
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	
.....	183
警告灯	412
警告メッセージ	184
操作	183
冬季の注意	306
未解除走行時警告ブザー	185
メンテナンスデータ	456

つ

通信利用型レーダークルーズコントロー	
ル	240
ツール (工具)	422, 432

て

提案サービス機能	90
----------------	----

ディスプレイ	
センターディスプレイ	312
デジタルアウターミラー	142
ヘッドアップディスプレイ	91
マルチインフォメーションディスプレイ	85
デイトタイムランニングランプ	189
低偏平タイヤ	375
手入れ	364, 368
アルミホイール	365
外装	364
シートベルト	368
デジタルアウターミラー	153
デジタルインナーミラー	136
内装	368
レーダーセンサー	206, 261
テールランプ (尾灯)	188
電球 (バルブ) の交換	392
ランプスイッチ	188
デジタルアウターミラー	142
BSM (ブラインドスポットモニター)	259
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	
.....	275
格納のしかた	147
カメラヒーター	317
操作	143
デジタルインナーミラー	132
デフォッガー (リヤウインドウデフォッ	
ガー)	317
電気モーター	57, 60
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	392
ワット数	457
点検基準値 (メンテナンスデータ)	454
電子キー	102
作動範囲	118
正常に働かないとき	441
節電機能	119
電池が切れた	441

電池交換	388
電池交換（キー）	388

と

ドア	106
オートドアロック・アンロック機能 ..	110
衝撃感知ドアロック解除システム	107
スマートエントリー&スタートシステム	118
チャイルドプロテクター	109
ドアガラス	157
ドアロックスイッチ	109
ドアロックボタン	109
ワイヤレスリモコン	106
ドアカーテシランプ	
位置	330
ドアハンドル照明	330
電球（バルブ）の交換	392
ドアミラー	140
BSM（ブラインドスポットモニター）	259
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	275
運転席ポジションメモリー	125
格納のしかた	141
操作	140
ミラーヒーター	317
リバース連動機能	141
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	65
オートアラーム	66
時計	76, 80, 338
トッパテザーアンカレッジ	55
ドライバー異常時対応システム	247
ドライビングポジションメモリー	
ポジションメモリー	125
メモリーコール機能	127
ドライブスタートコントロール	
急発進の抑制制御	169

後退速度の抑制制御	169
ドライブモードセレクトスイッチ ..	264
トラクションコントロール（TRC） ..	298
トランク	111
イージークローザー	115
オープナー	113
キー閉じ込み防止機能	115
クローゼースイッチ	115
警告メッセージ	109
電子キーが正常に働かないとき	441
トランクオープナーを使用できなくなるに	117
トランク内の装備	336
パワートランクリッド	111
ハンズフリーパワートランクリッド ..	114
メインスイッチ	117
トランクスルー	346
トランクランプ	115
トランスミッション	178
シフトダウン制限警告ブザー ..	181, 182
操作	179
ハイブリッドトランスミッション	178
パドルシフトスイッチ	181
メンテナンスデータ	456
トリップメーター	78, 84

な

内装	
収納装備	333
手入れ	368
「ナノイー X」	322
ナビゲーションシステム連携表示 ..	88, 91

に

ニーエアバッグ	32
荷物	
積むときの注意	170

トランク	111
トランク内装備	336
荷物固定用フック	336

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）	451
----------------------	-----

ね

燃費

エネルギーモニター	95
給油後平均燃費	87
瞬間燃費	87, 98
平均燃費	87, 97, 98

燃料

給油	204
種類	454
燃料計	76, 80
燃料残量警告灯	409
容量	454

燃料計

は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

パーキングサポートブレーキ（静止物）

パーキングブレーキ

警告灯	412
警告メッセージ	184
操作	183
冬季の注意	306
未解除走行時警告ブザー	185
メンテナンスデータ	456

パーソナルランプ

Harmonious Driving Navi. 画面

排気ガス

ハイビーム（ヘッドランプ）

AHS（アダプティブハイビームシステム）	191
----------------------------	-----

AHB（オートマッチックハイビーム）	195
-------------------------	-----

電球（バルブ）の交換	392
------------------	-----

ランプスイッチ	190
---------------	-----

ハイブリッドシステム

EVドライブモード	177
-----------------	-----

運転のアドバイス	303
----------------	-----

エネルギーモニター	95
-----------------	----

オーバーヒート	448
---------------	-----

回生ブレーキ	58
--------------	----

ガス欠になったとき	61
-----------------	----

緊急始動機能	439
--------------	-----

緊急時の停止方法	400
----------------	-----

緊急停止システム	63
----------------	----

駆動用電池冷却用吸入口	63
-------------------	----

警告メッセージ	63
---------------	----

高電圧部位	60
-------------	----

サービスプラグ	60
---------------	----

事故が発生したとき	61
-----------------	----

始動できないときは	438
-----------------	-----

始動方法	172
------------	-----

車両接近通報装置	59
----------------	----

充電	58
----------	----

注意	60
----------	----

特徴	57
----------	----

特有の音と振動	58
---------------	----

パワー（イグニッション）スイッチ ...	172
----------------------	-----

補機バッテリーがあがった	443
--------------------	-----

メンテナンス・修理・廃車するとき	59
-----------------------	----

ハイブリッドシステムインジケーター

.....	77, 82, 95
-------	------------

ハイマウントストップランプ

電球（バルブ）の交換	392
------------------	-----

ハザードランプ（非常点滅灯）

スイッチ	399
電球（バルブ）の交換	392
ワット数	457
挟み込み防止機能	
パワーウィンドウ	157
ムーンルーフ	160
発炎筒	399
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	392
バッテリー（駆動用電池）	
充電について	58
搭載位置	60
冷却用吸入口	63
バッテリー（補機バッテリー）	
警告灯	407
搭載位置	371
補機バッテリーがあがった	443
補機バッテリーを交換するとき	445
バッテリーがあがった	443
パドルシフトスイッチ	181
パニティ（化粧用）ミラー	338
パニティミラーランプ	
装備について	338
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）	392
ワット数	457
パワーイーザーアクセスシステム ...	125
パワーウィンドウ	157
ウィンドウロックスイッチ	159
閉めることができないときは	157
初期化	157
操作	157
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ..	158
挟み込み防止機能	157
巻き込み防止	157
パワーコントロールユニット	60
パワースイッチ（イグニッションスイッ チ）	172

パワースイッチ	172
自動電源 OFF 機能	175
車両を緊急停止するには	400
モードの切りかえ	175
パワーステアリング	298
警告灯	409
パワートランクリッド	111
パンクした	
応急用タイヤ装着車	432
タイヤ空気圧警告灯	410
タイヤパンク応急修理キット装着車 ..	421
番号灯（ライセンスプレートランプ）	
.....	188
電球（バルブ）の交換	392
ランプスイッチ	188
ハンズフリーパワートランクリッド	114
ハンドル（ステアリングホイール） ..	130
位置調整	130
運転席ポジションメモリー	125
ステアリングヒーター	326
パワーイーザーアクセスシステム ..	125
メーター操作スイッチ	86

ひ

ビークルスタビリティコントロール （VSC）	298
PKSA	
RCD（リヤカメラディテクション） ..	282
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	
.....	275
クリアランスソナー	268
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	
警告メッセージ	290
後方接近車両	294
後方歩行者	296
静止物	291
操作	286

ヒーター	
エアコン・デフォッガー	316
シートヒーター	326
ステアリングヒーター	326
ミラーヒーター	317
非常時給電システム	355
非常点滅灯（ハザードランプ）	399
スイッチ	399
電球（バルブ）の交換	392
ワット数	457
尾灯（テールランプ）	188
電球（バルブ）の交換	392
ランプスイッチ	188
ヒューズ	390
表示灯	74
日よけ（サンバイザー）	338
ヒルスタートアシストコントロール	298

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	443
フォグランプ	199
スイッチ	199
電球（バルブ）の交換	392
ブザー	
シフトダウン制限警告	181, 182
接近警報（レーダークルーズコントロール）	238
手放し運転警告（LTA）	229
パーキングブレーキ未解除走行時警告	185
半ドア走行時警告	109
窓開警告	158
ムーンルーフ警告	161
リバース警告	178
フック	
買い物フック	336
けん引フック	404
コートフック	347
荷物固定用フック	336

フロアマット固定フック	26
フューエルメーター	76, 80
フューエルリッド（給油口）	204
給油口が開かない	440
給油のしかた	204
冬の前の準備（寒冷時の運転）	305
冬用タイヤ	305
ブラインドスポットモニター（BSM）	259
プリクラッシュセーフティ（PCS）	
機能	211
PCS 警告灯	412
PCS OFF スイッチ	214
ブレーキ	
回生ブレーキ	58
緊急ブレーキングナル	299
警告灯	407
パーキングブレーキ	183
ブレーキホールド	186
メンテナンスデータ	456
ブレーキアシスト	
機能	298
ブレーキフルード	456
ブレーキホールド	186
フロアマット	26
フロントシート	123
運転席ポジションメモリー	125
シートヒーター	326
シートベンチレーター	326
シートポジションメモリー	125
正しい運転姿勢	27
調整	123
手入れ	368
パワーイージーアクセスシステム	125
ヘッドレスト	128
メモリーコール機能	127
フロント方向指示灯	183
電球（バルブ）の交換	392

方向指示レバー	183
ワット数	457

へ

平均車速	87, 98
平均燃費	87, 97, 98
ヘッドアップディスプレイ	91
運転支援システム表示	94
スイッチ	92
設定	93
走行状況表示	91
ナビゲーションシステム連携	91
ハイブリッドシステムインジケーター	95
割り込み表示	94
ヘッドランプ	188
クリーナー	200
電球（バルブ）の交換	392
ライトセンサー	189
ランプ消し忘れ防止機能	189
ランプスイッチ	188
ヘッドランプオートレベリングシステム	190
ヘッドレスト	128
ベンチレーター（シートベンチレーター）	326

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	432
メンテナンスデータ	457
ホイールナットレンチ	432
方向指示灯	183
電球（バルブ）の交換	392
方向指示レバー	183
ワット数	457
ホーン（警音器）	130
補機バッテリー	

交換するとき	445
搭載位置	371
補機バッテリーがあがった	443

保証	8
ポップアップフード	38
ボンネット	371
開け方	371
警告メッセージ	109
ポップアップフード	38

ま

マスターウォーニング	413
マルチインフォメーションディスプレイ	85
運転支援機能情報	89
エネルギーモニター	95
オーディオシステム連携	89
警告メッセージ	415
G モニター	88
設定	89
走行情報表示	87
タイヤ空気圧	376
提案サービス機能	90
ドライブインフォメーション	87
ナビゲーションシステム連携	88
メーター操作スイッチ	86
メニューアイコン	86
割り込み表示	85
マルチウエザーライト	198
スイッチ	198

み

ミラー	
アウターミラー	140
インナーミラー	131
デジタルインナーミラー	132
ドアミラー	140

バニティミラー	338
ミラーヒーター	317

む

ムーンルーフ

初期化	161
操作	160
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能	160
挟み込み防止機能	160

め

メーター

計器類	76, 80
警告灯	407
警告メッセージ	415
照度調整	79, 84
設定	89
時計	76, 80
ハイブリッドシステムインジケーター 77, 82	
表示・配置の切りかえ	85
表示灯	74
マルチインフォメーションディスプレイ 85	
メーター操作スイッチ	86
メーターリング	85
メカニカルキー	105
メニューアイコン	86
メモリーコール機能	127
メンテナンスデータ	454

も

モーター（電気モーター）	60
モーターでの走行（EV ドライブモード）	177

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	458
雪道ですべて動けない（スタックした）	451
油脂類	454

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）

.....	188
電球（バルブ）の交換	392
ランプスイッチ	188
ラゲージマット	336
ラゲージルーム（トランク）	111, 336
ラジエーター	
オーバーヒート	448
メンテナンスデータ	455

ランプ

AHS（アダプティブハイビームシステム）	191
室内灯	330
電球（バルブ）の交換	392
非常点滅灯（ハザードランプ）	399
ヘッドランプ（前照灯）	188
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	183
マルチウェザーライト	198
ライトセンサー	189
ランプ消し忘れ防止機能	189
リヤフォグランプ	199
ワット数	457
ランプ消し忘れ防止機能	189

り

リバース連動機能	141
リモートタッチ	310
リヤアームレスト	344

リヤウインドウデフォッガー	317
リヤカメラデテクション (RCD)	
警告メッセージ	283
操作	282
リヤサンシェード	345
リヤシート	124
シートヒーター	326
ヘッドレスト	128
リヤ席シートベルト非着用警告灯...	410
リヤドアサンシェード	345
リヤフォグランプ	199
スイッチ	199
電球 (バルブ) の交換	392
リヤ方向指示灯	183
電球 (バルブ) の交換	392
方向指示レバー	183
リング (メーター)	85

る

ルームミラー (インナーミラー)	131
-----------------------	-----

れ

冷却水	455
冬の前の準備	305
メンテナンスデータ	455
冷却装置 (ラジエーター)	455
オーバーヒート	448
メンテナンスデータ	455
レーダークルーズコントロール	233
警告メッセージ	243
接近警報	238
レーダーセンサー	206
レーントレーシングアシスト (LTA)	221
警告メッセージ	229
操作	226
レクサスクライメイトコンシェルジュ	314

レバー	
シフト	178
方向指示	183
ボンネット解除	371
REV インジケーター	82
REV ピーク	83

ろ

ロードサインアシスト (RSA)	230
ロック	
ウインドウロック	159
スマートエントリー&スタートシステム	118
チャイルドプロテクター	109
ドア	106
ワイヤレスリモコン	104

わ

ワイパー & ウォッシャー	200
ウォッシャー液の補充	373
ワイパー停止位置の切りかえ	202
ワイパーブレード (寒冷地用)	306
ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) ..	340
ワイヤレスリモコン	104
作動の合図	107
操作	104
電池の交換	388
半ドア警告ブザー	107
ワックス	364
ワット数	457

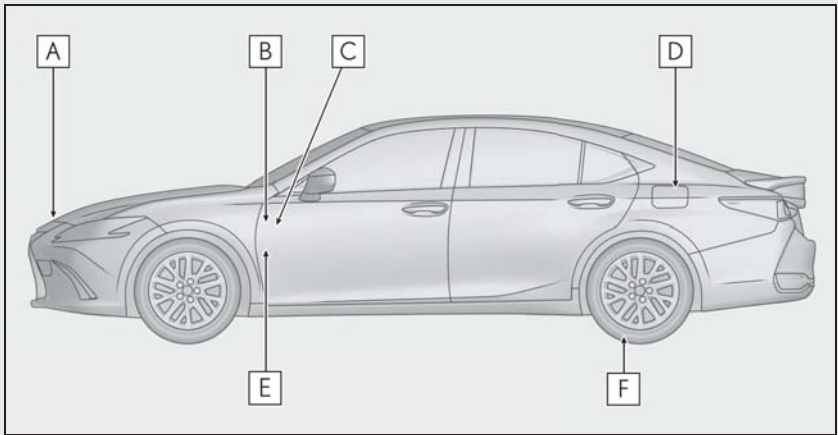
次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・オーディオ

- ・パノラミックビューモニター
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.371)
- B** 給油扉オープナー (→P.205)
- C** トランクオープナースイッチ (→P.113)
- D** 給油口 (→P.205)
- E** ボンネット解除レバー (→P.371)
- F** タイヤ空気圧 (→P.457)

燃料の容量 (参考値)	50L
燃料の種類	・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン (レギュラー) ※ ※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。 P.454
タイヤが冷えているときの空気圧	P.457
エンジンオイル容量 (参考値)	P.454
エンジンオイルの種類	P.454

「個人情報保護方針」については、<https://lexus.jp> にて掲載しております。



M33F92
01999-33F92
CI-2022年5月20日
2021年8月26日初版
2022年5月27日2版
ES300h